

### 第Ⅲ章 調査の成果

#### 1. 地形と遺構の分布 (図版 13・14)

城前官衙は、政庁跡東半から南に伸びる丘陵の南半に立地する(図版 13)。この丘陵は南から政庁跡の東・西側に入り込む沢に挟まれており、そのうち西側の鴻ノ池と通称される低湿地から北に伸びる沢は城前官衙の南西部と北西部に膨らむように入って丘陵南半を画す。

この丘陵南半では標高 17.0 m の等高線を境とした上下で傾斜が異なり、上部は傾斜が緩やかな南北約 100 m、東西 60 m 前後の平場状の地形を呈し、その周縁となる下部は比高 4.0～7.0 m の急斜面となっている。平場状の上部は南に下る尾根筋とそこから東・西に下る緩斜面で、東西方向では西側のほうがより傾斜の緩やかな広がりを持つが、南西部と北西部には前述した沢が入り込んでいる。丘陵上部の標高は最も高い尾根筋北の地点(S170)で約 21.0 m、南の地点(S270)で 17.0 m で、調査以前は周縁部以外の大半が宅地とそれに伴う耕作地(畑地)に利用され、北側(丘陵北半)には杉林が広がっていた。また、調査区内の尾根筋南端には人為的に掘られた池があった。

こうした丘陵地形から、調査区内の層序は全域に表土と明黄褐色の砂質土や岩盤による地山が広がる以外は、尾根筋付近の中央区と次第に傾斜が強まる東区と西区、沢が入り込む北西部や南西部(西区北・南部)で様相が異なる。中央区では表土の直下が地山だが、傾斜が強まる東・西区、沢に下る北西・南西部では地山の上に灰褐色や暗褐色の旧表土、官衙の建物造営に伴う複数の整地層やその存続時・廃絶後の堆積土などが各々異なる様相で重なって分布する。

また、調査では多数の掘立柱建物跡や材木堀跡、柱列跡をはじめとして竪穴住居跡、井戸、溝、土壇などを検出したが、その主体は掘立式の建物跡と柱列跡で(図版 14)、中央区北部の S169 付近にある SA2599 柱列跡から南側に広がっている。さらに、それらは南北方向に帯状に遺構が少ない場所を挟んで中央区、東区、西区でそれぞれ南北に列をなして分布し、中央区では東西方向の空閑地も挟んで北部と中央、南部とに分けられる。なお、検出した建物・柱列跡はすべて掘立式のもので、礎石式の建物跡はみつかっていない。

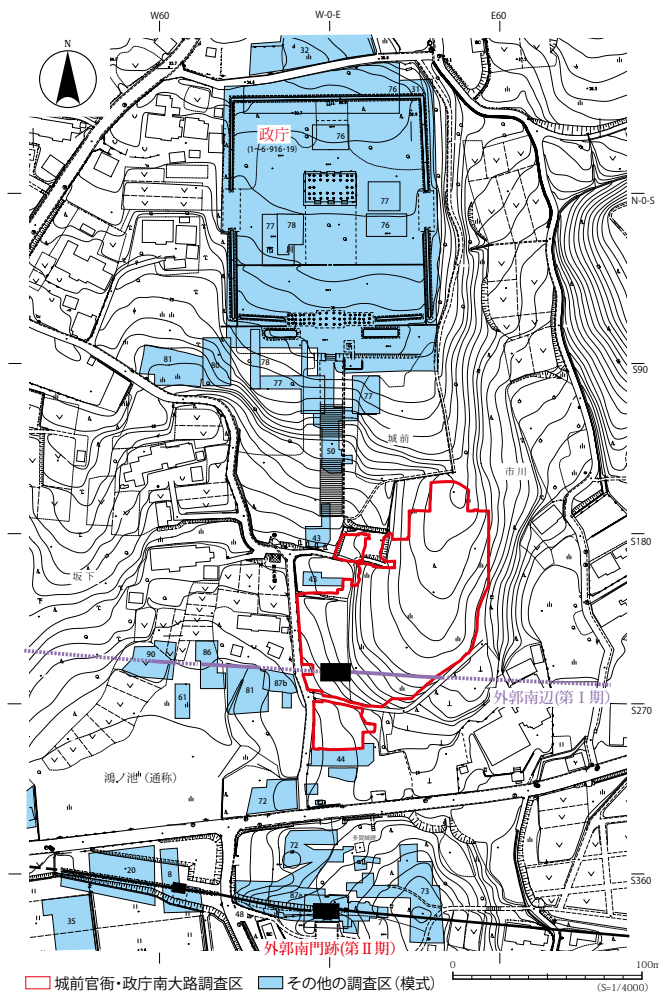
以上のような地形と遺構の分布を踏まえ、次節からは中央区(E39～66)、東区(E66以東)、西区(E39以西)といった地区ごとに層序と発見した遺構などについて記述する。各地区の層序は、中央区の第Ⅰ層を中央Ⅰ層、東区の第Ⅱ層を東Ⅱ層などとし、北西部と南西部およびその間で様相が異なる西区では、それぞれ北西Ⅲ層、南西Ⅳ層、西Ⅱ層などと表記する。また、各地区の遺構の南北方向上における位置は、中央区の遺構の分布を踏まえて概ね S195 付近から北を北部、S243 付近から南を南部とし、その間を中央と称す。そのほか、表土以外の堆積層出土遺物は各地区の末尾、表土出土の遺物については最後に一括して記載する。

地 形

層 序

遺 構 の 分 布

層 序 ・ 遺 構 の 記 載



(南から)



(南西から)

図版 13 政庁・政庁南大路・城前官衙



## 2. 発見した遺構と遺物

### (1) 中央区

#### 1) 層序

現代の表土の直下が地山土・岩盤となっている。

中央区の層序

【中央Ⅰ層】 現代の表土で、暗褐色（10YR3/3）の耕作土や宅地等の造成に伴う地山土のブロックを多く含む黄褐色土（10YR5/8）などの盛土である。厚さは、遺構の分布する南北の範囲内で概ね中央にあたる S216 ラインの中央区中央（E52.5）で約 30cm、中央区の東端（E66）で約 50cm、西端（E39）で約 45cmである。

【中央Ⅱ層】 明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルトから漸移的に明黄褐色（10YR6/6）の岩盤となる地山である。

#### 2) 中央区の遺構と遺物

掘立柱建物跡 15 棟、材木塀・柱列跡 20 条、竪穴住居跡 2 棟、井戸 1 基、溝 2 条のほか、多数の土壌を検出した。いずれも基本的には表土直下の地山で確認している。以下、建物跡と柱列跡を中心に主要な遺構について記し、それ以外のものはここで記載した遺構も含めて章末の第 9～13 表に特徴などを掲げた。

##### i. 掘立柱建物跡

【SB2450 建物跡】（図版 15～17）

中央区ほぼ中央の E49・S220 付近を中心に位置する桁行 3 間、梁行が 2 間と推定される南北棟である。棟柱が検出されていないため梁行は 1 間の可能性もあるが、建物全体の規模や間尺からみて、北の棟柱は SE2479 井戸、南の棟柱は SA2461 材木塀跡と SK2480 土壌に壊されていると推定される。SB2452 建物跡、SA2461、SE2479、SK2480 と重複し、いずれよりも古い。柱穴は 7 個検出し、すべてで柱痕跡を確認した。そのうち 2 カ所の柱は切取られている。

検出状況

建物の規模は柱痕跡から桁行が西側柱列で総長 9.8 m、柱間は北から 3.3 m・3.3 m・3.2 m である。梁行は南妻で総長約 5.4 m である。棟の方向は、西側柱列で南北の発掘基準線に対して北で約 6° 東に振れている。また、南妻の柱列は約 1.7 m 東側に隣接する SB2451 建物跡の南妻柱列と柱筋が揃う。

規模・方向

柱穴の掘方は一辺 0.7～0.9 m の隅丸方形で、深さは南東隅柱穴で 0.3～0.4 m である。地山の岩盤に由来する礫片を多く含む黄褐色（10YR5/6）のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は褐色（7.5YR4/3）のシルトで、直径 27cm 前後の円形を呈す。

柱 穴

遺物は、柱痕跡から丸瓦Ⅱ B 類がごく少量出土している。

出土遺物

【SB2451 建物跡】（図版 15～17）

中央の概ね E56・S220 を中心に位置する桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟である。SB2452 建物跡、SI2477 住居跡と重複し、SB2452 より古い。SI2477 については、調査時には本建物跡が新しいとみたが、住居跡の堆積土・貼床が薄い状況で判断したため断定できない。

検出状況

柱穴は北東隅以外の9個を検出した。北東隅柱穴はSB2452建物跡の柱穴に壊されている。柱は3カ所で痕跡を確認し、ほかに柱の抜取り穴を1カ所で確認している。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡または柱抜取り穴や柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は西側柱列で総長約9.8m、柱間は北から約3.5m・約3.3m・約3.0mである。梁行は南妻で総長約5.3m、柱間は西から約2.6m・約2.7mである。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して北で約4°東に振れている。また、南妻は約1.7m西側に隣接するSB2450建物跡の南妻と柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は一辺0.6～1.0mの隅丸方形で、深さは北東隅から1間南の柱穴で約0.4mである。地山の礫片を多く含む黄褐色(10YR5/6)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は褐色(7.5YR4/3)のシルトで、直径27cm前後の円形を呈す。なお、遺物は出土していない。

#### 【SB2452 建物跡】(図版15～18)

**検出状況** 中央の概ねE56・S218を中心に位置する桁行5間、梁行4間の南北に廂が付く東西棟で、同位置で一度建替えられている(A→B)。SB2450・2451・2508建物跡、SI2477住居跡、SK2547土壇と重複し、SB2450・2451・2508より新しく、SK2547より古い。SI2477については、調査時には本建物跡が新しいとみたが、住居跡の堆積土・貼床が薄いなかで判断したため断定できない。

柱穴はA・Bともに26個すべてを検出したが、Aの柱穴はBに大きく壊されており、柱痕跡はみつかっていない。Bでは17カ所で柱痕跡、5カ所で上部が切り取られた柱痕跡、4カ所で柱の抜取り穴または切り取り穴を確認した。

#### 《SB2452 A 建物跡》

**規模と柱穴** すべての柱穴がBの柱穴にほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向などはBと同様と推定される。柱穴の掘方は、身舎が一辺0.8～1.2m、廂は一辺0.6～1.1mの隅丸方形で、深さは身舎が南東隅柱穴で約1.0m、廂が南廂の西端から2間東の柱穴で約0.7mである。ともに地山の礫片を含む褐色や黄褐色(7.5YR4/4、10YR5/6・5/8)の砂質シルトで埋め戻されている。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から平瓦ⅡB類がごく少量出土している。

#### 《SB2452 B 建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡から桁行が身舎の北側柱列で総長11.6m、柱間は西から2.3m・2.3m・2.3m・2.3m・2.4m、梁行が西妻で総長11.0m、柱間は北から3.0m(廂)・2.7m・2.6m・2.7m(廂)である。棟の方向は、北側柱列で東西の基準線に対して東で約2°南に振れている。また、東・西妻の柱列は約10m南のSB2454建物跡の東廂・西妻と柱筋が揃い、西妻は5～10m前後北のSB2503～2507建物跡の西妻とも揃う。ほかに南廂柱列は約10.5m東のSB2518建物跡(東区)の北妻と概ね柱筋が揃い、やや離れるが、北廂柱列も約22m西のSB2849建物跡(西区)の北妻と揃う。

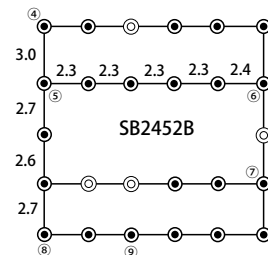
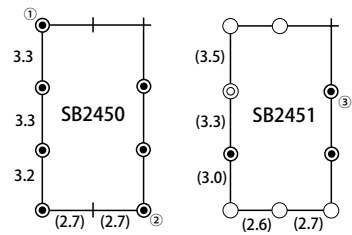
**柱 穴** 柱穴の掘方は身舎が大きく、廂では小さい。身舎は一辺0.8～1.2m、廂は一辺0.4～0.7mの隅丸方形で、深さは身舎の北西隅柱穴が約1.4m、廂の北西隅柱穴が約0.3mである。ともに埋土は地山の礫片と小さい炭片を多く含む褐色(7.5YR4/6)のシルトで、身舎の南東隅柱穴で



中央区南側から南部の建物・柱列跡群(上から)



SB2450~2452建物跡とSA2465柱列跡(上から)



【建物模式図】



SB2452建物跡とSA2465柱列跡(南から)



SB2452建物跡(東から)

図版 15 中央区南側の建物

は残存する柱の木質部下方に平瓦を粘土とともに根巻き状に置いた状況が確認された。また、北西隅廂の柱穴では平瓦、南廂の西から2間の柱穴では礫による礎盤を検出した。

柱痕跡は、炭粒を少し含む褐色や褐灰色、黒褐色（10YR5/1・5/2・3/2）のシルトで、身舎が直径36cm前後、廂が20cm前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴の掘方から丸瓦、平瓦ⅠA・ⅡB・ⅡBa1類、土師器坏・甕、須恵器坏、柱切り穴から土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器碗、柱痕跡から丸瓦、平瓦ⅡBa3類、土師器坏、須恵器坏が出土している。

土師器はいずれもロクロ整形のもので、掘方出土の坏には底部が回転糸切りの無調整のもの(図版18-1)、柱切り穴や柱痕跡出土の坏には底部の切離し後に手持ケズリ調整するものがある(2～4)。また、切り穴出土の須恵器坏には底部がへら切り無調整のものがある。

**【SB2453 建物跡】** (図版16・18・19)

**検出状況** 中央南側の概ねE52・S236を中心に位置する桁行5間、梁行4間の南北に廂が付く東西棟である。同位置で建替えられており(A→B)。SB2454建物跡、SA2462材木堀跡より古い。

柱穴は身舎の南側柱列と南廂柱列が調査区南端の攪乱で壊されているが、Bの身舎で10個、廂で9個、Aの身舎で8個、廂で8個検出した。Aの柱穴はBにも壊されており、柱痕跡は身舎の北妻3カ所で確認したのみである。Bの柱痕跡は15カ所で確認し、そのうち5カ所で柱が切り取られている。

《SB2453 A 建物跡》

**規模と柱穴** 検出した柱穴がすべてBの柱穴にほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向などはBと同様と推定される。柱穴の掘方は、身舎が一辺0.9～1.3m、廂は一辺0.6～1.1mの隅丸方形で、深さは廂の北西隅柱で約0.1mである。全体的に地山の礫片や地山土ブロックを含むにぶい黄褐色(10YR4/3)のシルトで埋め戻されている。

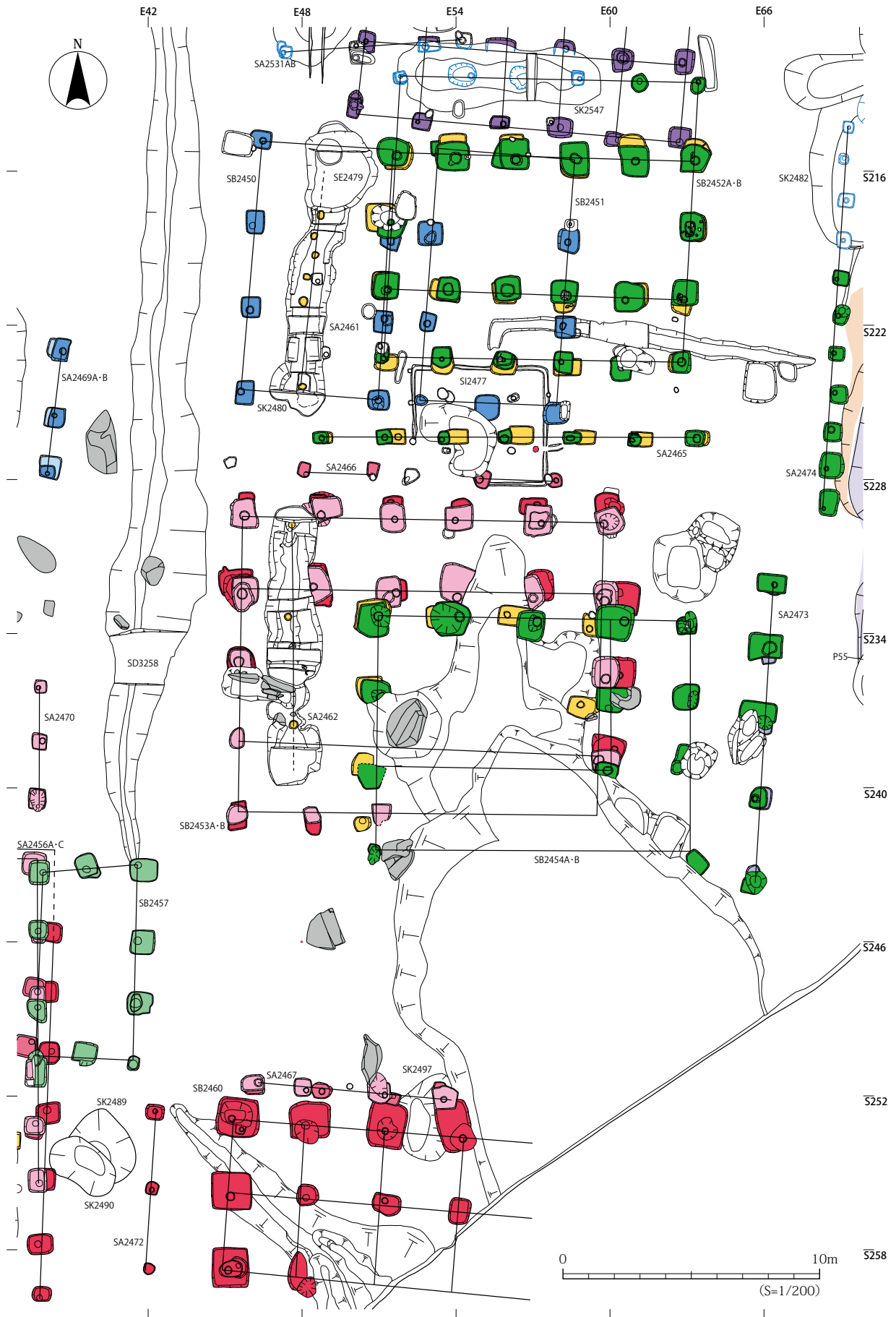
**出土遺物** 遺物は、掘方から須恵器高台坏の破片がごく少量出土している。

《SB2453 B 建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡から桁行が身舎の北側柱列で総長14.1m、柱間は西から2.7m・3.2m・2.4m・3.0m・2.8mで、梁行が西妻で総長11.7m、柱間は北から3.0m(廂)・2.7m・約3.0m・約3.0m(廂)である。桁行は中央間が狭く、東・西から2間分の柱間が広い。

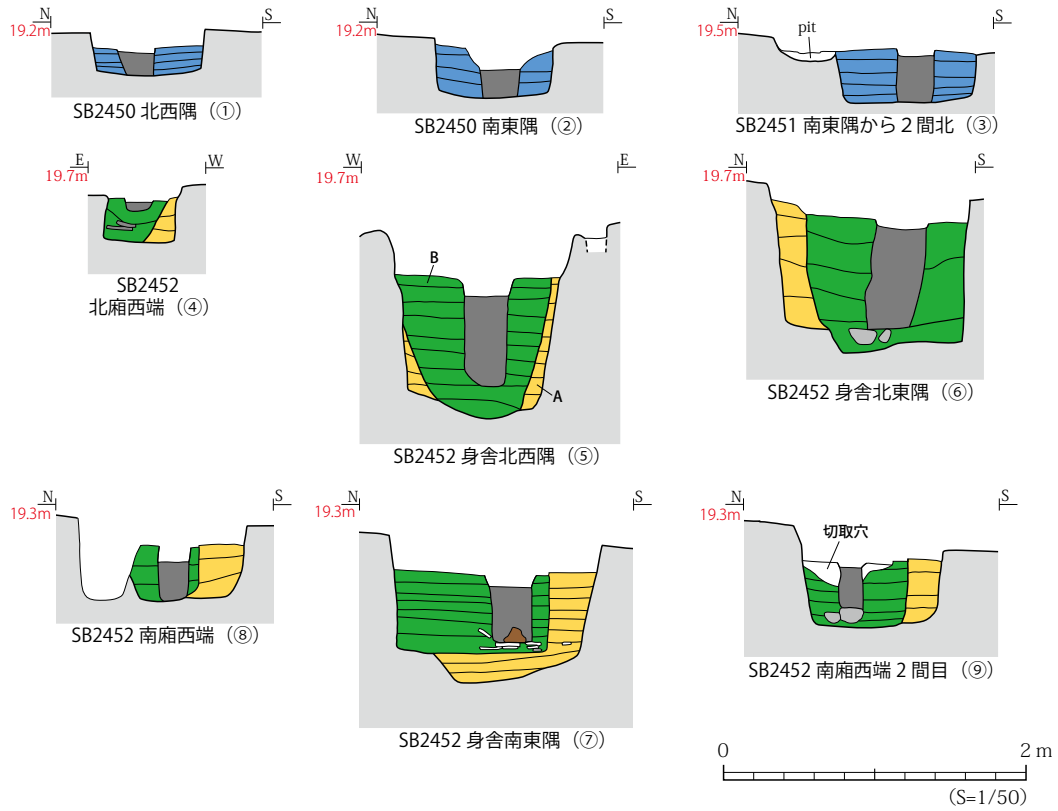
棟の方向は、北側柱列で東西の基準線にほぼ一致する。また、本建物跡の西妻柱列は約12.0m南のSB2460建物跡の西妻柱列と柱筋が揃い、身舎の南・北側柱列は約12.0m東のSB2594建物跡(東区)の南・北側柱列と柱筋が揃う。ほかに、やや離れるが、身舎の南・北側柱列は西区のSB2850建物跡の南・北側柱列とも柱筋が概ね揃う。

**柱穴** 柱穴の掘方は身舎が大きく、廂はやや小さい。身舎は一辺0.8～1.5m、廂は一辺0.9～1.2mの隅丸方形で、深さは身舎の北側柱列の西端から1間東の柱穴で約0.4m、廂の北西隅柱穴が約0.2mである。埋土は、礫片を含む地山土ブロック主体とにぶい黄褐色や黄褐色(10YR5/3・5/6)の粘土や砂質シルトで、炭粒を少し含む。柱痕跡は、焼土ブロックと炭粒を含む灰黄褐色(10YR4/2)の粘土で、身舎が直径39cm前後、廂が30cm前後の円形を呈す。



図版16 分割図1 中央区中央から南部の遺構





SB2450 北西隅 (①: 東から)



SB2450 南東隅 (②: 西から)



SB2451 南東隅から2間北 (③: 西から)



SB2452 北廂西端 (④: 北から)



SB2452 身舎北西隅 (⑤: 南から)



SB2452 身舎北東隅 (⑥: 西から)



SB2452 南廂西端 (⑧: 西から)

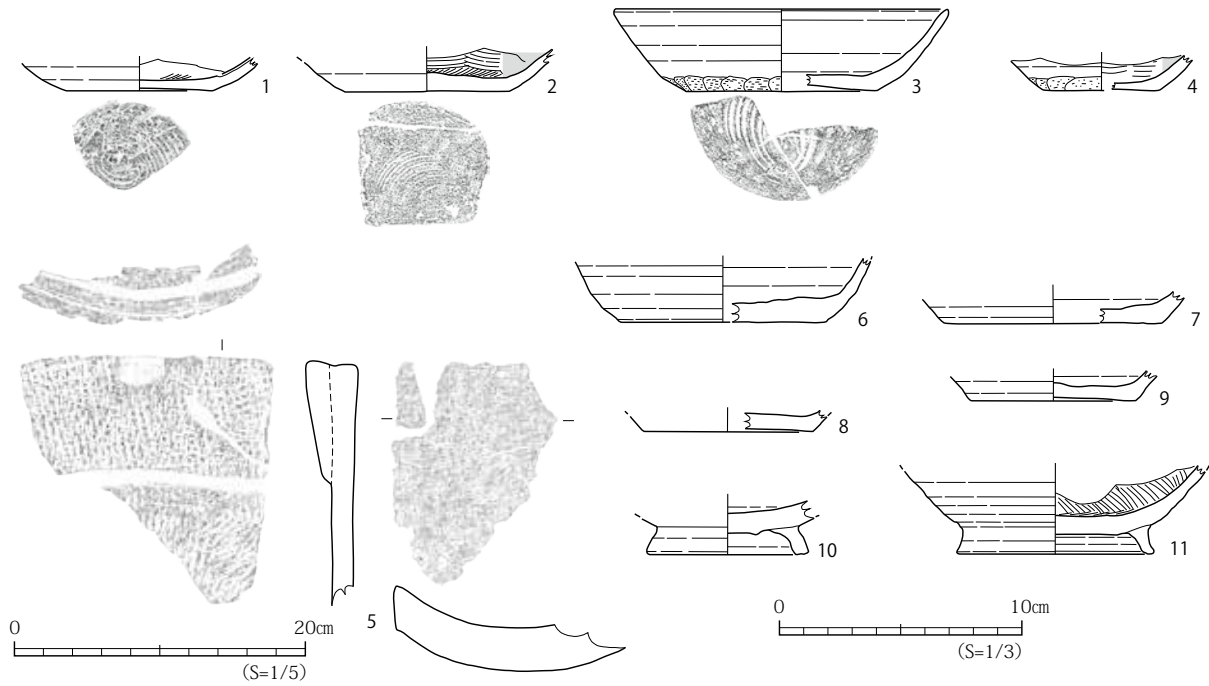


SB2452 身舎南東隅 (⑦: 西から)



SB2452 南廂西端から2間目 (⑨: 西から)

図版17 SB2450~2452建物跡柱穴



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SB2452 掘方	69	土師器・杯	1/4	—	6.0	—	底：回転糸切 内：ミガキ		SB2452-R3	B12869
2	SB2452 切取穴	69	土師器・杯	破片	—	6.8	—	底：回転糸切→手持ケズリ 内：横方向ミガキ		SB2452-R4	B12869
3	SB2452 柱痕跡	69	土師器・杯	破片	—	4.8	—	底：切離不明→手持ケズリ 内：ミガキ		SB2452-R5	B12869
4	SB2452 切取穴	69	須恵器・杯	1/5	—	7.8	—	底：回転糸切→手持ケズリ		SB2452-R18	B12869
6	SB2453B 切取穴	69	須恵器・杯	破片	—	8.4	—	底：ヘラ切→軽いナデ		SB2453-R6	B12869
7	SB2453B 切取穴	69	須恵器・杯	破片	—	9.0	—	底：ヘラ切		SB2453-R5	B12869
8	SB2454B 掘方	69	土師器・杯	破片	—	7.0	—	底：回転糸切		SB2454-R1	B12869
9	SB2454B 切取穴	69	須恵器・杯	破片	—	7.0	—	底：回転糸切		SB2454-R2	B12869
10	SB2454B 切取穴	69	須恵器・高台杯	破片	—	—	—	底：高台径6.6cm		SB2454-R3	B12869
11	SB2454B 切取穴	69	須恵器・高台杯	破片	—	—	—	底：回転糸切→高台貼付、高台径8.0cm 内：ミガキ		SB2454-R7	B12869

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
5	SB2453B 切取穴	69	軒平瓦	瓦当1/3	単弧文640a1	瓦当幅2.7。被熱により酸化・摩滅。	18	SB2453-R11	B12874

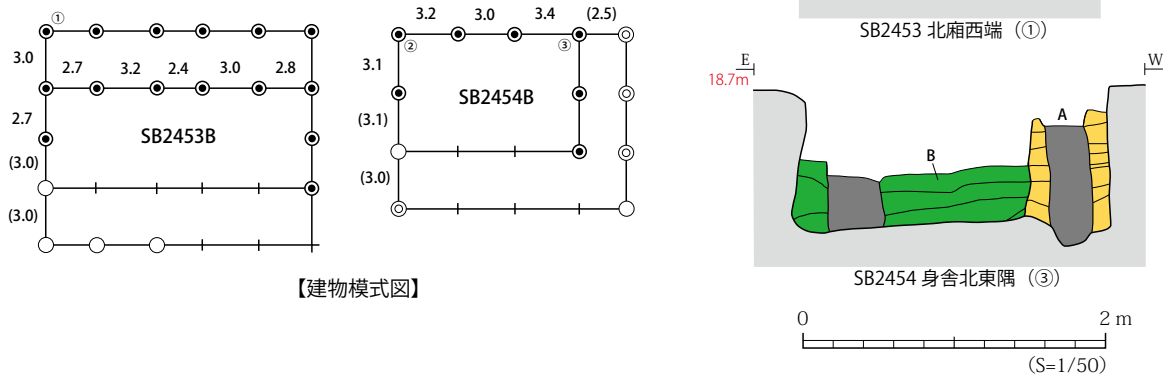
図版18 SB2452～2454出土瓦・土器

遺物は、柱穴の掘方から丸瓦Ⅱ類、柱痕跡から平瓦Ⅱ B a3類、須恵器杯、柱の切取り穴から 出土遺物  
軒平瓦、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅱ B類、須恵器杯・蓋・甕が出土している。切取り穴出土の軒平瓦は単  
弧文 640a1 で (図版 18-5)、被熱して脆くなったいわゆる焼瓦である。須恵器杯は底径がやや  
大きく、底部の切離しがヘラ切りのものである (6・7)。

【SB2454 建物跡】 (図版 16・18・19・134・144)

中央南側の概ね E57・S238 を中心に位置する桁行 4 間、梁行 3 間の南と東に廂が付く東西棟 検出状況  
である。ほぼ同位置で一度建替えられているが(A→B)、Aは東廂の柱穴を検出していないため、  
桁行 3 間の南廂付東西棟の可能性もある。また、建替えの際には身舎と南廂の柱間が少し広げ  
られている。SB2453 建物跡と重複し、それより新しい。

柱穴は、身舎の南側柱列と南廂柱列が調査区南端の攪乱で壊されているが、Aの身舎で7個、  
廂で1個、Bの身舎で8個、廂で5個検出した。このうち、Aでは身舎を中心に4カ所で柱痕  
跡を確認し、Bでは身舎の3カ所で柱痕跡、4カ所で上部が切り取られた柱痕跡、廂の4カ所  
で柱の抜取り穴を確認した。



SB2453 北廂西端 (①: 西から)



SB2454 身舎北西隅 (②: 北から)



SB2454 身舎北東隅 (③: 北から)

図版19 SB2453・2454建物跡柱穴

《SB2454 A 建物跡》

規模と柱穴

A 建物の規模は、柱穴が攪乱とBの柱穴に壊されているため不明だが、柱穴の位置からみてBよりやや小さいと推定される。柱穴の掘方は、身舎が一辺0.8～1.4 mの隅丸長方形、廂が一辺0.5～0.7 mの隅丸方形で、深さは身舎の北東隅柱穴で約1.0 mある。埋土は地山土のブロックを含む褐色や黄褐色（10 YR4/6・5/6）の砂質シルトである。柱痕跡は黒褐色粘土が混ざるにぶい黄褐色（10 YR5/4）の砂質シルトで、直径約25cmの円形を呈す。なお、遺物は出土していない。

《SB2454 B 建物跡》

規模・方向

規模は、柱痕跡もしくは柱切り穴等の中心に柱位置を推定すると、桁行が身舎の北側柱列で総長約12.1 m、柱間は西から3.2 m・3.0 m・3.4 m・約2.5 m（廂）、梁行が西妻で総長約9.2 m、柱間は北から3.1 m・約3.1 m・約3.0 m（廂）である。

棟の方向は、北側柱列で東西の基準線にほぼ一致している。また、東廂と西妻の柱列は約10 m北のSB2452 建物跡の西妻と柱筋が揃う。ほかに、やや離れるが、本建物跡の身舎の南・北側柱列は、約16 m西のSB2455 建物跡の身舎の南・北側柱列と柱筋が揃う。

柱穴

柱穴の掘方は身舎が大きく、廂はやや小さい。身舎は一辺1.0～1.2 m、廂は一辺0.8～1.0 mの隅丸方形で、深さは身舎の北東隅柱穴が約1.0 mである。埋土は炭とブロック状の地山土と焼土を多く含む褐色（10YR4/6）の砂質シルトや褐色（10YR4/1）の粘土質シルトである。身舎の柱痕跡は黒褐色（10YR3/1）の粘土で、直径37cm前後の円形を呈す。

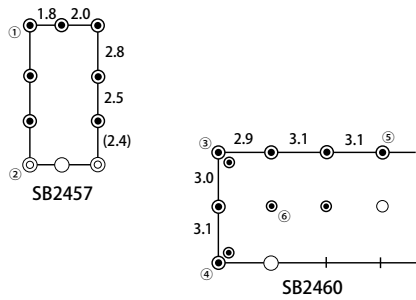
出土遺物

遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅱ B a1・b2 類、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕、壁土、柱切り穴から丸瓦、平瓦Ⅱ B・Ⅱ B a3 類、土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏（図

版 18-9)・高台坏 (10・11)・甕・壺、鉄釘 (図版 144-16)、壁土、柱痕跡から土師器坏、円面硯 (図版 134-1) が出土している。掘方出土の土師器坏には底部の切離しが回転糸切りで、二次的な被熱で外面が脆く剥落したもの (図版 18-8)、切り穴出土の平瓦ⅡB類には凸面に「物」Aの刻印のあるものがある。

【SB2457 建物跡】 (図版 16・20・132)

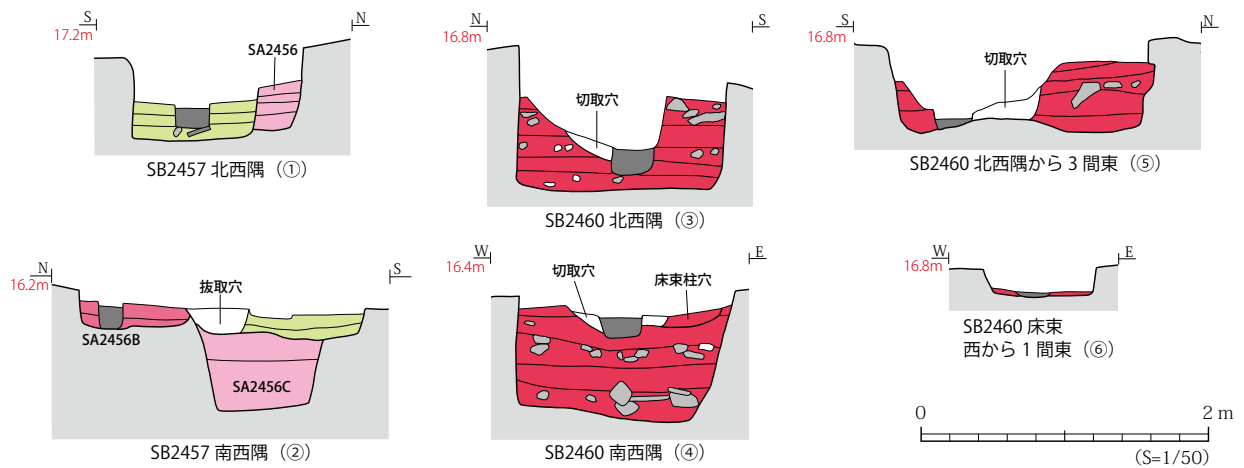
南部の概ね E40・S247 を中心に位置する桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟である。SA2456 柱列 検 出 状 況



【建物模式図】



SB2457・2460 建物跡 (南から)



SB2457 北西隅 (①: 東から)



SB2460 北西隅 (③: 西から)



SB2460 北西隅から 3 間東 (⑤: 東から)



SB2460 南西隅検出状況 (④: 西から)



SB2460 南西隅 (④: 南から)



SB2460 床束西端から 1 間東 (⑥: 南から)

図版20 SB2457・2460建物跡柱穴

跡より新しい。柱穴は10個すべてを検出し、南妻以外の6カ所で柱痕跡、1カ所で上部が切り取られた柱痕跡、南妻の2カ所で柱の抜き取り穴または切り取り穴を確認した。

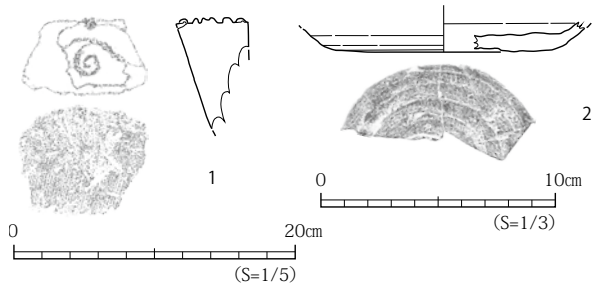
- 規模・方向** 規模は、柱痕跡または柱の抜き取り穴や柱穴のほぼ中央に柱位置を推定すると、桁行は東側柱列で総長約7.7m、柱間は北から2.8m・2.5m・約2.4mである。梁行は北妻で総長約3.8m、柱間は西から約1.8m・約2.0mで、方向は東側柱列で南北の基準線にほぼ一致する。
- 柱 穴** 柱穴の掘方は一辺0.8～1.1mの隅丸方形を呈す。深さは北西隅柱穴で約0.6mで、その柱痕跡の下では礎盤として置かれた平瓦と礫を検出した。埋土は地山の礫片を多く含む黄褐色(10YR5/6)のシルトである。柱痕跡は明褐色(7.5YR5/8)のシルトで、直径約20cmの円形を呈す。
- 出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦、平瓦I C・II B a1・II B a2類、土師器甕、柱切り取り穴から丸瓦II類、平瓦I C・II B類、土師器杯・甕、須恵器杯・長頸瓶・甕が出土している。須恵器長頸瓶は会津大戸窯の製品である(図版132-6)。

**【SB2460 建物跡】**(図版16・20・21・141)

- 検出状況** 南部のE51・S256付近に位置する建物跡である。東側が攪乱と調査区の制約により不明だが、北西・南西隅柱の内側と棟通りに東柱穴を持つことから桁行3間以上、梁行2間の床持ちの東西棟とみられる。SA2467柱列跡、SK2497土壌と重複し、SK2497より新しく、SA2467より古い。柱穴は側柱列で7個、東柱穴は棟通りで3個および北西・南西隅柱内で各1個を検出し、6カ所で柱痕跡、5カ所で上部が切り取られた柱痕跡を確認している。
- 規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡から桁行が北側柱列で総長9.1m以上、柱間は西から2.9m・3.1m・3.1mである。梁行は西妻で総長6.1m、柱間は北から3.0m・3.1mである。
- 棟の方向は、北側柱列で東西の基準線に対して東で南に約5°南に振れている。また、西妻の柱列は、約12m北のSB2453建物跡の西妻柱列と柱筋が揃う。ほかに、北側柱列に沿った1.5m北側にはSA2467柱列跡があり、北側・棟通り・南側柱列の柱筋の約3.0m西の延長上には、南北2間のSA2472柱列跡の北端・中間・南端の柱穴が位置する。
- 柱 穴** 柱穴と床束の掘方は隅丸方形で、規模は柱穴が一辺1.4～1.7m、深さが北西隅柱穴で約1.0m、棟通りの床束が一辺0.7～1.2mで、深さが西から1間目の柱穴で0.2m、北西・南西隅柱内の床束が一辺0.4～0.8mで、深さが南西隅柱の柱穴で約0.3mである。いずれも地山の礫片を多く含む黄褐色(10YR5/6)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡はにぶい褐色(7.5YR5/6)の粘土質シルトで、身舎が直径約30cm前後、床束が直径約24cm前後の円形を呈す。
- 出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から偏行唐草文621軒平瓦(図版21-1)、丸瓦II類、平瓦I C・II B類、土師器甕、壺金具(図版141-8)、柱切り取り穴から丸瓦、平瓦I A・II B類、土師器杯・甕、須恵器杯・蓋・甕、柱痕跡から土師器杯が出土した。土師器はすべて非ロクロ整形のもので、切り取り穴出土の須恵器杯には底径が大きく、底部がへら切り無調整のものがある(図版21-2)。

**【SB2503 建物跡】**(図版22～25)

- 検出状況** 中央北側の概ねE55・S200を中心に位置する桁行3間、梁行2間の東西棟である。SA2528・2529柱列跡、SB2504～2507建物跡、SK2545土壌と重複し、SA2528より新しく、



単位：(cm)						
No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	型番・分類	写真図版
1	SB2460 掘方	69	軒平瓦	瓦当破片	偏行唐草文621	
			特	徴		登録 箱番号 SB2460-R5 B12874

No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	口径	底径	器高	写真図版
2	SB2460 切取穴	69	須恵器・坏	破片	—	9.2	—	
			特	徴				登録 箱番号 SB2460-R16 B12869

図版21 SB2460建物跡出土瓦・土器

SB2504～2507、SK2545より古い。なお、SA2529とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

柱穴は10個検出したが、棟通りと南西隅柱穴は重複する柱穴に大きく壊されている。柱痕跡は北・南側柱列で5カ所確認し、ほかに柱の抜き取りまたは切り取り穴を2カ所で確認した。

規模は、柱痕跡または柱穴や柱抜き取り穴のほぼ中央に柱をみると、桁行が北側柱列で総長約6.7m、柱間は西から2.2m・約2.4m・約2.1mである。梁行は西妻で総長約5.3m、柱間は北から約2.6m・約2.7mで、棟の方向は北側柱列で東西の基準線にほぼ一致している。

柱穴の掘方は一辺0.8～1.1mの隅丸方形で、深さは北東隅柱穴で約0.8mである。地山土をブロック状に含む明褐色や黄褐色(7.5YR5/6・10YR5/8)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は炭粒を少し含む灰褐色(7.5YR4/2)のシルトで、直径約27cm前後の円形を呈す。

遺物は、柱の抜き取り穴から土師器坏、須恵器坏が少量出土している。土師器坏にはロクロ整形と推定されるもので、底部から体部下端が手持ケズリ調整されるものがある。

### 【SB2504 建物跡】(図版22～25)

中央北側の概ねE57・S202を中心に位置する桁行3間、梁行3間の南に廂が付く東西棟で、廂が一度付け替えられている(A→B)。SA2528・2529柱列跡、SB2503建物跡より新しく、SB2505～2507建物跡より古い。柱穴は14個すべてを検出したが、古い廂の柱穴は新しい廂の柱穴に大きく壊されている。柱痕跡は切り取られた1カ所を含む7カ所で確認し、ほかに2カ所で柱の抜き取り穴または切り取り穴を検出した。

建物の規模は、柱痕跡または柱の抜き取り穴や柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行が北側柱列で総長約10.9m、柱間は西から約3.2m・約4.2m・約3.5mである。梁行は西妻で総長約10.4m、柱間は北から3.2m・約3.7m・約3.5mである。棟の方向は、北側柱列で東西の基準線にほぼ一致する。また、西妻の柱列は約10m南のSB2452建物跡および約12m北のSB2524建物跡の西妻柱列と柱筋が揃う。

柱穴の掘方は、身舎が一辺0.7～1.1mの隅丸方形や隅丸長方形を呈す。深さは南西隅柱穴で約0.9mあり、ブロック状に焼土を含む黄褐色や明黄褐色(10YR5/8・6/6)のシルトで埋め戻されている。廂は、残りの良いBでみると、一辺1.1～1.4mの隅丸方形で、深さは南西隅柱穴で約0.7mである。炭粒を少し含む地山土ブロック主体の灰黄褐色やにぶい黄褐色(10YR4/2・4/3)のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は、ともに地山土を含む黒褐色や暗褐色(10YR3/2・4/3)のシルトで、直径約26cm前後の円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から須恵器坏、柱切り取り穴から土師器坏、須恵器坏、柱痕跡から丸瓦、平瓦



中央区北側の建物群（南から）



中央区北側の建物群（上から）



SB2503～2507 建物跡（西から）

図版 22 中央区北側の建物

Ⅱ B類、土師器坏・甕、須恵器坏が少量出土した。柱痕跡出土の土師器坏にはロクロ整形で、底部が回転糸切り無調整のものがある（図版 24-1）。

**【SB2505 建物跡】**（図版 22～25）

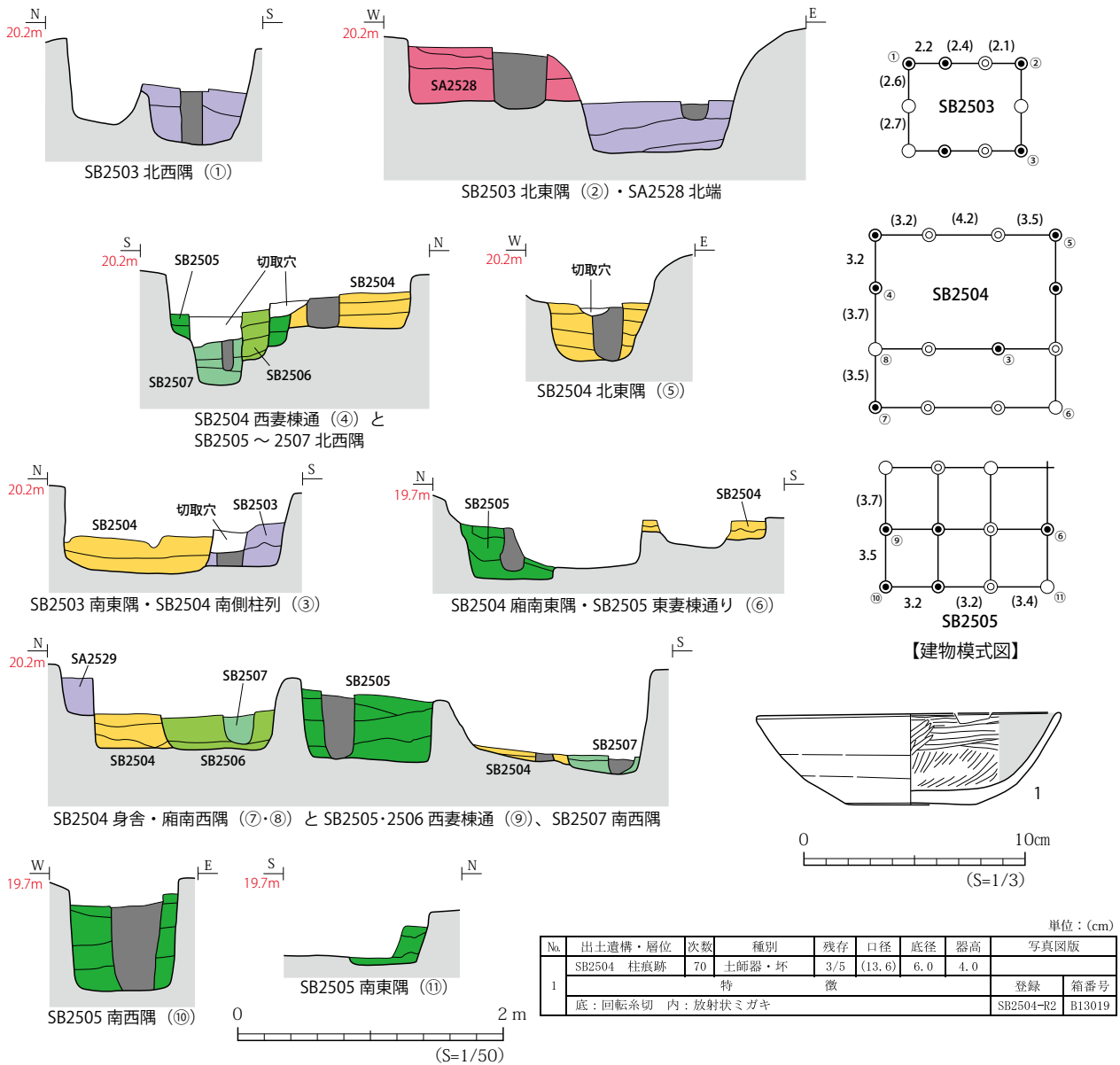
**検出状況** 中央北側の概ね E57・S204 を中心とする桁行 3 間、梁行 2 間の総柱の東西棟である。SA2528・2529 柱列跡、SB2503・2504・2506・2507 建物跡と重複し、SA2528、SB2503・2504 より新しく、SB2506・2507 より古い。なお、SA2529 とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

柱穴は攪乱に壊された北東隅以外の 11 個を検出し、4 ヲ所で柱痕跡、1 ヲ所で上部が切り取られた柱痕跡、3 ヲ所で柱の抜き穴または切り穴を検出した。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡または柱の抜き穴や柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、棟通りの柱列で総長約 9.8 m、柱間は西から 3.2 m・約 3.2 m・約 3.4 m である。梁行は西妻で総長約 7.2 m、柱間は北から約 3.7 m・3.5 m である。棟の方向は、棟通りの柱列で東西の基準線に対して







図版24 SB2503～2507建物跡柱穴と出土土器

東で南に約3°振れている。また、西妻の柱列は約10m南のSB2452建物跡および約16m北のSB2524建物跡の西妻柱列と柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は一辺0.7～1.1mの隅丸方形で、深さは南西隅柱穴で約0.9mである。地山土をブロック状に含む褐灰色やにぶい黄褐色(10YR4/1・4/3・5/4)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は炭粒を少し含む黒褐色(10YR3/2)のシルトで、直径約26cm前後の円形を呈す。

**出 土 遺 物** 遺物は、柱の切取り穴から丸瓦、鉄釘などの角棒状の鉄製品、柱痕跡からロクロ整形の土師器・甕、須恵器・蓋・甕が少量出土している。

**【SB2506 建物跡】** (図版 22～24・26)

**検 出 状 況** 中央北側の概ねE56・S203を中心とする桁行3間、梁行2間の東西棟である。SA2528・2529柱列跡、SB2503～2505・2507建物跡、SB2545土壇と重複し、SA2528、SB2503～2505より新しく、SB2507、SK2545より古い。なお、SA2529とは直接的な重なりがなく、新



図版25 SB2503~2505建物跡柱穴

旧は不明である。

柱穴は 10 個すべてを検出したが、後続の遺構に壊されている箇所が多い。柱痕跡は 2 ヲ所で確認し、そのうち東妻棟通りの柱は切取られている。

建物の規模は、柱痕跡または柱穴のほぼ中央に柱位置を推定すると、桁行が南側柱列で総長約 8.2 m、柱間は西から約 3.0 m・約 2.3 m・約 2.9 m である。梁行は西妻で総長約 5.8 m、柱間は北から約 2.7 m・約 3.1 m である。棟の方向は、南側柱列で東西基準線に対して東で南に約 6° 振れている。また、西妻の柱列は約 10 m 南の SB2452 建物跡および約 16 m 北の SB2524 建物跡の西妻柱列と柱筋が揃う。

規模・方向

柱穴の掘方は一辺 0.6 ~ 1.1 m の隅丸方形で、深さは北側柱列の東から 1 間めの柱穴で約 0.8 m である。灰白色火山灰をブロック状に含む黒褐色や暗褐色 (10YR3/2・3/3) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径約 27cm 前後の円形を呈す。

柱 穴

遺物は、柱穴の掘方からロクロ整形の土師器杯、須恵器杯、柱痕跡から平瓦ⅡB類が少量出土している。

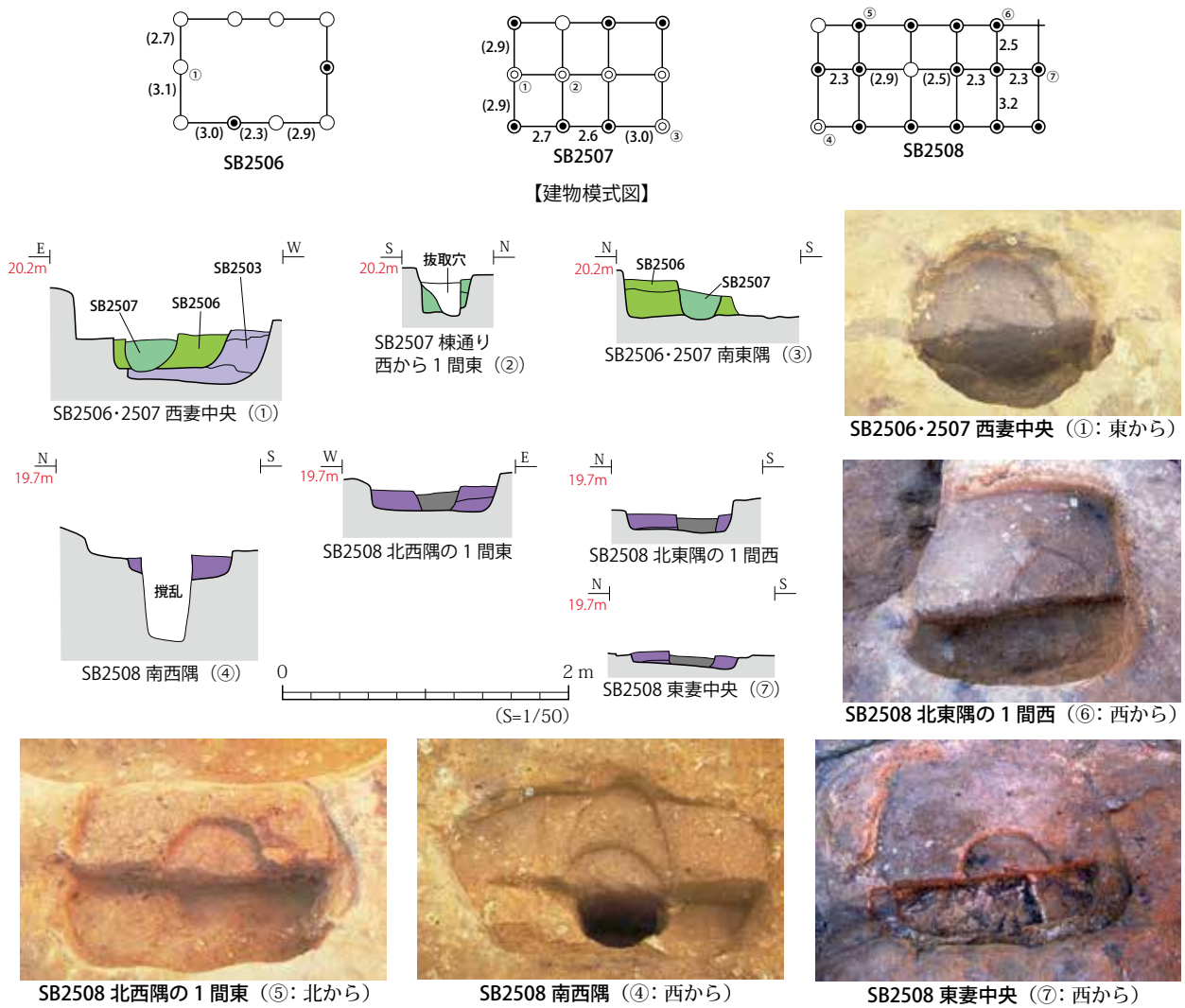
出土遺物

### 【SB2507 建物跡】 (図版 22 ~ 24・26)

前述の SB2506 建物跡と同位置にある桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟総柱建物跡である。SA2528・2529 柱列跡、SB2504 ~ 2506 建物跡と重複し、SA2528、SB2505・2506 より新しい。なお、SA2529、SB2504 とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

検出状況

柱穴は南・北側柱列で 7 個検出し、南東隅と棟通りでは柱の抜取り穴のみを検出した。柱痕



図版26 SB2506～2508建物跡柱穴

跡は南・北側柱列でそれぞれ3カ所確認している。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡または柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は南側柱列で総長約8.3m、柱間は西から2.7m・2.6m・約3.0mである。梁行は西妻で総長約5.8m、柱間は北から約2.9m・約2.9mである。方向は、南側柱列で東西基準線に対して東で約5°南に振れる。また、SB2507と同様に西妻の柱列はSB2452・2524建物跡の西妻柱列と柱筋が揃う。

**柱穴** 柱穴の掘方は一辺0.3～0.6mの隅丸方形で、深さは北西隅柱穴で約0.9mである。灰白色火山灰をブロック状に含む黒褐色(10YR2/2・3/2)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は炭粒を少し含む黒色(10YR2/1)のシルトで、直径約18cm前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱抜き穴から丸・平瓦、土師器杯・甕、須恵器杯・甕、須恵系土器杯・高台杯、灰釉陶器碗、柱痕跡から丸瓦、平瓦ⅡBa類、土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯・蓋、須恵系土器杯・高台杯、鉄釘が少量出土している。

【SB2508 建物跡】(図版22～24・26)

**検出状況** 中央の概ねE56・S212を中心に位置する桁行5間、梁行2間の東西棟総柱建物跡である。SA2531柱列跡、SB2452建物跡、SI2540住居跡、SK2547土壌より古い。柱穴は北東隅以外

の17個を検出し、そのうち13カ所で柱痕跡、1カ所で上部が切り取られた柱痕跡、1カ所で柱の抜き穴を確認している。

建物の規模は、柱痕跡もしくは柱の抜き穴や柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は棟通りの柱列で総長約12.3m、柱間は西から2.3m・約2.9m・約2.5m・2.3m・2.3mである。梁行は東側から1間めの柱列で総長約5.7m、柱間は北から2.5m・3.2mである。棟の方向は、南側柱列で東西の基準線に対して東で南に約6°振れている。

柱穴の掘方は一辺0.5～0.9mの隅丸方形で、深さは南西隅柱穴で約0.4mである。炭とブロック状の地山土を含む褐・灰黄褐色(7.5YR4/3・10YR4/2)のシルトや褐灰色(7.5YR4/1)の粘土質シルトで埋め戻されており、柱痕跡は地山土を少し含む灰褐色や暗褐色(7.5YR4/2・10YR3/3)のシルトで、直径約27cm前後の円形を呈す。

遺物は、柱痕跡から丸瓦、土師器坏、須恵器甕が少量出土している。

### 【SB2523 建物跡】(図版23・27・28)

北部の概ねE53・S183を中心に位置する桁行5間、梁行2間の東西棟である。SB2524建物跡、SD2621溝、SK2617・2627土壙と重複し、それらより古い。柱穴は14個検出し、西妻と南側柱列の4カ所で柱痕跡、北側柱列の5カ所で柱の抜き穴または切り取り穴を確認した。

建物の規模は、柱痕跡または柱の抜き穴や柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は北側柱列で総長約14.7m、柱間は西から3.0m・約2.7m・約3.0m・約3.1m・約2.9mである。梁行は西妻の柱列で総長5.9m、柱間は2.95m等間である。棟の方向は、北側柱列で東西の基準線に対して東で南に3°振れている。また、北側柱列は約14.4m東のSB2509建物跡の北妻の柱列と概ね柱筋が揃う。

柱穴の掘方は一辺0.8～1.5mの隅丸方形で、深さは北西隅柱穴で約0.6m、南西隅柱穴で約0.8mである。地山土ブロック主体の黄褐色や明黄褐色(10YR5/6・6/6・6/8)の砂質シルトで埋め戻されており、柱痕跡は褐灰色(10YR5/1)の粘土で、直径約35～50cmの円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、柱の抜き穴または切り取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅠC類、土師器坏、須恵器坏、壁土、鉄滓、柱痕跡から丸瓦Ⅱ類、土師器坏、須恵器甕が少量出土している。土師器はいずれも非ロクロ整形のものである。

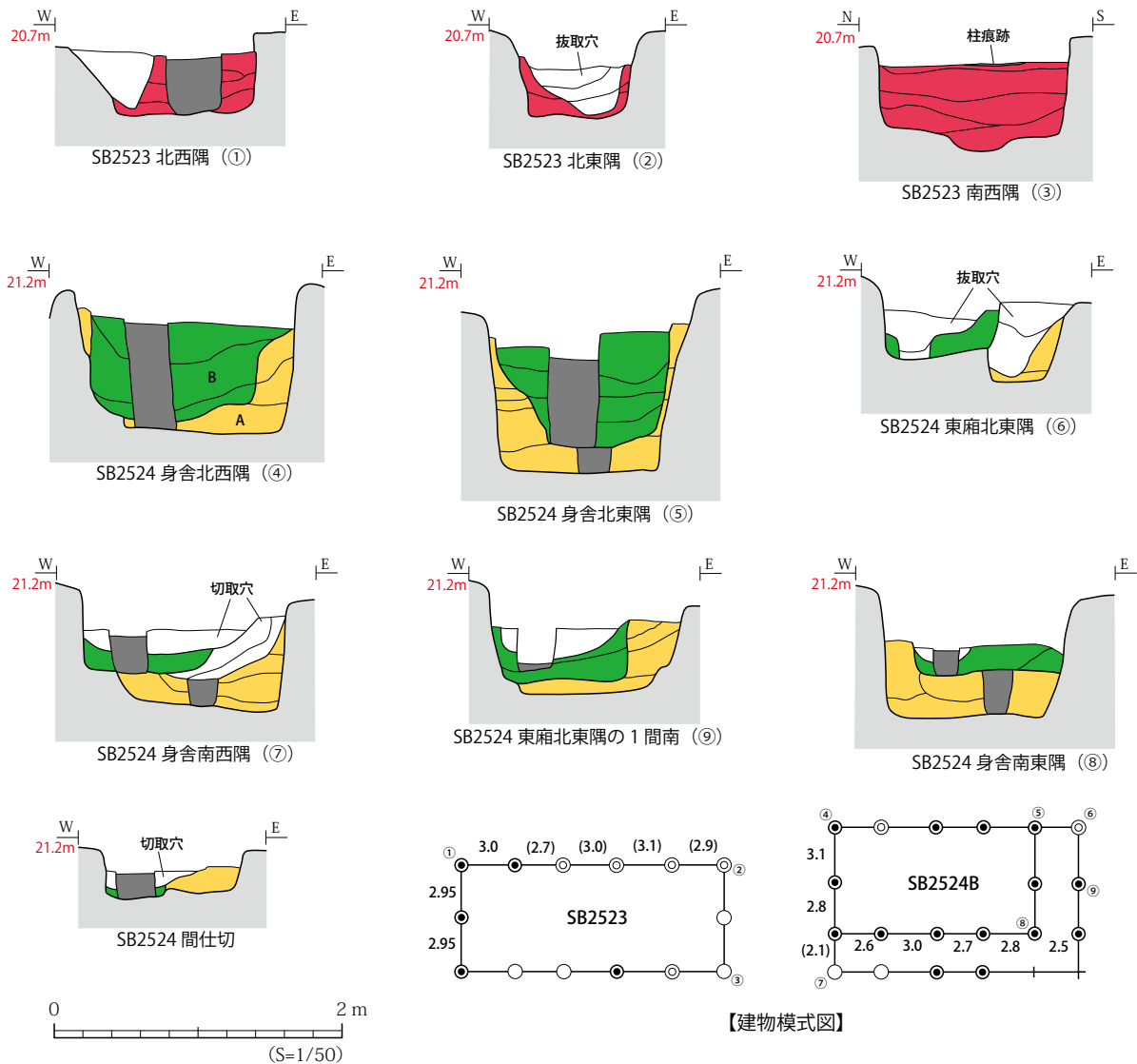
### 【SB2524 建物跡】(図版23・27・28・128・130)

北部の概ねE59・S181を中心に位置する桁行5間、梁行3間の南と東に廂が付く東西棟である。ほぼ同位置で建替えられており(A→B)、SB2523建物跡と重複し、それより新しい。

柱穴はA・Bとも廂の南東隅とその1間西以外の19個を検出し、Bでは身舎の中央間で間仕切り穴も1個検出した。Aの柱痕跡はBの柱穴に壊されているが、身舎の北東・南東・南西の隅柱穴の3カ所で確認している。Bでは柱痕跡を1カ所、上部が切り取られた柱痕跡を13カ所、柱の抜き穴または切り取り穴を3カ所確認した。

#### 《SB2524 A 建物跡》

検出した柱穴がBの柱穴にすべてほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向などはBと



図版27 SB2523・2524建物跡柱穴

概ね同様と推定される。柱穴も東廂がやや小さく、身舎と南廂の柱穴は一辺 0.6 ～ 1.2 m、東廂は一辺 0.6 m 前後の隅丸方形で、深さは身舎の北東隅で約 1.3 m、北西隅で約 1.0 m、東廂北東隅の柱穴で約 0.8 m である。いずれもブロック状の地山土を多量に含むにぶい黄褐色（10 YR5/3・5/4）や褐灰・灰黄褐色（10 YR4/1・5/1・4/2～6/2）のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は灰黄褐・褐灰色（10 YR5/1・4/2）のシルトで、直径 20 ～ 25cm の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡBa・ⅡBb類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、柱の切取り及び抜取り穴から平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏、須恵系土器坏、柱痕跡から丸瓦、平瓦ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、須恵系土器坏が出土している。掘方出土の土師器甕にはロクロ整形のもの、須恵器坏には底部が回転糸切り無調整のものがある。

《SB2524 B建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡または柱の抜取り穴や柱穴の中心に柱の位置を推定すると、桁行が身舎の南側柱列に東廂の出を加えて総長 13.6 m、柱間は西から 2.6 m・3.0 m・2.7 m・2.8 m・2.5



SB2523・2524建物跡(南から)



SB2523北西隅(①:南から)



SB2523北東隅(②:南から)



SB2524建物跡(東から)



SB2523南西隅(③:東から)



SB2524B間仕切り(南から)



SB2524身舎北西隅(④:南から)



SB2524身舎北東隅(⑤:南から)



SB2524廂北東隅(⑥:北から)



SB2524身舎南西隅(⑦:北から)



SB2524身舎南東隅(⑧:南から)



SB2524身舎北東隅の間南(⑨:西から)

図版28 SB2523・2524建物跡とその柱穴

m (廂)、梁行が西妻の柱列で総長約 8.0 m、柱間は北から 3.1 m・2.8 m・約 2.1 m (廂) である。棟の方向は、北側柱列で東西の基準線に対して東で約 5°南に振れている。また、西妻柱列は 12 ~ 16 m 南の SB2504 ~ 2507 建物跡の西妻柱列と概ね柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は身舎と南廂で大きく、東廂はやや小さい。身舎と南廂の柱穴は一辺 0.8 ~ 1.4 m、東廂は一辺 0.7 ~ 0.8 m の隅丸方形で、深さは身舎の北東隅で約 1.1 m、西妻柱列の南北両端で約 0.6 m、東廂北端から 1・2 間南の柱穴で約 0.5 m である。また、間仕切りの柱穴は長辺 0.9 m、短辺 0.6 m の隅丸長方形で、深さは約 0.3 m である。

これらの柱穴は、いずれも地山の礫と少量の焼土・炭粒を含む褐色や褐灰色 (10YR4/4・5/1) の砂質シルトで埋め戻されている。柱痕跡は黒色 (10YR2/1) の粘土質シルトで、身舎が直径 20 ~ 40cm 前後、廂と間仕切りが直径 25 ~ 30cm の円形を呈す。

**出 土 遺 物** 遺物は破片資料が主体だが、柱穴掘方、柱の切り取り及び抜き取り穴、柱痕跡のそれぞれで出土している。掘方の遺物には重弁蓮花文軒丸瓦 (型番不明)、丸瓦 II B 類、平瓦 I A・I C・II B a 類、土師器坏・蓋・甕、須恵器坏・高台坏・甕、緑釉陶器輪花埵がある。土師器はロクロ整形の坏・甕を含み、須恵器坏には底部が回転糸切り無調整のものがある。緑釉陶器輪花埵は尾張・東濃産のものである (図版 127-3)。

切り取りおよび抜き取り穴の遺物には二重弧文 511a 軒平瓦、丸瓦 II B 類、平瓦 I A・I C a・II B a・II B b 類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、灰釉陶器埵、鉄滓があり、土師器はロクロ整形のものを含む。灰釉陶器埵は尾張産のものである (図版 129-3)。柱痕跡では丸瓦、平瓦 II B 類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、須恵系土器坏が出土している。

## ii. 材木堀・柱列跡

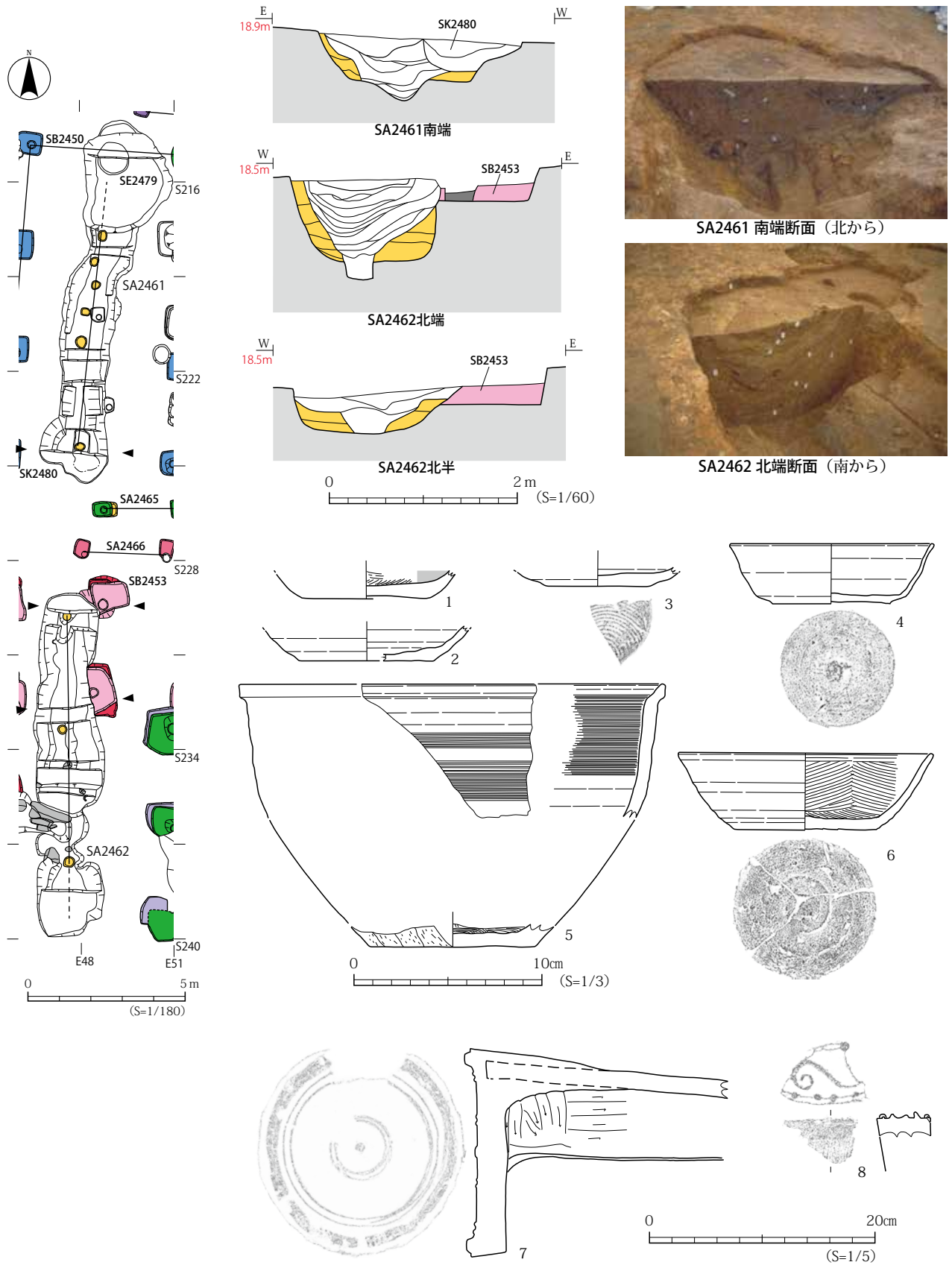
### 【SA2461 材木堀跡】 (図版 16・29)

**検 出 状 況** ほぼ中央に位置する SB2452 建物跡の西妻に沿って 3.0 ~ 3.5 m 西側を伸びる南北方向の材木堀跡である。SB2450 建物跡、SE2479 井戸、SK2480 土壇と重複し、SE2479、SK2480 より新しい。SB2450 とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。材木の多くは抜き取られているが、抜き取り溝の底面で痕跡を 5 個検出している。

**構 造 ・ 規 模** 本材木堀は溝状の布掘りによる掘方に材木を立て並べて埋め戻し、堀としたものである。掘方は長さ約 11.7 m、幅 1.5 ~ 1.8 m の布掘りで、深さは約 1.0 m ある。横断面形は底面がほぼ平坦な逆台形状で、ブロック状の地山土を多く含むにぶい黄褐色や灰黄褐色 (10YR4/3・5/2) のシルトで埋め戻されている。材木の痕跡は灰黄褐色 (10YR5/2) のシルトで、直径 27cm 前後の円形を呈す。方向は、南北の基準線に対して北で東に約 4°振れている。なお、本材木堀跡の南端と約 3.5 m の間を挟んだ先には、ほぼ同規模・方向を持つ SA2462 材木堀跡が南に伸びている。

**抜 取 り 溝** 材木の抜き取り溝は断面形が U 字形や逆凸形を呈する溝で、深さは掘方の底面またはその付近まで達する。堆積土は上層と下層に大別され、地山土をブロック状に含む灰黄褐色 (10 YR5/2) のシルトやにぶい黄褐色 (10YR5/4) の砂質シルトで大半が埋め戻されたうえに、炭を含む暗褐色 (10YR3/4) のシルトが堆積している。

**出 土 遺 物** 遺物は、掘方から丸瓦、抜き取り溝から平瓦 I A・I C・II B・II B a3 類、土師器坏・高台坏・



図版29 SA2461・2462材木堀跡



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SA2461 抜取穴	69	土師器・坏	破片	—	6.9	—	ロクロ整形 底：摩滅 内：横方向ミガキ		SA2461-R5	B12869
2	SA2461 抜取穴	69	須恵器・坏	破片	—	7.2	—	底：ヘラ切→軽いなデ		SA2461-R4	B12869
3	SA2461 抜取穴	69	須恵器・坏	破片	—	5.5	—	底：回転糸切		SA2461-R6	B12869
4	SA2461 抜取穴	69	須恵器・坏	1/3	(13.6)	6.2	3.2	底：ヘラ切		SA2461-R2	B12869
5	SA2461 抜取穴	69	須恵器・鉢	破片	(22.6)	8.8	(14.0)	体部両面：回転ハケメ		SA2461-R8	B12869
6	SA2462 抜取穴	69	土師器・坏	2/3	13.6	7.5	4.1	底：ヘラ切		SA2462-R1	B12869

No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
7	SA2462 抜取穴	69	軒丸瓦	1/3	重圏文241	瓦当厚2.2 平瓦厚1.6。被熱により酸化・摩滅。		SA2462-R9	B12875
8	SA2462 抜取穴	69	軒平瓦	破片	偏行唐草文621	平瓦厚1.6		SA2462-R8	B12875

図版 29 遺物観察表

甕、須恵器坏・蓋・鉢（図版 29-5）・甕が出土している。土師器坏はすべてロクロ整形のもので、内面のミガキが横方向のものがある（1）。須恵器坏には底径がやや大きめで切離しがヘラ切りものと（2・4）、底径が小さく切離しが回転糸切り無調整のものがある（3）。

【SA2462 材木堀跡】（図版 16・29・127）

**検出状況** 前述の SA2461 材木堀跡と約 3.5 m の間を挟んで南に伸びる材木堀跡である。検出した南端から先は削られているが、現状では中央南側の E47・S235 付近を中心とし、SB2454 建物跡の西妻に沿って約 3.5 m 西側に位置する。SB2453 建物跡と重複し、それより新しい。材木の多くは抜き取られているが、抜き取り溝の底面で痕跡を 3 個検出している。

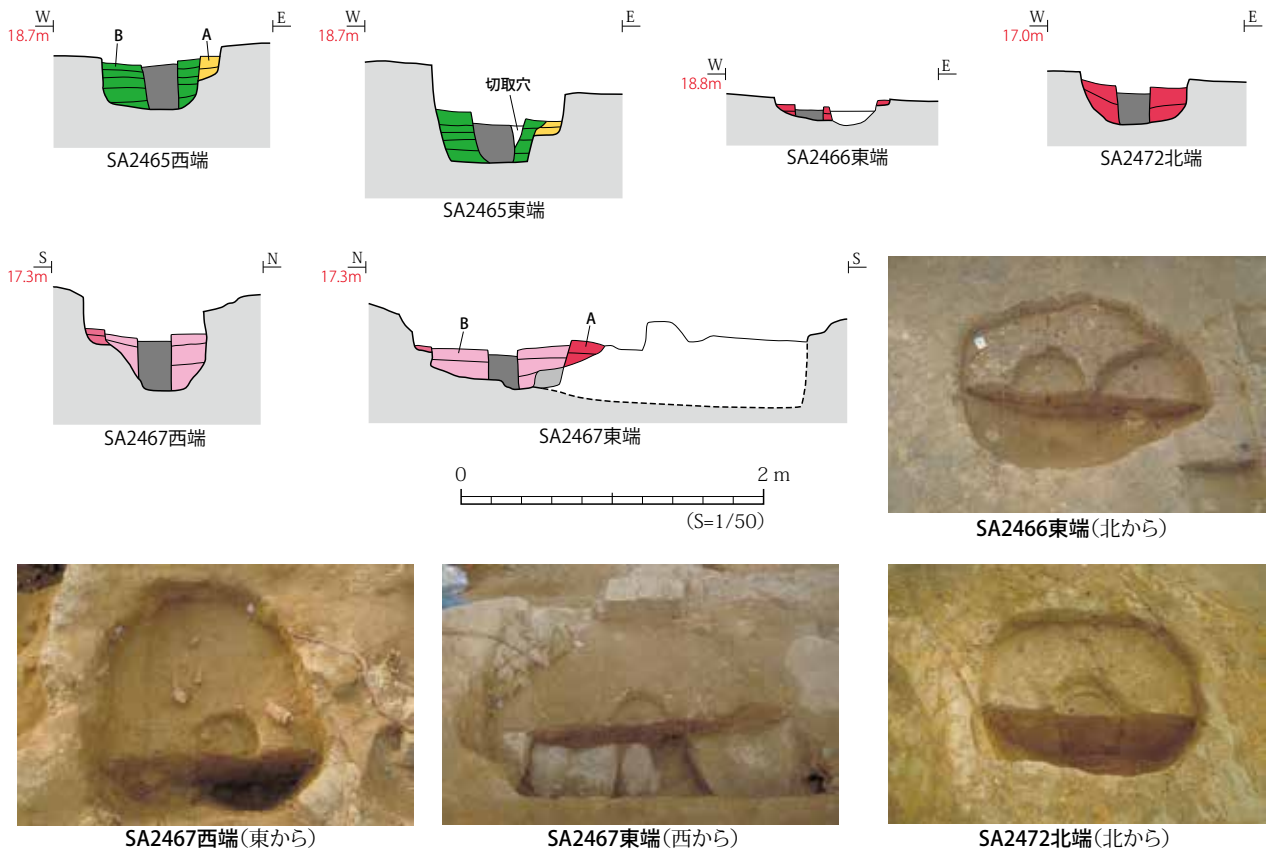
**構造・規模** 構造は前述の SA2461 と同様であり、検出した掘方の長さは約 11.1 m、幅が 1.5 ～ 1.8 m で、深さは北端で約 1.2 m である。横断面形は底面がほぼ平坦な逆台形状で、炭やブロック状の焼土・地山土を含むにぶい黄褐色や黄褐色（10YR4/3・5/6）のシルトで埋め戻されている。材木の痕跡は直径 27cm 前後の円形を呈す。堀の方向は、南北の基準線に概ね一致している。

**抜き取り溝** 抜き取り溝は断面形が U 字形や逆凸形を呈する溝で、深さは掘方の底面またはその付近まで達する。堆積土は上層と下層に大別され、地山土をブロック状に含む灰黄褐色（10YR5/2）のシルトやにぶい黄褐色（10YR5/4）の砂質シルトで大半が埋め戻されたうえで、粒状の地山土を含むにぶい黄褐色（10YR4/3）のシルトが堆積している。

**出土遺物** 遺物は、掘方から丸瓦、平瓦 I A・II B 類、須恵器甕、抜き取り溝から軒丸・軒平瓦、丸瓦 II B 類、平瓦 I A・I C・II B 類、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕・壺、緑釉陶器碗が出土している。抜き取り溝出土の軒丸・軒平瓦には重圏文 241（図版 29-7）、二重弧文 511、偏行唐草文 621（8）があり、丸瓦 II B 類には「伊」の刻印のあるものがある。土師器坏はロクロ整形で底部がヘラ切りのものがあり（6）、緑釉陶器では尾張産の陰刻花文碗がある（図版 127-1）。

【SA2465 柱列跡】（図版 16・30）

**検出状況** ほぼ中央に位置する SB2452 建物跡の南廂柱列に沿って約 3.0 m 南側を伸びる東西 6 間の柱列跡で、同位置で一度作り替えられている（A→B）。SI2477 と重複し、調査時にはそれより新しいとみだが、住居跡の堆積土・貼床が薄い状況で判断したため断定はできない。柱穴は A・B ともにすべて検出したが、A の柱穴は B に壊されており、柱痕跡は 1 カ所で検出したのみである。B では 7 カ所すべてで柱痕跡を確認し、そのうち 2 カ所で柱が切取られている。



図版 30 中央区の柱列 (SA2465 ~ 2467・2472)

## 《SA2465 A 柱列跡》

検出した柱穴がすべてBの柱穴にほぼ同位置で壊されており、規模や方向は概ねBと同様と推定される。柱穴の掘方は一辺0.5～1.0mの隅丸長方形で、深さは西端で約0.3mである。地山の礫片を含む褐色(7.5YR4/6)の砂で埋め戻されており、柱痕跡は褐色(7.5YR6/3)の砂で直径27cmの円形を呈す。なお、遺物は出土していない。

規模・柱穴

## 《SA2465 B 柱列跡》

B柱列の規模は柱痕跡から総長14.6m、柱間は西から2.5m・2.2m・2.4m・2.6m・2.4m・2.5mである。方向は東西の発掘基準線にほぼ一致する。柱穴は一辺0.5～0.7mの隅丸方形や隅丸長方形で、深さは西端で約0.4mである。地山土をブロック状に含む明褐色(7.5YR5/6)の砂で埋め戻されており、柱痕跡は褐色(7.5YR6/3)の砂で直径22cm前後の円形を呈す。

規模・柱穴

遺物は、柱穴の掘方から底部が回転ケズリ調整された須恵器環、切取り穴からロクロ整形の土師器環、須恵器環、柱痕跡から須恵器壺が少量出土している。

出土遺物

## 【SA2466 柱列跡】(図版16・30)

中央南側のSB2453建物跡の北廂柱列に沿って約1.7m北側を伸びる東西3間の柱列跡である。SI2477住居跡と重複し、調査時にはそれより新しいとみたが、住居跡の堆積土が薄い状況で判断したため断定できない。柱穴は4個検出し、西側の2カ所で柱痕跡を確認した。

検出状況

規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を推定すると、総長が約9.8m、柱間は西から約

規模・柱穴

2.7 m・約 4.1 m・3.0 mで中央間が広い。この点から、本柱列跡は中央に間を挟んで東西 2 個の柱穴による 2 条の柱列跡である可能性もある。方向は東西の基準線と概ね一致し、柱穴の掘方は一辺 0.5 m 前後の隅丸方形で、深さは西端で約 0.2 m である。埋土は地山の礫片を含む褐色 (7.5YR4/6) の砂である。柱痕跡は褐色 (7.5YR6/3) の砂で、直径 20cm 前後の円形を呈す。

出土遺物 遺物は、柱穴掘方から須恵器甕、柱痕跡から土師器坏が少量出土している。

**【SA2467 柱列跡】** (図版 16・30・31)

検出状況 南部の SB2460 建物跡の北側柱列に沿って約 1.5 m 北側を伸びる東西 3 間以上の柱列跡である。SB2460 と同じく攪乱によって東側の状況が不明だが、さらに東に伸びていた可能性がある。ほぼ同位置で一度作り替えられており (A→B)、その柱穴は SB2460、SK2497 土壙と重複し、それらより新しい。柱穴は A・B とともに 4 個検出し、A の柱穴は一部が B に壊されているが、2 カ所で柱痕跡を確認し、B では 3 カ所で確認している。

《SA2467 A 柱列跡》

規模・柱穴 柱穴が B の柱穴とほぼ同位置にあり、規模や方向は B と概ね同様と推定される。柱穴の掘方は、一辺 0.5～0.7 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは西端で約 0.4 m ある。地山土をブロック状に含む褐色シルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径 27cm 前後の円形を呈す。

出土遺物 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡB類、須恵器坏・蓋・甕・壺が少量出土している。須恵器坏には底部をヘラ切り後に回転ケズリ調整したものがある。

《SA2467 B 柱列跡》

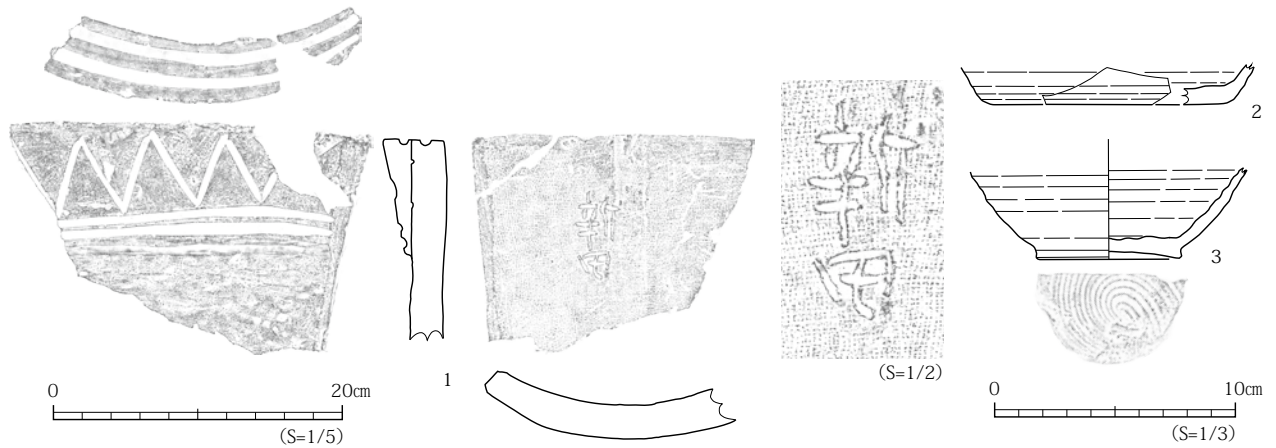
規模・柱穴 B 柱列の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が約 7.3 m 以上、柱間は西から 1.9 m・約 3.1 m・約 2.3 m である。方向は東西の基準線に対して東で南に 5° 振れている。柱穴の掘方は一辺 0.7～0.9 m の隅丸方形で、深さは西端で約 0.5 m である。地山の礫片を多く含むにぶい褐色 (7.5YR5/4) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は明褐色 (7.5YR5/8) の砂で、直径 24cm 前後の円形を呈す。

出土遺物 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺、柱痕跡から軒平瓦、丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅠC・ⅡBa類、土師器甕、須恵器甕が少量出土している。軒平瓦は二重弧文 511c で (図版 31-1)、凹面に焼成前に刻まれた「新田」のヘラ書きがある。土師器はすべて非ロクロ整形で、掘方出土の須恵器坏は底径が大きいものである (2)。

**【SA2472 柱列跡】** (図版 16・30)

検出状況 南部の SB2460 建物跡の西妻に沿って約 3.0 m 西側にある南北 2 間の柱列跡で、検出した北端・中央・南端 3 個の柱穴は、それぞれ SB2460 の北側・棟通り・南側柱列の西の延長上に位置する。柱痕跡は北端と中央の柱穴で確認した。なお、他の遺構との重複関係はない。

規模・柱穴 規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が約 6.3 m、柱間は北から 3.1 m・約 3.2 m である。方向は南北の基準線に対して北で東に 3° 振れている。柱穴の掘方は一辺 0.5～0.8 m の隅丸方形で、深さは北端で約 0.4 m である。地山の礫片を多く含む黄褐色 (10YR5/6) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡はにぶい褐色 (7.5YR5/4) のシルトで直径約 24cm の円形



単位：(cm)												
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法	量・特徴	写真図版	登録	箱番号		
1	SA2467 柱痕跡	69	軒平瓦	瓦当1/2	二重弧文511c	平瓦厚2.7	凹面：ヘラ書「新田」		SB2467-R4	B12874		
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特	徴	写真図版	登録	箱番号
2	SA2467 掘方	69	須恵器・坏	破片	—	9.8	—	底：ヘラ切→軽いナデ		SA2467-R4	B12869	
3	SA2525 抜き穴	70	須恵器・坏	1/2	—	6.0	—	底：回転糸切		SA2525-R5	B13019	

図版31 SA2467・2525柱列跡出土瓦・土器

を呈す。なお、本柱列跡で遺物は出土していない。

### 【SA2473 柱列跡】(図版 16)

中央南側のSB2454 B建物跡の東廂柱列に沿って3.0m前後東に位置する南北4間の柱列跡で、**検出状況** 同位置で一度作り替えられている(A→B)。他の遺構との重複関係はない。

柱穴はA・Bともに5個検出したが、Aの柱穴はBに大きく壊されている。柱痕跡は見つからず、遺物も出土していない。Bでは1カ所で柱痕跡、1カ所で上部が切り取られた柱痕跡、3カ所で柱の抜き穴または切り取り穴を確認した。なお、本柱列跡では断割り等による精査はしていない。

#### 《SA2473 A 柱列跡》

すべての柱穴がBの柱穴に同位置で壊されており、規模や方向はBとほぼ同様と推定される。**規模・柱穴** 柱穴は、一辺0.5m前後の隅丸長方形で、ブロック状の地山土を少し含む褐色(7.5YR4/4)の砂質シルトで埋め戻されている。

#### 《SA2473 B 柱列跡》

B柱列の規模は柱痕跡または抜・切り取り穴の中心に柱の位置を推定すると、総長約11.8m、**規模・柱穴** 柱間は北から約2.5m・約2.8m・約3.1m・約3.4mである。方向は南北の基準線に対して北で東に約4°振れている。柱穴は一辺0.7～1.3mの隅丸長方形で、焼土とブロック状の地山土を含むにぶい黄褐色や明黄褐色(7.5YR5/8・10YR5/4)の砂質シルトで埋め戻されている。柱痕跡は褐灰色(7.5YR5/1)のシルトで、直径24cm前後の円形を呈す。

遺物は、抜き穴から丸瓦Ⅱ類がごく少量出土している。

**出土遺物**

### 【SA2476 柱列跡】(図版 23)

北部のSB2523建物跡の約1.7m南側に位置する東西2間の柱列跡である。SA2525・2526・**検出状況**

2596 柱列跡と重複し、SA2525 より古い、他の柱列跡とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。柱穴は 3 個を検出したが、SA2525 の柱穴に大きく壊されており、柱痕跡は確認されなかった。なお、本柱列跡では断割り等の精査はしておらず、遺物も出土していない。

**規模・柱穴** 規模は、柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が約 8.7 m、柱間は西から約 4.0 m・約 4.7 m である。方向は東西の基準線とほぼ一致する。柱穴の掘方は一辺 0.7 ～ 0.9 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは東端で約 0.5 m である。ブロック状の地山土を含む褐色（10YR4/4）の砂質シルトで埋め戻されている。

**【SA2525 柱列跡】**（図版 23・31・32）

**検出状況** 北部の SB2524 建物跡の南廂柱列に沿って約 1.8 m 南側に位置する東西 7 間とみられる柱列跡である。SA2476・2526・2596 柱列跡と重複し、SA2476・2596 より新しく、SA2526 より古い。柱穴は東端から 1 間西以外の 7 個を検出し、3 ヲ所で柱痕跡、1 ヲ所（東端）で切り取られた柱痕跡、2 ヲ所で柱の抜き取り穴を確認している。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡または柱の抜き取り穴や柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が約 15.2 m、柱間は西から約 2.4 m・2.5 m・約 2.4 m・約 2.1 m・約 2.4 m・約 3.5 m（2 間分）である。方向は東西の基準線に対して東で南に 6°振れている。

柱穴の掘方は一辺 0.6 ～ 1.1 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは東端から 3 間目の柱穴で約 0.5 m である。ブロック状の地山土と少量の炭粒を含む褐色（10YR4/4）のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は灰黄褐色シルトで直径 27cm 前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から緑釉陶器碗、柱の切り取り・抜き取り穴から丸瓦、平瓦Ⅱ B 類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕、柱痕跡から丸瓦、平瓦Ⅱ B a・Ⅱ B b・Ⅱ C 類、土師器杯・甕、須恵器杯が出土している。土師器はいずれもロクロ整形のものである。また、土師器杯と須恵器杯（図版 31-3）の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占める。

**【SA2526 柱列跡】**（図版 23・32）

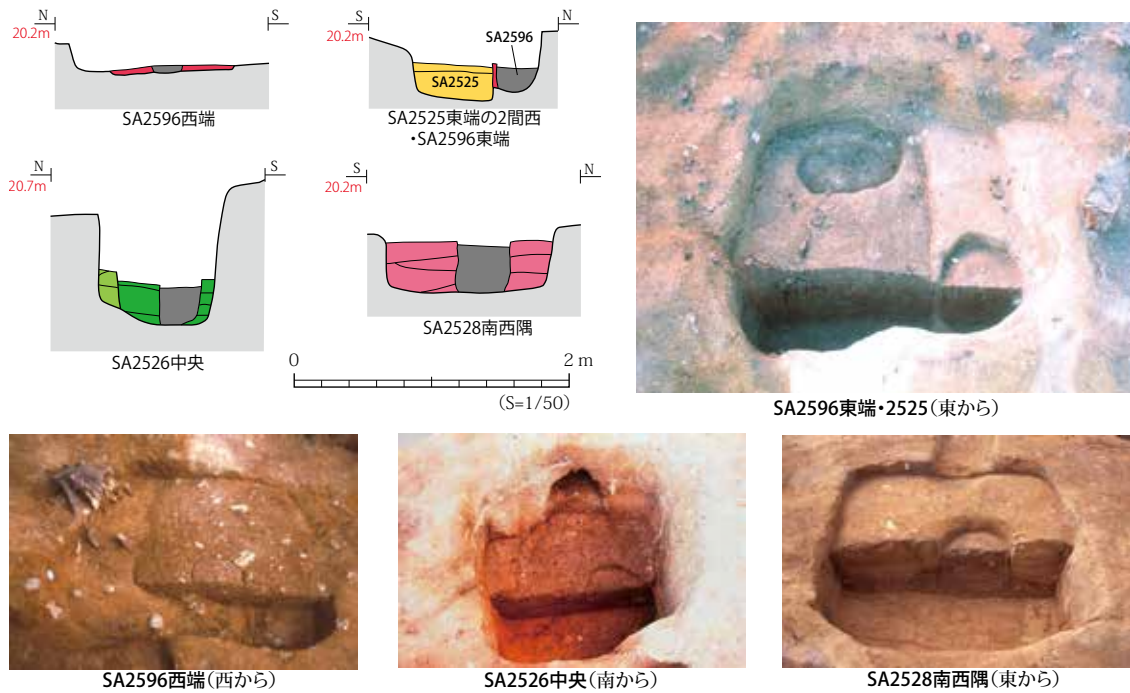
**検出状況** 北部の概ね E51・S188 から南に伸びる南北 2 間の柱列跡である。同位置で一度作り替えられており（A→B）、SA2525・2596 柱列より新しい。柱穴は A・B ともに 3 個検出したが、A の柱穴は B に大きく壊されている。柱痕跡は北端で確認したのみで、遺物もしていない。B では 3 個すべてで柱痕跡を確認した。

**《SA2526 A 柱列跡》**

**規模・柱穴** 柱穴が B の柱穴に同位置で壊されており、規模や方向は B とほぼ同様と推定される。柱穴の掘方は一辺 0.5 ～ 0.8 m の隅丸長方形で、北から 1 間目の柱穴で約 0.9 m である。ブロック状の地山土を多く含む褐灰色（7.5YR4/1）のシルトやにぶい黄褐色（10YR4/3）の砂質シルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径 20cm の円形を呈す。

**《SA2526 B 柱列跡》**

**規模・柱穴** B 柱列の規模は、柱痕跡から総長が 5.1 m、柱間は北から 2.8 m・2.3 m である。方向は南北の基準線とほぼ一致する。柱穴の掘方は一辺 0.7 ～ 1.0 m の隅丸長方形で、深さは北から 1



図版 32 中央区の柱列跡 (SA2525・2526・2528・2596)

間目の柱穴で約 1.0 m ある。ブロック状の地山土と焼土及び少量の炭粒を含む黒褐色や褐灰色 (7.5YR3/1・4/1) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は少量の炭粒を含む極暗褐色 (7.5YR2/3) のシルトで直径 26cm 前後の円形を呈す。

遺物は、柱痕跡から丸瓦、平瓦Ⅱ B a 類、土師器環、須恵器環・壺、須恵系土器環が少量出土している。 出土遺物

### 【SA2527 柱列跡】 (図版 23)

中央北側の E47・S198 付近から南に 3 間、その南端から西に 2 間ほど伸びる柱列跡である。 検出状況  
北端と西端の柱穴はみつからないが、検出した 4 個の柱穴が、後述する約 5.2 m 東側を L 字状に伸びる SA2528 柱列跡の北・東端以外の柱穴と東西対称の位置にあり、本来は同規模の南北 3 間、東西 2 間の柱列跡であったと推定される。SI2540 住居跡と重複し、それより古い。

4 個の柱穴のうち、柱痕跡は南から 1 間目以外の 3 ヲ所で確認した。南から 1 間目の柱は抜き取られている。なお、本柱列跡では断割り等による精査はしておらず、遺物も出土していない。

規模は、柱痕跡もしくは柱の抜き取り穴の中心に柱の位置を推定すると、南北の総長が約 4.4 m 規模・柱穴  
以上、柱間は南から約 2.1 m・約 2.3 m、東西の総長が約 1.9 m 以上である。方向は南北の柱列で基準線とほぼ一致する。柱穴の掘方は一辺 0.7 ~ 1.1 m の隅丸方形や隅丸長方形で、砂質シルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径 30 ~ 40cm の円形を呈す。

### 【SA2528 柱列跡】 (図版 23 ~ 26・32)

中央北側の概ね E57・S198 から L 字状に南に 3 間、その南端から東に 2 間ほど伸びる柱列 検出状況  
跡である。SA2529 柱列跡、SB2503 ~ 2507 建物跡と重複し、SB2503 ~ 2507 より古いが、SA2529 とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。柱穴は 6 個を検出し、北端と東端

以外の4カ所で柱痕跡を確認した。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を推定すると、南北の総長が約6.1m、柱間は北から約2.1m・2.0m・2.0m、東西の総長が約4.0m、柱間は西から2.1m・約1.9mである。方向は南北の柱列で基準線とほぼ一致する。

柱穴は一辺1.0～1.4mの隅丸方形で、深さは南西隅柱穴で約0.5mである。ブロック状の地山土を多く含む灰黄褐色やにぶい黄褐色、黄褐色(10YR4/2・5/4・6/6)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は炭粒を含む黒褐色(10YR3/1)のシルトで、直径36cm前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱痕跡から土師器甕がごく少量出土している。

#### 【SA2529 柱列跡】(図版23)

**検出状況** 中央北側の概ねE62・S202から西に伸びる東西3間の柱列跡である。SA2528柱列跡、SB2503～2507建物跡と重複し、SB2504より古い。他は直接的な重なりがなく、新旧は不明である。柱穴は4個検出したが、攪乱等に壊されており、柱痕跡は東端で確認したのみである。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を推定すると、総長が約9.3m、柱間は西から約2.7m・約3.8m・約2.8mである。方向は東西の基準線とほぼ一致している。柱穴の掘方は一辺0.7～1.2mの隅丸長方形で、深さは西端で約0.4mある。ブロック状の地山土を多く含む明黄褐色(10YR6/8)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径14cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴の掘方から平瓦ⅡB類が少量出土している。

#### 【SA2596 柱列跡】(図版23・32)

**検出状況** 北部のSB2523建物跡の南側柱列に沿って約1.8m南側を伸びる東西3間の柱列跡である。SA2525・2526柱列跡と重複し、それらより古い。柱穴は4個検出したが、西端以外はSA2525・2526に大きく壊されている。柱痕跡は東西両端の柱穴で確認した。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡もしくは柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が14.8m、柱間は西から約5.1m・約4.9m・約4.8mである。方向は東西の基準線とほぼ一致している。

柱穴の掘方は一辺0.8～1.1mの隅丸方形で、深さは東端で約0.5mである。ブロック状の地山土を多く含む褐色(10YR4/4)の砂質シルトで埋め戻されており、柱痕跡は褐色(7.5YR4/3)のシルトで、直径約22cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から底部を回転ケズリ調整した土師器坏が出土している。

#### 【SA2597 柱列跡】(図版23)

**検出状況** 北部の概ねE45・S170から南に伸びる南北2間の柱列跡で、柱穴を3個検出し、すべてで柱痕跡を確認した。他の遺構との重複関係はない。また、本柱列跡では断割り等による精査はしておらず、遺物も出土していない。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡から総長が4.5m、柱間は北から2.3m・2.2mである。方向は南北の基準線に対して北で4°東に振れている。柱穴の掘方は一辺0.5～0.9mの隅丸方形や隅丸長方形で、地山土主体の褐色シルトで埋め戻されている。柱痕跡は橙色のシルトで、直径23cm前後の円形

を呈す。

**【SA2598 柱列跡】**（図版 23）

北部の概ね E46・S170 から北に伸びる柱列跡である。検出したのは南端から 1 間北までで、検 出 状 況  
その先は調査区外のため不明である。他の遺構との重複関係はないが、同位置で一度作り替え  
られている（A→B）。柱穴は A・B とも 2 個検出したが、A は B の柱穴に壊されており、柱痕  
跡は確認されていない。B では 2 つとも柱痕跡を確認し、北側の柱は切り取られている。なお、  
本柱列跡では精査はしておらず、遺物も出土していない。

《SA2598 A 柱列跡》

柱穴が B の柱穴にほぼ同位置で壊されており、規模や方向は B とほぼ同様と推定される。柱穴規 模 ・ 柱 穴  
の掘方は、一辺 0.8 m 前後の隅丸方形で、地山土主体の黄褐色や明褐色（10YR5/6・6/6）で埋  
め戻されている。

《SA2598 B 柱列跡》

B 柱列の規模は、柱痕跡から 1.5 m 以上である。方向は南北の基準線とほぼ一致している。ま規 模 ・ 柱 穴  
た、本柱列跡は約 9.0 m 南の SB2523 建物跡の西妻柱列と柱筋がほぼ揃う。柱穴の掘方は一辺 0.5  
～ 1.0 m の隅丸方形や隅丸長方形で、地山土主体の黄褐色シルトで埋め戻されている。柱痕跡は  
褐色（10YR4/4）のシルトで、直径 40cm 前後の円形を呈す。

**【SA2599 柱列跡】**（図版 23）

北部の SB2524 建物跡の北側柱列に沿って約 7.5 m 北に位置する東西 6 間とみられる柱列跡検 出 状 況  
である。SD2651 溝と重複しており、それより新しい。柱穴は西端から 2・3 間東以外の 5 個を  
検出し、東端で柱の抜き取り穴を確認している。なお、本柱列跡は削平などによって残存が良く  
ないとみられたため、断割り等による精査はしておらず、遺物も出土していない。

規模は、柱穴や柱の抜き取り穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が約 15.0 m、柱間は西規 模 ・ 柱 穴  
から約 2.8 m・約 7.2 m（3 間分）・約 2.5 m・約 2.5 m である。方向は東西の基準線に対して  
東で南に約 4° 振れている。柱穴の掘方は一辺 0.6～1.0 m の隅丸方形で、深さは東端の柱穴が  
約 0.1 m で検出面からの底面となっている。埋土はブロック状の地山土を含む明赤褐色や褐色  
（5YR5/6・7.5YR4/6）のシルトである。

**【SA2645 柱列跡】**（図版 23・141）

北部の概ね E56・S171 から南に伸びる南北 2 間の柱列跡で、3 個の柱穴を検出した。そのう検 出 状 況  
ち南北両端の柱は抜き取られており、中央の柱は切り取られている。他の遺構との重複関係はな  
い。なお、本柱列跡では断割り等による精査はしていない。

規模は、柱痕跡と抜き取り穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が約 3.5 m、柱間は北から約規 模 ・ 柱 穴  
1.8 m・約 1.7 m である。方向は南北の基準線に対して北で約 5° 東に振れている。

柱穴の掘方は一辺 0.6～0.7 m の隅丸方形や隅丸長方形で、地山土主体のにぶい黄褐色や黄褐  
色（10YR4/3・5/6）のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は黒褐色（10YR2/2）のシルトで、



直径約 20cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡB類、土師器坏・甕、切取り・抜取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡBa・ⅡBb類、土師器甕、須恵器坏・蓋・甕・壺、須恵系土器坏のほか、南端の抜取り穴で鉄製の錠前（図版 141-7）が出土している。

### iii. 竪穴住居跡

#### 【SI477 竪穴住居跡】（図版 16・33）

**検出状況** 中央の概ね E55・S226 を中心とする平面形が東西に長い長方形の竪穴住居跡である。南西部は攪乱と削平で失われている。SA2465 柱列跡、SB2450・2452 建物跡と重複し、調査時にはそれらより古いとみたが、住居跡の堆積土・貼床が薄い状況で判断したため断定はできない。

**規模・床** 規模は東西が約 5.4 m、南北が約 4.7 m で、方向は北辺で東西の発掘基準線にほぼ一致する。床面は平坦で、地山土をブロック状に含む褐色（7.5YR4/4）のシルトでほぼ全面が貼床されている。貼床の厚さは 4～5cm である。壁はほぼ直立し、高さは残りの良いところで約 5cm である。粒状の地山土と炭を黒褐色（7.5YR2/2）のシルトで埋没している。

**施設** 住居内の施設には主柱穴、カマド、周溝がある。主柱穴は 4 個あり、対角線上に位置する。掘方は長軸または長辺が 0.3～0.5 m の楕円形や隅丸長方形で、深さは北東の主柱穴で 0.3 m、南西の主柱穴で約 0.2 m ある。地山の礫片を含む明褐色（7.5YR5/6）の砂で埋め戻されており、柱痕跡は明褐色（7.5YR5/8）の砂で、直径 24cm 前後の円形を呈す。

カマドは東辺の南寄りにあり、燃烧部の焼面と周溝が途切れた箇所から住居外に伸びる煙道を検出した。側壁は残っていない。煙道は先端が削平されており、長さ約 60cm、幅約 25cm、深さが約 5cm 残存する。周溝は南西部が削平のため残存しないが、カマド部分を除いてほぼ全周するとみられる。幅約 20cm、深さ 5cm 程の横断面形が U 字状の溝で、粒状の地山土を少し含む灰褐色（7.5YR4/2）のシルトが堆積している。

**出土遺物** 遺物は、貼床から「占」B の刻印がある丸瓦ⅡB類、床面から平瓦ⅡBa類、須恵器蓋、住居内の堆積土から平瓦ⅡBa類、須恵器甕がごく少量出土している。

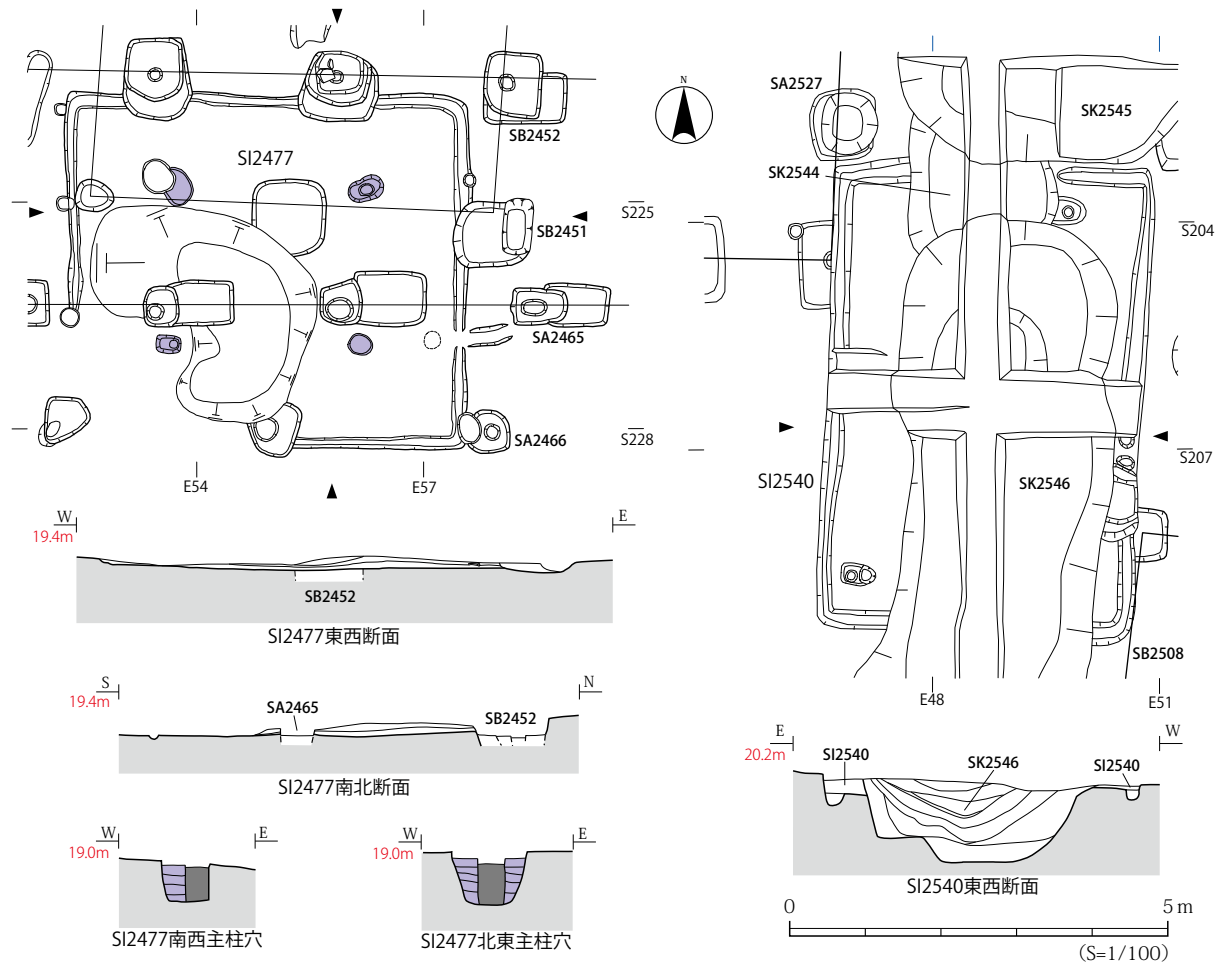
#### 【SI2540 竪穴住居跡】（図版 16・33）

**検出状況** 中央北側の概ね E49・S206 を中心とする平面形が南北に長い長方形の竪穴住居跡である。SA2527 柱列跡、SB2508 建物跡、SK2544・2546 土壙と重複し、住居跡の中央部は SK2544・2546 で南北方向に大きく壊されている。SA2527、SB2508 より新しく、SK2544・2546 より古い。

**規模・床** 規模は東西約 4.2 m、南北約 6.3 m で、方向は西辺で南北の基準線に対して約 3° 東に振れている。床面は地山で、ほぼ平坦である。壁は直立して立ち上がり、高さは残りの良い西辺で約 25cm ある。地山の礫片を多く含むにぶい褐色（7.5YR5/3）砂で埋没している。

**施設** 住居内の施設にはカマド、周溝、柱穴がある。カマドは東辺の南寄りにあり、側壁と燃烧部を検出した。側壁は黄灰色の粘土で構築されており、高さ 10cm 程が残存する。燃烧部は東側が削平されているが、幅約 50cm、奥行きが約 30cm の広さで、底面には焼面が形成されており、焼土をブロック状に含む明赤褐色土や明褐色土からなるカマド崩落土に覆われていた。

周溝はカマド部分を除いてほぼ全周するとみられる。幅が約 15cm、深さが 15cm程の横断面形がU字状の溝で、地山の礫片を多く含む明褐色（7.5YR5/6）の砂で埋没している。柱穴は北東部と南西部で各 1 個検出した。掘方は一辺が 0.2 ～ 0.3 mの隅丸長方形で、ともに直径 15cm前後の円形の柱痕跡を確認している。



SI2477(南から)

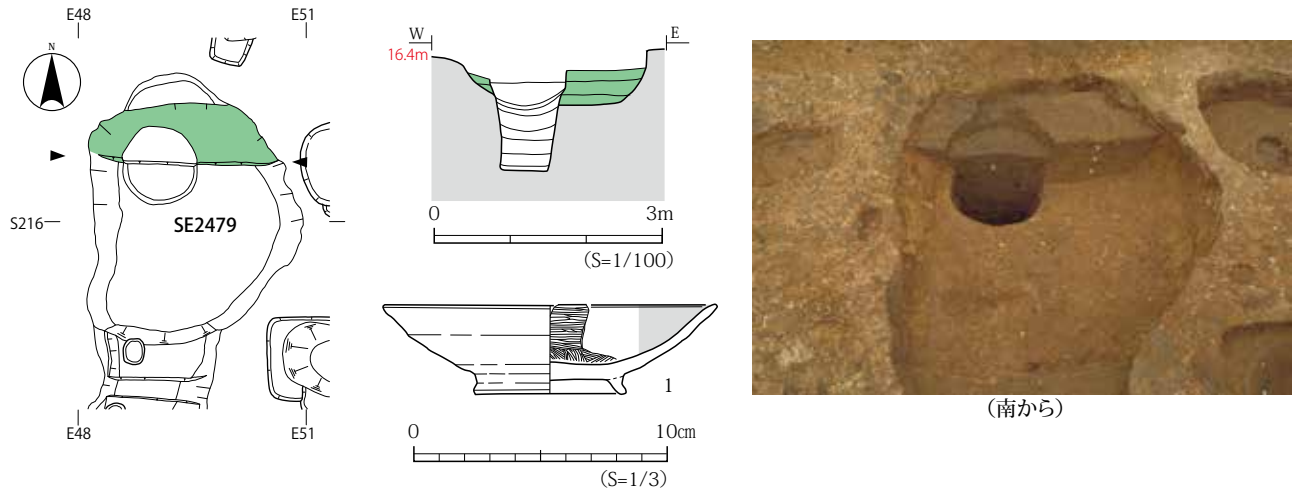


SI2477北東支柱穴(南から)



SI2477南西支柱穴(南から)

図版33 SI2477・2540住居跡



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SE2479 掘方	69	土師器・高台坏	1/3	(13.2)	5.8	3.5	内：放射状ミガキ		SE2479-R1	B12870

図版34 SE2479井戸

**出土遺物** 遺物は、周溝から丸瓦、平瓦ⅡB a類、土師器坏、柱穴から平瓦ⅡB a類、カマドの崩落土から丸瓦、土師器坏、須恵器甕が少量出土している。

#### iv. 井戸

##### 【SE2479井戸】(図版16・34)

**検出状況** 中央のE49・S215に位置する。掘方に井筒状の井戸側を据えた井戸とみられるが、井戸側は抜取られている。SB2450建物跡、SA2461材木堀跡と重複し、SA2461より新しい。SB2450とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

**構造・規模** 掘方は長方形を基調とする南北約3.2m、東西約2.8mの不整形で、深さは約0.7mある。底面はほぼ平坦だが、井戸側の抜取り穴の位置からみて、北西隅をさらに0.9mほど深く掘り下げて井戸側を据えたとみられる。埋土は地山の礫片を多く含む褐色や明褐色(10YR4/6、7.5YR4/4・5/6)の砂で、井戸側は直径1.0m以下の筒状のものと推定される。

**堆積土** 抜取り穴の堆積土は細分されるが、基本的には灰褐色(7.5YR4/2)の砂ブロックを含む褐色(7.5YR5/6)の砂で埋め戻されている。最下層はグライ化により緑灰色を呈す。

**出土遺物** 遺物は、掘方から平瓦ⅠB・ⅡB類、土師器高台坏(図版34-1)、須恵器坏・壺が少量出土している。

#### v. 溝

##### 【SD2621溝】(図版23)

**検出状況** 北部の概ねE46・S175から南で検出した南北溝である。SB2523建物跡より新しい。

**規模・堆積土** 検出した長さは約4.1mで、上幅は0.4～0.8mである。深さは約0.5mで、横断面形はV字形を呈す。堆積土は灰黄褐色シルトで自然堆積土である。方向は南北の発掘基準線とほぼ一致している。

**出土遺物** 遺物は、堆積土から丸瓦ⅡB類、須恵器甕、須恵系土器坏がごく少量出土している。

**【SD2651 溝】** (図版 23)

北部の概ね E64・S169 から東で検出した東西溝である。SA2599 柱列跡より古い。 検 出 状 況  
 検出した長さは約 11.0 m で、上幅は 0.4 ～ 1.2 m である。深さ約 0.1 m で、横断面形は皿状 規 模 ・ 堆 積 土  
 を呈す。堆積土は暗赤褐色 (5YR3/6) のシルトである。方向は東西の基準線に対して東で南に  
 約 8° 振れている。なお、本溝で遺物は出土していない。

**【SD3258 溝】** (図版 16・23)

中央西側の概ね E43・S202 から南で検出した南北溝で、E41・S243 付近まで検出した。北・ 検 出 状 況  
 南端とも先細りになっており、その先は各々削られて失われているとみられる。SB2457 建物跡  
 より新しい。

検出した長さは約 40.3 m で、上幅は 2.0 ～ 2.5 m 前後の場所が多く、最大では 3.7 m ある。 規 模 ・ 堆 積 土  
 深さは最大 0.7 m で、横断面形は U 字形を呈す。堆積土は褐色シルトで自然堆積土である。方向は、  
 やや緩やかに蛇行する箇所もあるが、南北の発掘基準線に対し北で 2 ～ 3° 東に振れている。なお、  
 本溝は 7.0 m 前後西にある SD3259 溝や溝状の SK2495 土壌と概ね平行に伸びており、それら  
 との間は遺構がない空地地となっている。

遺物は、堆積土から二重弧文 511a と単弧文 640a の軒平瓦、丸瓦 II B・II B b 類、平瓦 II 出 土 遺 物  
 B a・II C 類、須恵系土器坏・高台坏、灰釉陶器碗が出土している。丸瓦 II B 類には「田」A の  
 刻印や「十」のヘラ書き、平瓦 II B a 類には「物」A の刻印があるものがある。

## vi. 土壌

**【SK2480 土壌】** (図版 16・35・128)

中央の E48・S224 付近に位置する楕円形の土壌である。SA2461 材木堀跡、SB2450 建物跡 検 出 状 況  
 と重複し、SA2461 より新しい。SB2450 とは直接的な重なりは確認できていないが、SB2450  
 の梁行が 2 間なら南棟柱を壊しており、本土壌が新しい。

規模は長軸約 1.4 m、短軸約 1.0 m、深さ約 0.4 m で、横断面形は椀状を呈す。堆積土は炭と 規 模 ・ 堆 積 土  
 ブロック状の地山土を多く含む褐灰色や灰黄褐色 (10YR4/1・4/2) のシルトで、自然堆積土で  
 ある。

遺物は、堆積土から平瓦 II B 類、土師器坏・高台坏、須恵器坏・甕・壺が少量出土したほか、 出 土 遺 物  
 灰釉陶器碗、文字のない漆紙と石器の剥片が各 1 点出土している。土師器坏はロクロ整形で、  
 底部が回転糸切り無調整のもの (図版 35-1) と調整をするものがあり、後者がやや多い。内面  
 のミガキは横方向や井桁状のものが主体をしめる。灰釉陶器碗は尾張・東濃産のものである (図  
 版 128-17)。

**【SK2497 土壌】** (図版 16)

南部の概ね E53・S253 を中心とする南北に長い楕円形の土壌である。SA2467 柱列跡、 検 出 状 況  
 SB2460 建物跡と重複し、それらより新しい。

規模は長軸が約 3.4 m、短軸が約 2.3 m で、深さは約 0.2 m である、堆積土は鉄滓を多く含む 規 模 ・ 堆 積 土

褐色シルトで、人為的に埋め戻されている。

出土遺物 遺物は、鉄滓が総量で 15.8kg 出土している。

**【SK2542 土壌】** (図版 23・35)

検出状況 中央北側の E49・S199 付近に位置する楕円形とみられる土壌で、SK2545 土壌を掘り下げた底面で南半部を確認した。SK2545 より古い。

規模・堆積土 規模は南北が 0.4 m 以上、東西が約 1.0 m である。深さは約 1.2 m で、横断面形は U 字形を呈す。堆積土は地山の礫片を多く含む褐色 (10YR4/6) で、人為的に埋戻されている。なお、遺物は出土していない。

**【SK2544 土壌】** (図版 23)

検出状況 中央北側の E49・S203 付近にあり、北側が SK2545 土壌、南側が SK2546 土壌に壊されているが、南北に長い土壌とみられる。SK2545・2546 より古い。

規模・堆積土 規模は南北 2.1 m 以上、東西約 2.0 m で、深さは約 0.5 m ある。堆積土は地山の礫片を多く含む褐色 (10YR4/6) で、人為的に埋戻されている。なお、遺物は出土していない。

**【SK2545 土壌】** (図版 23・35)

検出状況 中央北側の概ね E49・S201 を中心とする南北に長い楕円形の土壌である。SB2503 建物跡、SK2542～2544・2546 土壌と重複し、SK2542・2544 より新しく、SK2543・2546 より古い。

規模・堆積土 規模は長軸約 6.0 m、短軸 2.5～4.3 m である。深さは約 0.8 m で、横断面形は底面が平坦な椀状を呈す。堆積土は地山の礫片を多く含む褐色 (10YR4/4) の砂やにぶい黄褐色 (7.5YR4/4) のシルト質砂で、人為的に埋め戻されている。

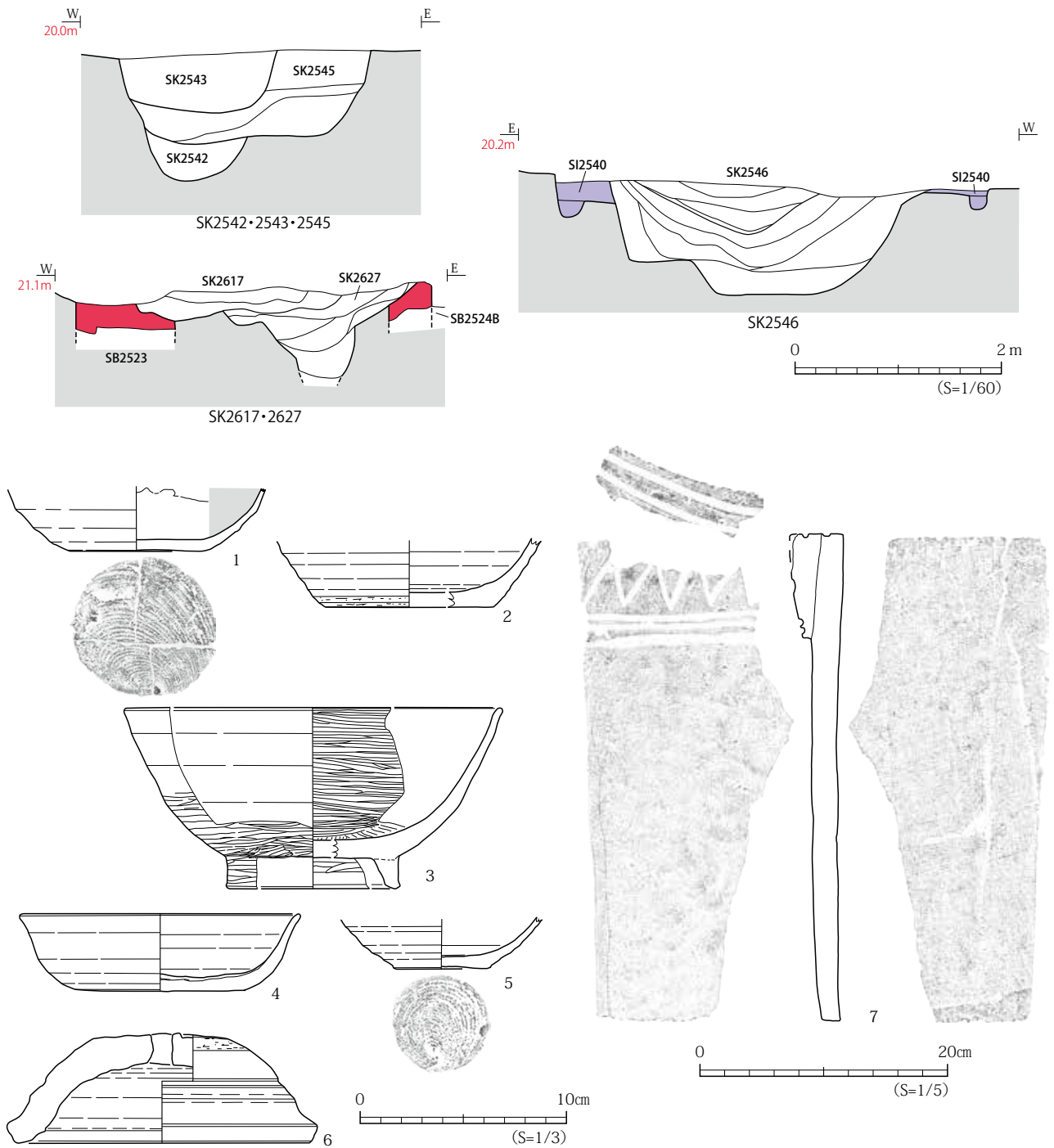
出土遺物 遺物は、埋土から丸瓦、平瓦Ⅱ B 類、土師器坏・甕・蓋、須恵器坏・高台坏・蓋・壺、緑釉陶器碗が少量出土しており、平瓦Ⅱ B 類には「丸」B の刻印があるものがある。土師器はいずれもロクロ整形のもので、坏には底部の切離し後に調整をするものと回転糸切り無調整のものがある。須恵器坏は底部切離し後に調整をするものと回転糸切り無調整、ヘラ切り無調整 (図版 35-2) のものがある。また、高台坏にはミガキ調整されたものがある (3)。

**【SK2546 土壌】** (図版 23・35・145)

検出状況 中央北側の概ね E49・S208 を中心とする南北に長い溝状の土壌である。SA2527 柱列跡、SI2540 住居跡、SK2544 土壌と重複し、それらより新しい。

規模・堆積土 規模は南北約 8.0 m、東西 3.0 m で、深さは約 1.1 m である。横断面形は底面が平坦で、西側に高さ 0.3 m 程の段がつく椀状を呈す。堆積土は大別して上・下に分けられ、下層は地山の礫片を多く含む褐色と明黄褐色 (10YR4/4・6/6) の砂で、人為的に埋め戻されている。上層は炭を含むにぶい黄褐色シルト (10YR6/4) の自然堆積土で、最上層にはブロック状の灰白色火山灰を含む。

出土遺物 遺物は、下層から軒丸瓦、丸・平瓦、土師器坏・甕、須恵器坏 (図版 35-4)・甕・壺、上層から丸・



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2480	69	土師器・坏	1/5	—	6.6	—	底：回転糸切 内：摩擦		SK2480-R2	B12870
2	SK2545	70	須恵器・坏	2/5	—	(8.2)	—	底～体下部：回転ケズリ		SK2545-R1	B13020
3	SK2545	70	須恵器・高台坏	3/5	(18.4)	(8.4)	8.8	底：ヘラ切？ 内外：ロクロナデ→ミガキ 底内：漆付着		SK2545-R5	B13020
4	SK2546 下層	70	須恵器・坏	3/5	(13.6)	8.2	3.8	底：ヘラ切→軽いナデ		SK2546-R2	B12869
5	SK2546 下層	70	須恵系土器・坏	破片	—	4.6	—	底：回転糸切		SK2546-R13	B12869
6	SK2565	70	須恵器	1/2	(14.2)	—	5.3	外：ロクロナデ→回転ケズリ。体部に沈線。内面から穿孔。(直径)		SK2565-R1	B13024

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
7	SK2627	71	軒平瓦	1/3	二重弧文511b	長さ39.3 平瓦厚2.2		SK2627-R1	B13166

図版35 中央区の土壌断面図と出土土器・瓦 (SK2480・2545・2546・2565・2627)

平瓦、土師器坏・高台坏・耳皿・甕、須恵器坏・蓋・盤・甕・壺、須恵系土器坏（5）・高台坏、緑釉陶器碗、土錘（図版 145-2）、轆の羽口（3）が出土している。

下層出土軒丸瓦の型番は不明だが、第Ⅱ期以前の重弁蓮花文で、平瓦には「伊」の刻印のあるⅡ B a 類、上層出土の丸瓦には「伊」の刻印があるⅡ B 類がある。土師器は下層・上層ともすべてロクロ整形のものである。

**【SK2547 土壌】**（図版 16）

**検出状況・規模** 中央の概ね E56・S212 を中心とする南北に長い溝状の土壌である。SA2531 柱列跡、SB2452・2508 建物跡と重複し、それらより新しい。規模は長軸約 8.0 m、短軸 2.0～2.6 m である。深さは約 0.8 m で、堆積土は黄褐色土である。

**出土遺物** 遺物は丸・平瓦、土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺が少量出土している。土師器はロクロ整形のもので、坏には底部が回転糸切り無調整のものがある。須恵器坏の底部には回転糸切り無調整とヘラ切り無調整のものがある。

**【SK2565 土壌】**（図版 23・35）

**検出状況・規模** 中央の概ね E64・S189 を中心とする楕円形の土壌である。SA2525 柱列跡と重複するが、直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。規模は長軸が約 1.2 m、短軸が約 1.0 m である。深さは約 0.4 m で、横断面形は U 字状を呈す。

**出土遺物** 遺物は、用途不明の須恵器が出土している（図版 35-6）。

**【SK2627 土壌】**（図版 23・35）

**検出状況** 北部の概ね E51・S179 を中心に位置する南北に長い溝状の土壌である。SB2523 建物跡、SK2617 土壌と重複し、SB2523 より新しく、SK2617 より古い。

**規模・堆積土** 規模は南北約 7.8 m、東西約 1.8 m で、深さは約 1.1 m である。横断面形は U 字状を呈す。堆積土は、焼土とブロック状の炭と地山土を含む暗褐色や黄褐色、明褐色（10YR3/4・5/6・6/8）の砂質シルトで、人為的に埋め戻されている。

**出土遺物** 遺物は、二重弧文 511b 軒平瓦（図版 35-7）、丸瓦Ⅱ B 類・平瓦Ⅰ A・Ⅰ C・Ⅱ B a 類、土師器坏・甕、須恵器坏が少量出土している。土師器は非ロクロ整形のもので、須恵器坏には底部をヘラ切り後に軽いナデ調整したものがある。

以上のほかに、中央区では表土から遺物が出土している。その中には注目されるものもあるが、それらについては東区・西区のものも含めて本章（4）および次章で述べる。

## (2) 東区

### 1) 層序 (図版 36)

東区では傾斜が急になりはじめる東側で地山の上に黒色の旧表土が認められ、その上に官衙の建物造営に伴う複数の整地層や官衙の機能時・廃絶後の堆積土が重なる。それらによる層序は大別して10層(東Ⅰ～Ⅹ層)に分けられる。そのうち、整地は最初に建物(北からSB2509・2510・2511)を構築した場所を中心に分布し(東Ⅲ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ層)、多くは堆積層を挟んで行われているが、最も古い東Ⅷ層は建物の構築場所ごとに平坦面を造成するために標高の高い北西側の旧表土と地山を削り出して標高の低い南東側に整地したものである。また、東Ⅴ層や東Ⅶ層の整地後に堆積した土の上面には焼面が認められる箇所がある。

東区の層序

以下、各層の特徴について記すが、整地層については調査時に場所ごとに遺構番号を付しており、本書でも必要に応じて( ) 付けて併記する。

【東Ⅰ層】 暗褐色(10YR3/3)の現代の耕作土である。厚さはS216ライン東端(E81)で約55cmである。

各層の特徴

【東Ⅱ層】 東区中央南側のSB2511建物跡付近を中心に分布する明黄褐色(10YR6/6)の砂や粘土による自然堆積層である。全体的に5cm前後の厚さで薄く堆積するが、最大では約20cmの厚さがある。

【東Ⅲ層】 東区中央北側のSB2510建物跡の西側を主体に分布する黄褐色シルト(10YR5/6)による整地層である(SX2555)。炭片と焼土、黄色粘土ブロックを多く含み、厚さは最大で30cmある。

【東Ⅳ層】 東区中央南側のSB2511建物跡周辺を中心に分布する黄褐色シルト(10YR5/6)の自然堆積層である。厚さは最大10cmで、上面に焼面がみられる箇所がある。なお、調査の当初、本層については東Ⅱ層とともにSK2483土壌として掘り下げている。

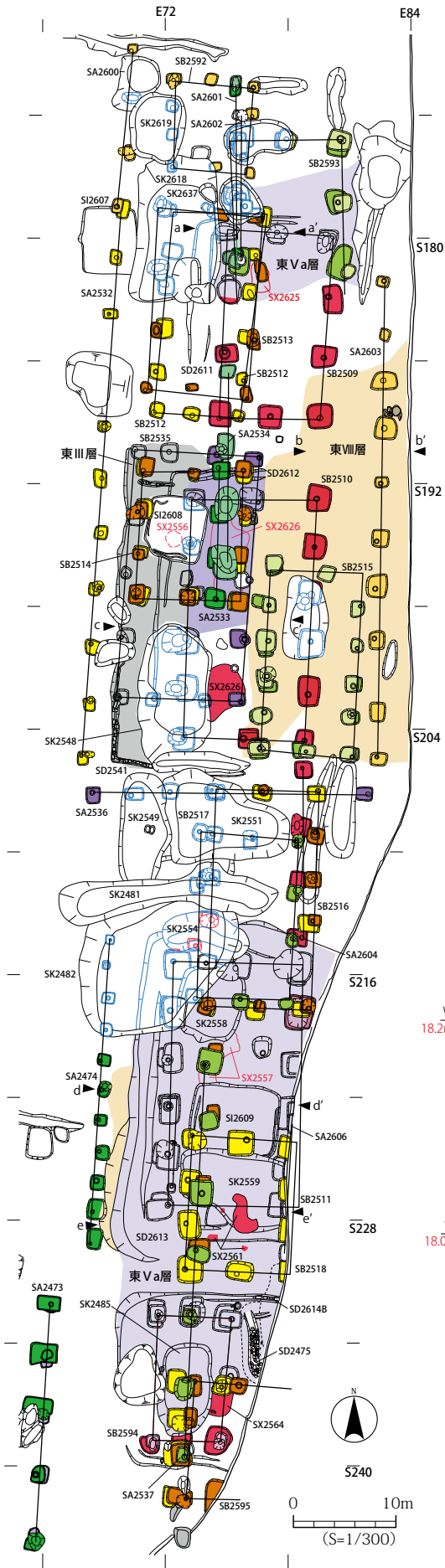
【東Ⅴ層】 北からSB2509・2510・2511建物跡がある場所を中心に分布する整地層で、多量の炭片と焼土ブロックを含んでSB2509・2511付近に広がる赤褐色(2.5YR4/8、5YR4/8)のシルトによるa層と(SX2628・2631)、地山の礫片を含み、SB2510付近に広がる褐色主体(7.5YR3/3・4/6・5/8)のシルト質砂によるb層(SX2632)がある。a層は調査区内では最大約45cm、b層は最大で約30cmの厚さがある。

【東Ⅵ層】 黄色粘土や明黄褐色砂質シルト(2.5Y8/8、10YR6/8)と明黄褐色・にぶい黄褐色砂(10YR6/8・5/3・4/3)とが互層をなす自然堆積層で、東区に広く分布する。東側ほど厚く堆積し、特にSB2509・2510・2511建物跡部分では最大で約45cmの厚さがある。また、上面には焼面が形成された箇所が多くみられる。

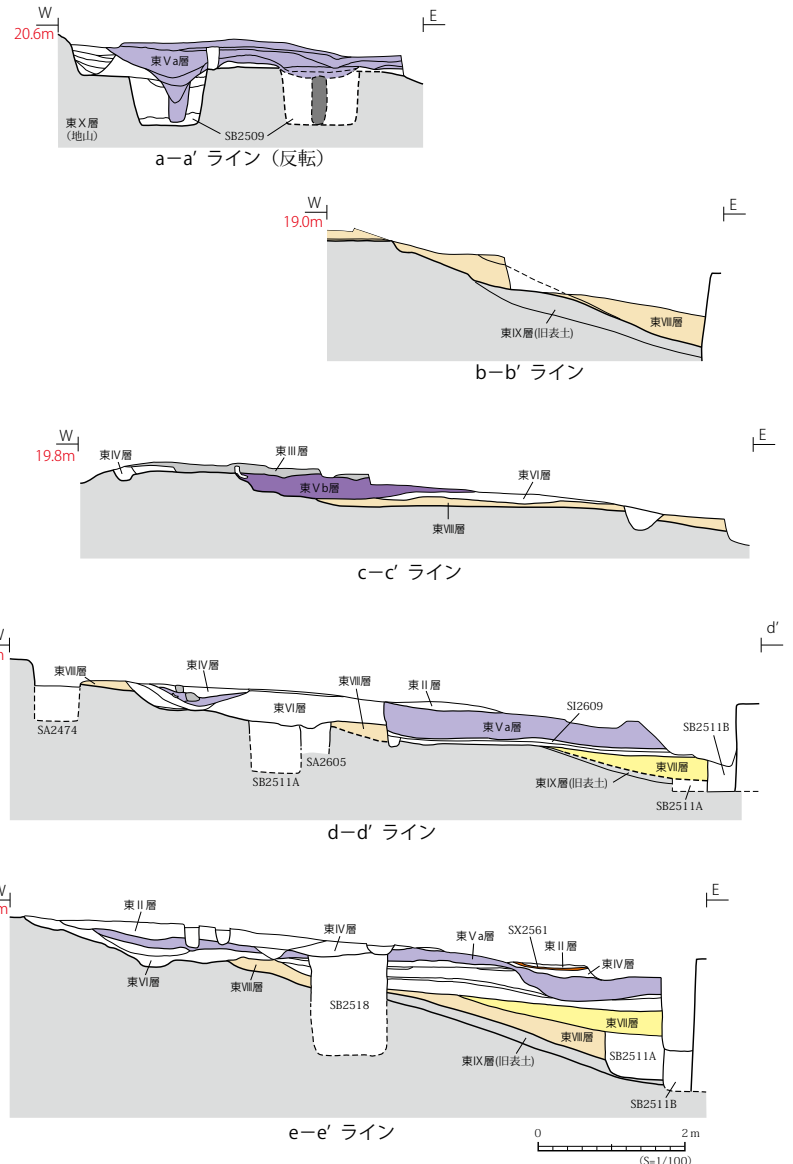
【東Ⅶ層】 礫を含むにぶい黄褐色や黒褐色(10YR4/3・2/3)の砂質シルトによる整地層で、東区中央のSB2510・2511建物跡から東側に分布する。上面は平坦で、厚さは東側ほど厚く、調査区東端では最大約35cmある。

【東Ⅷ層】 地山土と礫を多く含む明黄褐色シルト(10YR3/1)や黒褐色・暗褐色砂質シルト(10YR3/1、7.5 YR3/4)による整地層で、東区中央のSB2510・2511建物跡付近を中心に広く分布する(SX2629・2630)。東区西側の上面は比較的平坦だが、

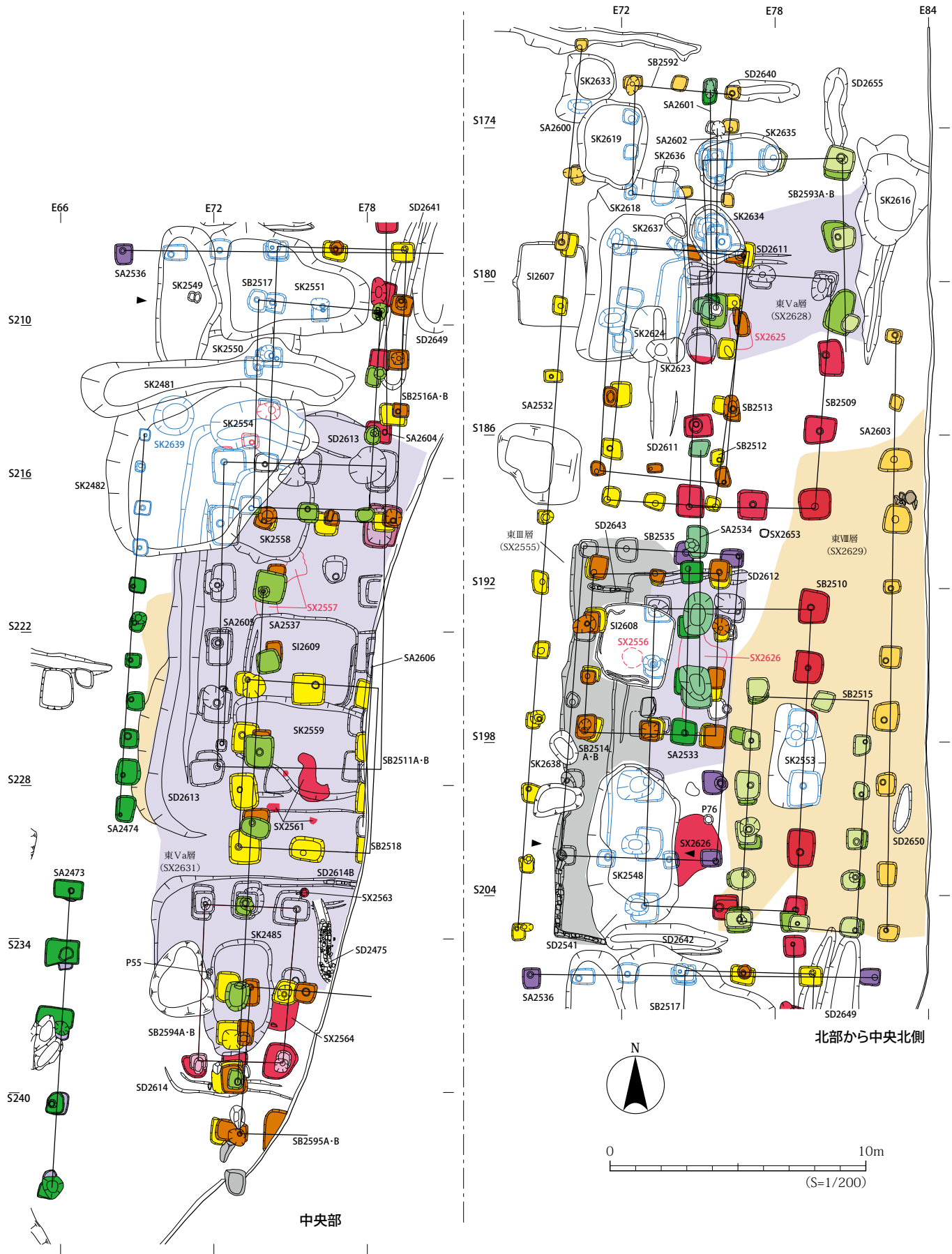




東区全景(西上空から)



図版36 東区の層序



図版 37 分割図 3 東区の遺構



東区の建物群(北から)



東区北半建物群(西上空から)



東区北半SB2509～2515建物(南から)

図版38 東区中央から北の建物群

東側では次第に東に向かって低く傾斜する。厚さは東側ほど厚く、調査区内では最大で約 40cmある。

【東Ⅸ層】 黒色シルト（10YR2/1）の旧表土で、東側の斜面に広く分布する。西側は官衙の造成時などの際に大部分が削平されている。厚さは 10～20cmである。

【東Ⅹ層】 明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルトから漸移的に明黄褐色（10YR6/6）の岩盤となる地山である。

## 2) 東区の遺構と遺物

掘立柱建物跡 15 棟、柱列跡 15 条、竪穴住居跡 3 棟、鍛冶遺構 1 基、焼面 6 ヲ所のほか、多数の溝、土壇などを検出した。ここでは建物跡と柱列跡を中心に主要な遺構について記し、それら以外については、ここで記載した遺構も含めて章末の第 9～13 表に特徴などを掲げた。

### i. 掘立柱建物跡

【SB2509 建物跡】（図版 37～39）

#### 検出状況

東区北部の E77・S184 を中心とする桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟で、地山の上面で検出した。地形が高い西側と北側を段状に地山岩盤まで削り出した平坦面に建てられており、段の下部には上からの流水を受ける SD2611 溝が布設されている。SB2512・2593 建物跡より古い。

柱穴は 10 個すべて検出した。柱痕跡は、柱が抜き取られた北西隅とその 1 間南以外の 8 ヲ所で確認し、そのうち 3 ヲ所の柱は切り取られている。また、柱の切・抜き取りは平坦面に堆積し

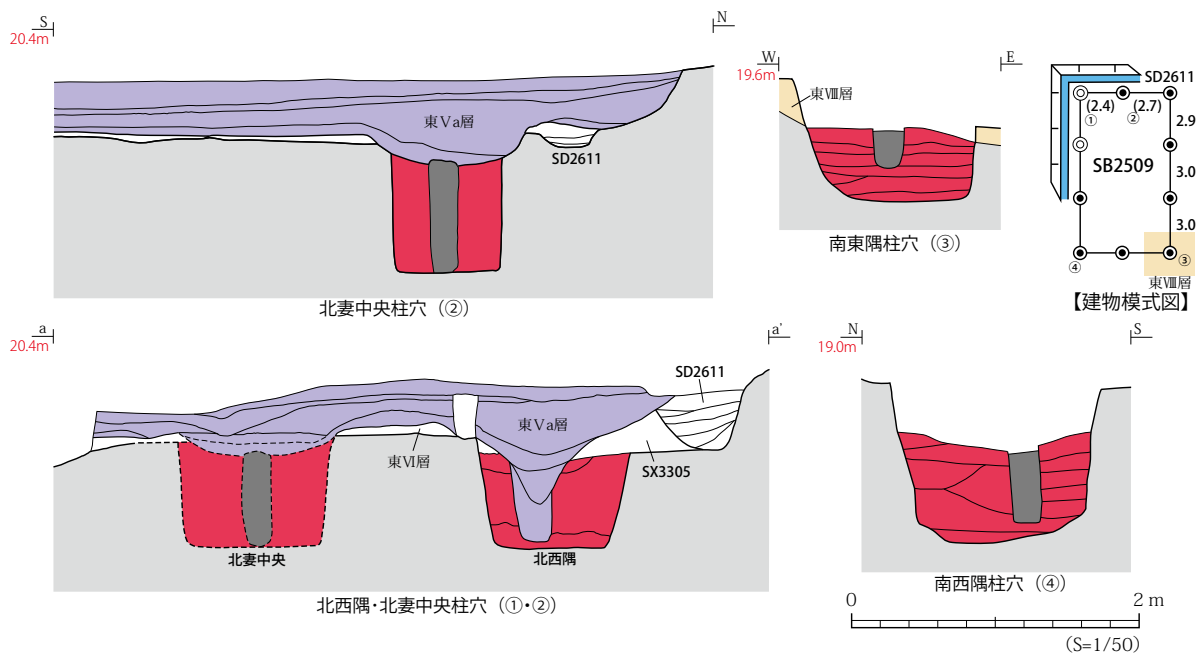
た東VI層を挟んで行われており、東VI層の上面の一部には焼面（SX2625）が形成されている。

その後、切・抜き穴は東V a層（SX2628 整地層）をはじめとする炭と焼土ブロックを含む赤褐色や明赤褐色、暗褐色（2.5YR4/8、5YR4/8・5/8、10YR3/4）のシルトで埋め戻されている。

建物の構築時には西・北側を段状に削り出すとともに、検出されなかったが、標高の低い東・南側には盛土整地をして平坦面を造成したと推定される<sup>(註1)</sup>。段は西側が上端で長さ約 8.0 m、北側が約 5.0 m認められ、高さは残りの良い北西隅で約 0.7 mある。

下部に布設されたSD2611 溝は、幅が西側で 0.6 m前後、北側で約 0.4 mあり、深さは 0.1 ~ 0.4 mである。横断面形はU字形で、北側では底面が東に低く傾斜する。堆積土にはぶい褐色（7.5YR5/4）の砂質シルトやにぶい黄褐色（10YR4/3）の砂などで、それらが縞状に自然堆積している。なお、北西隅付近では平坦面造成時の掘りすぎのため、建物の柱を一度立てた後に段の下部を盛土で嵩上げ（SX3305）して掘り込まれている。

建物は段上端から西・北側の柱筋が約 1.5 mの距離をおいて建つ。規模は、柱痕跡または柱抜き穴の中央に柱の位置を推定すると、桁行は東側柱列で総長 8.9 m、柱間は北から 2.9 m・3.0



建物内堆積状況（南から）



堆積状況細部（西から）



南西隅柱穴（④：北から）



南東隅柱穴（③：南から）



SB2625 焼面検出状況（東から）

m・3.0 mである。梁行は北妻で総長 5.1 m、柱間は東から約 2.7 m・約 2.4 mである。棟の方向は、東側柱列で南北の基準線に対して北で約 4°東に振れる。また、東側柱列は約 3.9 m南の SB2510 建物跡の東側柱列、北妻は約 14.4 m東の SB2523 建物跡の北妻と柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は一辺 1.2 ~ 1.3 mの隅丸方形や、長辺が 1.2 ~ 1.3 m、短辺が 0.9 ~ 1.0 mの隅丸長方形で、深さは南東隅の柱穴で約 0.8 m、南西隅の柱穴で約 1.3 mである。埋土は地山の礫片を多く含むにぶい褐色や褐色(7.5YR5/4・5/8)のシルトと赤褐色や暗褐色(5YR4/6、7.5YR3/4)のシルトとを交互に埋め戻している。柱痕跡は黒褐色や褐灰色、褐色(7.5YR3/2・4/1・4/6)のシルトで、直径 25 ~ 30cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦、柱の切・抜き穴からは玉縁に「常」のへら書きのある丸瓦Ⅱ B b 類のほか、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅰ A・Ⅰ C a・Ⅱ B a 類、土師器坏・甕、須恵器坏・壺・甕が少量出土している。土師器はいずれも非ロクロ整形のもので、須恵器坏は底部が回転糸切り無調整のものを含む。なお、他に SD2611 溝から須恵器坏がごく少量出土している。

### 【SB2510 建物跡】(図版 37・38・40)

**検出状況** 中央北側の概ね E76・S199 を中心に位置する桁行 5 間、梁行 2 間の南北棟で、地山および東Ⅷ層の上面で検出した。標高が高い西側と北側を段状に地山岩盤まで削り出し、低い東側には東Ⅷ層(SX2629)による盛土整地をして造成した平坦面に建てられている。SB2514・2515・2535 建物跡、SI2608 住居跡、SK2548・2553 土壌と重複し、それらより古い。また、平坦面の造成時に削り出した段の下部には、上からの流水をうける SD2612 溝が布設されている。

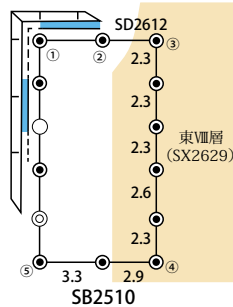
柱穴は 14 個検出し、6 ヲ所で柱痕跡、6 ヲ所で上部が切り取られた柱痕跡、1 ヲ所で柱の抜き穴または切り穴を確認した。柱は平坦面に堆積した東Ⅵ層を挟んで切・抜き取られており、東Ⅵ層上面の一部には焼面(SX2626)が形成されている。また、その後、切・抜き穴は東Ⅴ a 層(SX2632 整地層)による炭と焼土ブロックを含む赤褐色や明赤褐色、暗褐色(2.5YR4/8、5YR4/8・5/8、10YR3/4)のシルトで埋め戻されている。

**構築時の造成** 建物の構築時には西・北側を段状に削り出し、標高の低い東側には東Ⅷ層(SX2629)による盛土整地をして平坦面を造成している。段は西側が上端で長さ約 10.6 m、北側が約 4.6 m認められ、高さは残りの良い場所で約 0.3 mある。下部に布設された SD2612 溝は残存状況が良くないが、幅は西側が約 0.3 m、北側が約 0.5 mで、深さは 0.1 ~ 0.2 mある。横断面形はU字形で、北側では底面が東に低く傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色(10YR5/4)の砂質シルトや砂で、自然堆積土である。なお、北西隅と北妻中央付近では平坦面造成時の掘りすぎのため、建物の柱を一度立てた後に段の下部を盛土で嵩上げ(SX3306)して掘削している。

**規模・方向** 建物は段の上端から西・北側の柱筋が約 1.5 mの距離をおいて建つ。規模は、柱痕跡または抜き穴のほぼ中央に柱位置を推定すると、桁行は東側柱列で総長 11.8 m、柱間は北から 2.3 m・2.3 m・2.3 m・2.6 m・2.3 mである。梁行は北妻で総長 6.2 m、柱間は東から 2.9 m・3.3 mである。棟の方向は、東側柱列で南北の基準線に対して北で約 4°東に振れている。また、本建物跡の東・西側の柱列は、約 12.0 m南の SB2511 建物跡の東・西側柱列と柱筋が揃い、東側柱列については約 3.9 m北の SB2509 建物跡の東側柱列とも柱筋が揃う。

柱穴掘方は長辺 1.3～1.6 m、短辺 0.9～1.2 m の隅丸長方形や一辺 1.0～1.2 m の隅丸方形で、柱穴の深さは北東隅で約 1.0 m、南西隅で約 1.1 m である。埋土は明褐色 (7.5YR5/6) の砂質シルトや、地山の礫片を多く含む褐色と黄褐色 (10YR4/1・5/8) のシルトなどで交互に埋め戻している。柱痕跡は黒褐色 (10YR2/2) のシルトで、直径 20～40 cm の円形を呈す。

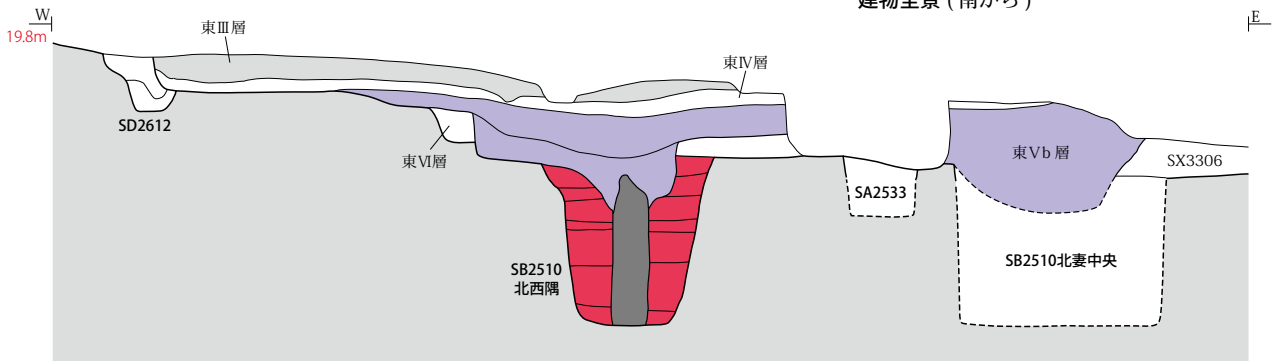
遺物は、柱穴掘方から平瓦Ⅱ B a 類、須恵器甕、柱の切・抜き取り穴から平瓦Ⅱ B a 類、土師器杯、出土遺物壁土がごく少量出土している。



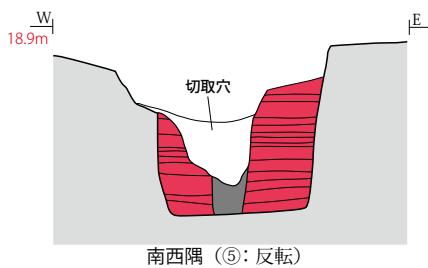
【建物模式図】



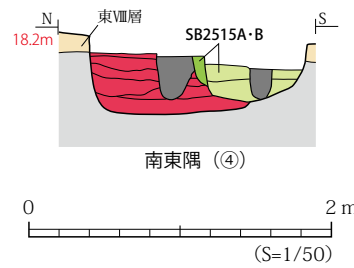
建物全景 (南から)



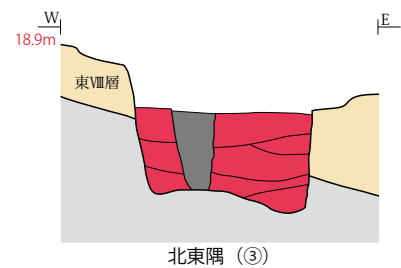
北妻東西 (①・②)



南西隅 (⑤: 反転)



南東隅 (④)



北東隅 (③)



南西隅 (⑤: 北から)



北西隅 (①: 南から)



北妻中央 (②: 南から)

図版40 SB2510建物跡



中央南側の建物群 (南上空から)



SB2511 から南の建物群 (北から)

図版41 東区中央南側の建物群

**【SB2511 建物跡】** (図版 37・41・42・141)

**検出状況** 中央の概ね E75・S221 を中心に位置する桁行 5 間、梁行 2 間の南北棟で、地山と東Ⅶ・Ⅷ層の上面で検出した。標高が高い西側を段状に岩盤まで削り出し、低い東側には東Ⅶ層 (SX2630) による盛土整地をした平坦面に建てられている。造成時に削り出した段の下部には前述の SB2509・2510 建物跡と同様に上からの流水を受ける SD2613 溝が布設されている。

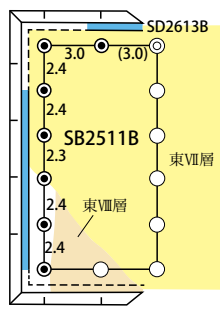
また、本建物跡は同位置で一度建替えられており (A→B)、その際には東Ⅶ層による盛土で平坦面を嵩上げし、SD2613 溝も改修している。SA2537・2605・2606 柱列跡、SB2516～2518 建物跡、SI2609 住居跡、SK2482・2554・2558・2559 土壇と重複し、SA2605 以外のすべてより古い。SA2605 とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

柱穴は、A では北妻中央以外の 13 個、B では 14 個すべてを検出したが、A は B の柱穴に大きく壊されており、柱痕跡は見つかっていない。B では西側柱列を中心に 3 カ所で柱痕跡、4 カ所で上部が切り取られた柱痕跡を確認し、他に 1 カ所 (北東隅) で柱の抜取り穴または切り取穴を検出した。また、柱は平坦面に堆積した東Ⅵ層を挟んで切り取られており、最終的には他の柱穴も含めて全体が東Ⅴa 層 (SX2631 整地層) に覆われている。

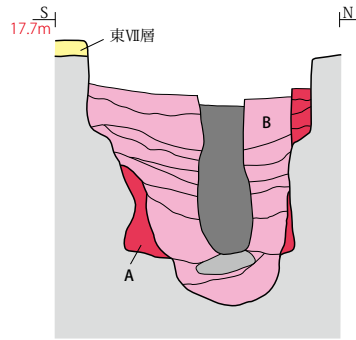
《SB2511 A 建物跡》

**構築時の造成** A 建物の構築時には標高の高い西側を段状に岩盤まで削り出し、低い東側には東Ⅷ層 (SX2630) による盛土整地をして平坦面を造成している。削り出しの規模は、段の上端で南北約 15.5 m、東西約 7.0 m で、高さは 0.3～0.4 m 残存する。その下部に布設された SD2613A 溝は建替えの際の改修で B 溝に壊されているが、西側の中央部で幅が約 0.8 m ある。深さは約 0.1 m で、横断面形は U 字形を呈し、暗褐色 (7.5YR3/4) の砂質シルトが自然堆積している。

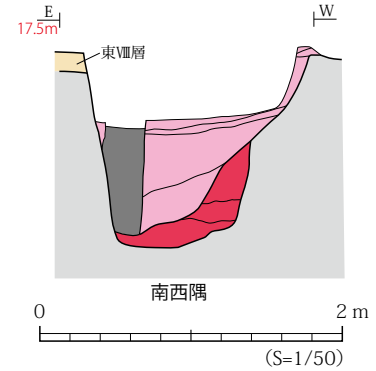
**規模と柱穴** 建物の規模や方向は、柱穴の多くが B の柱穴にほぼ同位置で壊されていることから、B と概ね同様と推定される。柱穴の掘方は、西側柱列では一辺 0.7 m 程の隅丸方形だが、東側柱列は長辺 1.2～1.6 m、短辺の 0.8～1.0 m の隅丸長方形で、やや大きい。深さは南西隅で約 0.3 m、南東隅で約 0.6 m である。地山の礫片やブロック状の地山土を多く含むにぶい褐色や明褐色、褐色 (7.5YR5/4・5/6、10YR4/4) のシルトで埋め戻されている。



【建物模式図】

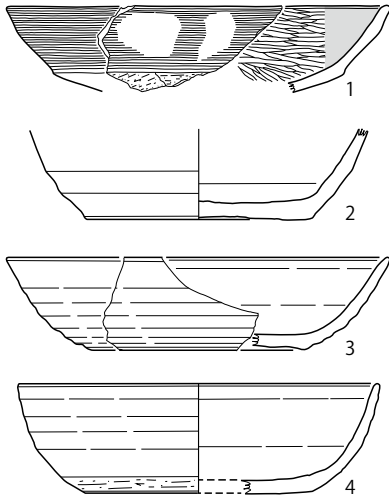


北西隅



南西隅

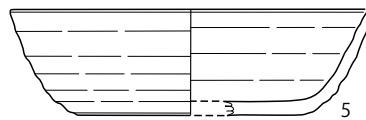
(S=1/50)



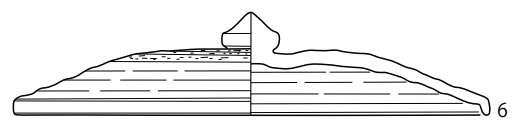
北西隅 (東から)



南西隅 (北から)



5



6

0 10cm  
(S=1/3)

単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SB2511B 抜取穴	70	土師器・坏	破片	(15.2)	—	—	非ロクロ整形。口：ヨコナデ 体：有段 底：ケズリ		SB2511-R6	B13019
2	SB2511B 抜取穴	70	須恵器・坏	2/3	—	9.0	—	底：ヘラ切		SB2511-R4	B13019
3	SB2511B 切取穴	71	須恵器・坏	1/6	(15.2)	(8.4)	3.7	底：ヘラ切→軽いなデ		SB2511-R1	B13143
4	SB2511B 柱痕跡	70	須恵器・坏	1/4	(14.4)	(9.0)	4.3	底～体下部：回転ケズリ		SB2511-R1	B13019
5	SD2613	71	須恵器・坏	1/2	(14.4)	(9.0)	4.2	底：回転ケズリ		SD2613-R7	B13144
6	SD2613	71	須恵器・蓋	1/2	(18.8)	—	4.1	外：回転ケズリ つまみ：宝珠形		SD2613-R5	B13144

図版42 SB2511建物跡の柱穴と出土土器

遺物は、柱穴掘方から非ロクロ整形の土師器甕、SD2613Aの堆積土から丸瓦がごく少量出土している。 出土遺物

《SB2511 B建物跡》

B建物への建替え時には、東Ⅶ層による盛土整地で平坦面を嵩上げするとともに、段下部のSD2613溝を改修している (A→B)。嵩上げ整地は東側ほど厚く、調査区内の最大では約35cmあり、Aの構築時にはなお斜面として残った東側を中心に平坦化を進めている。 建替え時の嵩上げ

SD2613 B溝はA溝から溢れた堆積土上面から掘り込まれており、残りが悪い箇所もあるが、北・西・南側を逆コ字状に廻る。規模は西側中央で幅約1.5m、深さ約0.4mで、断面形はV字状を呈す。褐色(10YR5/6)の砂が自然堆積したうえで、東Ⅶa層(SX2631)に覆われている。

B建物は造成時に削り出した段の上端から西側柱筋が1.8m前後の距離をおいて建つ。規模は、柱痕跡または柱の切取り穴や柱穴のほぼ中央に柱位置を推定すると、桁行は西側柱列で総長11.9m、柱間は北から2.4m・2.4m・2.3m・2.4m・2.4mである。梁行は北妻で総長約6.0m、柱間は東から約3.0m・3.0mである。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して北で約2° 規模・方向



東に振れている。また、本建物跡の東・西側柱列は約 12.0 m北の SB2510 建物跡の東・西側柱列と柱筋が揃い、西側柱列は約 6.0 m南の SB2594 建物跡の西側柱列とも柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は長辺 1.2 ～ 1.5 m、短辺 0.8 ～ 1.2 mの隅丸長方形で、深さは北西隅で約 1.8 m、南西・南東隅で約 1.1 mである。そのうち北西隅の柱穴では礎盤として礫が据えられていた。埋土は地山の礫片を多く含む明褐色や暗褐色（7.5 YR5/6、10YR3/3・3/4）のシルトである。柱痕跡は黒褐色や暗褐色（7.5 YR3/1、10YR3/1）の粘土で、直径 20 ～ 35cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方や柱の切・抜き穴、柱痕跡のほか、SD2613B の堆積土から出土しており、柱関係では掘方から丸瓦、平瓦Ⅱ B a類、須恵器高環・甕がごく少量、切・抜き穴から丸瓦Ⅱ B類、平瓦Ⅱ B a・b類、土師器環・甕、須恵器環・甕が出土している。また、柱痕跡では丸瓦Ⅱ B類、平瓦Ⅱ B a類、須恵器環がごく少量出土している。

このうち切・抜き穴出土の土師器環には非ロクロ整形の有段丸底の環がある（図版 42-1）。また、須恵器環は柱痕跡出土のものも含めて底部から体下部を回転ケズリ調整するもの（4）と、底部をヘラ切り後に軽いナデ調整をするもの、無調整のものがある（2・3）。

SD2613B では軒平瓦、丸瓦Ⅱ A・Ⅱ B類、平瓦Ⅰ A・Ⅰ C・Ⅱ B a類、土師器環・蓋・甕、須恵器環・高台環・蓋（6）・鉢・高環・甕、鉄鏃（図版 141-5）、鉄滓が出土している。軒平瓦には単弧文 640bのほか、二重弧文のものがある。また、丸瓦Ⅱ B類には「占」や「伊」、平瓦Ⅱ B a類には「丸」の刻印があるものがある。土師器はロクロ整形の環 1点を除いて、すべて非ロクロ整形のものである。環は平底と丸底のものがあり、後者は体部に段を有すものがある。須恵器環には底部が回転ケズリ調整のもの（図版 42-5）、ヘラ切り後に軽いナデ調整をするものがある。

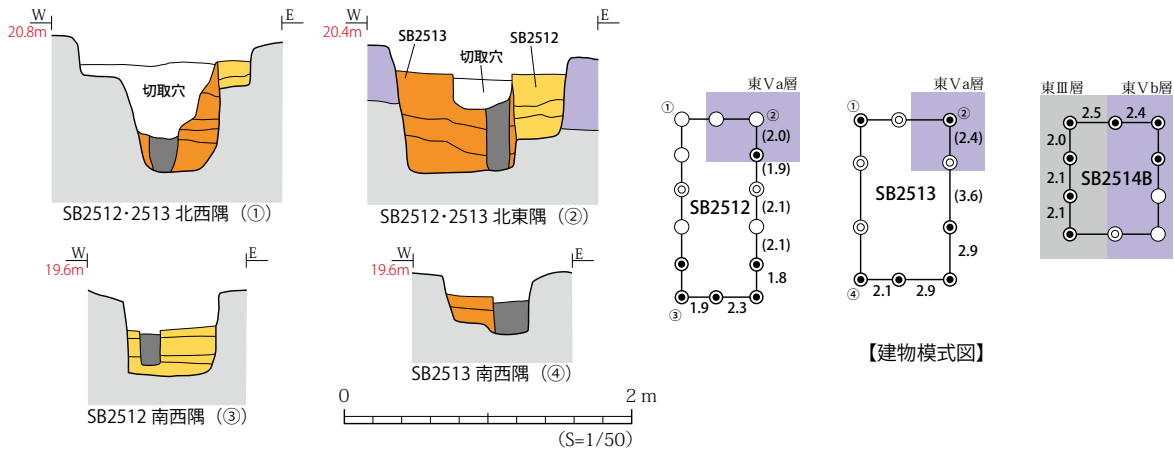
#### 【SB2512 建物跡】（図版 37・43）

**検出状況** 北部の概ね E74・S185 を中心に位置する桁行 5 間、梁行 2 間の南北棟で、地山および東 V a 層の上面で検出した。SB2509 建物跡より新しく、SB2513・2593 建物跡、SK2618 土壌より古い。柱穴は 14 個すべてを検出し、南半を中心に 6 カ所で柱痕跡、北東・北西隅柱穴から 2 間南の柱穴 2 カ所では抜き穴または切り穴を確認した。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡または柱の抜き穴や柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は東側柱列で総長約 9.9 m、柱間は北から約 2.0 m・約 1.9 m・約 2.1 m・約 2.1 m・1.8 mである。梁行は南妻で総長 4.2 m、柱間は東から 2.3 m・1.9 mである。棟の方向は、東側柱列で南北の基準線に対して北で約 6°東に振れている。また、本建物跡の東側柱列は約 2.8 m南の SB2514 建物跡および約 2.1 m北の SB2592 建物跡の東側柱列と柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は一辺 0.5 ～ 1.0 mの大きさがやや不揃いな隅丸長方形で、深さは北西隅で約 0.3 m、北東・南西隅で約 0.6 mである。ブロック状の地山土を多く含むにぶい赤褐色や褐色、にぶい黄橙色（5YR4/4、7.5YR4/6、10YR7/3）のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は褐色（7.5YR4/4）のシルトで、直径 20 ～ 30cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から土師器環・甕がごく少量、柱の切・抜き穴から丸瓦、平瓦Ⅰ A・Ⅰ C a・Ⅱ B a類、土師器環、須恵系土器環が少量、柱痕跡から平瓦Ⅱ B a類がごく少量出土して



SB2512・2513 北西隅 (①: 南から)



SB2512 南西隅 (③: 南から)



SB2513 南西隅 (④: 北から)

図版43 SB2512～2514建物跡の柱穴

いる。土師器はいずれも非ロクロ整形のものである。

#### 【SB2513 建物跡】 (図版 37・43)

北部の概ね E74・S183 を中心とする桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟で、地山と東 V a 層の上面で検出した。SB2512 建物跡より新しく、SA2602 柱列跡より古い。柱穴は 10 個検出し、3 ヲ所で柱痕跡、3 ヲ所で上部が切り取られた柱痕跡、4 ヲ所で抜き取り穴または切り取り穴を確認した。

検出状況

建物の規模は、柱痕跡または柱抜き取り穴の中央に柱の位置を推定すると、桁行は東側柱列で総長約 8.9 m、柱間は北から約 2.4 m・約 3.6 m・2.9 m である。梁行は南妻で総長 5.0 m、柱間は東から 2.9 m・2.1 m である。棟の方向は、東側柱列で南北の基準線に対して北で約 5° 東に振られている。また、桁行の柱列は約 3.9 m 南の SB2514 建物跡の桁行と柱筋が揃い、西側柱列は約 2.1 m 北の SB2592 建物跡の西側柱列とも揃う。

規模・方向

柱穴の掘方は一辺 0.5 ～ 0.8 m の隅丸長方形で、深さは北西・北東隅で 0.9 ～ 1.0 m ある。ブロック状の地山土と少量の炭粒を含む褐灰色や褐色 (10YR4/1、7.5YR4/6) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は黒褐・褐灰色 (10YR3/2・4/1) のシルトで、直径 20cm 弱の円形を呈す。

柱穴

遺物は、柱穴掘方から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏・壺・甕が少量、柱の切・抜き取り穴から丸瓦ⅡB、平瓦ⅠA・ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土している。また、柱痕跡から須恵器坏がごく少量出土している。

出土遺物

#### 【SB2514 建物跡】 (図版 37・43)

北部の概ね E74・S194 を中心に位置する桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟で、東Ⅲ・V b 層の上面で検出した。同位置で一度建替えられており (A→B)、SB2510・2535 建物跡より新しく、SA2534 柱列跡より古い。柱穴は A・B とも 10 個すべてを検出したが、A の柱穴は B に大きく壊されており、柱痕跡はみつかっていない。B では南東側以外の 4 ヲ所で柱痕跡、3 ヲ所で上部

検出状況

が切り取られた柱痕跡、南妻中央の1カ所で抜取り穴または切り取り穴を確認した。

《SB2514 A建物跡》

**規模と柱穴** すべての柱穴がBの柱穴にほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向はBと概ね同様と推定される。柱穴の掘方は、西側柱列では一辺0.7～1.2mの隅丸長方形で、ブロック状の焼土を多く含む褐色のシルトで埋め戻されている。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB類、土師器坏、須恵器坏・甕がごく少量出土している。土師器坏は非ロクロ整形のものである。

《SB2514 B建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡から桁行が西側柱列で総長6.2m、柱間は北から2.0m・2.1m・2.1m、梁行が北妻で総長4.9m、柱間は東から2.4m・2.5mである。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して北で約3°東に振れている。また、桁行の柱列は約3.9m北のSB2513建物跡の桁行と柱筋が揃い、南妻柱列は約8.5m北のSB2504建物跡の北側柱列と柱筋が揃う。

**柱穴** 柱穴の掘方は一辺0.5～1.0mの隅丸長方形で、深さは北妻中央で約0.5mある。ブロック状の焼土を多く含む褐色のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は焼土粒や炭粒を含む黒褐色シルトで、直径15～30cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡBa類がごく少量、柱の切・抜取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、壁土、柱痕跡から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠCa・ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土している。このうち切・抜取り穴出土の土師器はすべて非ロクロ整形のもので、須恵器坏には底部をヘラ切り後に軽くナデ調整したものがあ。また、柱痕跡出土の丸瓦ⅡB類には「占」の刻印があるものがある。

【SB2515 建物跡】(図版37・44)

**検出状況** 中央北側の概ねE79・S201を中心に位置する桁行5間、梁行2間の南北棟である。東Ⅶ層上面で検出し、同位置で一度建て替えられている(A→B)。SB2510建物跡より新しい。

柱穴はAで13個、Bで北東側を除く10個を検出した。北東部以外のAの柱穴はBに大きく壊されている。柱痕跡は2カ所確認したのみで、遺物も出土していない。Bの柱痕跡は9カ所で確認し、そのうち3カ所の柱は切り取られている。

《SB2515 A建物跡》

**規模と柱穴** 柱穴の多くがBの柱穴にほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向はBと概ね同様と推定される。柱穴の掘方は一辺0.6～1.0mの隅丸長方形で、埋土はブロック状の地山土を多く含む暗褐色や褐色(10YR3/4・4/4)のシルトである。柱痕跡は直径約25cmの円形を呈す。

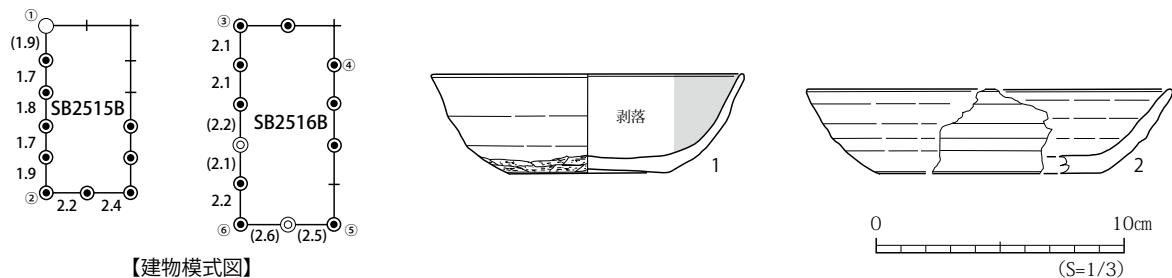
《SB2515 B建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡または柱穴の中央に柱の位置を推定すると、桁行が西側柱列で総長約9.0m、柱間は南から1.9m・1.7m・1.8m・1.7m・約1.9m、梁行が南妻で総長4.6m、柱間は東から2.4m・2.2mである。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して北で約4°東に振れている。また、西側柱列は約2.1m南のSB2516建物跡の棟通りと柱筋が揃う。

**柱穴** 柱穴の掘方は楕円形に近いものもあるが、一辺0.6～1.2mの大きさがやや不揃いの隅丸長方形

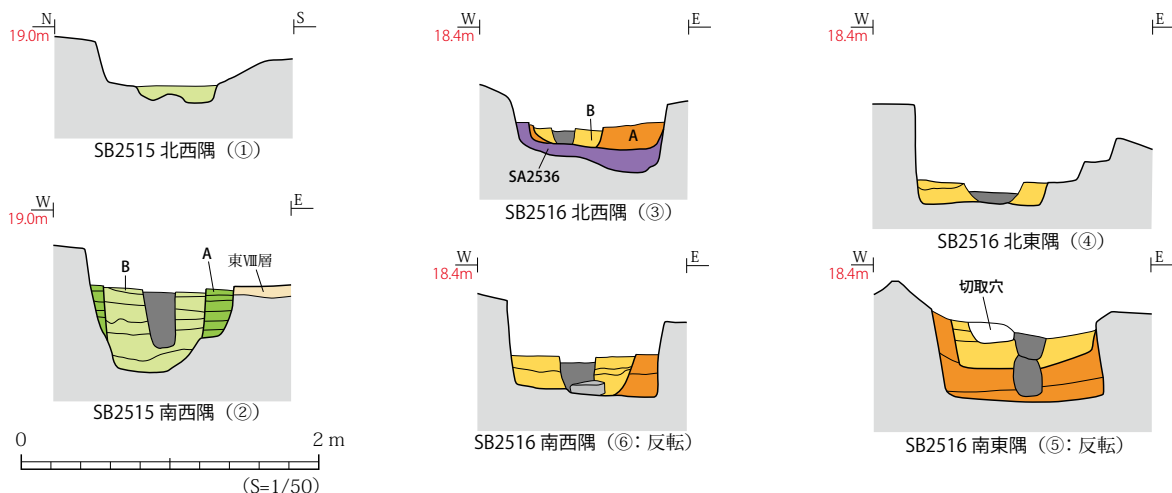
で、深さは南西隅で約 0.9 m、北西隅で約 0.4 m である。ブロック状の地山土を多く含む暗褐色や褐色 (10YR3/3・4/4) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は黒褐色 (10YR3/1) のシルトで、直径 20 ~ 30cm の円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠC・ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が少量、出土遺物柱切り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、壁土、柱痕跡か



【建物模式図】

単位：(cm)												
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴		写真図版	登録	箱番号
1	SB2516 掘方	70	土師器・坏	2/3	(12.6)	6.4	4.1	底～体下部：ヘラ切→手持ケズリ 内：剥落			SB2516-R1	B13019
2	SB2515B 抜取穴	70	須恵器・坏	破片	(17.8)	(9.0)	3.4	底：ヘラ切→軽いナデ			SB2515-R1	B13019



SB2515 北西隅 (①：東から)



SB2516 北西隅 (③：南から)



SB2516 北東隅 (④：南から)



SB2515 南西隅 (②：南から)



SB2516 南西隅 (⑥：北から)



SB2516 南東隅 (⑤：北から)

図版44 SB2515・2516建物跡の柱穴と出土土器

ら瓦当部分を欠く軒平瓦、丸瓦ⅡB類、平瓦ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、壁土、柱痕跡から平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏が出土している。

これらのうち、土師器はすべてロクロ整形のもので、掘方と切取り穴出土の坏には底部が回転糸切り無調整のものがある。また、切取り穴出土の須恵器坏は底部をヘラ切り後に軽くナデ調整したものが主体をしめる（図版44-2）。

**【SB2516 建物跡】**（図版37・44）

**検出状況** 中央北側の概ねE76・S212を中心に位置する桁行5間、梁行2間の南北棟で、北半を地山、南半を東V a層上面で検出した。同位置で一度建替えられており（A→B）、SA2536柱列跡、SB2511建物跡、SD2641溝、SK2558土壌より新しく、SB2517建物跡、SD2649溝、SK2481・2482・2551・2554土壌より古い。柱穴はAで北・南妻を主体に7個、Bでは南東隅から1間北と北東隅以外の12個を検出した。Aの柱穴はBに壊されている箇所が多く、柱痕跡は2カ所確認したのみである。Bでは4カ所で柱痕跡、6カ所で上部が切り取られた柱痕跡、2カ所で抜取り穴または切取り穴を確認した。

《SB2516 A建物跡》

**平面規模と柱穴** 柱穴の多くがBの柱穴にほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向はBと概ね同様と推定される。柱穴の掘方は一辺0.7～1.0mの隅丸長方形で、深さは北西隅から2間南で約0.8mある。地山の礫片とブロック状の砂を多く含む明褐色（7.5YR5/6）の粘土で埋め戻されている。柱痕跡はにぶい褐色（7.5YR5/4）の粘土で、直径20～30cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱痕跡から平瓦ⅡB類、土師器甕がごく少量出土している。

《SB2516 B建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡または柱抜取り穴のほぼ中央に柱位置を推定すると、桁行が西側柱列で総長10.7m、柱間は北から2.1m・2.1m・約2.2m・約2.1m・2.2m、梁行が南妻で総長5.1m、柱間は東から約2.5m・約2.6mである。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して北で約2°東に振れている。また、本建物跡の棟通りは約2.1m北のSB2515建物跡の西側柱列と柱筋が揃う。

**柱穴** 柱穴の掘方は一辺0.5～1.0mの大きさがやや不揃いの隅丸長方形で、深さは北西隅から2間南で約0.6mである。地山の礫片を含む褐色や明褐色（7.5YR5/6・4/6）の粘土で埋め戻されており、柱痕跡は褐色（7.5YR4/4）の粘土で、直径20cm前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅡB類、土師器坏、須恵器甕、文字のない漆紙が少量、柱の切・抜取り穴から丸瓦、平瓦ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が少量と鉄釘などの角棒状の鉄製品、柱痕跡から軒平瓦、丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅡBa類、土師器坏・蓋・甕、須恵器坏・蓋・甕が出土している。

これらのうち、掘方出土の土師器坏には底部をヘラ切り後に体部下端まで手持ケズリ調整したもの（図版44-1）、切・抜取り穴出土須恵器坏には底部が回転糸切り無調整のものがある。また、柱痕跡出土の軒平瓦は二重弧文511cの破片で、丸瓦Ⅱ類には「田」の刻印があるものがある。

【SB2517 建物跡】 (図版 37・45)

中央北側の概ね E75・S213 を中心に位置する桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟で、北半を地山、南半を東 V a 層上面で検出した。SB2511・2516 建物跡、SD2641 溝、SK2558 土壌より新しく、SK2481・2482・2551・2554 土壌より古い。柱穴は 10 個すべてを検出し、そのうち 4 カ所で柱痕跡、2 カ所で切り取られた柱痕跡、3 カ所で柱の抜き取り穴または切り取り穴を確認した。

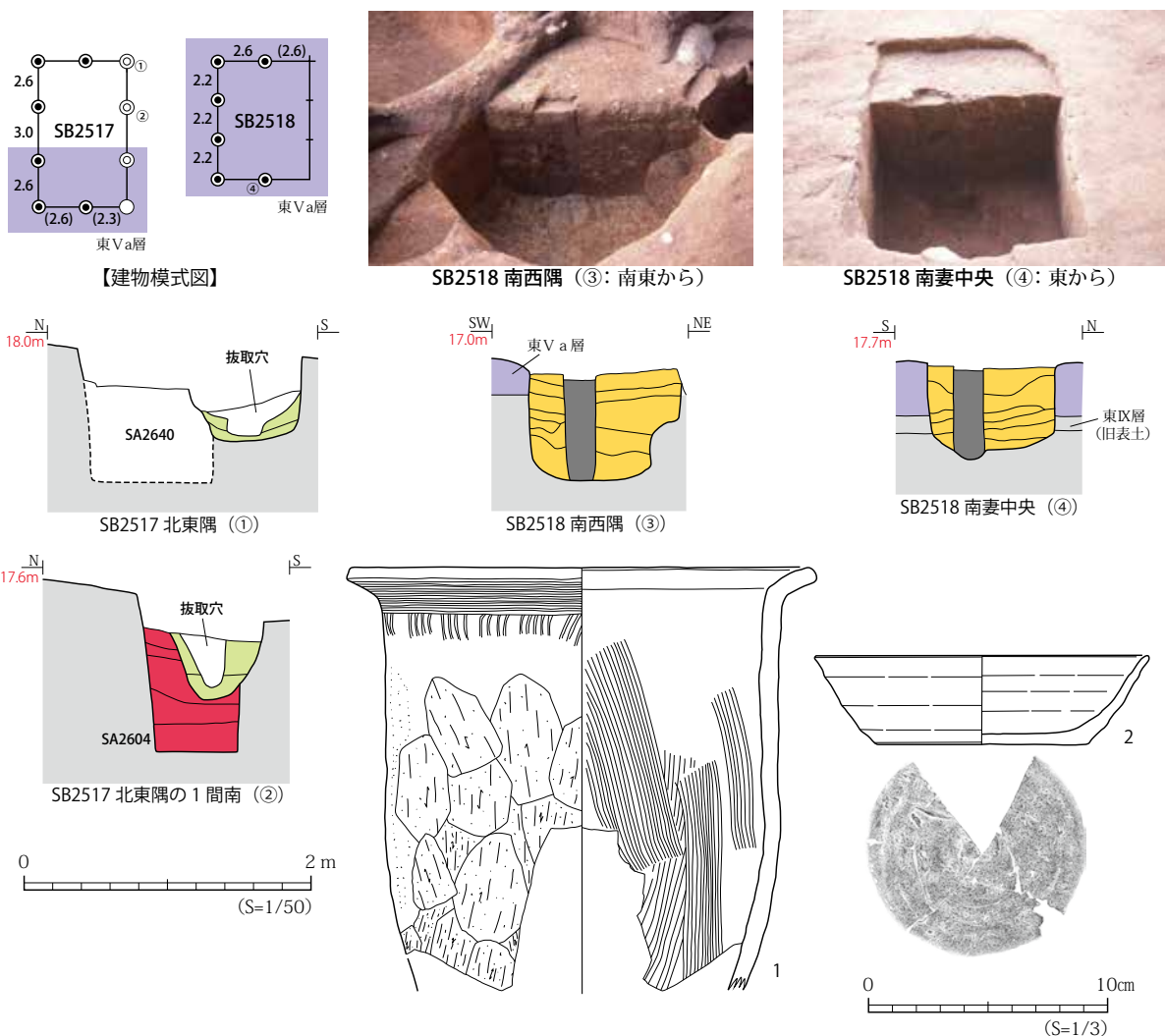
検出状況

建物の規模は、柱痕跡または柱の抜き取り穴や柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は西側柱列で総長 8.2 m、柱間は北から 2.6 m・3.0 m・2.6 m である。梁行は南妻で総長約 4.9 m、柱間は東から約 2.3 m・2.6 m で、棟の方向は西側柱列で南北の基準線と概ね一致する。また、西側柱列は約 6.7 m 南の SB2518 建物跡の西側柱列と柱筋が揃う。

規模・方向

柱穴の掘方は一辺 0.6 ~ 0.9 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは北東隅で約 0.6 m ある。マンガンの粒を含む明褐色 (7.5YR5/6) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は黒褐色シルトで、直径 20 ~ 30cm の円形を呈す。

柱穴



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴		写真図版	登録	箱番号
1	SB2517 抜き穴	70	土師器・甕	1/4	(19.0)	—	—	非ロクロ整形。口外：ハケメ→ヨコナデ 外：ケズリ 口内：ヨコナデ 内：ヘラナデ			SB2517-R1	B13019
2	SB2518 抜き穴	70	須恵器・坏	2/3	(14.4)	8.8	3.7	底：ヘラ切→軽いなデ			SB2518-R3	B13019

図版45 SB2517・2518建物跡の柱穴と出土土器

**出土遺物** 遺物は、柱の切・抜取り穴から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、柱痕跡から少量の丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡBa1類、須恵器坏・甕が出土している。切・抜取り穴出土の土師器坏はロクロ整形のもので、底部を回転糸切り後に手持ケズリ調整したものがあ。また、甕には非ロクロ整形のものがある(図版45-1)。須恵器坏には底部をヘラ切り後に軽いナデ調整をするものと回転ケズリ調整をするものがある。

**【SB2518 建物跡】** (図版 37・45・143)

**検出状況** 中央南側の概ねE76・S227を中心に位置する桁行3間、梁行2間の南北棟で、東Va層上面で検出した。SB2511建物跡、SI2609住居跡、SK2559土壌より新しく、SA2537・2606柱列跡より古い。柱穴は10個すべてを検出したが、東側柱列は調査区の東壁にかかり、柱痕跡はそれら以外の6カ所で確認した。また、そのうち北西隅の柱は切り取られている。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡または柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は西側柱列で総長6.6m、柱間は2.2m等間である。梁行は北妻で総長約5.2m、柱間は西から2.6m等間と想定される。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して約3°東に振れている。また、西側柱列は約6.7m北のSB2517建物跡の西側柱列と柱筋が揃い、北妻も約10.5m西のSB2452建物跡の南廂柱列と柱筋が揃う。

**柱穴** 柱穴の掘方は一辺1.0～1.4mの隅丸方形や隅丸長方形で、深さは南西隅や南妻中央の柱穴で0.8m前後である。ブロック状の地山土や焼土と炭を含む黒褐色や褐色、黄褐色(10YR3/2・4/4・5/8)のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は褐灰色や灰黄褐色(10YR4/1・4/2)のシルトで、直径20～30cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から重弁蓮花文軒丸瓦(型番不明)、丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕、柱切取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・壺・甕と少量の鉄釘(図版143-14)、壁土が出土している。また、柱痕跡から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・高坏が少量出土している。

このうち、掘方出土の土師器はいずれも非ロクロ整形のもので、須恵器坏には底部をヘラ切り後に軽くナデ調整したものがあ。一方、切取り穴出土の土師器甕にはロクロ整形のものがあり、須恵器坏には掘方出土のものと同様のものがある(図版45-1)。

**【SB2535 建物跡】** (図版 37・46・47)

**検出状況** 中央北側から北部にかけて、概ねE73・S198を中心に位置する桁行4間、梁行3間の南北棟で、地山と東VI層の上面で検出した。SX2626焼面、SK2559土壌より新しく、SA2533・2534柱列跡、SB2514建物跡、SD2642溝、SK2548土壌より古い。また、SI2608住居跡とも重複しているが、SI2608は本建物跡を埋めた整地(東III層)の上面で検出しており、本建物跡より新しい。

本建物はやや特殊な構築方法・構造をとり、柱を立てた後に西側柱列に沿って地山を削り出し、東側に整地(東Vb層)をして建物内を平坦にしている。また、削り出した段の下部には北西隅柱付近から南に伸びるSD2541暗渠を布設しており、この暗渠は南西隅柱を越えて建物の外に

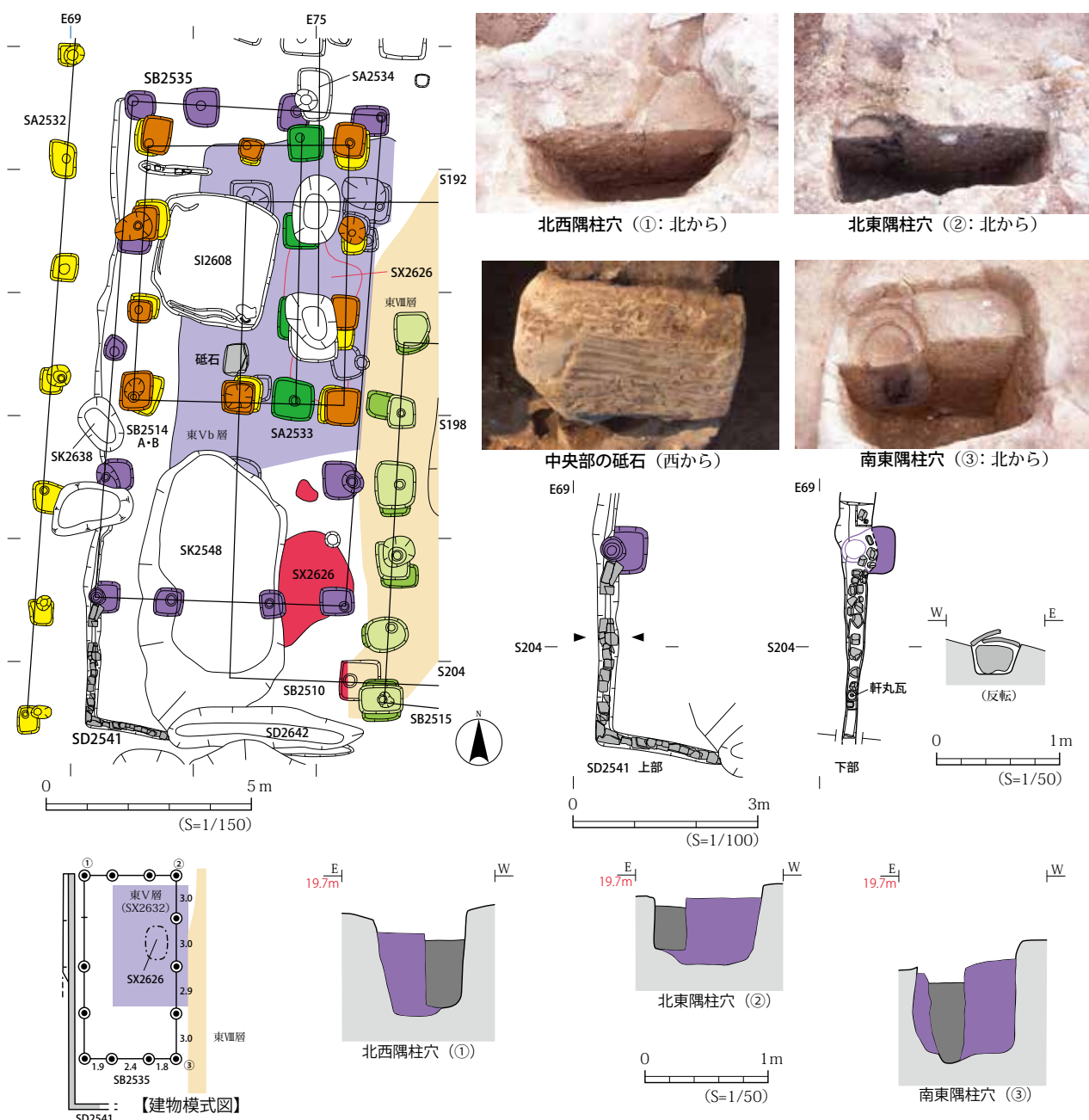
伸びたのち直角に東に折れ曲がっている。柱穴は 14 個すべてを検出し、柱痕跡は SB2514 の柱穴で壊された北西隅柱穴から 1 間南以外の 13 カ所で確認した。そのうち 3 カ所の柱は切り取られている。また、東・西側柱列の柱痕跡は各掘方のそれぞれ東・西辺に沿って位置する傾向がある。

建物の規模は、柱痕跡または柱穴のほぼ中央に柱位置を推定すると、桁行は東側柱列で総長 11.9 m、柱間は北から 3.0 m・3.0 m・2.9 m・3.0 m である。梁行は南妻で総長 6.1 m、柱間は西から 1.9 m・2.4 m・1.8 m で、中央間が広い。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して約 5° 東に振れている。

柱穴の掘方は一辺 0.5 ~ 1.0 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは北西・南東隅で 0.9 ~ 1.0 m、北東隅で約 0.6 m である。地山の礫片やブロック状の地山土を多く含む褐色やにぶい黄褐色 (7.5YR4/6・10YR3/2・4/3・5/3) のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は暗褐色や褐灰色

規模・方向

柱 穴



図版46 SB2535建物跡



(7.5YR3/3、10YR4/1) のシルトで、直径 25 ~ 45cm 前後の円形を呈す。北東隅の柱痕跡では薄い炭や焼土によるレンズ状の堆積がみられ、南東隅の痕跡には粘質の木質が認められた。

**平坦面と暗渠** 建物内の平坦面は西側柱列沿いに地山を削り出し、東側に整地（東V b層）をして造られている。削り出しは南北 7.0 m 程を確認し、深さは残りの良いところで約 0.4 m ある。

削り出した段の下部に布設された SD2541 暗渠は、北西隅柱付近から西側柱列に沿って南西



SD2541 暗渠 (南東から)



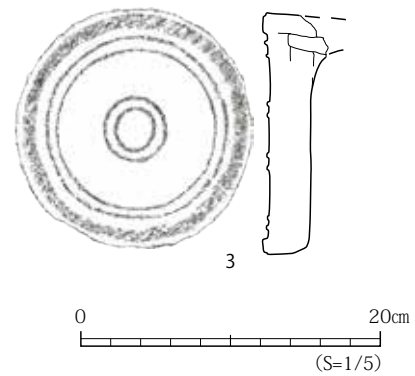
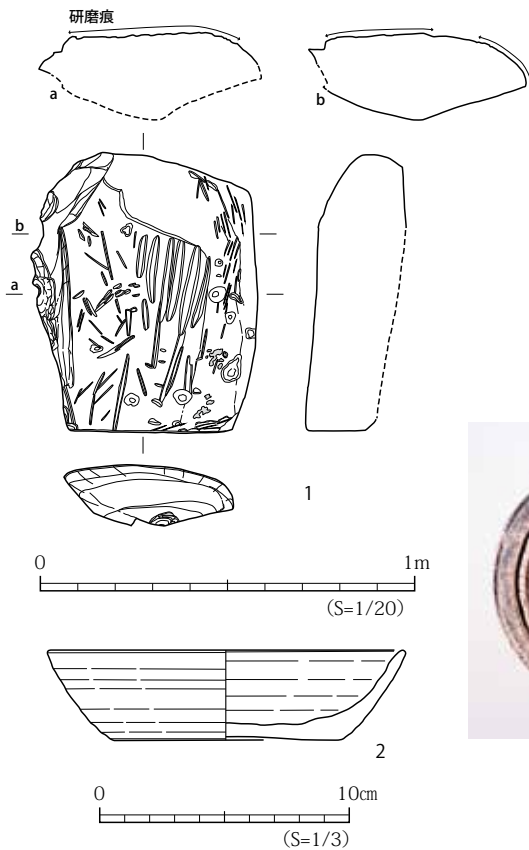
暗渠南北部分 (南から)



南北部分下部構造 (北から)



SD2541 暗渠 (南から)



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SB2535	71	砥石	完形	置砥石	長さ74.0 幅60.0 厚22.0。砂岩。上面に2種の研磨痕と付着物(漆?)	47-3	—	—
3	SD2541 掘方	71	軒丸瓦	瓦当1/1	重圏文243	直径16.2 瓦当厚3.5。被熱により酸化・煤付着		SD2541-R1	B13154

No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
2	SB2535 柱痕跡	70	須恵器・坏	1/4	(14.4)	(9.2)	3.6	底：ヘラ切→軽いナデ		SB2535-R1	B13019

図版47 SB2535建物跡の暗渠(SD2541)と出土遺物

隅柱を越えて建物の外に 3.0 m 程伸びた地点で直角に東に折れ曲がり、その先で SD2642 溝に壊されている。検出した長さは南北部分が約 15.3 m、東西部分が約 2.0 m である。構造は石と瓦を組み合わせた暗渠で、溝の中に若干の隙間を空けて据えた 15～20cm 大の礫の上に、主に半割した平瓦をブリッジ状に重ね合わせて蓋とし、埋め戻している。溝の幅は約 0.5 m、深さは約 0.2 m で、断面形は逆台形状を呈す。瓦は建物内では抜き取られているが、建物外は残存し、地山土に由来する黄褐色（10YR5/8）の砂で埋め戻されている。また、暗渠内には粒子の細かい均質な黒褐色粘土が堆積していた。

遺物としては、建物内の中央に据えられた砥石がある（図版 47-1）。長さ 74cm、幅 60cm、厚さ 22cm の砂岩で、平坦な上面に 2 種類の工具による研磨痕と漆とみられる付着物がある。ほかには、柱穴掘方で丸瓦、平瓦 II B a 類、土師器甕、須恵器坏、壁土、切り取り穴から平瓦 II B 類、土師器坏、須恵器坏・甕、壁土、柱痕跡から平瓦 II B a 類が各々ごく少量出土している。掘方出土の土師器甕は非ロクロ整形で、切り取り穴出土の須恵器坏には底部を回転ケズリ調整したもの、柱痕跡出土の須恵器坏にはヘラ切り後に軽いナデ調整をしたものがある（2）。

出土遺物

また、暗渠の瓦はほぼ半数の 27 点を取り上げており、内訳は重圏文 243 軒丸瓦 1 点（3）、平瓦が I A 類 1 点、II B a 類 23 点、II B 類 2 点で、軒丸瓦は礫の代りに暗渠の下部に置かれていた。平瓦は II B a 類が主体を占め、その中には「物」の刻印のあるものがある。ほかに暗渠内の堆積土から須恵器坏がごく少量出土しており、底部をヘラ切り後に軽くナデ調整したものがある。

### 【SB2592 建物跡】（図版 37・48）

北部の概ね E74・S175 を中心に位置する桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟で、地山上面で検出した。SD2640 溝より新しく、SA2601・2602 柱列跡、SB2593 建物跡、SD2640 溝、SK2618・2619・2635 土壇より古い。柱穴は新しい柱列・建物跡で壊された南東隅柱穴から 1 間北以外の 9 個を検出し、5 ヲ所で柱痕跡を確認した。そのうち北西隅の柱は切り取られている。

検出状況

建物の規模は、柱痕跡または柱穴のほぼ中央に柱の位置を推定すると、桁行は西側柱列で総長 4.3 m、柱間は北から 1.4 m・約 1.5 m・約 1.4 m である。梁行は北妻で総長 3.9 m、柱間は西から約 1.8 m・約 2.1 m である。棟の方向は西側柱列で南北の基準線にほぼ一致している。また、西側柱列は約 2.1 m 南の SB2513 建物跡の西側柱列と柱筋が揃う。

規模・方向

柱穴の掘方は一辺 0.4～0.8 m のやや歪んだ隅丸長方形で、深さは南東隅柱穴で約 0.4 m である。地山の礫片を含む明赤褐色（5YR5/6）で埋め戻されている。柱痕跡は明褐色（7.5YR5/6）の粘土で、直径 15～28cm の円形を呈す。

柱穴

遺物は、柱穴掘方から丸瓦、平瓦 II B a・II B b 類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、柱切り取り穴から軒平瓦、丸瓦 II B 類、平瓦 I A・II B a・II B b 類、土師器坏、須恵器坏・須恵系土器坏が出土したほか、柱痕跡から土師器坏がごく少量出土している。

出土遺物

掘方出土の土師器坏・甕にはロクロ整形のものがあり、坏には底部が回転糸切り無調整のものがある。切り取り穴出土の軒平瓦には単弧文 640 の a1 と a2 の両タイプがある。

**【SB2593 建物跡】** (図版 37・48)

**検出状況** 北部の概ね E78・S178 を中心に位置する桁行 2 間以上、梁行 2 間の南北棟である。建物の北半を地山および東 V a 層上面で検出したが、南半は削平されて残っていない。同位置で一度建替えられており (A→B)、SB2509・2512・2592 建物跡、SD2655 溝より新しく、SA2601・2602 柱列跡、SK2634・2635 土壌より古い。

柱穴は A で 7 個、B で 6 個を検出したが、西側柱列は SA2601・2602 に壊されている。A の柱穴は B にも壊されているため柱痕跡は確認されず、遺物も出土しなかった。B では北妻と北東隅から 1 間南の柱穴の 4 ヲ所で柱痕跡を確認し、そのうち北東隅の柱は切り取られている。また、それら以外の柱穴では抜取り穴または切取り穴を検出した。

《SB2593 A 建物跡》

**規模と柱穴** 検出した柱穴の多くが B の柱穴にほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向は B と概ね同様と推定される。柱穴の掘方は一辺 1.0～1.8 m の隅丸長方形で、B より大きい。深さは北東隅と北妻中央で約 0.6 m ある。地山の礫片と少量の炭を含む褐色 (10YR4/6) のシルトやブロック状の地山土を含む明赤褐色 (5YR5/6) で埋め戻されている。

《SB2593 B 建物跡》

**規模・方向** B 建物の規模は、柱痕跡または柱の抜取り穴の中心に柱位置を推定すると、桁行が東側柱列で総長 6.5 m 以上、柱間は北から 3.2 m・約 3.3 m・以下不明で、梁行は北妻で総長 5.3 m、柱間は東から 2.7 m・2.6 m である。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線とほぼ一致する。

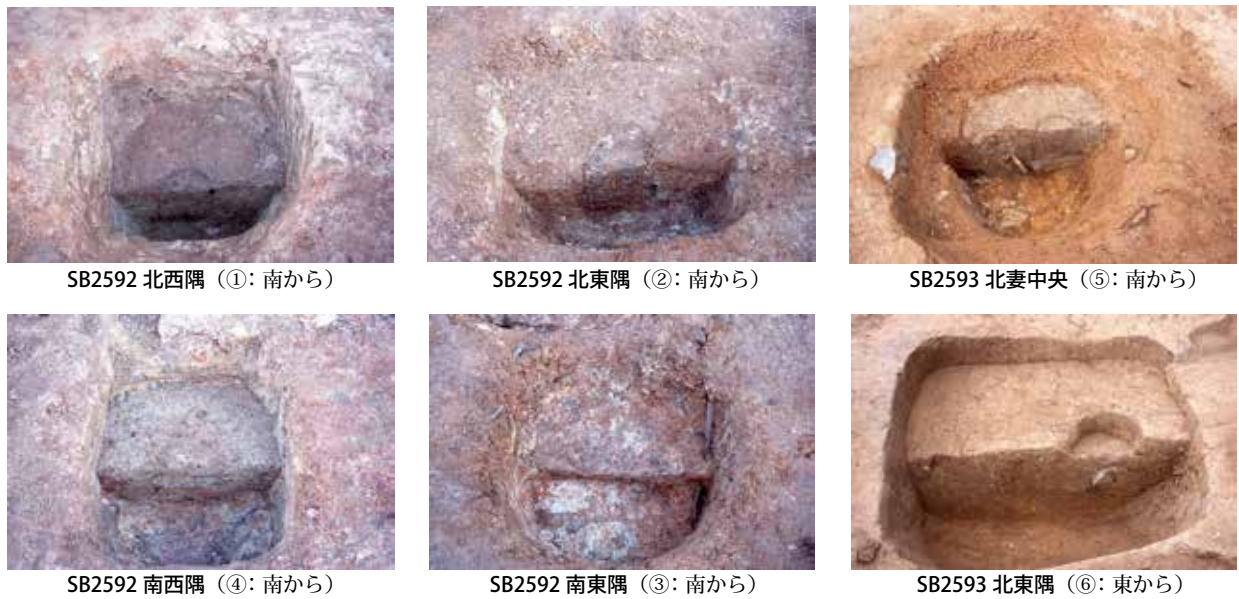
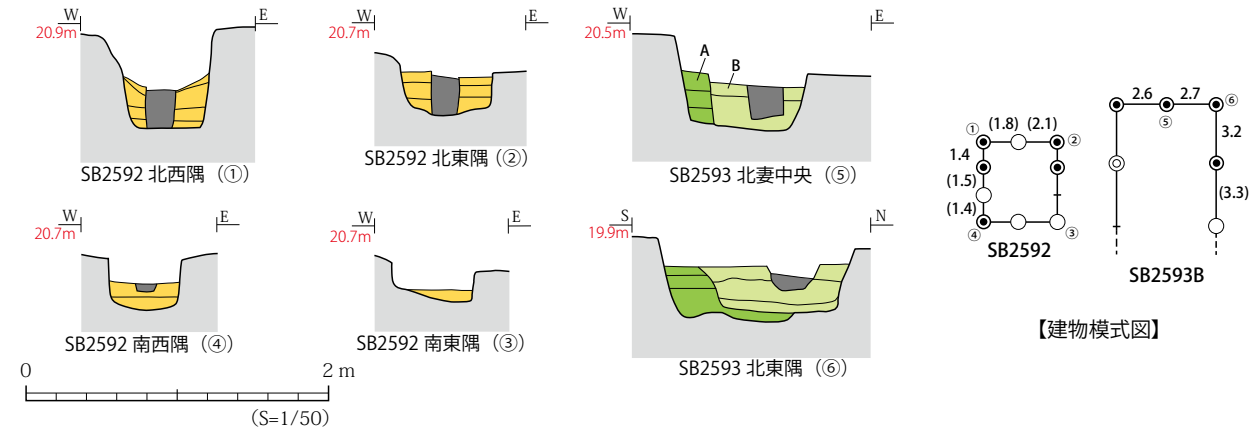
**柱穴** 柱穴の掘方は一辺 0.5～1.1 m の大きさがやや不揃いな隅丸長方形で、深さは北東隅で約 0.5 m、北妻中央で約 0.7 m である。地山の礫片と炭を含む黄褐色 (10YR5/6) のシルトやにぶい褐色 (7.5YR5/4) の粘土で埋め戻されており、柱痕跡は炭を少量含む褐色や黄褐色 (7.5YR4/6・5/6) のシルトで、直径 30cm 前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、掘方から平瓦 II B a 類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕、抜・切取り穴から丸瓦、平瓦 I A・I C a・II B a 類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕が出土し、柱痕跡では平瓦 II B a 類と土師器杯がごく少量出土している。掘方出土の土師器杯にはロクロ整形のものがある。

**【SB2594 建物跡】** (図版 37・49)

**検出状況** 南部の概ね E73・S236 を中心に位置する桁行 2 間、梁行 2 間の南北棟で、地山と東 VII・VIII 層の上面で検出した。標高が高い西側を岩盤まで段状に削り出し、低い東側に東 VIII 層 (SX2630) による整地をした平坦面に建てられている。段は北半と南辺付近でよく残存し、下部には上からの流水をうける SD2614 溝が布設されている。また、ほぼ同位置で建替えられており (A→B)、その際には東 VII 層による盛土で平坦面を嵩上げし、SD2614 も改修している<sup>(註2)</sup>。SA2537・2539 柱列跡、SB2595 建物跡、SX2563 鍛冶遺構、SK2485 土壌と重複し、それらより古い。

柱穴は攪乱や新しい遺構に壊されている箇所が多い。北妻と南妻を主体に A で 6 個、B で 7 個検出したが、A は B にも壊されており、柱痕跡は見つかっていない。B では 2 ヲ所で柱痕跡、3 ヲ所 (南東・北西隅・北妻中央) で上部が切り取られた柱痕跡、1 ヲ所 (南西隅) で柱の抜取り穴または切取り穴を検出した。



図版48 SB2592・2593建物跡の柱穴

## 《SB2594 A 建物跡》

A建物の構築時には標高の高い西側を段状に岩盤まで削り出し、低い東側に東Ⅷ層(SX2630)による整地をして平坦面を造成している。削り出しの規模は、段上端で南北が約8.2m、東西が約3.7mで、高さは残りの良い北西部で0.3mある。下部に布設されたSD2614 A溝は、Bへの改修で壊されているが、北側では約6.0m残存し、幅は約0.3m、深さは約0.1mある。横断面形はU字形で、底面は東側に低く傾斜し、褐色の砂が自然堆積している。

構築時の造成

建物の規模や方向は、柱穴がBと同位置で壊されていることからBと概ね同様とみられる。柱穴の掘方は一辺0.9～1.5mの不整な隅丸長方形で、その形状は地山中の岩を避けたことによる。深さは北東・南東隅で約0.8mあり、地山の礫片やブロック状の地山土を含む黒褐色(10YR3/1・3/2)のシルトで埋め戻されている。なお、Aでは遺物は出土していない。

規模と柱穴

## 《SB2594 B 建物跡》

B建物への建替へでは、東Ⅷ層による盛土整地で平坦面を嵩上げするとともに段下部のSD2614溝を改修している(A→B)。嵩上げ整地は東側ほど厚く、調査区内では最大で約30cmあり、Aの時点ではなお斜面であった東側を中心に平坦化をしている。

建替時の嵩上げ

SD2614 Bは嵩上げ後に布設され、北側の北東隅柱穴の約 1.0 m東から先は瓦組の暗渠として  
いる。検出した長さは北側が約 6.0 m、南側が約 4.5 mである。南西端では北側に屈曲しており、  
本来は西側にも布設されていたと推定される。幅と深さは南・北ともに約 0.4 mで、横断面は  
U字形を呈し、底面は東側に低く傾斜する。暗渠部の瓦は丸瓦Ⅱ B類の凸面を上にし、玉縁を西  
に向けて置かれており、調査区東際ではその上に凸面を上にした平瓦Ⅱ B a類を重ねている。瓦  
下の暗渠内と西側の溝には、にぶい黄褐色（10YR4/3）のシルトが自然堆積している。

**規模・方向** B建物は段の上端から西側柱筋が約 1.2～2.0 mの距離、北・南妻が約 1.2 mの距離をおいて  
建つ。規模は、柱痕跡から桁行が東側柱列で総長 6.0 m、柱間は北から 2.8 m・3.2 mで、梁行  
は北妻で総長 3.6 m、柱間は 1.8 m等間である。棟の方向は、東側柱列で南北の基準線に対して  
北で東に約 3°振れている。また、西側柱列は約 6.0 m北の SB2511 建物跡の西側柱列と柱筋が  
揃い、北妻と南妻も約 12.0 m西の SB2453 建物跡の身舎の桁行柱列とそれぞれ柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は一辺 0.5～1.1 mの大きさがやや不揃いな隅丸方形や隅丸長方形で、全体的に A  
の柱穴より小さく、その範囲に収まるものが多い。深さは北東隅柱穴で約 1.0 m、南西隅柱穴で  
約 0.6 mあり、にぶい褐色（10YR4/4・4/6）のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は炭粒を含  
む灰黄褐色（10YR4/2）のシルトで、直径 25～30cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から平瓦Ⅰ A・Ⅱ B a類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕、柱の切・抜き穴  
から丸瓦Ⅰ A・Ⅱ B類、平瓦Ⅱ B類、土師器蓋・甕、須恵器杯・甕がそれぞれ少量、柱痕跡か  
ら丸瓦Ⅰ A・Ⅱ類、平瓦Ⅱ B類、須恵器杯・蓋がごく少量出土している。土師器はすべて非ロク  
口整形のものである。ほかに SD2614B の暗渠に使われた丸瓦Ⅱ B類 4 点、平瓦Ⅱ B a類 1 点と  
堆積土から平瓦Ⅰ A・Ⅱ B a類が出土している。暗渠の瓦はいずれも完形品である。

#### 【SB2595 建物跡】（図版 37・49）

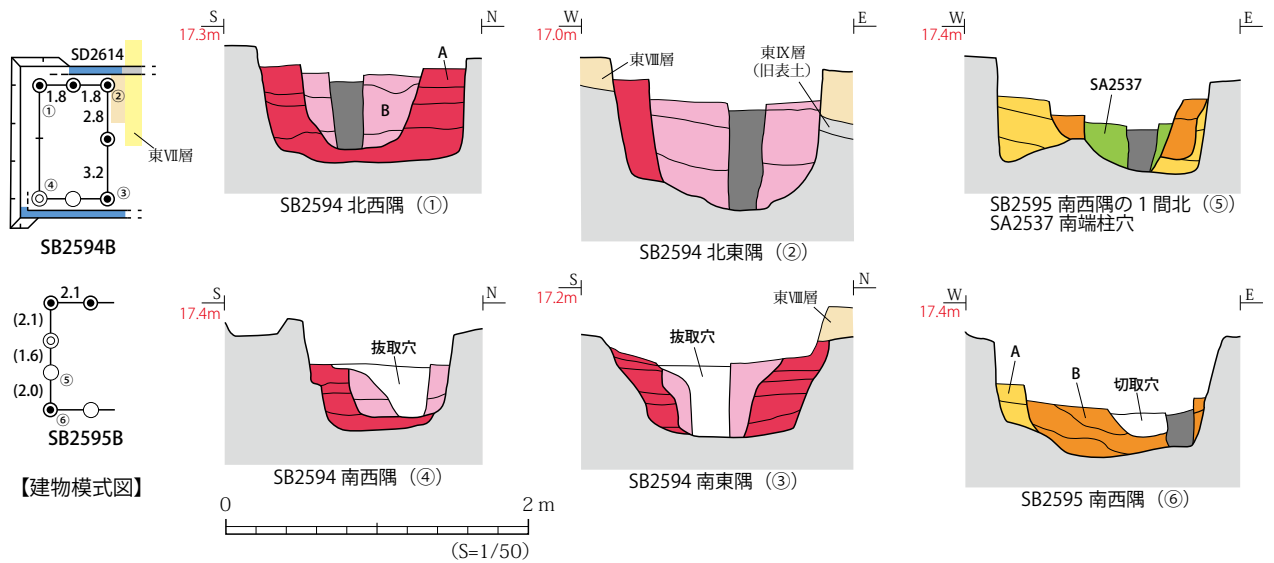
**検出状況** 南部の E75・S238 を中心に検出した桁行 3 間、梁行 2 間以上の建物跡である。地山および東  
V a 層の上面で確認し、東側は調査区外に位置する。少し東にずれて建替えられており（A→B）、  
SB2594 建物跡、SK2485 土壌より新しく、SA2537 柱列跡より古い。

柱穴は A で 5 個、B で 6 個検出したが、A の柱穴は B や SA2537 に壊されており、各 1 ヲ所  
で上部が切取られた柱痕跡（北妻中央）、抜き穴または切取り穴を確認したのみである。B で  
は 1 ヲ所で柱痕跡、2 ヲ所（北西・南西隅）で上部が切取られた柱痕跡、1 ヲ所で抜き穴また  
は切取り穴を検出した。

#### 《SB2595 A 建物跡》

**平面規模と柱穴** 検出した柱穴の多くが B の柱穴に壊されており、建物の規模や方向は B と概ね同様と推定され  
る。柱穴の掘方は一辺 0.9～1.3 mの隅丸長方形で、B よりやや大きい。深さは北西隅柱穴が約 0.5  
m、南西隅柱穴が約 0.7 mで、地山の礫片とブロック状の地山土を多く含むにぶい褐色やにぶい  
黄褐色（7.5YR5/4・10YR6/4）のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は暗褐色（10YR3/3）の  
砂質シルトで、直径約 25cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ B類、平瓦Ⅱ B a類、柱の切・抜き穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅰ A  
類、柱痕跡から丸瓦Ⅱ類がごく少量出土している。



SB2594 北西隅 (①: 東から)



SB2594 北東隅 (②: 南から)



SD2614B 暗渠



SB2594 南西隅 (④: 東から)



SB2594 南東隅 (③: 東から)



SB2595 南西隅の1間北 (⑤: 南から)

図版49 SB2594・2595建物跡とSD2614B暗渠

《SB2595B 建物跡》

B 建物の規模は、柱痕跡または柱の抜取り穴や柱穴の中心に柱位置を推定すると、南北が西側柱列で総長 5.7 m、柱間は北から約 2.1 m・約 1.6 m・約 2.0 m で、東西は北妻で総長 2.1 m 以上である。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線に対して北で約 4° 東に振れている。

規模・方向

柱穴は一辺 0.6 ~ 1.2 m の隅丸長方形や隅丸方形で、深さは南西隅で約 0.7 m、北西隅で約 0.5 m である。埋土は地山の礫片を含むにぶい黄褐色 (10YR5/3) のシルトである。柱痕跡は炭粒を含む褐灰色や灰黄褐色 (7.5YR4/1・10YR4/2) のシルトで、直径 25cm 前後の円形を呈す。

柱 穴

遺物は、柱穴掘方から丸瓦、平瓦 I A・II B a 類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕、柱切・抜取り穴から丸瓦 I A・II B 類、平瓦 II B 類、土師器蓋・甕、須恵器杯・甕、柱痕跡から土師器杯、須恵器甕がごく少量出土した。土師器はすべてロクロ整形で、掘方出土の須恵器杯には底部をヘラ切り後に軽いナデ調整したものと回転糸切り無調整のものがある。

出土遺物

## ii. 柱列跡

### 【SA2474 柱列跡】(図版 16・37・50)

**検出状況** 中央南側の概ね E69・S214 から南に伸びる南北 10 間の柱列跡で、地山と東Ⅷ層の上面で検出した。SK2482 土壌より古い。また、本柱列跡は中央区の SB2452 建物跡の東妻に沿って約 6.0 m 東の場所に位置している。柱穴は 11 個検出し、すべてで柱痕跡を確認した。そのうち南端から 5 間目の柱は切取られている。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡から総長が 15.0 m、柱間は北から 1.3 m・1.5 m・1.5 m・1.6 m・1.4 m・1.5 m・1.6 m・1.5 m・1.5 m・1.6 m である。方向は南北の基準線に対して北で東に約 3° 振れている。柱穴は一辺 0.4 ~ 1.0 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは北端から 1 間南の柱穴で 0.1 m あり、ブロック状の地山土を含む明褐色 (7.5YR5/6・5/8) のシルトや砂、褐色 (10YR4/6) の砂質シルトで埋め戻されている。柱痕跡はにぶい褐色やにぶい黄褐色 (7.5YR5/4・10YR5/4) のシルトで、直径 21cm 前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦、柱痕跡から平瓦 I C・II B a 類が出土している。

### 【SA2532 柱列跡】(図版 37・50・51)

**検出状況** 北部の概ね E70・S178 から SB2513・2514 建物跡の西側柱列に沿って約 1.8 m 西側を南に伸びる南北 10 間の柱列跡で、地山上面で検出した。北端の柱穴は SB2513 の北妻柱列の西延長上に位置する。SI2607 住居跡より新しく、SA2600 柱列跡より古い。柱穴は、攪乱で壊されたとみられる北端から 3 間南の柱穴以外の 10 個を検出し、5 ヲ所で柱痕跡、2 ヲ所で上部が切り取られた柱痕跡、1 ヲ所で柱の抜き穴を確認した。

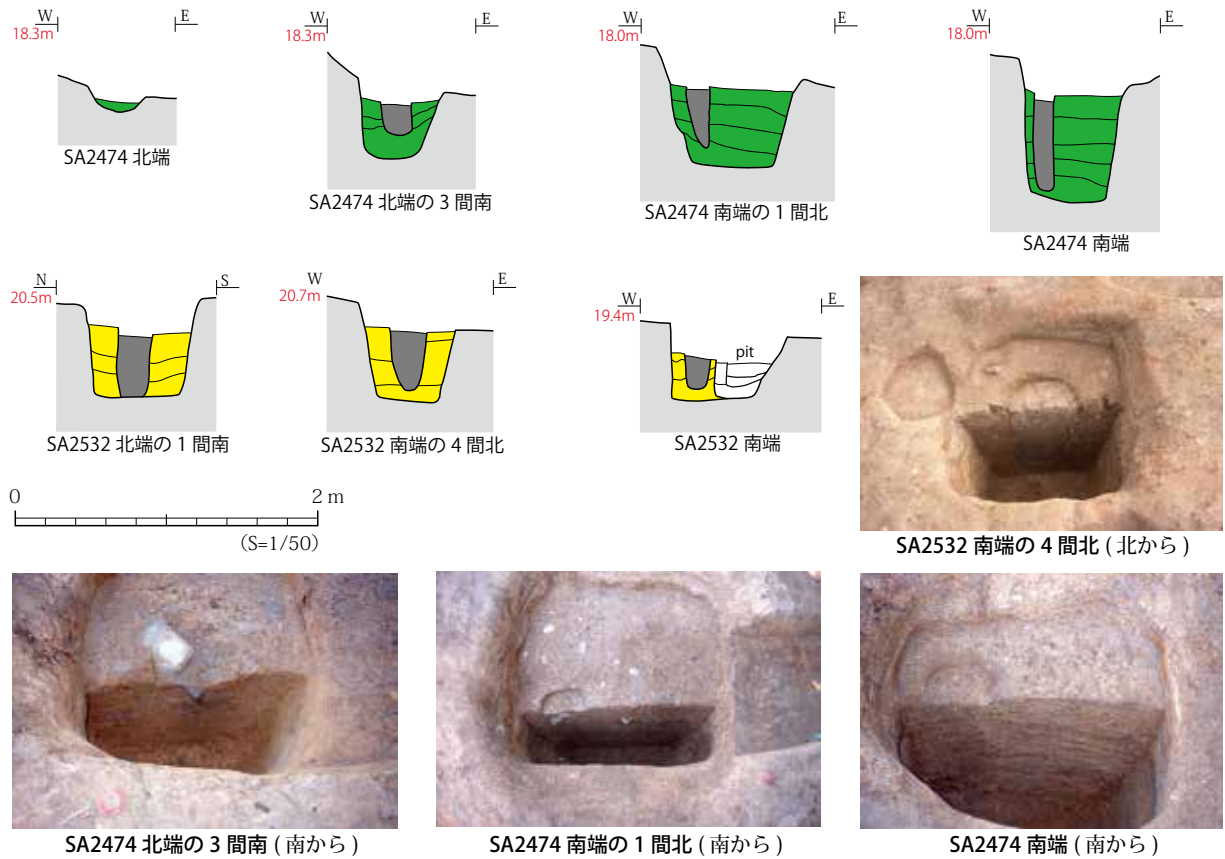
**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡または柱の抜き穴や柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長約 26.9 m、柱間は北から約 2.4 m・約 2.8 m・5.4 m (2 間分)・2.7 m・2.7 m・2.6 m・2.8 m・約 2.9 m・約 2.6 m である。方向は南北の基準線に対して北で東に約 4° 振れている。

柱穴は一辺 0.5 ~ 0.9 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは南端の柱穴で 0.5 m、北端から 1 間南の柱穴で 0.6 m あり、地山の礫片と炭を含むにぶい黄褐色 (10YR5/3) のシルトや明褐色 (7.5YR5/6) の砂で埋め戻されている。柱痕跡は炭粒を含む褐色 (7.5YR4/6) の砂や褐色 (10YR4/4) のシルトで、直径 15 ~ 30cm の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦 II 類、平瓦 I A・II B 類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、柱の切・抜き穴から丸瓦 II 類、須恵器坏、柱痕跡から平瓦 I A・II B 類、土師器坏・甕、須恵器坏が少量出土している。掘方出土の土師器はすべてロクロ整形で、須恵器坏には底部をヘラ切り後に軽くナデ調整したものがある。また、柱痕跡出土の土師器坏には底部が回転糸切り無調整のものがある (図版 51-1)。

### 【SA2533 柱列跡】(図版 37・134)

**検出状況** 北部の概ね E75・S191 から南に伸びる南北 3 間の柱列跡で、前述した SB2535 建物跡の構築に伴う東 V b 層上面で検出した。SB2510・2535 建物跡、SX2626 焼面より新しく、SA2534 柱



図版50 SA2474・2532柱列跡の柱穴

列跡より古い。また、SB2514 建物跡とも重複するが、直接的な重なりがないため、新旧関係は不明である。柱穴は4個検出し、南北両端の柱穴で柱痕跡を確認した。その他の柱穴はSA2534に大きく壊されている。

規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長6.4m、柱間は北から約2.2m・約2.2m・約2.0mである。方向は南北の基準線にほぼ一致している。 **規模・柱穴**

柱穴は一辺0.9m前後の隅丸方形で、深さは南端から1間北の柱穴で約0.3mあり、炭とブロック状の焼土を多く含む褐色(7.5YR4/6)の砂質シルトで埋め戻されている。柱痕跡は灰褐色(7.5YR4/2)のシルトで、直径25・30cmの円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から丸瓦、平瓦ⅡB a類、土師器杯・甕、須恵器杯、円面硯(図版134-18)、壁土が少量出土している。土師器杯には底部を回転ケズリ調整するもの、須恵器杯には底部がヘラ切りのものがある。 **出土遺物**

### 【SA2534 柱列跡】(図版37・51)

北部の概ねE75・S186から南に伸びる南北3間の柱列跡で、東V b層および地山の上面で検出した。SA2533柱列跡、SB2510・2514・2535建物跡、SX2626焼面より新しい。柱穴は4個検出したが、柱痕跡は確認していない。北端以外の柱は抜き取られている。 **検出状況**

規模は、柱穴や抜き取り穴の中心に柱の位置を推定すると、総長約9.5m、柱間は北から約3.6m・約3.1m・約2.8mである。方向は南北の基準線にほぼ一致している。 **規模・柱穴**

柱穴は一辺0.7～1.1mの隅丸方形や隅丸長方形で、深さは南端の柱穴で約0.6mある。地山



の礫片を多く含む褐色（7.5YR4/4）の砂で埋め戻されている。

**出土遺物** 遺物は、掘方から平瓦ⅡB a類と須恵器蓋がごく少量、抜・切取り穴から細弁蓮花文311軒丸瓦（図版51-4）、丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡB・ⅡB a類、土師器環・甕、須恵器環・蓋・甕、壁土が出土している。抜・切取り穴出土の土師器はすべてロクロ整形で、環は底部を回転ケズリ調整するものがある（2）。須恵器環には底部が回転糸切り無調整のものがある（3）。

**【SA2536 柱列跡】**（図版37）

**検出状況** 中央北側の概ねE68・S207から東に伸びる東西6間の柱列跡で、地山上面で検出した。東端から1・2間西の柱穴はSB2516建物跡に壊されていると推定される。SB2516、SK2549・2551土壌より古い。また、SA2604柱列跡とも重複するが、直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。柱穴は5個を検出し、4カ所で柱痕跡を確認している。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡で総長が13.5m、柱間は西から1.9m・1.8m・約9.8m（4間分）である。方向は東西の基準線にほぼ一致している。

柱穴は一辺0.6～1.0mの隅丸方形や隅丸長方形で、深さは西端の柱穴で約0.5mある。粒状の地山土を多く含む褐色やにぶい黄褐色（7.5YR4/4、10YR4/6・5/3）の粘土で埋め戻されており、柱痕跡は炭粒を含む暗褐色（10YR3/3）のシルトで、直径20～30cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦、柱痕跡から平瓦ⅠA類、土師器甕、須恵器甕がごく少量出土している。

**【SA2537 柱列跡】**（図版37・52）

**検出状況** ほぼ中央のE74・S220から南に伸びる南北6間の柱列跡で、主に東V a層上面で検出した。ほぼ同位置で一度作り替えられており（A→B）、SB2511・2518・2594・2595建物跡、SI2609住居跡、SX2557焼面、SK2485・2558・2559土壌より新しい。柱穴はAで北半の4個、Bで南端から1間北以外の6個を検出した。Aの柱穴はBに大きく壊されており、柱痕跡はみつかっていない。Bでは3カ所で柱痕跡、2カ所で上部が切り取られた柱痕跡を確認している。

《SA2537 A柱列跡》

**規模・柱穴** 検出した柱穴はBの柱穴にほぼ同位置で壊されており、規模や方向はBとほぼ同様と推定される。柱穴は残りの良い箇所と推定すると、一辺0.6～1.1mの隅丸長方形で、深さは北端の柱穴で約0.7mある。ブロック状の地山土を含む黒褐色や黄褐色（10YR3/1・3/2・5/6）のシルト、灰黄褐色（10YR4/2・5/2）の粘土で埋め戻されている。

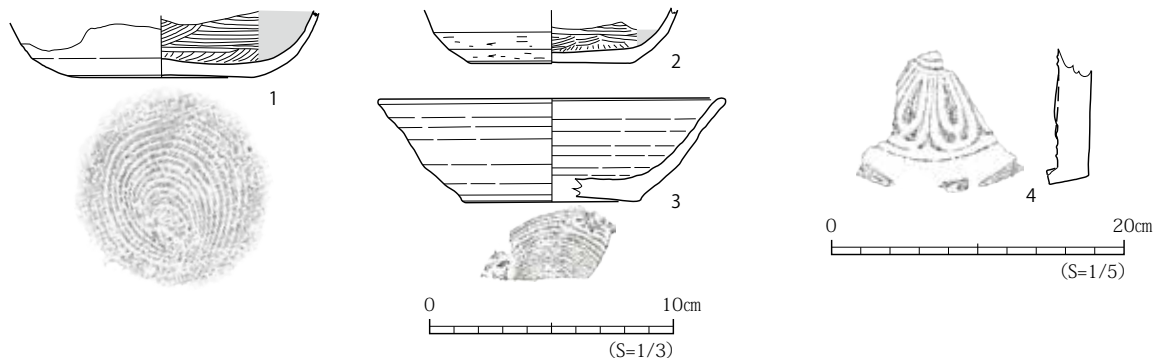
**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦、平瓦ⅠA・ⅡB類、土師器環、須恵器環がごく少量出土している。土師器環にはロクロ整形で、底部が回転糸切り無調整のものがある。

《SA2537 B柱列跡》

**規模・柱穴** B柱列の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長19.3m、柱間は北から約2.8m・約3.4m・2.8m・3.2m・7.1m（2間分）である。方向は、南北の基準線に対して北で東に約3°振れている。柱穴は一辺0.9～1.2mの隅丸長方形で、深さは北端の柱穴で約0.7mあり、炭とブロック状の焼土を多く含む褐灰色や灰黄褐色（10YR4/1・4/2）の粘土で

埋め戻されている。柱痕跡は褐灰色（7.5YR4/1）のシルトで、直径20～30cmの円形を呈す。

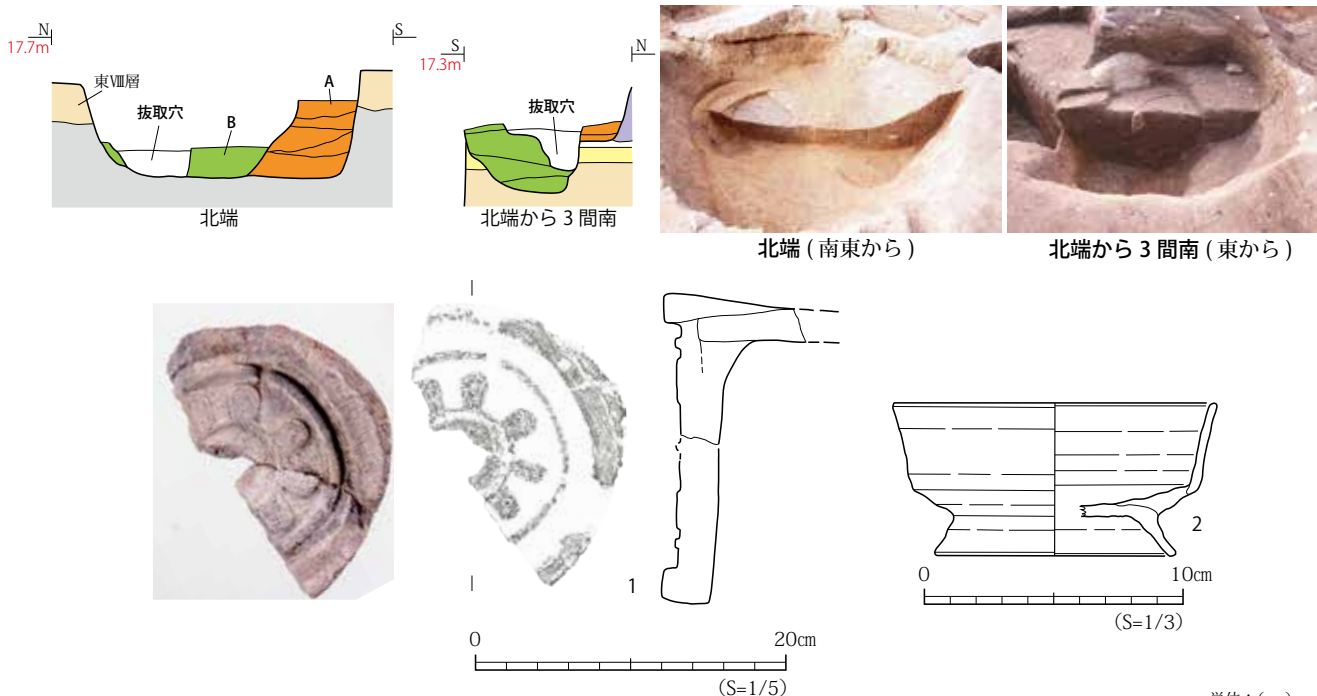
遺物は、柱穴掘方から土師器・甕、須恵器・甕、柱切り取穴から重弁蓮花文軒丸瓦（型番不明）、丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器・甕、須恵器・高台杯（図版52-2）・甕、柱痕跡から歯車状文427軒丸瓦（1）、丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠCa・ⅡBa類、土師器・甕、須恵器・蓋が出土している。土師器はいずれもロクロ整形のものである。



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SA2532 柱痕跡	70	土師器・甕	3/4	—	7.8	—	底：回転糸切 内：放射状ミガキ		SA2532-R1	B13019
2	SA2534 抜・切取穴	70	土師器・甕	1/2	—	(6.8)	—	底～体下部：回転ケズリ 内：横方向ミガキ		SA2534-R1	B13019
3	SA2534 抜・切取穴	70	須恵器・甕	1/4	(14.2)	(7.8)	4.2	底：回転糸切		SA2534-R4	B13019

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
4	SK2534 抜・切取穴	70	軒丸瓦	破片	細弁蓮花文311	瓦当厚2.2		SK2534-R7	B13028

図版51 SA2532・2534柱列跡出土土器・瓦



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2537B 柱痕跡	71	軒丸瓦	瓦当1/2	歯車状文427	直径(19.8) 瓦当厚3.5～4.0		52-1	SK2537-R3 B13166

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
2	SA2537 切取り穴	71	須恵器・高台杯	1/3	(7.9)	(4.0)	3.7	底：回転糸切 内：放射状ミガキ		SA2537-R1	B13143

図版52 SA2537柱列跡の柱穴と出土土器・瓦

**【SA2600 柱列跡】** (図版 37・53)

**検出状況** 北部の概ね E70・S171 から SB2592 建物跡の西側柱列に沿って 2.3 m 前後西を南に伸びる南北 2 間の柱列跡で、地山上面で検出した。SA2532 柱列跡、SI2607 住居跡、SD2651 溝より新しく、SK2619・2633 土壙より古い。柱穴は抜き取り穴に壊された北端から 1 間南以外の 3 個を検出し、南北両端の柱穴で柱痕跡を確認した。他の柱は抜き取られている。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡または柱抜き取り穴の中心に柱の位置を推定すると、総長 7.7 m、柱間は北から約 2.3 m・約 2.7 m・約 2.7 m である。方向は南北の基準線に対して北で東に約 6° 振れている。柱穴は一辺 0.4～0.8 m の隅丸長方形で、深さは南端から 1 間北の柱穴で約 0.6 m あり、ブロック状の地山土や炭粒を含む褐色や灰黄褐色 (10YR4/4・6/2) のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は暗褐色 (10YR3/3) のシルトで、直径 25cm 前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、掘方から平瓦 II B a 類、土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯、抜き取り穴から平瓦 I A 類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕、須恵系土器杯が出土したほか、柱痕跡から土師器甕、須恵器杯・甕がごく少量出土している。掘方出土の土師器はすべてロクロ整形のものである。

**【SA2601 柱列跡】** (図版 37・53・136)

**検出状況** 北部の概ね E76・S172 から南に伸びる南北 3 間の柱列跡で、東 V a 層および地山の上面で検出した。北端の柱穴以外は SA2602 柱列跡の柱穴とほぼ同位置にある。一度作り替えられており (A→B)、SB2593 建物跡より新しく、SA2602 柱列跡、SK2634・2635 土壙より古い。ほかに SB2592・2512・2513 建物跡とも重複するが、直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

柱穴は A・B とともに 4 個検出したが、A は B に壊されており、また、B は SA2602 A に壊されている。A では柱痕跡を 2 ヲ所、B では南北両端で柱の抜き取り穴または切り取り穴を検出した。

《SA2601 A 柱列跡》

**規模・柱穴** A 柱列の規模や方向は、柱穴が B の柱穴にほぼ同位置で壊されていることから、B とほぼ同様と推定される。柱穴は残りの良い箇所推定すると、少なくとも一辺 0.5 m 程の隅丸方形とみられる。深さは北端の柱穴で約 0.5 m で、地山の礫片を多く含むにぶい褐色 (7.5YR5/3) のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は黒褐色 (10YR3/1) のシルトで、直径 30cm 弱の円形を呈す。

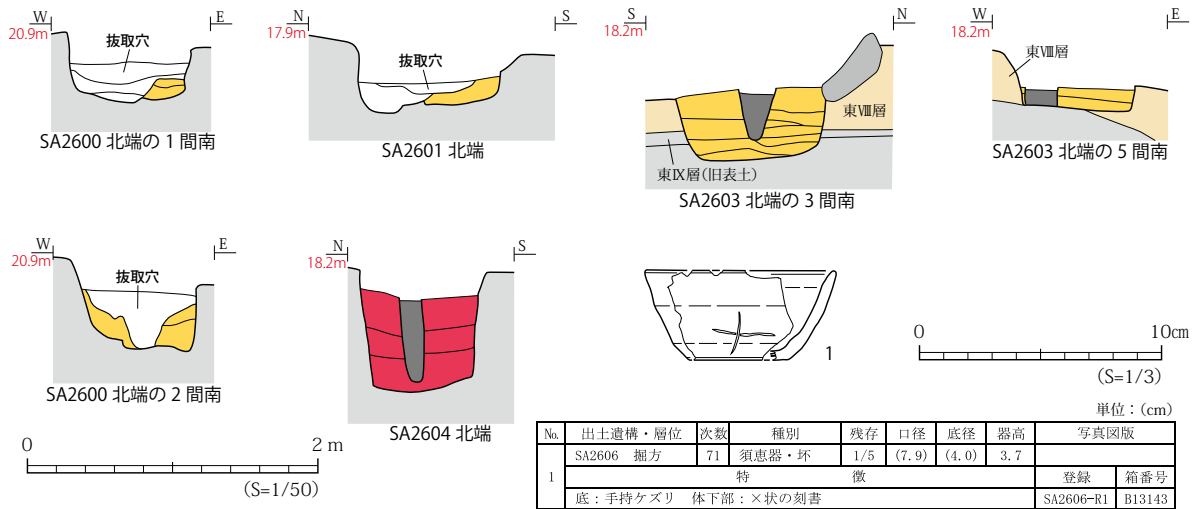
**出土遺物** 遺物は、柱痕跡から土師器杯・甕、須恵器杯・甕が少量出土したほか、風字硯 (図版 136-1) が出土している。

《SA2601 B 柱列跡》

**規模・柱穴** B 柱列の規模は、柱穴や柱抜き取り穴の中心に柱の位置を推定すると、総長約 8.8 m、柱間は北から約 2.7 m・約 3.0 m・約 3.1 m である。方向は南北の基準線にほぼ一致する。

柱穴は一辺 0.5～0.9 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは北端で約 0.5 m あり、地山の礫片を多く含むにぶい褐色 (7.5YR5/3) の粘土質シルトで埋め戻されている。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から土師器杯、須恵器杯・甕、須恵系土器杯が少量、柱の抜き取り穴から二重弧文軒平瓦 (型番不明)、丸瓦 II B 類、平瓦 I A・II B a 類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕、須恵系土器杯・高台杯のほか、灰釉陶器壺と鉄滓が出土している。



図版53 SA2600・2601・2603・2604柱列跡の柱穴とSA2606出土土器

【SA2602 柱列跡】 (図版 37)

北部の概ね E76・S174 から南に伸びる南北 3 間の柱列跡で、東 V a 層および地山の上面で 検 出 状 況 検出した。北端の柱穴以外は SA2601 柱列跡とほぼ同位置にある。SA2601、SB2513・2592・2593 建物跡より新しく、SK2634 土壌より古い。ほかに SB2512 建物跡とも重複するが、直接的な重なりがなく、新旧は不明である。柱穴は 4 個検出し、北端以外で柱痕跡を確認した。北端の柱は抜き取り、または切り取られている。なお、本柱列跡では断割り等による精査はしていない。

規模は、柱痕跡と抜き取り穴の中心に柱位置を推定すると、総長約 7.0 m、柱間は北から約 2.6 m・ 規 模 ・ 柱 穴 2.5 m・1.9 m である。方向は南北の基準線にほぼ一致している。

柱穴は一辺 0.4～0.8 m の隅丸方形を呈す。深さは南・北端の柱穴で少なくとも 0.2 m 以上あり、地山の礫片と炭・焼土の粒を含む褐色 (10YR4/1) の粘土で埋め戻されている。柱痕跡は暗褐色 (10YR3/3) のシルトで、直径 25～30cm の円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から平瓦 I A 類、土師器坏、須恵器坏・高台坏、須恵系土器坏、柱の抜・切 出 土 遺 物 取り穴から二重弧文軒丸瓦 (型番不明)、丸瓦 II 類、平瓦 I A・II B a 類、土師器坏、須恵器坏・甕、

須恵系土器坏、灰釉陶器皿、鉄滓、柱痕跡から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器坏、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、砥石が出土している。

**【SA2603 柱列跡】** (図版 37・53)

**検出状況** 北部の概ね E83・S184 から南に伸びる南北 9 間の柱列跡である。地山および東Ⅷ層の上面で柱穴を 10 個検出し、8 カ所で柱痕跡を確認した。なお、他の遺構との重複関係はない。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長が 23.2 m、柱間は北から約 2.6 m・約 2.3 m・2.3 m・2.7 m・2.8 m・2.3 m・2.4 m・約 3.6 m・約 2.2 m である。方向は南北の基準線にほぼ一致している。柱穴は一辺 0.5～1.2 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは北端から 3 間南の柱穴で約 0.8 m、5 間南の柱穴で約 0.4 m ある。地山の礫片を含む明褐色 (7.5YR4/6) の砂質シルトで埋め戻されており、柱痕跡は褐色 (7.5YR4/4) のシルトで、直径 20cm 前後の円形を呈す。なお、遺物は出土していない。

**【SA2604 柱列跡】** (図版 37・53)

**検出状況** 中央北側の SB2510・2511 建物跡の両東側柱列の間を結ぶように位置する南北 3 間の柱列跡である。地山上面で検出し、SB2516・2517 建物跡、SD2641 溝より古い。柱穴は 4 個を検出し、両端の柱穴で柱痕跡、北端から 1 間南の柱穴で柱の抜き穴または切り穴を確認した。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡または抜き穴や柱穴の中心に柱の位置を推定すると、総長 8.3 m、柱間は北から約 2.8 m・約 2.6 m・約 2.9 m である。また、北・南両端の柱穴と SB2510 南東隅・SB2511 北東隅の柱穴との距離は 1.3 m 前後ある。方向は南北の基準線にほぼ一致する。

柱穴は一辺 0.8～1.0 m の隅丸方形を呈す。深さは北端の柱穴が約 0.8 m、南端の柱穴が約 1.1 m で、褐色 (7.5YR4/6) の粘土と黒褐色 (7.5YR3/2) の砂質土をブロック状に含む灰褐色 (7.5YR5/2) のシルトで埋め戻されている。柱痕跡はにぶい褐色 (7.5YR5/4) のシルトで、直径 20cm 前後の円形を呈す。なお、遺物は出土していない。

**【SA2605 柱列跡】** (図版 37)

**検出状況** 中央南側の概ね E71・S222 から南に伸びる南北 2 間の柱列跡で、東Ⅷ層の上面で検出した。SB2511 建物跡と重複し、その西側柱列南半の内側に沿って 3 個の柱穴が位置する。SB2511 の B より古いが、A とは直接の重なりがなく、新旧関係は不明である。また、最終的には東Ⅴ層に覆われている。検出した柱穴ではすべて柱痕跡を確認したが、断ち割り等による精査はしておらず、遺物も出土していない。

**規模・柱穴** 規模は、柱痕跡から総長 4.3 m、柱間は北から 2.2 m・2.1 m で、方向は南北の基準線にほぼ一致する。柱穴は一辺 0.4～0.5 m の隅丸方形で、明褐色のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は暗褐色のシルトで、直径 15cm 弱の円形を呈す。

**【SA2606 柱列跡】** (図版 37・53・134)

**検出状況** 中央南側の概ね E78・S223 から南に伸びる南北 3 間の柱列跡で、調査区の東壁から柱穴の西

半部を東V層上面で検出した。SB2511・2518 建物跡より新しい。柱穴は4個を検出したが、調査区の制約のため柱痕跡はみつからない。

規模は、柱穴の中心に柱位置を想定すると、総長が約6.4m、柱間は北から約2.2m・約2.1m・約2.1mである。方向は南北の基準線に対して北で概ね3°東に振れる。柱穴は一辺0.8～1.0m程の隅丸長方形と推定される。深さは北端で0.9m、南端で0.7mあり、焼土・炭粒を含む灰褐色や褐色、暗褐色（7.5YR4/2・4/4、10YR3/3）のシルトで埋め戻されている。 規模・柱穴

遺物は、柱穴掘方から丸瓦、平瓦ⅡB a類、土師器甕、須恵器坏・蓋・甕、須恵系土器坏、円面硯が少量出土した。須恵器坏には底部が手持ケズリ調整で、体下部に「×」のヘラ書きがあるものがある（図版53-1）。硯には十字の透かしと縦方向の条線がみられる（図版134-6）。 出土遺物

### iii. 竪穴住居跡

#### 【SI2607 住居跡】（図版37・54）

北部のE70・S180を中心に位置する平面形が南北にやや長い長方形の竪穴住居跡で、地山上面で検出した。SA2532・2600 柱列跡、SK2618 土壙と重複し、それらより古い。 検出状況

規模は南北が西辺で約3.2m、東西が北辺で約2.5mである。方向は西辺で東西の発掘基準線にほぼ一致している。床は地山の岩盤を床面とし、ほぼ平坦である。壁はほぼ直立し、高さは残りの良い西辺で約30cmである。 規模・床

住居内で主柱穴、カマド、周溝等の施設は検出されなかった。西辺中央にやや張り出した部分があるが、カマドを付設した痕跡はなく、焼面や焼土・炭の分布もみられなかった。 施設

堆積土は2層に細分される。1層が褐色（10YR4/6）、2層がにぶい黄褐色（10YR5/3）のシルトで、ともに地山の礫片を多く含み、人為的に埋め戻されている。 堆積土

遺物は、堆積土から丸瓦ⅠA類、平瓦ⅡB a類、土師器甕、須恵器坏・甕が少量出土している。土師器甕は非ロクロ整形のものである。 出土遺物

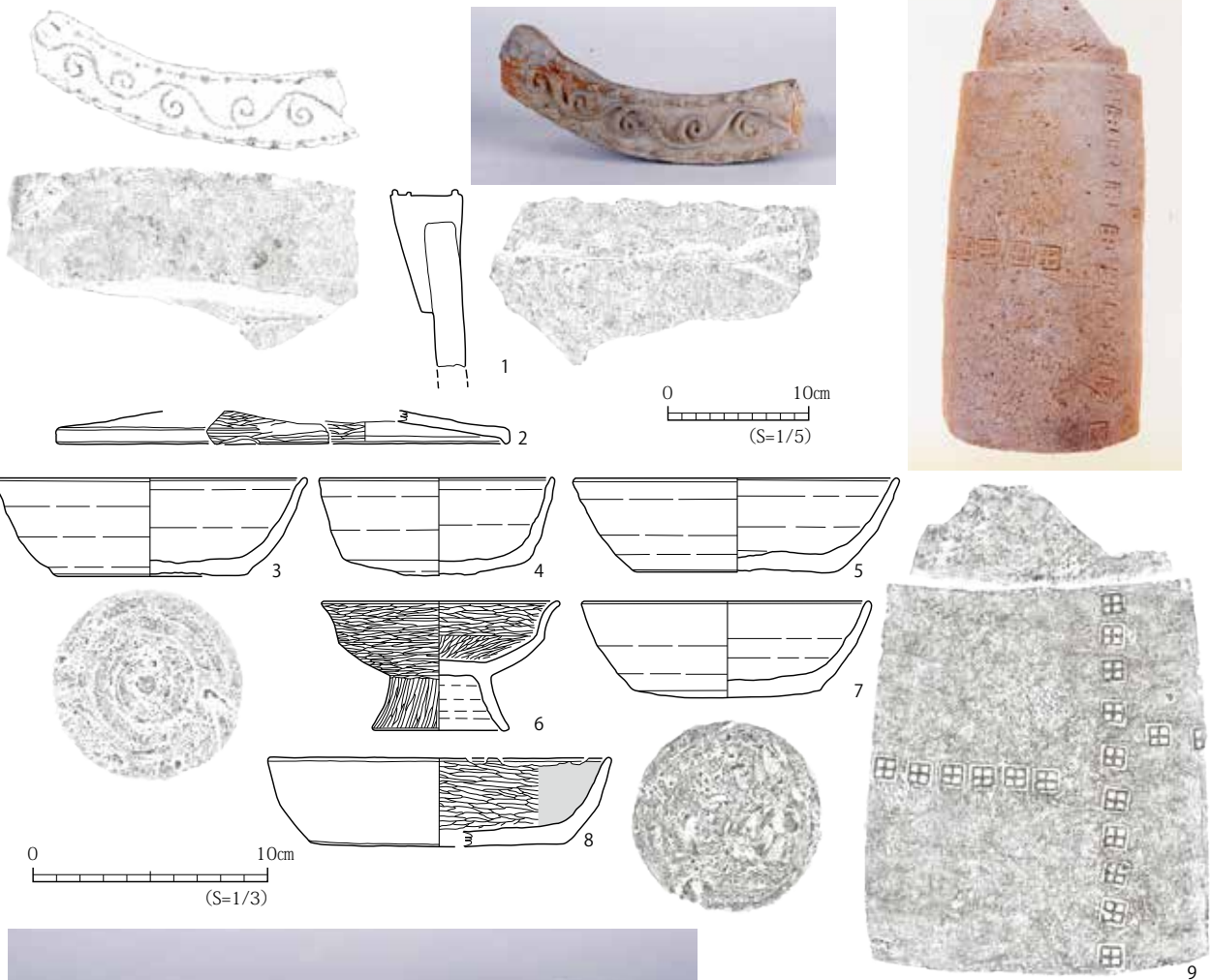
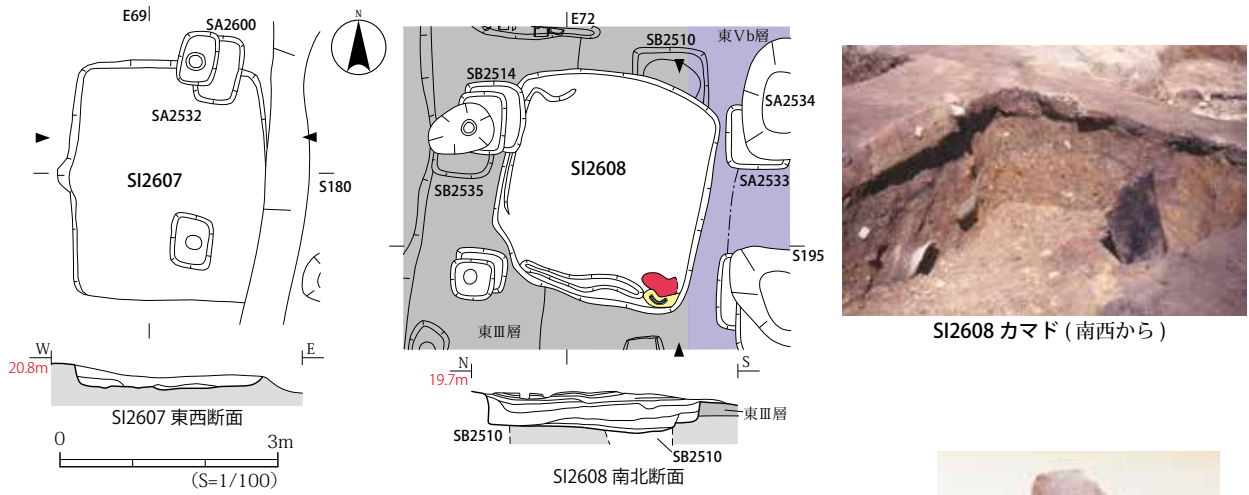
#### 【SI2608 竪穴住居跡】（図版37・54）

北部のE73・S194を中心に位置する平面形が南北にやや長い長方形の竪穴住居跡で、東Ⅲ・V b層の上面で検出した。SB2510・2535 建物跡より新しく、SB2514 建物跡より古い。 検出状況

規模は南北が東辺で約3.2m、東西が北辺で約2.9mである。方向は東辺で南北の発掘基準線に対して約11°東に振れている。床はほぼ平坦で、地山を岩盤まで掘り下げて部分的にブロック状の地山土を含む褐灰色（10YR4/1）のシルトを埋め戻して床面としている。壁はほぼ直立しており、高さは残りの良い北西部で約55cmある。 規模・床

住居内ではカマドと周溝を検出したが、主柱穴は見つからない。カマドは東辺南端に付設されている。側壁は大半が壊されているが、南側で少し残存し、芯材として平瓦が埋め込まれている。その北側では長軸（東西）約50cm、短軸（南北）約25cmの楕円形の焼面を確認した。なお、煙道は未確認である。周溝はカマド南側壁の手前から南・西辺をへて北西部まで確認した。幅約20cm、深さ10cm程の断面形がU字状の溝で、にぶい黄褐色砂質シルトが堆積している。 施設

堆積土は9層に細分され、厚さ5cm前後の4枚の炭化物層を挟みながらブロック状の地山土 堆積土



SI2608 出土土器

図版54 SI2607・2608住居跡

単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	S12608 1層	71	軒平瓦	瓦当1/2	偏行唐草文621	瓦当幅3.0	54-1	S12608-R18	B13165
9	S12608 6層	71	丸瓦	ほぼ1/1	II B類	長さ34.5 幅15.0 厚1.9。凸面に18個の刻印「田」A。被熱で酸化・摩滅	54-9	S12608-R11	B13165

No.	出土遺構・層位	回数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
2	S12608 床	71	土師器・蓋	破片	(19.2)	—	—	ロクロ整形。内外：ヘラミガキ→黒色処理		S12608-R1	B13146
3	S12608 5層	71	須恵器・坏	2/3	(13.2)	8.0	4.2	底：ヘラ切→軽いナデ		S12608-R4	B13146
4	S12608 3層	71	須恵器・坏	1/3	(10.0)	(7.8)	4.1	底：ヘラ切→軽いナデ		S12608-R5	B13146
5	S12608 3層	71	須恵器・坏	1/4	(13.8)	(8.4)	4.0	底：ヘラ切→軽いナデ		S12608-R6	B13146
6	S12608 3層	71	須恵器・高台坏	3/5	(10.2)	(6.8)	5.5	坏内外面：ヘラミガキ 脚外面：ヘラミガキ 脚内面：ロクロナデ		S12608-R7	B13146
7	S12608 2層	71	須恵器・坏	2/3	(12.4)	8.0	4.0	底：手持ケズリ		S12608-R8	B13146
8	S12608 1層	71	土師器・坏	1/3	(14.6)	(10.8)	3.7	外：摩滅 内：ミガキ		S12608-R9	B13146

や礫片を含む明褐灰色や褐色、黒褐色、暗褐色のシルトを埋め戻している。炭化物層以外に間層はみられず、廃絶後の住居跡の窪地で焼却と埋め立てが連続的に行われている。

遺物はカマドの芯材に用いた平瓦II B a類のほか、床面から平瓦I C a・II B a類、土師器蓋、須恵器坏がごく少量、堆積土から軒丸・軒平瓦、丸瓦II B類、平瓦I A・I C a・II B a類、土師器坏・蓋・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕、壁土が出土している。床面出土の土師器蓋は両面をミガキ調整後に黒色処理したものである（図版54-2）。

堆積土の軒丸瓦には重弁蓮花文（型番不明）、軒平瓦には偏行唐草文621（1）、二重弧文（型番不明）、丸瓦II B類には「田」Aの刻印を18個捺したものがあり（9）、丸瓦は他に「田」（2点）や「占」（3点）、平瓦には「田」や「物」（各1点）を刻印したものがあある。土師器では須恵器坏と類似した器形の坏があり（8）、ほかはすべて非ロクロ整形のものである。須恵器坏は底部をヘラ切り後にナデ調整するものと（3～5）、切離し後に回転または手持ケズリをするもの（7）があり、前者がやや多い。高台坏は脚部の内面以外をミガキ調整したものがあある（6）。

### 【S12609 竪穴住居跡】（図版37・55）

ほぼ中央のE76・S223に位置する東西にやや長い長方形の竪穴住居跡で、東VI・VII層の上面で検出した。SB2510建物跡、SX2557焼面より新しく、SA2537柱列跡、SB2518建物跡、SK2559土壌より古い。また、本住居は東V a層による整地（SX2631）で埋め戻されている。

規模は東西が北辺で約4.0m、南北が東辺で約3.1mであり、方向は西辺で南北の発掘基準線に対して約8°東に振れている。床は地山の礫片やブロック状の地山土および炭・焼土を多量に含む褐色（7.5YR4/4）のシルトによる掘方埋土を床面とし、ほぼ平坦である。壁は直立しており、高さは残りの良い北西部で約55cmある。

住居内では周溝を検出した。他にはカマドの存在が知られ、SB2518の柱穴に完全に壊されているが、柱穴の西側で煙道を検出しており、西辺南端に付設されていたとみられる。煙道の長さは約15cm、幅32cm程で、上部と西側が削平されているが、深さは約15cm残存し、暗赤褐色や赤褐色（5YR3/4・4/8）の焼土を含む褐色（7.5YR4/6）のシルトが堆積している。

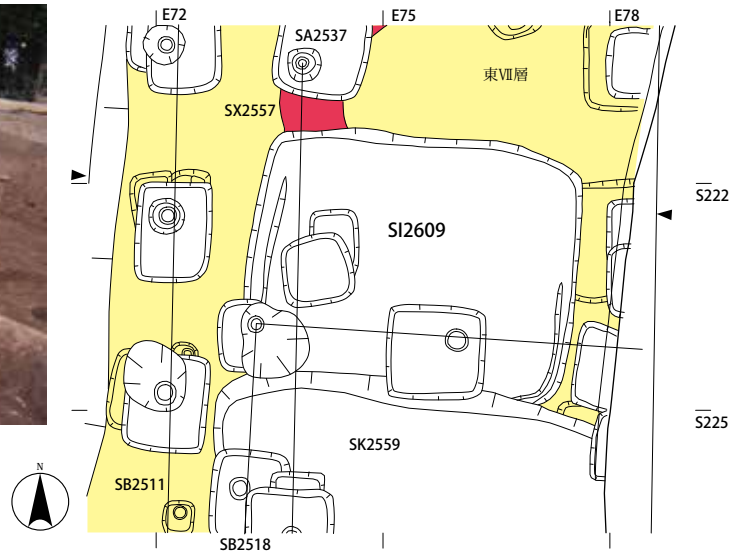
周溝は西辺と東辺南半から南辺にかけて確認した。幅18～30cm、深さ10cm程の横断面形がU字形の溝で、ブロック状の地山土や焼土、炭を含む褐色（7.5YR4/6）のシルトで埋め戻されている。

遺物は、床面から土師器坏がごく少量、堆積土から丸瓦II類、平瓦II B a類、土師器坏、須恵器坏・壺が少量出土している。土師器坏はいずれも非ロクロ整形のものである（図版55-1）、須恵器坏は底部をヘラ切り後に軽くナデ調整するものがあり（2）、壺は平城宮分類の壺Gにあたるも

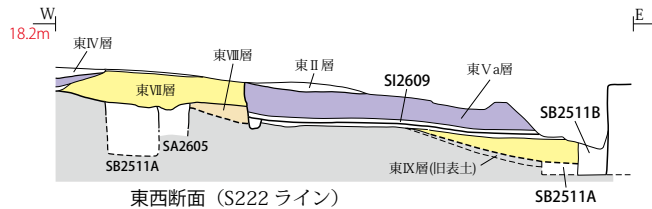




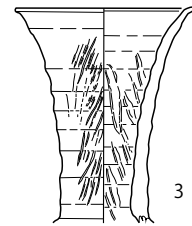
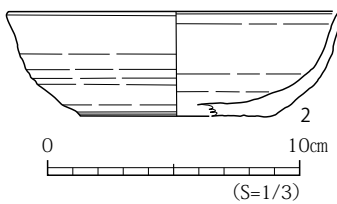
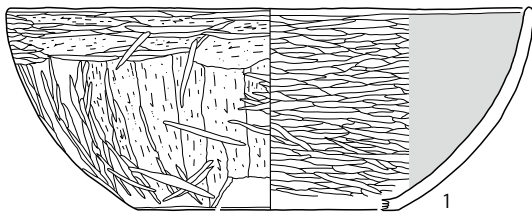
SI2609 住居跡 (南西から)



西側周溝部分断面 (南から)



東西断面 (S222 ライン)



(S=1/3)

単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SI2609 床	71	土師器・坪	1/2	(20.8)	(10.4)	8.0	外：手持ケズリ→ミガキ 内：ミガキ		SI2609-R3	B13146
2	SI2609 1層 (東Va層)	71	須恵器・坪	1/4	(13.4)	(7.6)	4.2	底：ヘラ切→軽いなデ		SI2609-R1	B13146
3	SI2609 1層 (東Va層)	71	須恵器・壺	頸破片	(7.0)	—	—	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→シボリ目 平城宮分類壺G		SI2609-R2	B13146

図版55 SI2609住居跡

のである(3)。なお、堆積土出土平瓦には「物」の刻印があるものがある。

#### iv. 鍛冶遺構・焼面

##### 【SX2563 鍛冶遺構】(図版 37)

**検出状況** 中央南側の E76・S231 付近の東Va層上面で検出した。平面形が直径約 35cmの円形を呈し、壁面が厚さ 5cmほど固化した小鍛冶に伴う遺構とみられるが、未精査のため詳細は不明である。SB2594 建物跡より新しい。

**出土遺物** 遺物は、遺構の確認時に須恵器坪がごく少量出土している。

##### 【SX2556 焼面】(図版 37)

北部の E73・S194 付近の東III層上面で検出した。SI2608 住居跡より新しい。長軸約 0.9 m、

短軸約 0.9 m の東西にやや長い楕円形の範囲が赤色～暗赤褐色に変色し、硬く焼き締まっている。

**【SX2557 焼面】**（図版 37）

ほぼ中央の E74～76・S219～221 付近に分布する焼面で、東 VI 層上面で検出した。SA2537 柱列、SI2609 住居跡、SK2558 土壌より古い。重複する新しい遺構に分断されているが、南北約 2.9 m、東西約 2.0 m の不整な範囲が赤く変色し、硬く焼き締まっている。

**【SX2561 焼面】**（図版 37）

中央南側の E74～77・S227～230 の範囲に点在する焼面で、東 IV 層上面で検出した。SK2559 土壌より新しく、SA2537 柱列より古い。南北約 2.8 m、東西約 2.4 m の不整な範囲が赤く変色し、硬く焼き締まっており、被熱の著しい箇所は約 1.5cm の厚さで赤色硬化している。

**【SX2564 焼面】**（図版 37）

中央南側の E75・S236 付近の東 VI 層上面で検出した。SB2995 建物跡、SK2485 土壌より古く、それらに北側と西側が壊されているが、南北約 1.2 m、東西約 1.0 m の範囲が長方形に赤く変色し、硬く焼き締まっている。

**【SX2625 焼面】**（図版 37）

北部の E76・S181 付近の東 VI 層上面で検出した。SB2512・2513 建物跡より古く、それらに壊されているが、南北約 1.5 m、東西約 0.9 m の長方形の範囲が赤褐色（5YR4/8）に変色し、硬く焼き締まっている。

**【SX2626 焼面】**（図版 37）

中央北側から北部の E74～76・S194～204 の範囲に点在する焼面で、東 VI 層および地山の上面で検出した。SA2533・2534 柱列跡、SB2514・2535 建物跡より古く、それらと削平により分断されているが、上記の範囲内に最大で南北約 2.8 m、東西約 1.8 m、最小で南北・東西 0.6 m 程の不整な形の焼面が点在し、赤色～暗赤褐色に変色して硬く焼き締まっている。

## v. 溝

**【SD2475 溝】**（図版 37）

中央南側の概ね E76・S234 付近を伸びる南北溝で、東 V a 層上面で検出した。北側は削平されてお

検出状況

り、南側は南東に曲がりながら調査区外に伸びる。他の遺構とは重複しない。  
規模は長さが 2.9 m 以上、上幅が 0.5～0.6 m で、深さは約 0.1 m である。横断面形は皿状で、底面には平瓦を主体に瓦片が粗く敷かれており、南に低く傾斜している。堆積土にはぶい黄褐色（10YR4/3）のシルトで自然堆積土である。方向は南北の発掘基準線に対して北で 6°西に振れている。

規模・堆積土

遺物は、底面から取り上げた瓦に丸瓦 II A・II B 類、平瓦 II B・II B a 類がある。

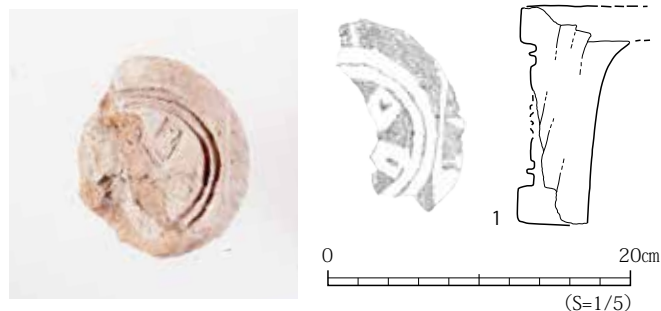
出土遺物

**【SD2641 溝】** (図版 37)

**検出状況** 中央北側の概ね E80・S207 から西にやや湾曲しながら伸びる南北溝で、地山上面で検出した。SA2604 柱列跡、SK2649 土壌より新しく、SB2516・2517 建物跡より古い。

**規模・方向** 規模は長さが 7.4 m、上幅が 0.7～0.9 m、深さが約 0.1 m で、横断面形は皿状を呈す。方向は南北の発掘基準線に対して北で 6°西に振れている。

**出土遺物** 遺物は、堆積土からロクロ整形の土師器甕がごく少量出土している。



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	写真図版	
1	SD2642	71	軒丸瓦	瓦当1/3	五葉重弁蓮花文113	56-1	
	特 徴					登録	箱番号
直径(14.0) 瓦当厚2.5						SD2642-R1	B13166

図版56 SD2642溝出土瓦

**【SD2642 溝】** (図版 37・56)

**検出状況** 中央北側の E71～76・S206 付近を伸びる東西溝で、地山上面で検出した。SB2535 建物跡に伴う SD2541 暗渠、SK2548 土壌より新しく、SK2551 土壌より古い。

**規模・方向** 規模は長さが 2.8 m、上幅が 1.0 m 前後、深さが約 0.2～0.3 m で、横断面形は U 字状を呈す。方向は東西の発掘基準線とほぼ一致する。

**出土遺物** 遺物は、堆積土から五葉の重弁蓮花文 113 軒丸瓦 (図版 56-1)、丸瓦 II B・II B a 類、平瓦 II B・II B a 類、土師器杯・甕、須恵器杯・甕が少量出土している。土師器杯にはロクロ整形のものがある。

vi. 土壌

**【SK2481 土壌】** (図版 37・57・128)

**検出状況** 中央北側の概ね E72・S212 を中心とする東西方向に長い溝状の土壌で、地山上面で検出した。SB2516・2517 建物跡、SK2482・2549・2550 と重複し、それらより新しい。

**規模・堆積土** 規模は東西約 10.7 m、南北 1.0～2.5 m、深さが約 0.6 m で、横断面形は皿状を呈す。堆積土は地山土が少し混じる暗褐色シルトで、自然堆積土である。

**出土遺物** 遺物は、底面から土師器甕、須恵系土器杯 (図版 57-1) がごく少量、堆積土から丸瓦 II 類、平瓦 I C a・II B a・II C 類、土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯・壺・甕、須恵系土器杯が出土したほか、灰釉陶器碗、鉄釘が出土している。土師器杯・甕はロクロ整形のもので、須恵器杯には底部が回転糸切り無調整のものがある。灰釉陶器碗は東濃産のものである (図版 128-26)。

**【SK2482 土壌】** (図版 37・57・128・130・132・141)

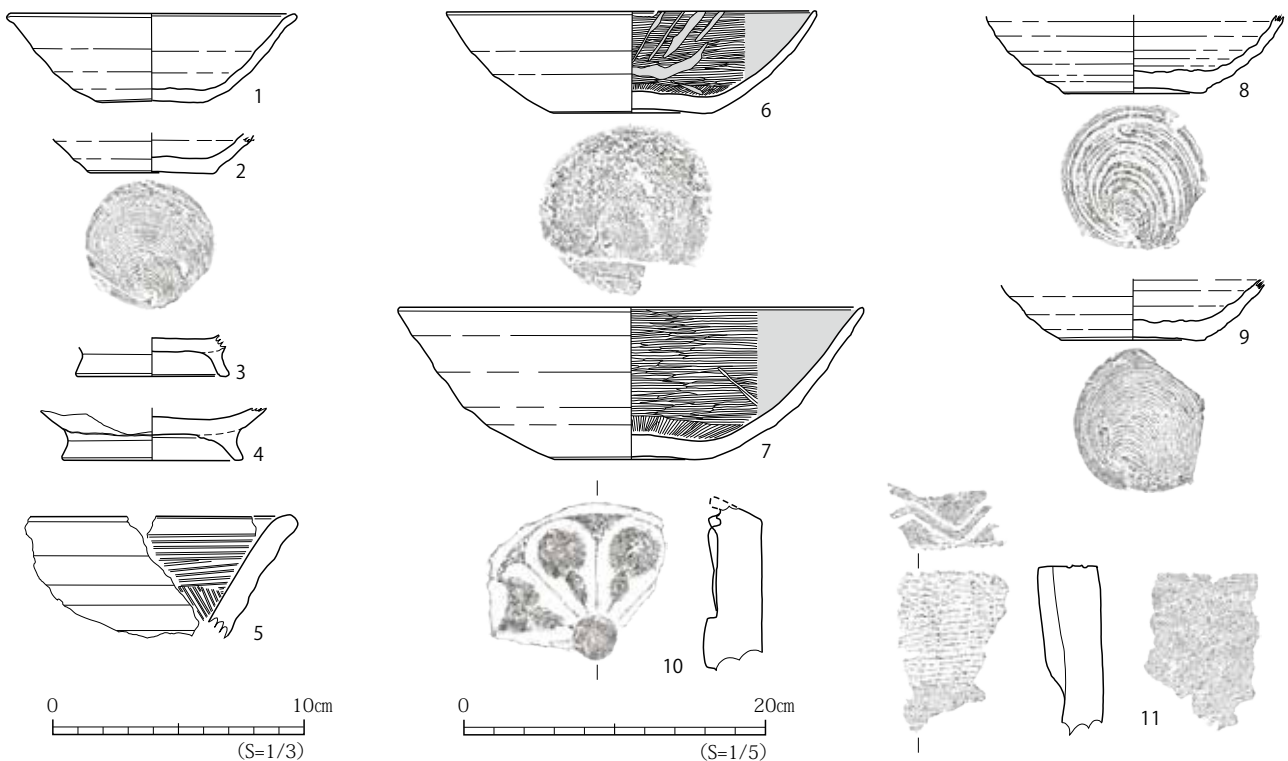
**検出状況** 中央北側の概ね E71・S211 を中心とする楕円形の土壌で、主に西側は地山、南東側は東 IV・V a 層の上面で検出した。北側は SK2481 土壌に壊されており、SB2511・2516・2517 建物跡、SK2554・2558・2639 土壌より新しく、SK2481 土壌より古い。

**規模・堆積土** 規模は長軸 8.9 m 以上、短軸 6.5 m 以上、深さ約 0.7 m で、横断面形は皿状を呈す。堆積土は

5層に分けられ、1・2層が炭片を含む褐灰色（10YR4/1・4/6）のシルト、3層がにぶい褐色（7.5YR5/4）の粘土、4・5層が明黄褐色と黄褐色（10YR5/6・6/6）の粘土で、いずれも自然堆積土である。なお、3層の直下では一部に灰白色火山灰の堆積がみられた。

遺物はやや多く、堆積土から軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB・ⅡC類、土師器・高台杯・須恵器鉢、須恵器杯・蓋・鉢・壺・甕、須恵系土器杯・高台杯・高台鉢（図版57-2～5）が出土したほか、灰釉陶器碗・深碗・壺、刀子（図版141-2）などの鉄製品、壁土がある。

軒丸瓦は重弁蓮花文222（図版57-10）、軒平瓦には二重弧文511と二重波文650b（11）があり、平瓦ⅡB類には「矢」Aの刻印のあるものがある。土師器はロクロ整形のものが主体をしめる。また、土師器と須恵器の杯では底径が小さく、底部が回転糸切り無調整のものが比較的にみられる（6～9）。他に須恵器鉢には京都府篠窯の製品があり（図版132-17）、灰釉陶器碗は尾張産（図版128-18）、深碗は東濃産のものである（図版130-12）。



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2481	69	須恵系土器・杯	3/4	11.4	4.8	3.5	底：回転糸切		SK2481-R1	B12870
2	SK2482 3層	69	須恵系土器・杯	底1/1	—	5.0	—	底：回転糸切		SK2482-R3	B12870
3	SK2482 3層	69	須恵系土器・高台杯	底1/4	—	(6.0)	—	底：回転糸切→高台貼付		SK2482-R11	B12870
4	SK2482 2層	69	須恵系土器・高台杯	底1/3	—	(7.2)	—	底：回転糸切→高台貼付		SK2482-R18	B12870
5	SK2482 2層	69	須恵系土器・鉢	破片	—	—	—	外：ロクロナデ 内：回転ハケメ		SK2482-R20	B12870
6	SK2482 2層	69	土師器・杯	4/5	14.4	6.2	4.1	底：回転糸切 内：放射状ミガキ		SK2482-R12	B12870
7	SK2482 1層	69	土師器・杯	1/1	18.2	6.2	6.0	底：回転糸切 外：摩擦 内：放射状ミガキ		SK2482-R21	B12870
8	SK2482 3層	69	須恵器・杯	底1/1	—	5.4	—	底：回転糸切		SK2482-R3	B12870
9	SK2482 2層	69	須恵器・杯	1/3	—	5.4	—	底：回転糸切		SK2482-R19	B12870

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
10	SK2482 1層	69	軒丸瓦	瓦当1/3	重弁蓮花文222	瓦当厚3.8		SK2482-R29	B12876
11	SK2482 3層	71	軒平瓦	破片	二重波文650b	瓦当幅4.0 平瓦厚2.6		SK2482-R25	B12876

図版57 SK2481・2482出土土器・瓦

**【SK2485 土壌】** (図版 37)

- 検出状況 中央南側の概ね E73・S236 を中心とする南北に長い楕円形の土壌で、東Ⅵ層上面で検出した。SB2594 建物跡、SX2564 焼面より新しく、SA2537 柱列跡、SB2595 建物跡より古い。
- 規模・堆積土と出土遺物 規模は長軸が約 4.5 m、短軸が約 2.5 m で、深さは約 0.3 m である。横断面形は皿状で、東Ⅴa 層による整地で埋め戻されている。なお、その状況から本土壌の出土遺物については、後述の東Ⅴa 層出土遺物のところで一括して述べる。

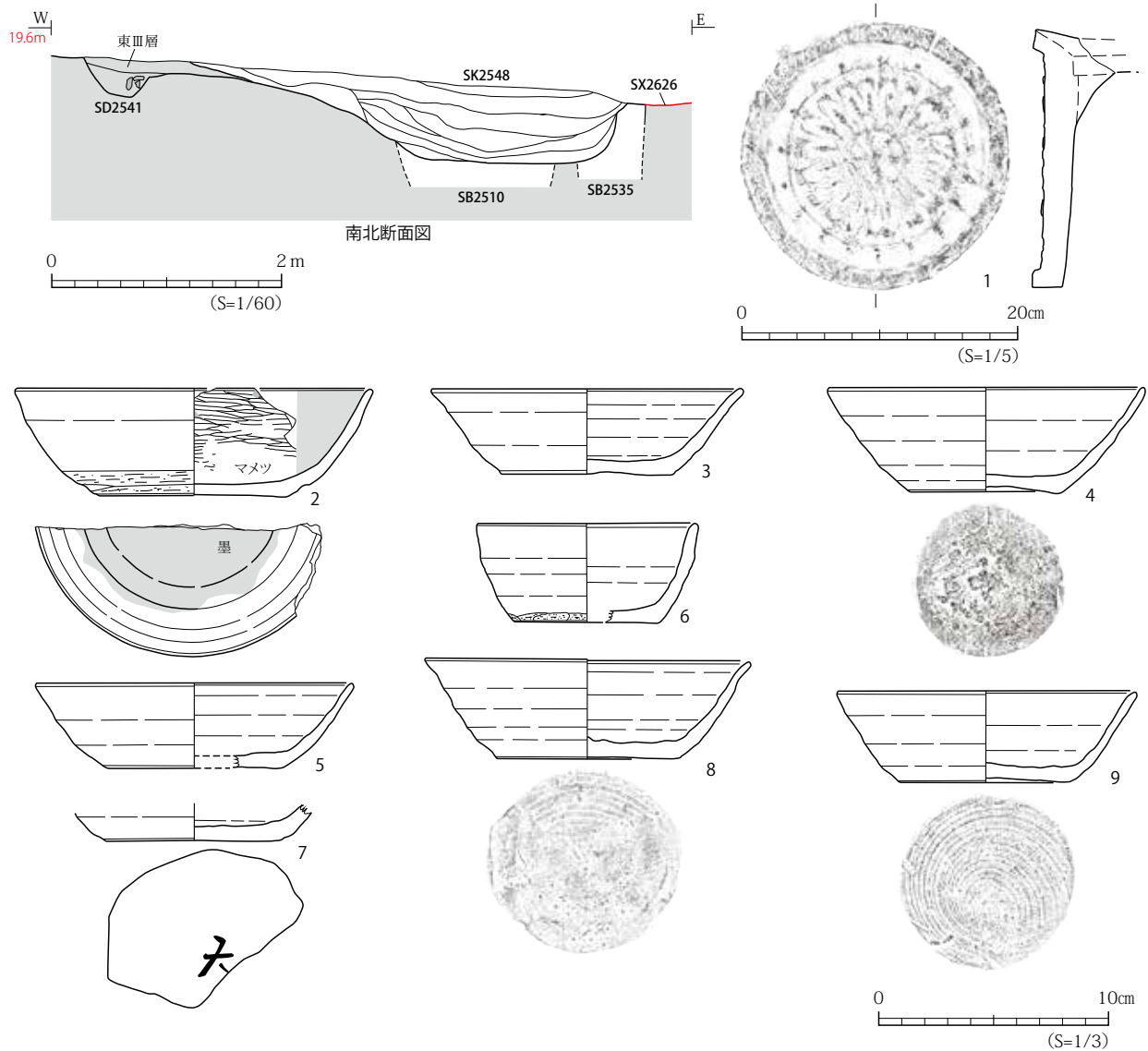
**【SK2548 土壌】** (図版 37・58・132)

- 検出状況 中央北側の概ね E72・S202 を中心とする南北に長い不整な楕円形の土壌で、西側は東Ⅲ層、東側は地山の上面で検出した。SB2510・2535 建物跡、SX2626 焼面より新しく、SD2642 溝より古い。
- 規模・堆積土 規模は長軸約 7.0 m、短軸約 3.7 m、深さ約 0.4 m で、横断面形は西側の傾斜が緩やかな逆台形状を呈す。堆積土は 8 層に細分され、1 層は地山土粒と炭粒を含むにぶい黄褐色 (10YR4/3) のシルト、2～4 層はブロック状の地山土を多く含む黒褐色やにぶい黄褐色 (10YR3/1・4/3) のシルト、5・6 層は炭を多く含む黒褐色やにぶい黄褐色 (10YR3/1・5/4) の粘土、7・8 層は粒状の地山土を多く含む褐色シルト (10YR4/4) で、いずれも人為的に埋め戻されている。
- 出土遺物 遺物はやや多く、埋土から軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦ⅠA・ⅡA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅡBa・ⅡBb・ⅡC類、土師器環・蓋・甕、須恵器環・蓋・盤・壺・甕が出土しているほか、緑釉陶器壺、角棒状の鉄製品、砥石、壁土などがある。

軒瓦は細弁蓮花文 310B 軒丸瓦 (図版 58-1)、凹面に「新□」の文字がヘラ書きされた二重弧文 511 軒平瓦があり、平瓦には「天」の刻印があるものがある。土師器はロクロ整形が主体で、環には底部切離し後に調整をするもの (2) と回転糸切り無調整のものがある。須恵器環はヘラ切り後にナデ調整や (3～5)、手持ケズリ調整をするもの (6・8)、回転糸切り無調整のもの (9) があり、底部に「大」の文字を墨書するもの (7) や内面に墨が付着したものもある。盤にも墨が付着したものがあり、ほかに会津大戸窯の製品 (図版 132-4) もみられる。

**【SK2551 土壌】** (図版 37・59・60・128・130・132・134)

- 検出状況 中央北側の概ね E75・S209 を中心とする東西に長い不整な楕円形の土壌で、地山の上面で検出した。SA2536 柱列跡、SB2516・2617 建物跡、SD2642 溝、SK2550 土壌より新しく、SK2549 土壌より古い。
- 規模・堆積土 規模は長軸約 6.8 m、短軸約 4.8 m、深さ約 0.4 m で、横断面形は皿状を呈す。堆積土は 3 層に細分され、1 層が褐色 (10YR4/6) のシルト、2 層は粒状の地山土や炭を含む褐色 (10YR4/1) のシルト、3 層は炭を多く含む黒褐色 (10YR3/2) の粘土である。
- 出土遺物 遺物は多く、堆積土から軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦ⅠA・ⅡB類、平瓦ⅠCa・ⅡBa・ⅡBb類、土師器環・高台環・耳皿・甕、須恵器環・高台環・高台皿・長頸瓶・壺・甕 (図版 60-20・21)、須恵系土器環 (18)・高台鉢 (19) が出土したほか、緑釉陶器壺・香炉蓋、灰釉陶器壺・皿・壺、円面硯 (図版 134-16)、置きカマド (図版 59-11) などがある。



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2548 3層	70	軒丸瓦	瓦当1/1	細弁蓮花文310B	直径18.8 瓦当厚2.5		SK2548-R29	B13028

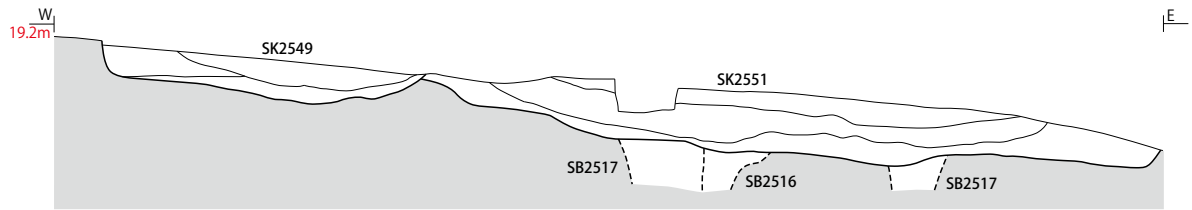
  

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
2	SK2548 6層	70	土師器・坏	1/3	(15.6)	(8.2)	4.7	底～体下部：回転糸切→回転ケズリ 内：横方向ミガキ		SK2548-R1	B13021
3	SK2548 5層	70	須恵器・坏	1/2	(13.6)	(7.4)	3.7	底：ヘラ切→軽いナデ		SK2548-R5	B13021
4	SK2548 4層	70	須恵器・坏	1/2	(13.8)	6.4	4.6	底：ヘラ切→軽いナデ		SK2548-R12	B13021
5	SK2548 4層	70	須恵器・坏	1/3	(13.8)	(7.6)	3.7	底：ヘラ切→軽いナデ 内：墨付着。研磨痕なし		SK2548-R9	B13021
6	SK2548 5層	70	須恵器・坏	1/4	(9.6)	(6.6)	4.3	底～体下部：手持ケズリ		SK2548-R4	B13021
7	SK2548 4層	70	須恵器・坏	底1/1	—	(7.4)	—	底：回転糸切 墨書「大」		SK2548-R10	B13021
8	SK2548 4層	70	須恵器・坏	3/4	14.2	8.0	4.4	底：回転糸切→手持ケズリ		SK2548-R8	B13021
9	SK2548 4層	70	須恵器・坏	1/3	(13.0)	7.4	4.0	底：回転糸切		SK2548-R7	B13021

図版58 SK2548土壌断面図と出土瓦・土器

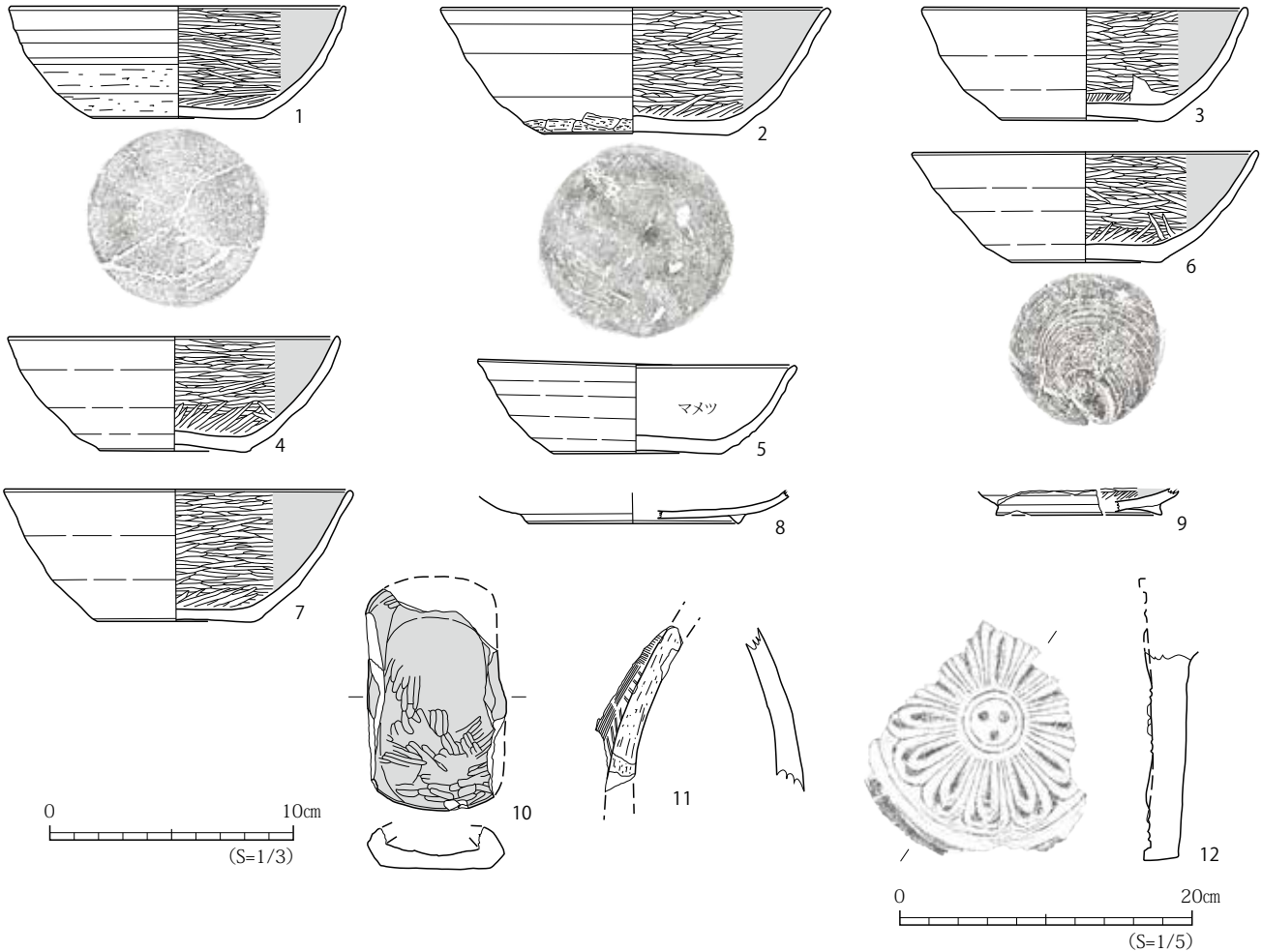
軒丸瓦には細弁蓮花文 311 (12)、軒平瓦には偏行唐草文 621、均整唐草文 721 があり、丸瓦ⅡB類には「占」(4点)、平瓦には「物」の刻印をしたものがある。

土師器はロクろ整形のものが主体で、坏は底部の切離し後に調整をするものと回転糸切り無調整のものがある(1～6)。高台坏は三日月高台や蛇目高台を模倣したのものがあ(8・9)、耳皿は両面をミガキ調整後に黒色処理したものである(10)。須恵器坏には底部がヘラ切りでナデ調



南北断面図

0 2m  
(S=1/60)



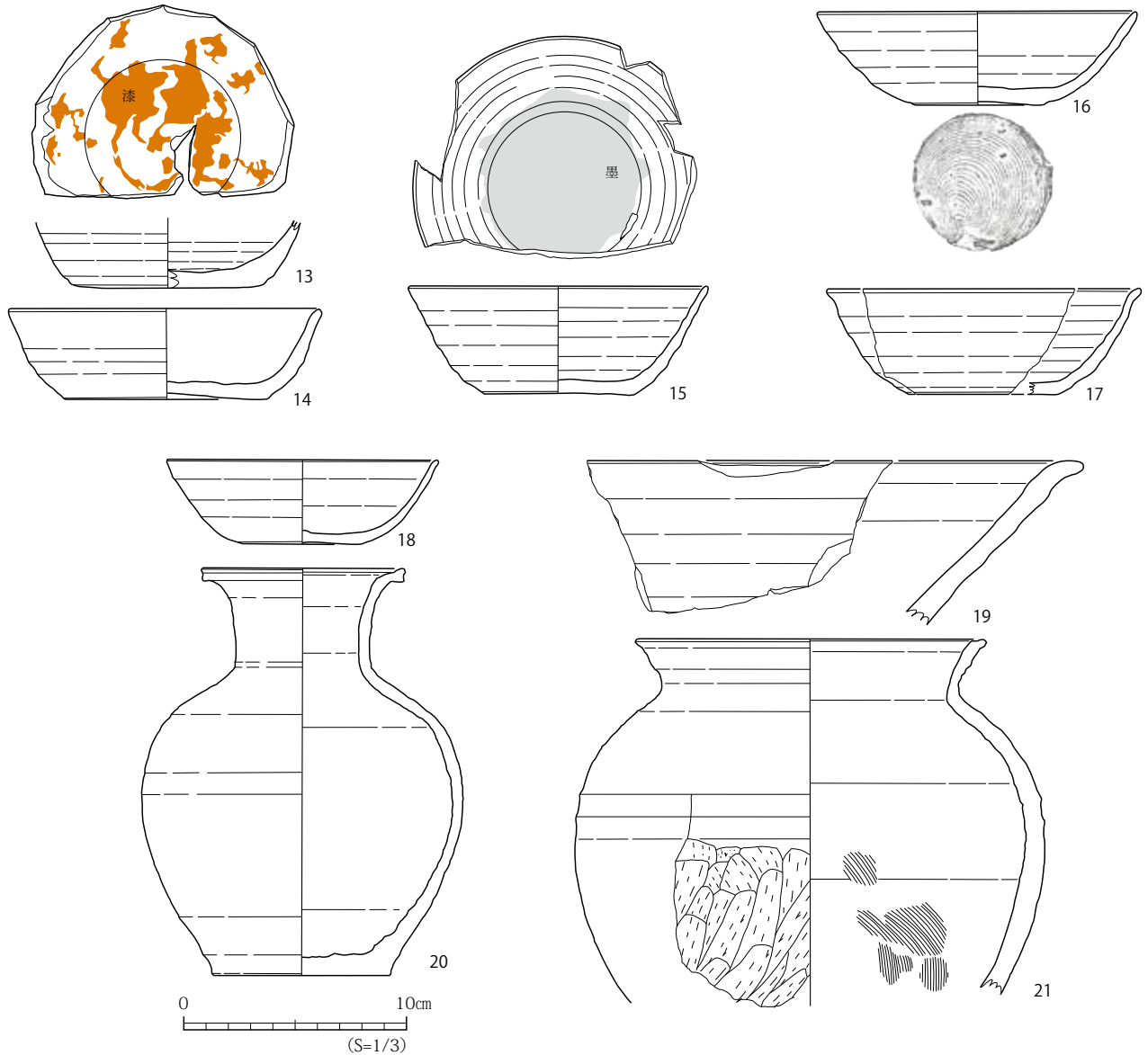
0 20cm  
(S=1/5)

単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2551 1層	70	土師器・坏	3/4	13.0	7.0	4.6	底～体中部：回転ケズリ 内：井桁状ミガキ		SK2551-R49	B13023
2	SK2551 2層	70	土師器・坏	2/3	(16.0)	7.6	5.1	底：切離不明→手持ケズリ 内：放射状ミガキ		SK2551-R25	B13023
3	SK2551 2層	70	土師器・坏	2/3	(13.4)	6.8	4.7	底：切離不明→手持ケズリ 内：横方向ミガキ		SK2551-R29	B13023
4	SK2551 1層	70	土師器・坏	1/3	(13.6)	6.0	4.7	底：回転糸切 内：放射状ミガキ		SK2551-R56	B13026
5	SK2551 1層	70	土師器・坏	3/4	13.1	7.0	3.8	底：回転糸切 内：摩擦		SK2551-R64	B13026
6	SK2551 2層	70	土師器・坏	4/5	14.2	6.2	4.6	底：回転糸切 内：放射状ミガキ		SK2551-R33	B13023
7	SK2551 2層	70	土師器・坏	4/5	14.2	6.8	5.4	ロクロ整形。底：摩擦 内：放射状ミガキ		SK2551-R35	B13023
8	SK2551 1層	70	土師器・高台坏	2/3	—	(8.8)	—	ロクロ整形。高台：径(8.8)cm。三日月高台の模倣 内：摩擦		SK2551-R53	B13023
9	SK2551 3層	70	土師器・高台坏	破片	—	—	—	ロクロ整形。高台：径(6.8)cm。蛇目高台の模倣 内：放射状ミガキ		SK2551-R20	B13022
10	SK2551 1層	70	土師器・耳皿	3/4	—	4.1	—	底：手持ケズリ 内外：ミガキ→黒色処理		SK2551-R80	B13026
11	SK2551 3層	70	置きカマド	破片	—	—	—	土師質。外：タタキ→ナデ 内：ヘラナデ 側面：ケズリ 器厚8～11mm		SK2551-R23	B13022

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
12	SK2551 1層	70	軒丸瓦	瓦当1/1	細弁蓮花文311	直径(19.4) 瓦当厚2.5		SK2551-R88	B13028

図版59 SK2551土壌出土瓦・土器



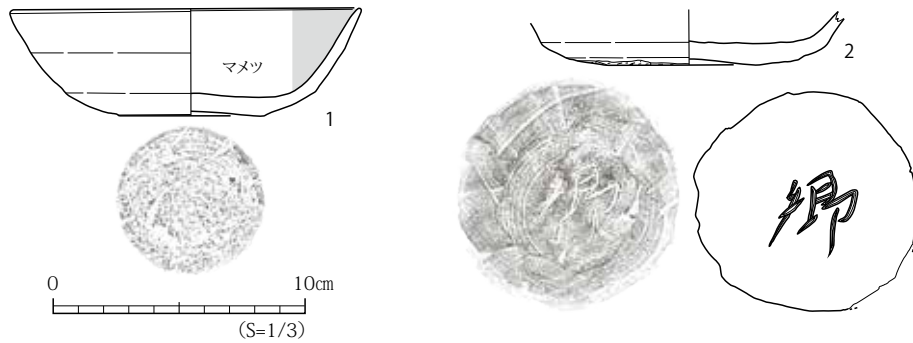
単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
13	SK2551 3層	70	須恵器・坏	1/2	—	8.6	—	底：ヘラ切→ナデ 内：漆付着		SK2551-R13	B13022
14	SK2551 2層	70	須恵器・坏	3/5	(14.0)	9.0	4.1	底：ヘラ切。二次加熱で全体的に剥落		SK2551-R48	B13023
15	SK2551 3層	70	須恵器・坏	2/3	(13.4)	6.6	4.9	底：回転糸切 内：墨付着。研磨痕なし		SK2551-R17	B13022
16	SK2551 2層	70	須恵器・坏	2/5	(14.2)	6.0	4.3	底：回転糸切		SK2551-R44	B13023
17	SK2551 1層	70	須恵器・坏	1/5	(12.4)	(5.0)	4.7	底：回転糸切		SK2551-R81	B13026
18	SK2551 2層	70	須恵系土器・坏	2/3	(12.2)	6.4	3.8	底：回転糸切。摩滅ぎみ		SK2551-R30	B13023
19	SK2551 3層	70	須恵系土器・高台鉢	破片	—	—	—	内外：ロクロナデ		SK2551-R9	B13022
20	SK2551 2層	70	須恵器・壺	1/2	(8.0)	(9.0)	18.3	底：回転糸切		SK2551-R45	B13023
21	SK2551 3層	70	須恵器・甕	口2/3	(15.8)	—	—	体下部：ケズリ 内：ヘラナデ		SK2551-R16	B13022

図版60 SK2551土壌出土土器

整したものと無調整のもの、回転糸切り無調整のものがあり（図版 60-13～17）、内面に漆や墨が付着したものがある。また、坏には尾張産、高台皿には出羽産、長頸瓶には会津大戸窯の製品がある（図版 132-5・10・11）。緑釉陶器香炉蓋は陰刻花文と透穴がある尾張産のもので（図版 128-11）、灰釉陶器碗にも尾張産のものがある（図版 130-5）。





単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2554 1層	70	土師器・坏	1/1	13.8	5.8	4.3	底：回転糸切 内：摩滅・剥落		SK2554-R1	B13021
2	SK2554 1層	70	須恵器・坏	2/3	—	8.8	—	底：回転糸切→手持ケズリ。焼成前のヘラ書き「郷」		SK2554-R3	B13021

図版61 SK2554出土土器

【SK2554 土壌】(図版 37・61)

**検出状況・規模** 中央北側の概ね E74・S214 を中心とする東西に長い不整な楕円形の土壌で、東V a層上面で検出した。SB2511・2516・2617 建物跡より新しく、SK2482 土壌より古い。

規模は長軸約 4.3 m、短軸約 2.5 m、深さ約 0.4 mで、横断面形は皿状を呈す。堆積土は炭を多く含む褐色(10YR4/4)のシルトや黒褐色(7.5YR2/2)の粘土である。

**出土遺物** 遺物は、堆積土から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠC・ⅡBa類、土師器坏・坩・甕、須恵器坏・甕、羽口が出土している。平瓦ⅡBa類には「物」A・Cや「丸」Aの刻印のあるものがある。土師器坏・甕はロクロ整形のものが主体で、坏は底部を回転糸切り後に回転ケズリ調整するものと無調整のもの(図版 61-1)、切離し後に回転または手持ケズリ調整をするものがある。坩は非ロクロ整形で、両面をミガキ調整後に黒色処理したものがある。須恵器坏には回転糸切りによる切離し後に体部下端まで手持ケズリ調整をしたものと無調整のものがあり、前者には底部の中央に「郷」の文字が焼成前にヘラ書きされたものがある(2)。

【SK2558 土壌】(図版 37)

**検出状況・規模** 中央南側の概ね E74・S217 を中心とする南北に長い長方形を基調とした土壌で、東VI層上面で検出した。SB2551 建物跡、SX2557 焼面より新しく、SB2516・2517 建物跡、SK2482・2554 土壌より古い。

**規模・堆積土** 規模は南北約 4.1 m、東西約 3.1 mで、深さは約 0.3 mである。横断面形は皿状で、東V a層による整地で埋め戻されている。なお、その状況から本土壌の出土遺物については、後述の東V a層出土遺物のところで一括して述べる。

【SK2559 土壌】(図版 37)

**検出状況** 中央南側の概ね E76・S227 を中心とするやや不整な南北に長い長方形の土壌で、東VI層上面で検出した。東側は調査区の外に伸びており、SB2511 建物跡、SI2609 住居跡より新しく、SA2537 柱列跡、SB2518 建物跡、SX2561 焼面より古い。

**規模・堆積土** 規模は東西 5.0 m以上、南北が約 2.5～4.8 mで、深さは約 0.6 mである。横断面形は皿状で、東V a層による整地で埋め戻されている。なお、その状況から本土壌の出土遺物については、後

述の東V a層の出土遺物のところで一括して述べる。

**【SK2616 土壌】** (図版 37)

北部の概ね E83・S177 を中心とするやや南北に長い楕円形の土壌で、東V a層および地山の  
 検出状況  
 上面で検出した。東端は調査区外にあり、また、南端には南から溝が取付く。なお、他の遺構と  
 は重複しない。

規模は長軸約 4.3 m、短軸 4.2 m以上で、深さは約 2.4 mである。堆積土は大別して上・下層  
 規模・堆積土  
 に分かれ、下層は粘性のある橙色や灰黄褐色、にぶい黄橙色 (7.5 YR6/8、10YR5/2・6/3) の  
 砂質シルトで、自然堆積土である。上層はブロック状の地山土や礫片を含む明褐色や橙色、明黄  
 褐色 (7.5 YR5/6・6/6、10YR6/6) の砂質シルトで、人為的に埋め戻されている。

南端に取り付く溝は、長さ約 4.1 m分を検出した。幅は約 1.2 mで、深さは検出面が高い西側  
 からで 0.3～1.0 m、検出面が低い東側からで 0.1～0.2 mである。横断面形はU字形で、底面  
 は土壌に向かって低く傾斜している。堆積土は土壌部分の下層と同様である。

なお、本土壌では土壌・溝部分ともに遺物は出土していない。

**【SK2618 土壌】** (図版 37)

北部の概ね E73・S180 を中心とする南北に長い長形状の土壌で、東V a層および地山の  
 検出状況  
 上面で検出した。SB2509・2512・2513・2592 建物跡、SI2607 住居跡、SK2636 土壌より新しく、  
 SK2619・2623・2624・2637 土壌より古い。

規模は南北約 6.8 m、東西約 3.2 mで、深さは約 0.2 mである。横断面形は皿状を呈し、堆積  
 規模・堆積土  
 土は3層に細分される。1層が炭粒を含む黒褐色 (10YR3/2)、2層が褐灰色 (10YR4/1)、3層  
 が地山の礫片を含む暗赤褐色 (5YR3/6) の砂質シルトによる自然堆積土で、1層の直上にはご  
 く薄い灰白色火山灰の堆積がみられた。

遺物は、堆積土から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器杯・甕、須恵器杯・壺・甕、須  
 出土遺物  
 恵系土器杯が出土したほか、砥石と壁土がある。

**【SK2619 土壌】** (図版 37・128・143)

北部の概ね E71・S175 を中心とする南北に長い長形状の土壌で、地山上面で検出した。  
 検出状況  
 SA2600 柱列跡、SB2592 建物跡、SK2618・2633 土壌より新しい。

規模は南北約 3.4 m、東西約 2.8 mで、深さは約 0.3 mである。横断面形は皿状で、堆積土は  
 規模・堆積土  
 2層に分けられる。1層が須恵系土器の破片を多く含む褐色 (7.5YR4/4)、2層が灰褐色 (7.5YR4/2)  
 のシルトで、ともに自然堆積土である。

遺物は、堆積土から丸瓦ⅡA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡBa・ⅡBb類、土師器杯・  
 出土遺物  
 高台杯、須恵器杯・壺・甕、須恵系土器杯・高台杯が出土したほか、灰釉陶器碗・皿・段皿・壺、  
 風字硯、釘 (図版 143-18) がある。灰釉陶器碗は東濃産のものである (図版 128-19)。

【SK2634 土壌】(図版 37)

検出状況・規模 北部の概ね E76・S178 を中心とする楕円形の土壌で、東 V a 層および地山上面で検出した。SA2601・2602 柱列跡、SB2512・2513・2592・2593 建物跡、SD2611 溝より新しい。規模は長軸約 2.3 m、短軸約 1.8 m で、深さは約 0.1 m である。横断面形は皿状を呈す。

出土遺物 遺物は、堆積土から二重弧文軒平瓦(型番不明)、丸瓦 II B 類、平瓦 II B a 類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、須恵系土器坏・高台坏が出土している。

vii. 堆積層ほかの出土遺物

これまで記載したほかにも、東区では堆積層(東 I～VIII 層)から遺物が出土している。そのうち、ここでは遺構面を形成する整地層(東 III・V・VII・VIII 層)の出土遺物について述べる。なお、表土(東 I 層)の遺物については、中央・西区も含めて本章(4)および次章に記載する。

東 III 層 《東 III 層出土遺物》

東 III 層は中央北側の SB2510 建物跡西側を中心に分布する整地層(SX2555)で、平瓦 II B a 類、土師器坏、須恵器蓋が少量出土している。土師器坏は非ロクロ整形のものである。

東 V 層 《東 V 層出土遺物》(図版 62・134・136・141・143)

東 V 層は SB2509・2510・2511 建物跡がある場所を中心に分布する整地層で、多量の炭と焼土ブロックを含む赤褐色シルトの a 層(SX2628・2631)と、褐色主体のシルト質砂による b 層(SX2632)がある。a 層は SB2509・2511 B の柱の切・抜き穴と SK2485・2558・2559 土壌、b 層は SB2510 B の柱の切・抜き穴なども埋め戻している。

b 層では平瓦 II B a 類、土師器坏、須恵器が少量出土した程度だが、a 層では SK2485・2558・2559 土壌部分を中心に遺物が多く出土しており、軒丸瓦、丸瓦 II B 類、平瓦 I A・II B a・II B b 類、土師器坏・蓋・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・壺・甕のほか、硯、刀子(図版 141-3)、鉄釘(図版 143-11)、鉄釘など角棒状の鉄製品、壁土、漆紙(文字なし)がある。

軒丸瓦には重圈文 241 があり(図版 62-1)、丸瓦 II B 類には「田」A、平瓦 II B 類には「物」の刻印があるものがある。土師器はロクロ整形のものを少し含むが、大部分は非ロクロ整形のものである。坏には平底のものがあり(2)、ほかに体部に段を持つ坏もみられる。須恵器坏は底部をヘラ切り後にナデ調整をするものが主体を占める(4～6)。ほかに底部を回転または手持ケズリで調整するもの(7・8)、回転糸切り後に周縁部を回転ケズリ調整するものがある(9)。硯は円面硯と風字硯がある(図版 134-1・20、図版 136-2)。

東 VII 層 《東 VII 層出土遺物》

東 VII 層は SB2510・2511 建物跡の建替えの際に行われた整地層で、丸瓦 II B 類、平瓦 I A・I C a・II B a 類、土師器坏、須恵器坏・蓋・壺・甕が少量出土している。土師器坏は非ロクロ整形のもので、須恵器坏には底部を回転ケズリ調整したものがある。



図版62 東V・VIII層出土瓦・土器

単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	東Va層 (SX2631)	71	軒丸瓦	瓦当1/1	重圏文241	直径18.4 瓦当厚3.2。被熱により酸化・煤付着	62-1	SK2485-R2	B13160

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
2	東Va層 (SX2631)	71	土師器・坏	4/5	(12.0)	(6.0)	3.6	非ロクロ整形。口：ヨコナデ 底～体部：ケズリ 内：黒色処理 全体に摩滅	62-2	SK2559-R1	B13145
3	東Va層 (SX2631)	71	土師器・甕	破片	—	—	—	非ロクロ整形。底：木葉痕 外：ハケメ 全体に摩滅		SK2559-R2	B13145
4	東Va層 (SX2631)	70	須恵器・坏	4/5	14.6	10.2	4.3	底：ヘラ切→軽いナデ		SX2558-R1	B13021
5	東Va層 (SX2631)	71	須恵器・坏	1/3	(13.4)	7.2	4.0	底：ヘラ切→軽いナデ	62-5	SK2559-R4	B13145
6	東Va層 (SX2631)	71	須恵器・坏	1/3	(13.8)	(7.8)	4.0	底：ヘラ切→軽いナデ		SK2559-R5	B13145
7	東Va層 (SX2631)	70	須恵器・坏	1/4	(7.6)	—	—	底：回転ケズリ		SX2559-R10	B13021
8	東Va層 (SX2628)	71	須恵器・坏	1/3	(16.2)	(9.4)	5.2	底：手持ケズリ	62-8	SX2628-R1	B13145
9	東Va層 (SX2631)	71	須恵器・坏	4/5	14.6	8.4	4.1	底：回転糸切→回転ケズリ (周縁)	62-9	SK2559-R3	B13145
10	東Va層 (SX2631)	71	須恵器・高台坏	2/3	(12.4)	8.4	4.6	体下部～底：回転ケズリ→高台貼付	62-10	SK2559-R6	B13145
11	東VIII層 (SX2629)	71	須恵器・坏	3/4	(15.8)	(13.2)	3.6	底：回転ケズリ	62-11	SX2629-R1	B13145

図版62 遺物観察表

東 VIII 層 《東VIII層出土遺物》(図版 62)

東VIII層は地山や旧表土の直上に位置しSB2510・2511 建物跡付近を中心に広く分布する整地層 (SX2629・2630) である。丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅠC類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が少量出土しており、須恵器坏には底径が大きく、底部を回転ケズリ調整したものがある (図版 62-11)。

(3) 西区

1) 層序 (図版 63～65)

西区では西側から沢が入り込む北西部と南西部、およびそれらの間で層序が異なり、現代の宅地造成による地形の改変も著しいため地点ごとに断絶した様相を呈している。以下、北から順番に各地点の層序を記す。

i. 北西部 (西区北部：図版 63・64)

北西部の層序

西側から入る沢により北西に下る緩やかな斜面となっている。層序は北西隅の調査区で10層 (北西Ⅰ～Ⅹ層) に大別された。現代の表土 (北西Ⅰ層) と旧表土・地山 (北西Ⅹ・Ⅹ層) の間の各層はいずれも自然堆積層で、西側の政庁南大路 (SX1411 道路跡) などの削り出しを挟んで堆積している。なお、北西隅調査区東側の未調査部分は、宅地造成時に地山の岩盤まで大きく削平されたとみられる箇所である。以下、各層の特徴を記す。

各層の特徴

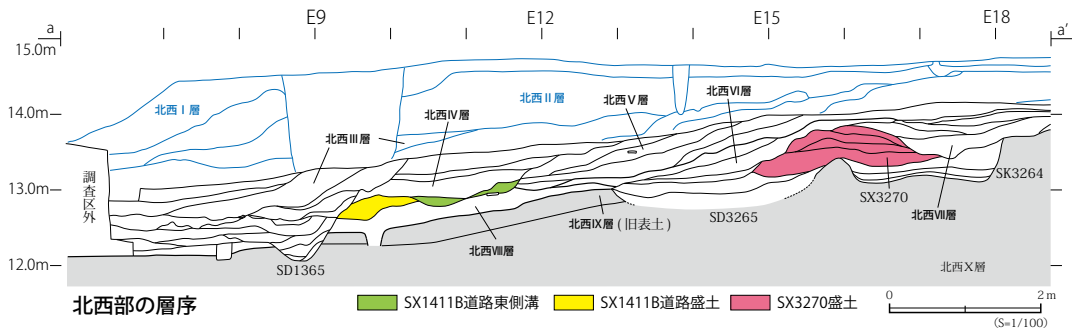
【北西Ⅰ層】 地山土のブロックを多く含む厚さ20～70cmの黄褐色土層 (10YR5/8) で、現代の宅地造成時の盛土である。

【北西Ⅱ層】 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 主体の砂質シルト層で、宅地造成前の表土である。厚さは調査区内の最大で約90cmある。

【北西Ⅲ層】 黄褐色や暗褐色、黒褐色 (10YR4/3・4/4・3/2) の砂質シルト層で、調査区北西隅に分布する。炭粒やブロック状の焼土・地山土を含み、厚さは調査区内の最大で約60cmある。須恵系土器片を含む。

【北西Ⅳ層】 炭粒を含む黄褐色や褐色 (10YR3/4・4/6) の砂質シルト層で、西側は東辺にSD1365溝を伴う平場の造成で削られている (『年報1983・2015』)。厚さは最大で約90cmである。

【北西Ⅴ層】 ブロック状の炭と地山土を多く含む褐色やにぶい黄褐色 (10YR4/3・4/4・3/2)



北西I～VI層(南東から)



北西V～VII層(南から)

### 図版63 北西部の層序

の砂質シルト層で、西側は政庁南大路（SX1411B 道路跡）の造成時に削られている。厚さは調査区内では最大約 50cmで、被熱して脆くなった焼瓦や炭が付着した瓦を多く含む。

- 【北西VI層】 ブロック状の炭と地山土を多く含むにぶい黄褐色（10YR4/3）の砂質シルト層である。上層と下層に細分され、下層ほど炭粒と焼土粒を多く含む。厚さは最大約 50cmで、瓦片を多く含み、そのなかには焼瓦や炭が付着した瓦もみられる。
- 【北西VII層】 灰黄褐色やにぶい黄褐色（10YR4/2・4/3）の砂質シルト層で、調査区北西側の旧表土上に分布するが、西側は政庁南大路（SX1411B 道路跡）などの造成時に削られている。厚さは最大で約 30cmある。
- 【北西IX層】 褐灰色シルトや黒色粘土（5YR4/1、10YR2/1）の旧表土。宅地の造成で削られた北西調査区の南東隅を除き、緩やかな傾斜で北西側の沢に広がる。10～20cm

の厚さがある。

【北西Ⅹ層】 明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルトから漸移的に明黄褐色（10YR6/6）の岩盤となる地山である。

## ii. 西区中央（図版 64）

### 西区中央の層序

宅地の造成で E18 ライン以西と E30 ライン以西がそれぞれ大きく削られており、E18～30 間の大部分は地山の岩盤が露出する平坦面となっているが、北西側に整地層（西Ⅱ層）の広がりが見られる。また、宅地化していた際の攪乱を利用した断面観察の結果、その下には自然堆積層を挟んで別の整地層や旧表土があることを確認した。

それらによる層序は 6 層（西Ⅰ～Ⅵ層）に整理される。いずれも北西部ほど分布状況が良く、北側の北西隅調査区に入る沢地形を反映しているが、宅地化の際に北西隅調査区がさらに一段低く削られているため、北西部の層序との関係は不詳である。以下、各層の特徴を記す。

### 各層の特徴

【西Ⅰ層】 地山土ブロックを含む黄褐色土層（10YR5/8）や暗褐色土層（10YR3/3）で、宅地造成時の盛土および耕作土である。厚さは 20～30cm である。

【西Ⅱ層】 地山土ブロックと暗褐色や灰黄褐色、にぶい黄褐色（7.5 YR3/3、10YR4/2・4/3）の砂質シルトによる整地層である（SX2856 上層）。全体的に酸化しており、厚さは調査区内の最大で約 40cm ある。

【西Ⅲ層】 褐灰色（10YR5/1）の比較的均質な粘土質シルト層で、西側に下る傾斜に沿って堆積している。厚さの 5cm 程の自然堆積層である。

【西Ⅳ層】 旧表土が不均質に混じるにぶい黄褐色シルト（10YR4/3）による整地層である（SX2856 下層）。東側では上面が比較的平坦だが、西側は丘陵の傾斜に沿って堆積しており、厚さは約 20cm ある。

【西Ⅴ層】 黒褐色シルト（10YR3/1）の旧表土。Ⅳ層と同様に東側は上面が平坦で、西側は丘陵の傾斜に沿って分布する。厚さは約 10cm である。

【西Ⅵ層】 明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルトから漸移的に明黄褐色（10YR6/6）の岩盤となる地山である。

## iii. 南西部（西区南部：図版 64・65）

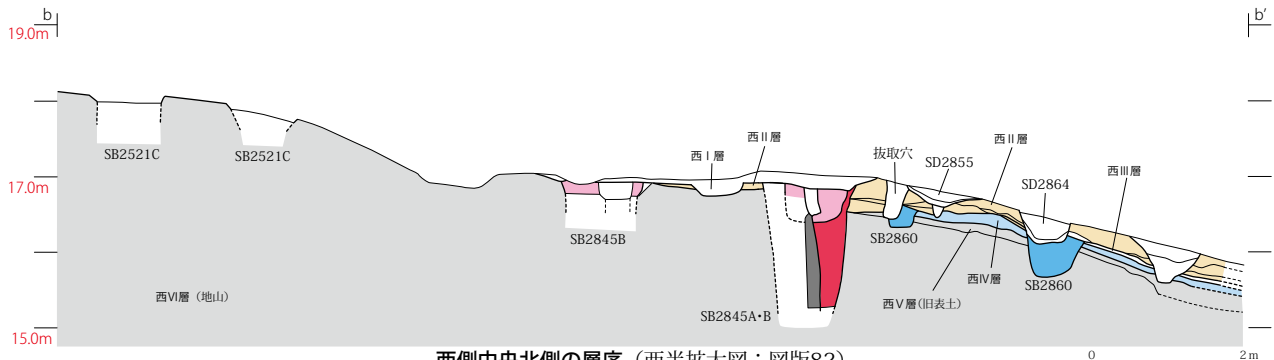
### 南西部の層序

西側から入る沢により南西に下る斜面となっている。層序は大別して 10 層（南西Ⅰ～Ⅹ層）に分けられた<sup>(註3)</sup>。この場所には、最初に地山の岩盤まで掘り込んだ大規模な SK2891 土壌があり、それを埋め戻した整地（南西Ⅶ層：SX2893）上面の窪みに自然流入土（南西Ⅵ層）が堆積したうえで、あらためて SK2891 よりも広い範囲で北側と東側を削り出し、南・西側には整地（南西Ⅴ層：SX2841）をして平坦面が造成されている。その上にさらにⅣ層以上の土が堆積する。以下、各層の特徴を記す。

### 各層の特徴

【南西Ⅰ層】 黒褐色やにぶい黄褐色（10YR3/2・4/3）シルトの表土で、現代の畑耕作土である。厚さは 10～30cm ある。

【南西Ⅱ層】 灰黄褐～褐色（10YR4/2～4/4）砂質シルトによる自然堆積層である。数枚に



西側中央北側の層序 (西半拡大図：図版82)

- 西II層・南西V層
- 北西IX層・西V層
- 西IV層・南西VII層
- 南西IX層(旧表土)



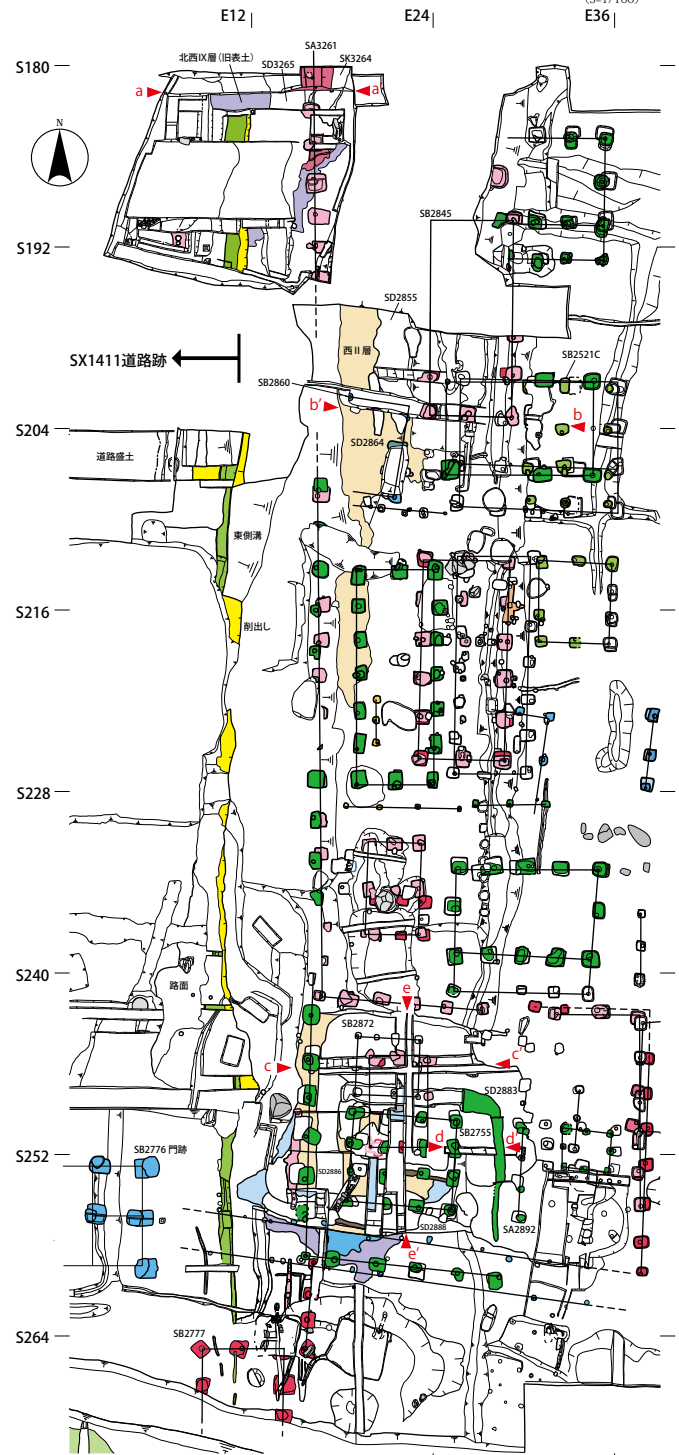
(北西から)



東側(北から)



西側(北から)



図版64 西区中央(北側)の層序



細分されるが、大きくは炭粒を含む比較的均質な上層と、炭粒が多く、焼土粒も含む褐色や暗赤褐色土が互層をなす下層に分けられる。厚さは上層が最大 25cm、下層が 10cm弱である。

- 【南西Ⅲ層】 灰黄褐や褐色（10YR4/2・4/3）の砂質シルト・粘土による自然堆積層で、上面で掘立柱建物跡の柱穴、溝などの掘り込みを確認している。数枚に細分されるが、大きくは均質な砂質シルトと粘土による上層（a層）と、炭・焼土粒を含む下層（b層）に分けられ、下層はそれぞれに薄い炭層や粘土層、砂層が焼土粒を含んで交互に堆積している。厚さは上層が 25cm前後、下層が 35cm前後である。
- 【南西Ⅳ層】 褐色（7.5YR4/3・4/4）の砂質シルト層で、平坦面の造成のために地山を削り出した北辺部や東辺部に堆積している。下位には地山土の小ブロックが含む。厚さは最大で 40cmある。
- 【南西Ⅴ層】 ブロック状の地山土主体の褐色（7.5YR4/6）シルト層で、SK2891 土壌埋め戻し後の窪みを完全に埋め戻し、北・東側の削り出しと併せて平坦面を造成した整地層（SX2841）である。層厚は南・西側ほど厚く、最大で約 55cmある。小さいブロック状の黒褐色土が少し混じる。
- 【南西Ⅵ層】 褐色（7.5YR4/3・4/4）や灰黄褐色（10YR4/2）の砂質シルト層で、SK2891 の北・東壁から南・西側に流入した自然堆積層である。数枚に細分され、下位では砂のラミナ状堆積がみられる。厚さは南・西側ほど厚く、最大で約 55cmある。
- 【南西Ⅶ層】 ブロック状の地山土を多量に含む黒褐色（7.5YR3/4）のシルト質粘土や褐色（7.5YR4/4）の粘土質シルトによる層で、SK2891 を埋め戻した整地層（SX2893）である。厚さは最大で約 65cmある。
- 【南西Ⅷ層】 地山土起源の薄い砂層と互層をなす黒褐色（7.5YR3/2）の粘土層で、SK2891 の底面に流入した自然堆積層である。堆積中に投棄されたはつり材が多く含まれており、最上面には腐食した植物層が薄く認められる。厚さは 20cm前後ある。
- 【南西Ⅸ層】 灰褐色（7.5YR4/2）シルトの旧表土である。SK2891 の南西外側で僅かに分布が認められ、やや粘性がある。厚さは 5cm前後である。
- 【南西Ⅹ層】 にぶい黄褐色や明黄褐色（10YR5/6・6/6）のシルトとその下位に位置する明黄褐色やグライ化したオリーブ灰色（10Y6/2）の岩盤による地山である。

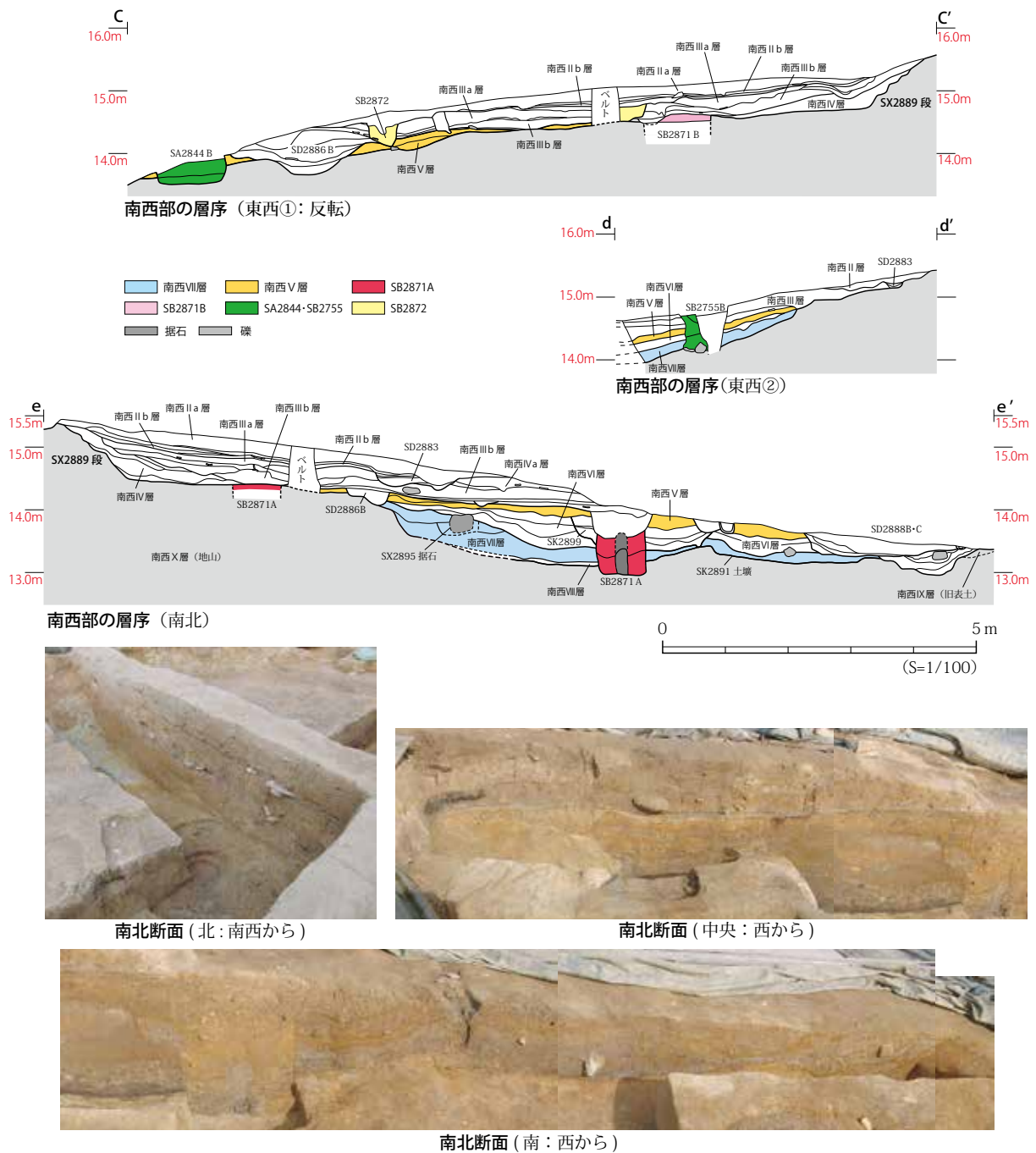
## 2) 西区の遺構と遺物

掘立柱建物跡 18 棟、材木堀・柱列跡 17 条、竪穴住居跡 4 棟のほか、多数の溝や土壌などを検出した。以下、建物跡と柱列跡を中心に主要な遺構について記す。なお、それ以外のものについては、ここで記載した遺構も含めて章末の第 9～13 表に特徴などを掲げた。

### i. 掘立柱建物跡

【SB2455 建物跡】（図版 67・69・70）

検出状況 中央南側の E30・S236 を中心とする桁行 4 間、梁行 3 間の南廂付き東西棟である。地山上面



図版65 南西部の層序(拡大図:図版84)

で検出し、同位置で一度建替えられている (A→B)。なお、他の遺構とは重複しない。

Aの柱穴は身舎で9個、廂で4個検出したが、Bに壊されている箇所が多い。柱痕跡は廂東端で確認したのみであり、遺物も出土していない。Bでは身舎の12個すべてと廂西端の柱穴を検出し、1カ所で柱痕跡、3カ所で上部が切り取られた柱痕跡、7カ所で抜き穴または切り穴を確認した。

《SB2455 A 建物跡》

身舎の規模は、柱穴がBと同位置で壊されていることからBとほぼ同様と推定される。柱穴の掘方はBよりやや大きく深いものがあり、身舎は一辺が0.7～1.3mの隅丸長方形で、廂は一辺0.6～1.0mの隅丸方形を呈し、深さは身舎の北東隅が約1.3m、廂東端が約0.6mある。埋土は礫

規模と柱穴

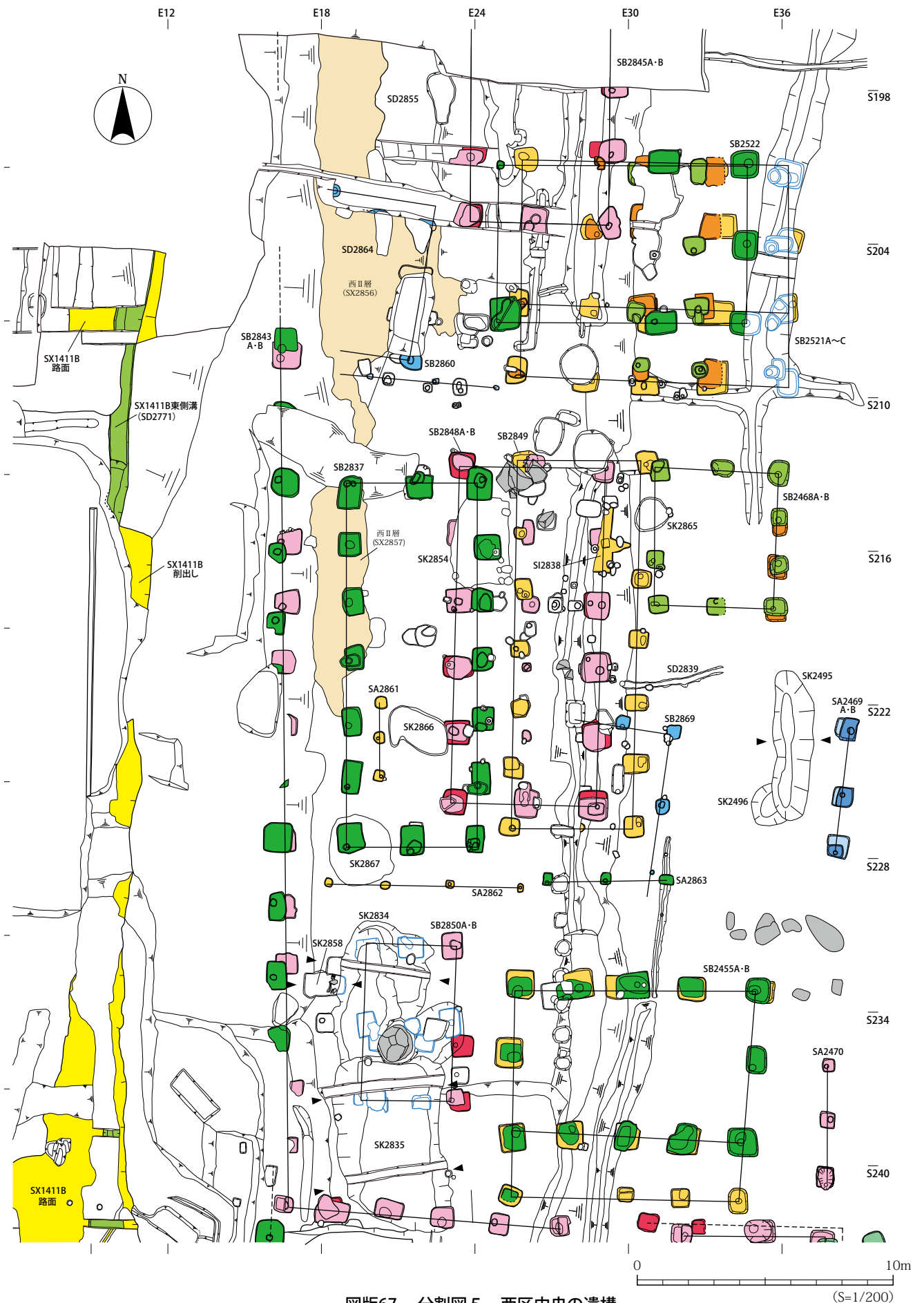
やブロック状の地山土を多く含む橙色や黄橙色、明黄褐色（7.5YR6/8・7/8、10 YR6/6）のシルトである。柱痕跡は黄褐色（7.5YR5/4）シルトで、直径 30cm弱の円形を呈す。

《SB2455 B建物跡》

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡もしくは柱抜き穴や柱穴の中心に柱の位置を推定すると、桁行が身舎の北側柱列で総長約 9.5 m、柱間は西から約 2.6 m・約 2.2 m・約 2.3 m・約 2.4 m、梁行が西妻で総長 8.0 m、柱間は北から約 2.6 m・約 2.8 m・約 2.6 m（廂）である。棟の方向は、北側柱列で東西の基準線にほぼ一致している。また、西妻は約 6.0 m北の SB2849 建物跡の西側柱列および約 8.6 m南の SB2755 建物跡の東側柱列と柱筋が揃う。ほかに、やや離れるが、身舎の南・



図版66 分割図4 西区北部から中央北側の遺構



図版67 分割図5 西区中央の遺構

北側柱列も約 16 m 東の SB2454 建物跡の身舎南・北側柱列と柱筋がほぼ揃う。

**柱 穴** 柱穴の掘方は身舎が大きく、廂はやや小さい。身舎は一辺 0.7 ～ 1.3 m のやや不整な長方形、廂は一辺 0.6 m 程の隅丸長方形とみられ、深さは身舎が北東隅柱穴で約 1.1 m、廂が西端で約 0.1 m である。埋土はともに少量の焼土と地山礫やブロック状の地山土を多く含む橙色や明褐色（7.5YR6/6・6/8・7/2）のシルトである。柱痕跡はにぶい褐色（7.5YR5/4）のシルトで、直径 30cm 弱の円形を呈す。なお、柱の抜・切取り穴は多量の炭と焼土を含む褐色や明褐色（7.5YR4/6・5/6）のシルトで埋め戻されている。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から軒丸瓦（型番不明）、丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕、柱痕跡から土師器甕、柱切取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠC・ⅡB類、土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・壺・甕、須恵系土器台付鉢（図版 69-3）が出土している。掘方出土の須恵器坏には底部が回転糸切り無調整のものがある（2）。また、切取り穴出土の土師器坏には底部を手持ケズリ調整するもの（1）と回転糸切り無調整のものがある。

**【SB2459 建物跡】**（図版 68・70）

**検出状況** 南部の概ね E34・S251 を中心に位置する桁行 2 間、梁行 2 間の東西棟で、地山上面で検出した。一度建替えられており（A→B）、その際には東妻は同位置のまま桁行の柱間を縮めてやや小規模化している。SK2486 土壌より新しい。また、SA2458 柱列跡、SA2463 材木堀跡とも重複し、A は SA2463 より古い。他は直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

柱穴は A・B とも 8 個検出し、A では 5 ヲ所で柱痕跡、1 ヲ所（西妻中央）で上部が切り取られた柱痕跡、1 ヲ所で柱の抜取り穴または切取り穴を確認した。一方、B では柱が抜き取りまたは切り取られた北西隅柱穴以外のすべてで柱痕跡を確認した。

《SB2459 A 建物跡》

**平面規模** A 建物の規模は、柱痕跡から桁行が北側柱列で総長 4.6 m、柱間は 2.3 m 等間、梁行が西妻で総長 2.7 m、柱間は北から 1.3 m・1.4 m である。棟の方向は、北側柱列で東西の基準線に対して東で南に約 3° 振れている。

**柱 穴** 柱穴は一辺 0.6 ～ 0.8 m の隅丸方形で、深さは北西隅柱穴で約 0.7 m ある。埋土は炭粒とブロック状の地山土を含む褐色やにぶい黄褐色（7.5YR4/3、10YR5/4）のシルトやにぶい黄褐色（10YR4/3）のシルト質砂である。柱痕跡は褐色（7.5YR4/3）のシルトで、直径 20cm 弱の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱痕跡から鉄滓が出土している。

《SB2459 B 建物跡》

**規模・方向** B 建物の規模は、柱痕跡または抜取り穴の中心に柱の位置を推定すると、桁行が北側柱列で総長約 3.1 m、柱間は東から 1.6 m・約 1.5 m、梁行が西妻で総長約 2.5 m、柱間は北から約 1.1 m・1.4 m である。棟の方向は、北側柱列で東西の基準線に対して東で南に約 5° 振れている。また、北側柱列は約 1.5 m 西の SA2892 柱列跡北端の柱穴を通して、約 5.7 m 西の SB2755 建物跡の北側柱列と柱筋が揃う。

**柱 穴** 柱穴は一辺 0.3 ～ 0.5 m の隅丸方形で、深さは北西隅と西妻中央の柱穴で約 0.3 m ある。埋土

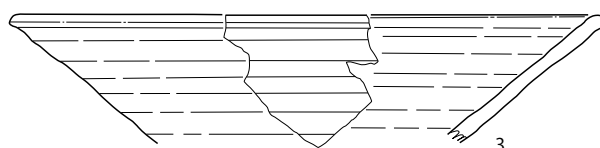
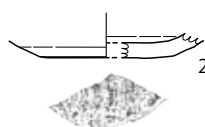
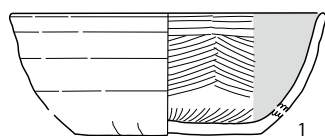




(南から)



(東から)



0 10cm  
(S=1/3)

										単位：(cm)		
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴		写真図版	登録	箱番号
1	SB2455 切取穴	69	土師器・坏	1/3	(12.6)	6.8	4.9	底：手持ケズリ 内：横方向ミガキ			SB2455-R6	B12869
2	SB2455 掘方	69	須恵器・坏	破片	—	5.4	—	底：回転糸切			SB2455-R1	B12869
3	SB2455 掘方	78	須恵系土器・台付鉢	破片	(13.4)	6.8	4.7	底：手持ケズリ 内：横方向ミガキ			SB08-R1	B13023

図版69 SB2455建物跡と出土土器

は炭粒とブロック状の地山土・礫を含む褐色や明褐色（7.5YR4/3・5/8）の砂質シルトである。柱痕跡はにぶい黄褐色（10YR4/3）のシルトで、直径約15cmの円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、柱痕跡から丸瓦片、平瓦ⅠA類、土師器甕がそれぞれ少量出土している。

【SB2468 建物跡】（図版 67・70）

**検出状況** ほぼ中央のE34・S215を中心とする桁行3間、梁行2間の南北棟で、地山上面で検出した。同位置で建替えられており（A→B）、SB2849 建物跡より新しく、SK2865 土壇より古い。

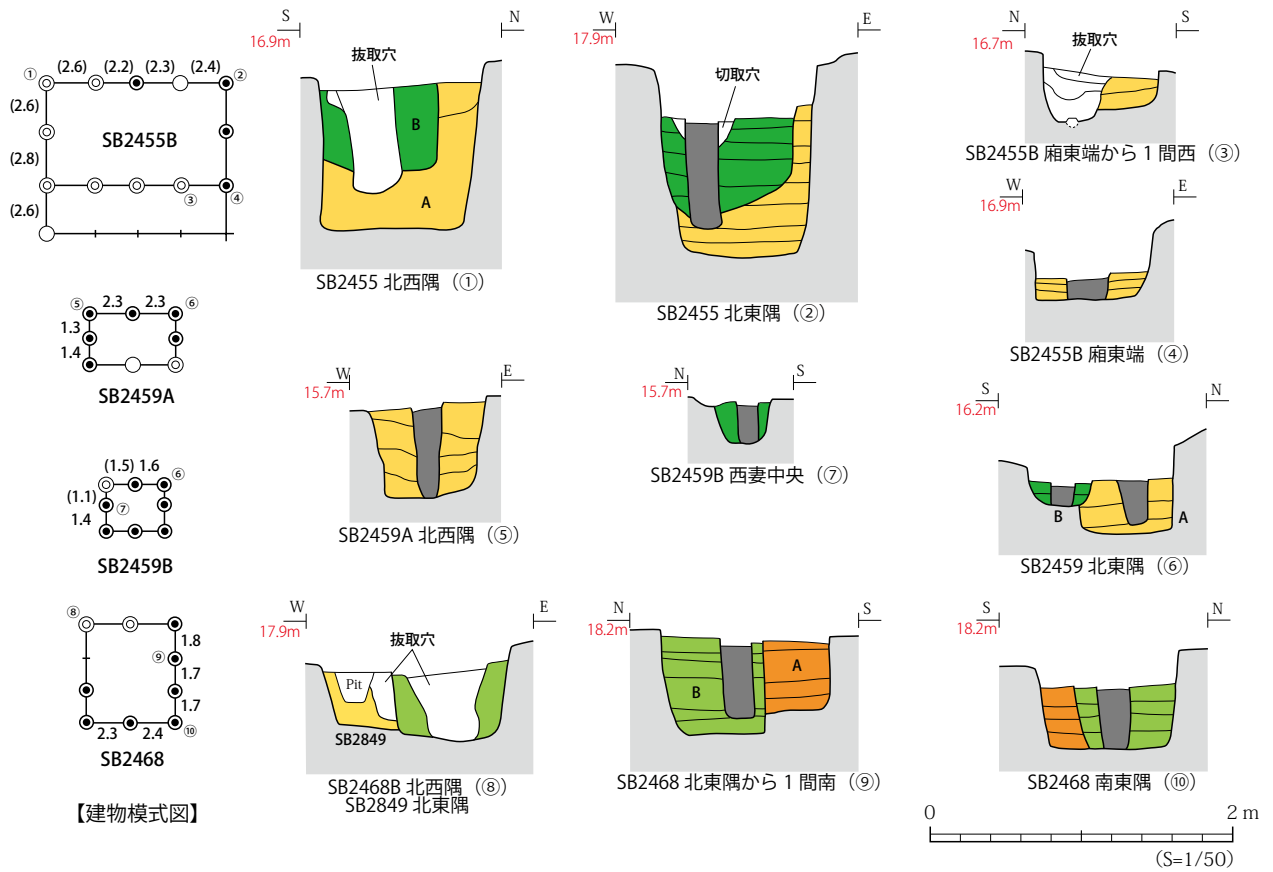
Aの柱穴はBに大部分が壊されており、東側柱列で3個検出したのみである。柱痕跡は確認されず、遺物も出土していない。Bの柱穴はSK2865に壊された北西隅から1間南以外の9個を検出し、5カ所で柱痕跡、西側柱列の2カ所で上部が切り取られた柱痕跡、北妻の2カ所で柱の抜き穴または切り取り穴を確認している。

《SB2468 A 建物跡》

**規模と柱穴** 柱穴の大部分がBの柱穴に壊されており、建物の規模や方向はBと概ね同様とみられる。柱穴の掘方は一辺0.5～0.9m程の隅丸長方形と推定される。深さは北東隅から1間南の柱穴で約0.5mで、地山の礫片を含む褐色（7.5YR4/6）の砂質シルトで埋め戻されている。

《SB2468 B 建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡から桁行が東側柱列で総長5.2m、柱間は北から1.8m・1.7m・1.7m、梁行が南妻で総長4.7m、柱間は東から2.4m・2.3mである。棟の方向は、東側柱列で南



SB2455 北西隅 (①: 東から)



SB2455 北東隅 (②: 南から)



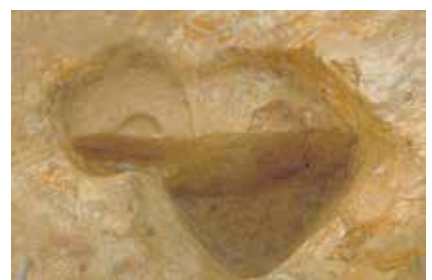
SB2455 南廂東端 (④: 南から)



SB2459A 北西隅 (⑤: 南から)



SB2459B 西妻中央 (⑦: 西から)



SB2459 北東隅 (⑥: 東から)



SB2468 北西隅 (⑧: 南から)



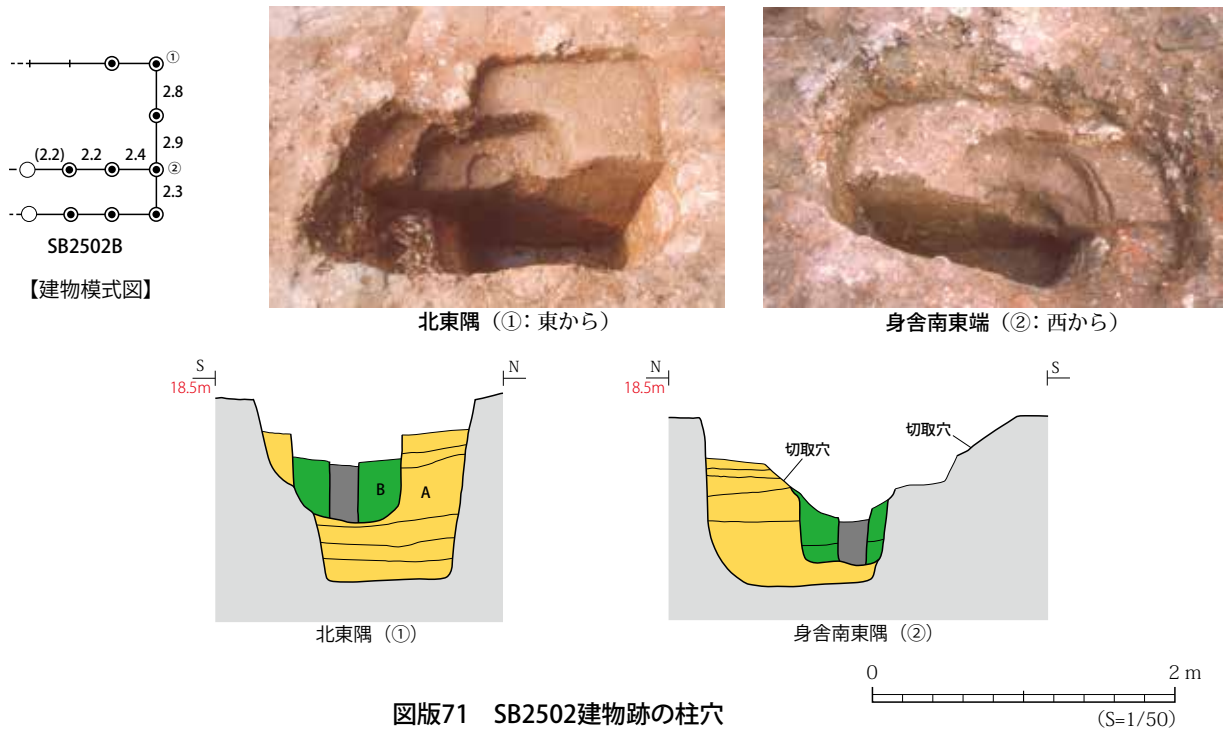
SB2468 北東隅から1間南 (⑨: 西から)



SB2468 南東隅 (⑩: 東から)

図版70 SB2455・2459・2468建物跡





図版71 SB2502建物跡の柱穴

北の基準線とほぼ一致している。また、東側柱列は約 3.5 m 北の SB2521 建物跡の東側柱列と柱筋が揃う。

- 柱 穴 柱穴は一辺 0.6 ～ 1.0 m の隅丸長方形で、深さは北東隅柱穴で約 0.7 m ある。埋土は炭粒と地山の礫片を含む褐色（7.5YR4/4）のシルト質砂や明褐色（7.5YR5/6）の砂質シルトである。柱痕跡は褐色（7.5YR4/3）のシルトで、直径 20cm 前後の円形を呈す。
- 出土遺物 遺物は掘方から平瓦片、須恵器甕、抜取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB類、須恵器坏・高台坏が少量出土している。ほかに柱痕跡から「伊」の刻印をもつ丸瓦ⅡB類が出土している。

【SB2502 建物跡】（図版 66・71）

- 検出状況 北部の E31・S189 付近に位置する桁行 3 間以上、梁行 3 間の南廂付東西棟である。地山上面で建物の東半を検出したが、西半は宅地の造成で削平されている。ほぼ同位置で一度建替えられており（A→B）、SB2845 建物跡より新しく、SD3267～3269 溝より古い。

A の柱穴は東妻から 2 間分までの 10 個を検出したが、B や攪乱に壊されている。柱痕跡は北東隅から 1 間目南の柱穴で確認したのみであり、遺物も出土していない。B は東妻と南廂・南入り側柱列の 3 間分、北側柱列 1 間分の 11 個の柱穴を検出した。柱痕跡は東妻から 2 間西まで 9 カ所で確認し、すべて切り取られている。

《SB2502 A 建物跡》

- 規模と柱穴 建物の規模や方向は、柱穴の大半が B の柱穴に壊されていることから B と概ね同様とみられる。柱穴の掘方は身舎が一辺 0.9 ～ 1.3 m、廂が 0.4 ～ 0.7 m の隅丸長方形で、全体的に B よりも大きいものが多い。深さは、身舎が北東と南東の隅柱穴で約 1.2 m、廂が東端から 1 間西の柱穴で 0.4 m あり、地山の礫片と少量の炭粒を含む褐色（10YR4/4）の砂質シルトで埋め戻されている。柱痕跡は身舎で直径約 20cm の円形を呈す。なお、A の東妻柱穴のほぼ中央に柱の位置を想定す

ると、約 8.4 m 南の SB2521B・C 建物跡の東妻と柱筋が概ね揃う。

#### 《SB2502 B 建物跡》

B 建物の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を想定すると、桁行が南入側柱列で総長 6.8 m 以上、柱間は東から 2.4 m・2.2 m・約 2.2 m、梁行が東妻で総長 8.0 m、柱間は北から 2.8 m・2.9 m・2.3 m（廂）である。棟の方向は、東妻で南北の基準線とほぼ一致している。なお、東妻の柱筋の南延長上には SB2522 建物跡東妻の掘方東辺が位置する。

規模・方向

柱穴は、身舎が一辺 0.8～1.3 m、廂が一辺 0.6 m 前後の隅丸長方形で、深さは身舎が南東隅柱穴で約 1.0 m、廂が東端から 1 間西の柱穴で 0.4 m である。埋土は地山の礫片と少量の炭粒を含む褐色（10YR4/4）の砂質シルトである。柱痕跡は暗褐色や褐色（10YR3/4・4/6）の砂質シルトで、身舎が直径約 25cm 前後、廂が直径約 20cm の円形を呈す。

柱 穴

遺物は、柱穴掘方から丸瓦片、平瓦Ⅱ B a 類、土師器環、須恵器環、柱切り穴から平瓦片、須恵器甕、柱痕跡から丸・平瓦片、土師器環・甕、須恵系土器高台坏が出土している。掘方出土の土師器環にはロクロ整形で、底部の切離し後にケズリ調整をしたものがある。

出土遺物

#### 【SB2521 建物跡】（図版 66・67・72）

北部の概ね E31・S205 を中心に位置する桁行 4 間、梁行 3 間の南廂付東西棟で、身舎が床張りの建物である。地山上面で検出したが、西半は宅地の造成で大きく削平されている。ほぼ同位置で二度建替えられており（A→B→C）、SB2845 建物跡より新しく、SB2822 建物跡、SD3259 溝より古い。

検出状況

柱穴は、A では 16 個検出したが、後続の B・C や SB2822 の柱穴に壊されている。柱痕跡は 3 カ所で確認し、ほかに 3 カ所で柱の抜き穴または切り穴を検出した。B の柱穴も 16 個検出したが、西半は A より残りが悪く、東半も C に壊されている。1 カ所で柱痕跡、西妻の 2 カ所で上部が切り取られた柱痕跡、2 カ所で柱の抜き穴または切り穴を確認した。C は西半が完全に削平されている。柱穴は東半で 11 個を検出し、5 カ所で柱痕跡、2 カ所で上部が切り取られた柱痕跡、2 カ所で柱の抜き・切り穴のための穴や溝を確認した。そのうち北側柱列中央の切り穴は、南側の B 建物の東柱穴部分まで伸びている。

#### 《SB2521 A 建物跡》

A 建物の規模は、柱痕跡または抜き穴や柱穴の中心に柱の位置を想定すると、桁行が南廂柱列で総長約 10.5 m、柱間は東から約 2.8 m・約 2.8 m・約 2.3 m・約 2.6 m、梁行が東妻で総長約 8.2 m、柱間は北から約 2.5 m・約 2.5 m・約 3.2 m（廂）である。棟の方向は、廂の柱列で東西の基準線とほぼ一致している。また、東妻は約 3.5 m 南の SB2468 建物跡の東側柱列と柱筋が概ね揃い、西妻は約 3.3 m 南の SB2849 建物跡の西側柱列と柱筋が揃う。

規模・方向

柱穴は、身舎が長辺 1.0 m 前後、短辺 0.7～1.0 m、廂が長辺 1.0 m 前後、短辺 0.7～0.8 m、東柱穴が長辺約 1.0 m、短辺約 0.6 m の隅丸長方形で、深さは、身舎が南入側柱列中央の柱穴で約 1.0 m、廂は中央の柱穴が約 1.1 m で、東柱穴については精査をしていない。埋土はいずれも地山土が多く混じる暗褐色や褐色（7.5YR3/3・4/4）の砂質シルトである。柱痕跡は身舎・廂ともに直径約 25～30cm の円形を呈す。

柱 穴

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB類、土師器環・甕、須恵器環・鉢・瓶・甕のほか、用途不明の銅製品が出土している。また、柱痕跡から平瓦ⅡB類がごく少量出土している。掘方出土の土師器環にはロクロ整形で切離しが回転糸切りのもの、須恵器環には底部がヘラ切り無調整のものとヘラ切り後に回転ケズリ調整をしたものがある。

《SB2521 B建物跡》

**規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡または抜取り穴や柱穴の中心に柱の位置を想定すると、桁行が南廂柱列で総長約9.7 m、柱間は東から約2.5 m・約2.6 m・約4.6 m（2間分）、梁行が東妻で総長約7.5 m、柱間は概ね2.5 m等間で、Aより一周り小さい。棟の方向は、廂の柱列で東西の基準線とほぼ一致する。また、東妻は約8.4 m北のSB2502A建物跡の東妻と柱筋がほぼ揃う。

**柱 穴** 柱穴は、身舎・廂・束柱とも長辺が0.8～1.3 m、短辺が0.7 m前後の隅丸長方形で、深さは身舎が南入側柱列中央の柱穴で約0.7 m、廂は中央の柱穴が約0.5 mで、束柱穴については精査していない。埋土も共通しており、ブロック状の地山土主体の黄褐色シルトや地山ブロックを多く含む暗褐色（7.5YR3/4）の砂質シルトである。柱痕跡は身舎と床束が直径25cm弱の円形を呈すが、廂の西端は長軸約35cm、短軸約15cmの楕円形で、いずれも粒状の炭と地山土を含む灰黄褐色（10YR4/2）の砂質シルトが堆積している。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB類、土師器環・甕、須恵器環、焼壁、柱抜取り穴から土師器環・鉢、須恵器環・鉢がごく少量出土している。

《SB2521C建物跡》

**規模と柱穴** 建物の規模は、検出した柱穴がBとほぼ同位置にあることから概ねBと同様と推定される。柱穴の掘方は身舎・廂とも長軸（長辺）0.5～1.0 mの楕円形や隅丸長方形で、深さは南入側柱列と廂中央の柱穴で約0.5 mある。埋土はブロック状の地山土主体の黄褐色や地山ブロックを多く含む暗褐色（7.5YR3/3・3/4）の砂質シルトである。柱痕跡は粒状の炭と地山土を含む黒褐色（10YR3/2）の砂質シルトで、身舎が直径25cm前後、廂が直径20cm弱の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱の切取り溝から須恵器環・甕、柱痕跡から平瓦ⅡB類、須恵器甕が各々ごく少量出土している。切取り溝出土の須恵器環には底部をヘラ切り後に体部の下端まで回転ケズリ調整をしたものがある（図版72-1）。

【SB2522建物跡】（図版66・67・72・128）

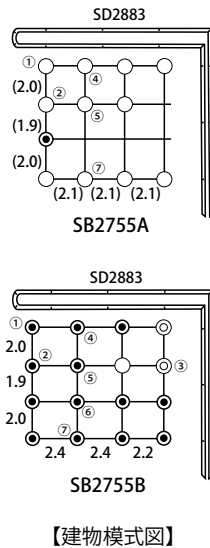
**検出状況** 北部の概ねE29・S204を中心に位置する梁行2間、桁行が3間と推定される東西棟である。地山上面で検出したが、建物の西半は宅地の造成で削平されており、南西隅の柱穴と北西隅の柱痕跡を検出したのみである。SB2821建物跡より新しく、SD3259溝より古い。

柱穴は6個検出し、柱痕跡のみを検出した北西隅と合わせて柱痕跡は6カ所確認した。そのうち南東隅の柱は切り取られている。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡から桁行が南側柱列で総長9.7 m、柱間は東から3.5 m・6.2 m（2間分）、梁行が東妻で総長6.2 m、柱間は3.1 m等間である。棟の方向は、南側柱列で南北の基準線とほぼ一致している。また、西側柱列の掘方西辺の南の延長上にはSB2837建物跡東側柱列の掘方東辺が位置している。







検出状況(南から)

図版74 SB2755建物跡

掘方出土の土師器環はロクロ整形のものが主体で、底部が回転糸切り無調整のものがある。須恵器環には底部がへら切り無調整と回転糸切り無調整（図版 72-2）のものがあり、灰釉陶器皿には尾張産と推定されるものがある（図版 128-25）。

#### 【SB2755 建物跡】（図版 68・73～76・139）

南部の概ね E22・S253 を中心とする東西 3 間、南北 3 間の総柱建物跡で、南西Ⅲ a 層以下で検出した。標高の高い北側と東側には上からの流水を受ける SD2883 溝が建物を囲むように布設されている。また、ほぼ同位置で建替えられており（A→B）、SB2871 建物跡、SD2761・2773 暗渠、SD2884～2886・2888 溝、SK2873 土壌より新しく、SB2872 建物跡、SD2898 暗渠より古い。

検出状況

柱穴は、A では 12 個検出したが、B の柱穴に壊されているものが多く、柱痕跡は西側柱列で 1 カ所確認したのみである。B では 16 個の柱穴をすべてを検出し、9 カ所で柱痕跡、4 カ所で上部が切り取られた柱痕跡、2 カ所で柱の抜き取り穴または切り取り穴を確認した。そのうち、北西隅から 1 間南の柱痕跡では柱材も残存していた。

#### 《SB2755 A 建物跡》

検出した柱穴は B 建物の柱穴と概ね同位置にあるが、西側柱列はやや東側に位置する。このため、A 建物の規模は南北方向では後述する B とほぼ同等だが、東西方向はやや狭く、柱穴の中心に柱の位置を想定すると総長は約 6.3 m で、柱間は概ね 2.1 m 程と推定される。

規模と柱穴

柱穴は長辺 0.8～1.1 m、短辺が 0.8 m 前後の隅丸長方形で、深さは北西隅の柱穴で約 0.9 m ある。埋土は炭粒とブロック状に多量の地山土を含むオリーブ褐色や黄灰色、灰褐色、灰黄褐色（2.5Y4/3・5/1、7.5YR4/2、10YR4/2）の砂質シルトである。柱痕跡は約 20cm 弱の円形を呈す。また、北西隅から 1 間南の柱抜き取り穴の底面では礎盤とみられる礫を確認している。

遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ B 類、平瓦Ⅱ B a 類、土師器環・甕、須恵器環・蓋・甕が出土し

出土遺物



北西隅 (①: 南から)



北西隅から1間南 (北②: から)



北東隅から1間南 (南③: から)



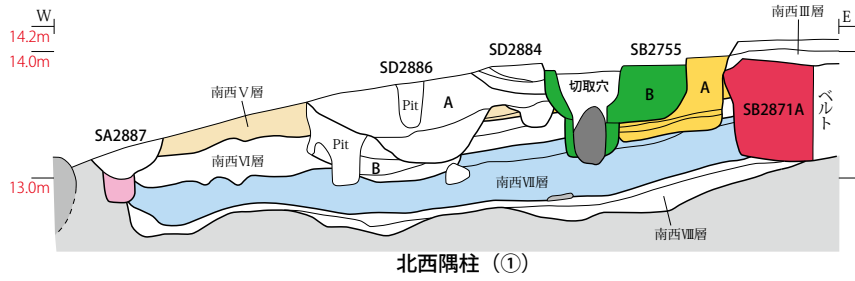
西側柱列の1間東  
北から2間目 (⑥: 東から)



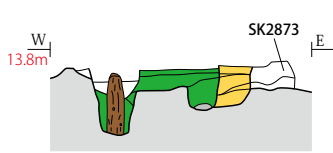
西側柱列の1間東  
北から1間目 (⑤: 東から)



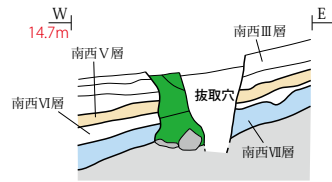
西側柱列の1間東の北端 (④: 東から)



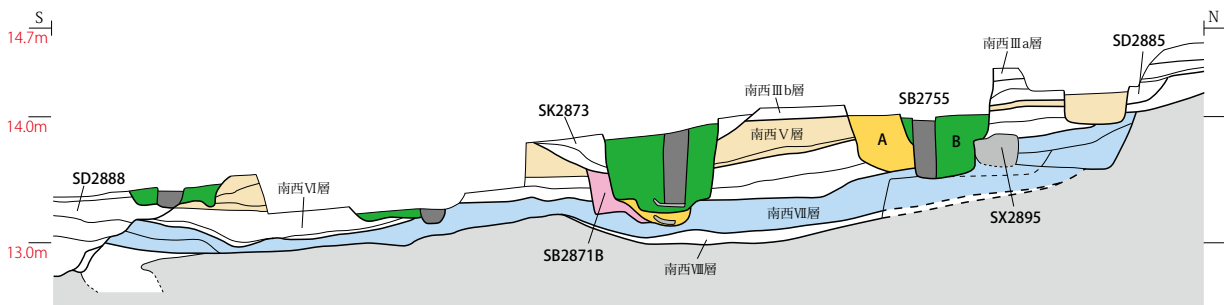
北西隅柱 (①)



北西隅から1間南 (②)



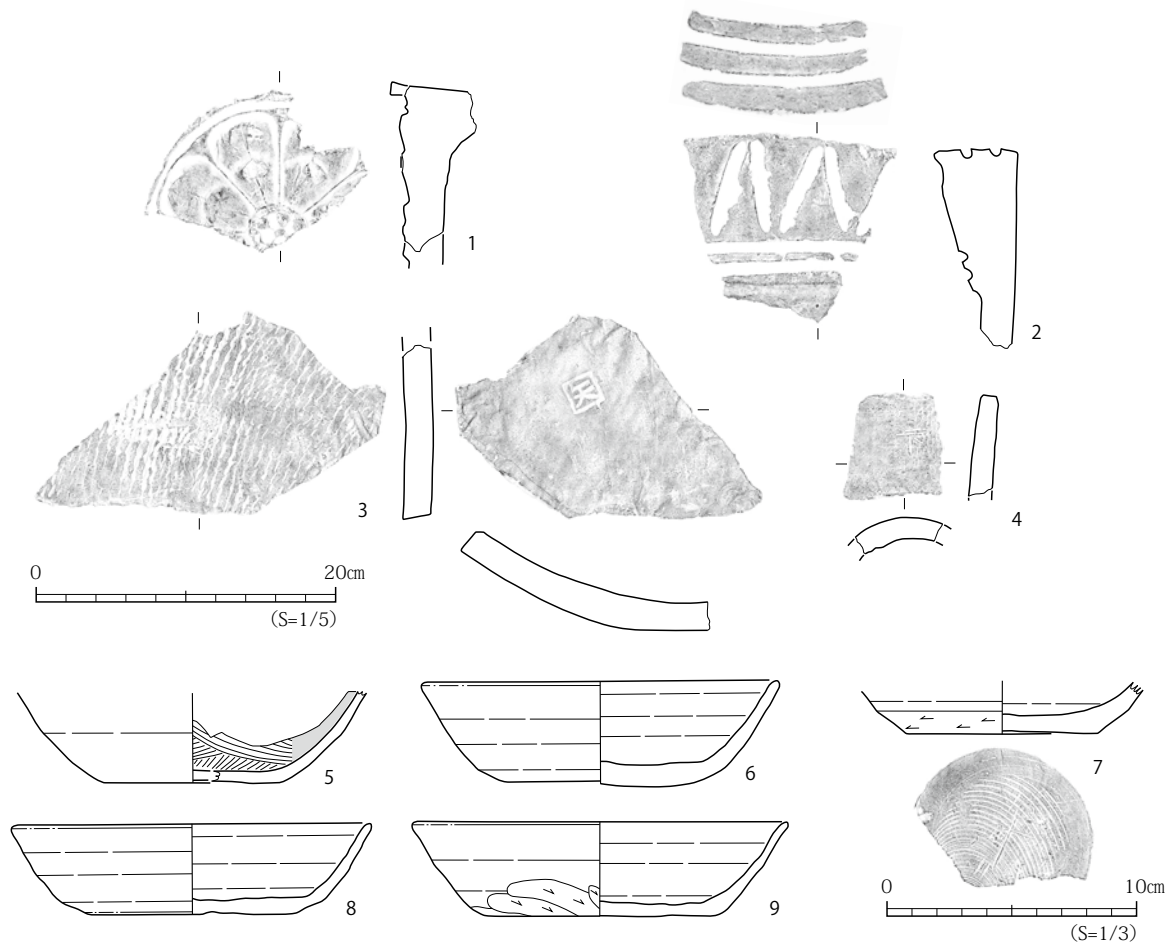
北東隅から1間南 (③)



西側柱列から1間東の柱列 (④~⑦)



図版75 SB2755建物跡の柱穴



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SB2755 掘方	79	軒丸瓦	瓦当1/3	重弁蓮花文621	直径(20.0) 瓦当厚2.7		R35	B14662
2	SB2755 掘方	79	軒平瓦	瓦当1/4	二重弧文511a	平瓦厚1.1		R36	B14662
3	SB2755 掘方	79	隅切瓦	破片		素材：平瓦II Ba類 厚2.2。凹面に刻印「矢」A		R44	B14662
4	SB2755 掘方	79	丸瓦	破片	II Ba類	厚：1.5。玉縁にヘラ書「下」		R47	B14662

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
5	SB2755 掘方	79	土師器・坏	底1/3	—	(7.0)	—	底：回転糸切→手持ケズリ(周縁)		R31	B14661
6	SB2755 掘方	79	須恵器・坏	1/4	(14.5)	(8.0)	4.2	底：ヘラ切→ナデ		R32	B14661
7	SB2755 掘方	79	須恵器・坏	1/4	—	(7.6)	—	底：回転糸切→手持ケズリ(周縁)。焼成前にヘラ書き「×」		R45	B14662
8	SB2755 掘方	79	須恵器・坏	1/3	(14.5)	(8.4)	3.6	底：ヘラ切→ナデ		R34	B14661
9	SB2755 掘方	79	須恵器・坏	4/5	14.6	8.4	4.1	底：回転糸切→手持ケズリ		R33	B14661

図版76 SB2755建物跡出土遺物

ている。土師器坏にはロクロ整形のものがある。

《SB2755 B 建物跡》

B 建物跡の規模は、柱痕跡から東西が南側柱列で総長 7.0 m、柱間は東から 2.2 m・2.4 m・2.4 m、南北が西側柱列で総長 5.9 m、柱間は北から 2.0 m・1.9 m・2.0 m である。方向は南側柱列で東西の基準線に対して東で約 5° 南に振れている。また、本建物跡の東側柱列は 8.6 m 北の SB2455 建物跡の西妻と柱筋が揃う。ほかに北側柱列は約 4.2 m 東の SA2892 柱列跡北端の柱穴を通して約 5.7 m 東の SB2459 建物跡の北側柱列と柱筋が揃う。

柱穴は長辺 0.7 ~ 1.2 m、短辺 0.7 m 前後の隅丸長方形で、深さは北西隅柱穴で約 0.9 m である。埋土は炭粒とブロック状の地山土を含む灰褐色や灰黄褐色、にぶい黄褐色 (7.5YR4/2、10YR4/2・5/3) のシルトである。柱痕跡は若干の炭粒や木質を含む黒褐色や暗褐色、灰黄褐色



(7.5YR3/2・3/3、10YR4/2)のシルト質粘土で、直径20cm前後の円形を呈す。北東隅から1間南の柱穴では、腐食しているが長さ約40cm、太さ15cm程の柱材が残存する、また、柱痕跡の下には礎盤として平瓦(ⅡB類)を据えたところがある。

**SD2883溝** 建物北・東側のSD2883溝は、東西部分の中心が北側柱列の約1.5m北、南北部分の中心が東側柱列の2.7～3.0m東に位置し、上部はBの北側柱列とともに南西Ⅱ層で埋没している。その掘削は改修がみられなかった点からBへの建替え時とも考えられるが、北側の東西部分の両端とA・B建物の北西・北東隅柱穴との位置関係からみてAに溯る可能性が高い。

規模は東西部分が長さ約10.2m、上幅0.9～1.5mで、深さは約0.3mである。南北部分は検出した長さが約9.2m、上幅0.3～0.7m、深さ約0.2mで、標高の低い南側ほど幅が狭く浅いことから上部は削られており、南端はさらに伸びるとみられる。堆積土は、炭粒を含む灰黄褐色(10YR4/2)の砂質シルトとにぶい黄褐色(10YR4/3)の砂の互層で、自然堆積土である。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から軒丸・軒平瓦、丸瓦ⅠA・ⅡB・ⅡBa類、平瓦ⅠA・ⅡB・ⅡBa類、隅切瓦、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・長頸壺・甕、柱の切・抜取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土している。また、SD2883溝の堆積土から丸・平瓦片と土師器坏・甕、須恵器坏、漆紙文書(図版139)が出土している。

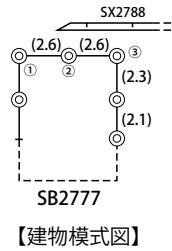
掘方出土の瓦は軒丸瓦に重弁蓮花文125、軒平瓦に二重弧文511があり(図版76-1・2)、丸瓦ⅡB類には「田」Aの刻印、ⅡBa類に「下」のヘラ書き(4)、平瓦ⅡBa類に「物」Aの刻印があるものがある。隅切瓦は平瓦ⅡBa類の広端隅を切り落とし、凹面に「矢」Aの刻印を捺すもの(3)がある。土師器坏にはロクロ整形で、底部を回転糸切り後に手持ケズリ調整したものがある(5)。須恵器坏はヘラ切り後にナデ調整したもの(6・8)、ほかに回転糸切り後に回転ケズリ調整(7)、切離し後に手持ケズリ調整(9)をしたものがある。

**【SB2777建物跡】**(図版68・73・77)

**検出状況** 南部のE11・S268付近を中心とする建物跡で、地山上面で検出した。現代の通路による未調査部分があるため南側柱列が不明だが、通路を挟んだ調査区では検出されていないことから南北3間、東西2間の南北棟と推定される。標高が高い北側を岩盤まで削り出した(SX2788段)平坦面に建てられており、柱穴は6個を検出した。柱はすべて抜き取られている。

SX1411B道路跡、SA2763材木堀跡、SA2772柱列跡、SI2765住居跡、SK2754・2775土壙と重複し、SX1411B、SA2772、SI2765、SK2754より古い。SK2775とは直接的な重なりがなく、新旧は不明である。また、SA2763は本建物北東隅の柱穴掘方より新しく、その柱抜取り穴よりは古いことから(図版77右上写真)、ある程度の期間、北東隅柱から北に伸びていた材木堀とみられる。

**構築時の造成** 建物の構築時には北側を段状に岩盤まで削り出すとともに、SI2765・2766や宅地の造成による削平によって検出はされなかったが、標高の低い南側に盛土整地をして平坦面を造成したと推定される。北側の段は北妻から約2.5m北で上端を確認し、SI2766とSA2763・2772を挟んで長さ約6.7m分を検出した<sup>(註4)</sup>。東側はSI2766、西側はSX1411Bの東側溝および宅地の造成で壊されている。段の高さは最も残りの良い場所で約0.2mで、南側には地山に類似した褐色



北東隅柱と SA2763 材木塼 (南から: 第 79 次調査時)



北西隅 (①: 南から)

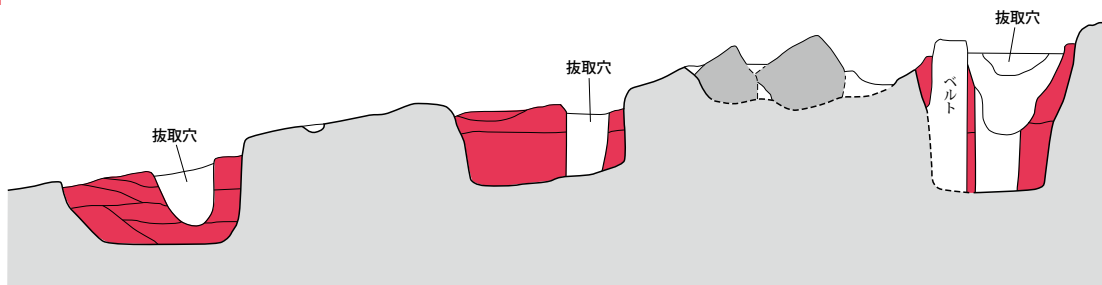


北妻中央 (②: 南から)



北東隅 (③: 南から)

W  
10.75m



北妻柱列 (①~③)

図版77 SB2777建物跡の柱穴

0 2 m  
(S=1/50)

粘土質シルトが堆積している。

建物の規模は、精査により判明した柱の位置と抜取り穴の中心に柱位置を想定すると、桁行が東側柱列で総長が 7.7 m 以下、柱間は東から約 2.3 m・約 2.1 m・3.3 m 以下、梁行が東妻で総長約 5.2 m、柱間は概ね 2.6 m 等間である。棟の方向は、北妻で東西の基準線とほぼ一致する。また、北妻の柱筋の約 1.5 m 東には SA2772 柱列跡の南端が位置する。

規模・方向

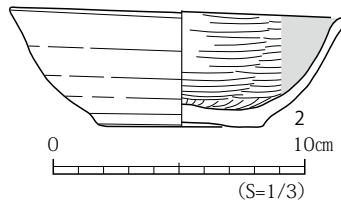
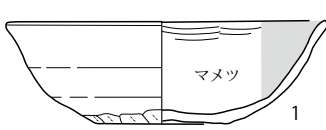
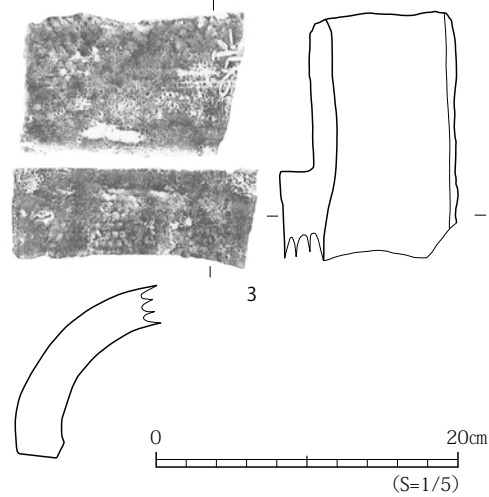
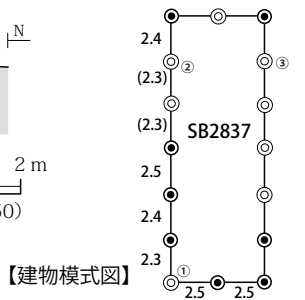
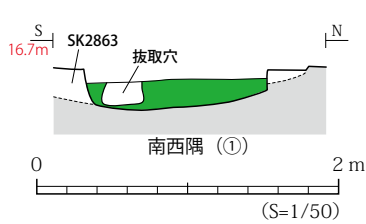
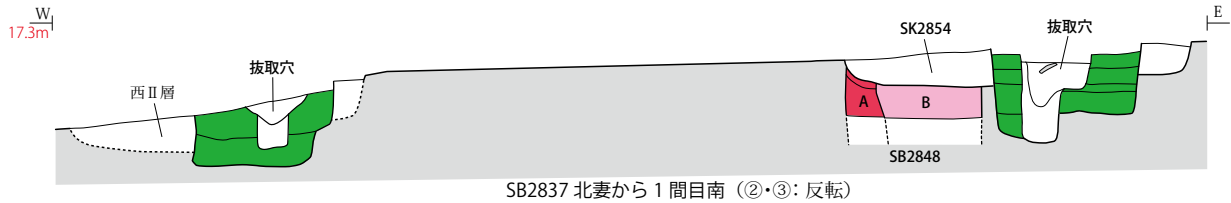
柱穴は一辺 1.0 ~ 1.4 m の隅丸方形で、深さは北東隅で約 1.1 m ある。埋土はブロック状の地山土主体のオリーブ黄色、黄褐色 (7.5YR6/3、10YR5/6) のシルトである。柱痕跡は柱の形状をとどめる北妻中央の抜取り穴から、直径 30cm 程の円形とみられる。なお、本建物跡の柱抜取り穴の堆積土には多量の炭や焼土が含まれていたが、柱穴も含めて遺物は出土していない。

柱 穴

【SB2837 建物跡】 (図版 67・78・79)

中央の概ね E22・S220 を中心に位置する桁行 6 間、梁行 2 間の南北棟で、西 II 層および地山の上面で検出した。SB2848 建物跡、SK2854・2863 土壌より新しい。また、SA2861 柱列跡、SK2775 土壌とも重複するが、直接的な重なりがないため新旧関係は不明である。

検出状況



単位: (cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SB2837 柱痕跡	78	土師器・坏	1/1	12.6	5.3	4.2	底～体下端:回転糸切→手持ケズリ		SB2837-R2	B14508
2	SB2837 柱痕跡	78	土師器・坏	4/5	13.2	6.7	4.8	底:回転糸切		SB2837-R1	B14508

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
3	SB2837 掘方	78	丸瓦	狭端1/2	II Bb類	狭端幅(16.0) 厚2.1~2.4。玉縁にヘラ書「常」		SB2837-R2	B14508

図版78 SB2837建物跡の柱穴と出土瓦・土器

柱穴は16個すべてを検出し、2カ所で柱痕跡、6カ所で上部が切り取られた柱痕跡、8カ所で抜取り穴または切り取り穴を確認している。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡または柱の抜取り穴の中心に柱位置を想定すると、桁行が西側柱列で総長14.2m、柱間は北から2.4m・約2.3m・約2.3m・2.5m・2.4m・2.3m、梁行が南妻で総長5.0m、柱間は2.5m等間である。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線とほぼ一致する。また、東側柱列の掘方東辺の北の延長上にはSB2822建物跡西側柱列の掘方西辺が位置する。

**柱 穴** 柱穴は長辺0.9~1.3m、短辺0.7~1.0mの隅丸長方形で、深さは北東・北西隅から1間南の柱穴で約0.6~0.7m、南西隅柱穴で約0.3mある。埋土は地山礫片を含む暗褐色や灰黄褐色(7.5YR3/4、10YR4/2)のシルトである。柱痕跡は炭粒や焼土粒を含む黒褐色(7.5YR3/2、10YR3/1)のシルトで、直径25cm前後の円形を呈す。なお、炭や焼土は抜・切り取り穴にも多く含まれる。



SB2845(南から)



SB2837(南から)



SB2848・2849(南から)

図版79 西区中央と北部の建物跡(SB2837・2845・2848・2849)

遺物は、柱穴掘方から軒丸瓦、丸瓦Ⅱ B b類、平瓦Ⅱ B類、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・鉢・瓶・甕、柱の切・抜き穴から丸・平瓦片、土師器坏・高台坏・甕、須恵器鉢・甕、須恵系土器坏、焼壁、柱痕跡から土師器坏、須恵器坏が出土している。出土遺物

掘方出土の軒丸瓦には、型番不明の重弁蓮花文、丸瓦Ⅱ B b類の玉縁には「常」のヘラ書きがあるものがある（図版 78-3）。柱痕跡出土の土師器坏にはロクロ整形で、回転糸切りによる底部の切離し後に手持ケズリ調整をしたものと無調整のものがある（1・2）。また、須恵器坏には底部が回転糸切り無調整のものがある。

**【SB2845 建物跡】** (図版 66・67・79・80)

**検出状況** 北部の概ね E26・S197 を中心とした桁行 5 間、梁行 2 間とみられる南北棟で、主に建物南半を西Ⅱ層および地山上面で検出した。北半は現代の通路や宅地の造成でほとんど壊されているが、北東隅柱穴を確認している。ほぼ同位置で一度建替えられており (A→B)、SB2502・2521 建物跡、SD3268 溝より古い。また、SB2522 建物跡とも重複するが、直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

A の柱穴は B に多く壊されているが、4 個検出し、南西隅柱穴では B の構築時に切り取られた柱痕跡を確認した (図版 80)。B の柱穴は 7 個検出し、3 ヲ所で柱痕跡、1 ヲ所で切り取られた柱痕跡 (南妻中央)、3 ヲ所で柱の抜き穴または切り穴を検出した。なお、本建物跡では A・B ともに遺物は出土していない。

《SB2845 A 建物跡》

**規模と柱穴** 柱穴が B とほぼ同位置にあり、建物の規模や方向は概ね同様と推定される。柱穴の掘方は一辺 0.8 m 前後の隅丸方形で、深さは南西隅柱穴で 1.6 m 以上あり、ブロック状の地山土を含む褐色や地山ブロック主体の黄褐色 (10YR4/3・7/6) のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は粒状の炭と地山土を少し含む褐色 (7.5YR4/3) の粘土質シルトで、直径約 25cm の円形を呈す。

《SB2845 B 建物跡》

**規模・方向** B 建物の規模は、柱痕跡または抜き穴の中心に柱位置を想定すると、桁行が東側柱列で総長約 13.2 m、柱間は北から約 7.9 m (3 間分)・2.5 m・2.8 m、梁行が南妻で総長約 5.4 m、柱間は東から 2.9 m・約 2.5 m である。棟の方向は東側柱列で東西の基準線にほぼ一致している。また、東・西側柱列は約 9.3 m 南の SB2848 建物跡の東・西側柱列と各々柱筋が揃う。

**柱穴** 柱穴は長辺 0.8～1.3 m、短辺 0.6～0.9 m の隅丸長方形で、深さは北西隅柱穴で約 0.5 m である。埋土は粒状の地山土を含む褐色 (10YR4/6) のシルトである。柱痕跡は炭と焼土を含む黒褐色 (7.5YR3/1) のシルトで、直径約 25cm の円形を呈す。なお、柱の抜き穴は炭と焼土を含む灰黄褐色 (10YR4/6) のシルトで埋め戻されている。

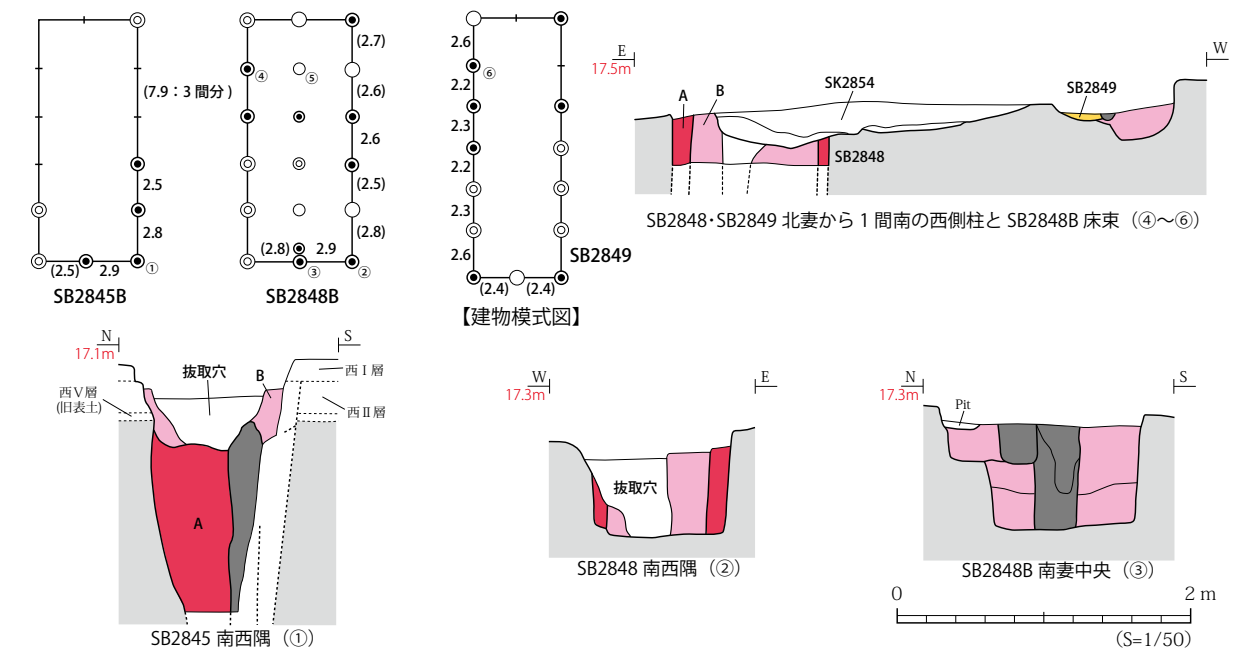
**【SB2848 建物跡】** (図版 67・79・80)

**検出状況** 中央の概ね E26・S219 を中心に位置する桁行 5 間、梁行 2 間の南北棟で、地山上面で検出した。南妻中央の柱穴内側と棟通りに東柱穴を持つ床張りの建物跡で、ほぼ同位置で一度建替えられている (A→B)。SB2837・2849 建物跡、SI2838 住居跡、SK2854・2866 土壌より古い。

A の柱穴は側柱を 9 個検出したが、B に大きく壊されている。柱痕跡はみつかっておらず、遺物も出土していない。B では東柱穴を含めて 18 個すべてを検出し、側柱の 6 ヲ所と東柱穴の 2 ヲ所で柱痕跡、側柱の 1 ヲ所で上部が切り取られた柱痕跡 (南東隅)、側柱の 4 ヲ所と東柱穴の 1 ヲ所で抜き穴または切り穴を検出した。

《SB2848A 建物跡》

**規模と柱穴** 柱穴が B の柱穴にほぼ同位置で壊されており、建物の規模や方向は概ね同様と推定される。柱穴の掘方は一辺 0.8～1.2 m 程の隅丸長方形や隅丸方形とみられ、深さは南西隅柱穴で 0.7 m である。埋土はブロック状の地山土を含む褐色 (7.5YR4/4) の砂質シルトである。



SB2845 南西隅 (①: 西から)



SB2845 南西隅 (①: 北西から)



SB2848 南西隅 (②: 南から)



SB2848 床束とSB2849 (⑤・⑥: 南から)



SB2848 南妻中央 (③: 南西から)

図版80 SB2845・2848・2849建物跡

《SB2848 B 建物跡》

B 建物の規模は、柱痕跡または抜き穴や柱穴の中心に柱位置を想定すると、桁行が東側柱列で総長 13.2 m、柱間は北から約 2.7 m・約 2.6 m・2.6 m・約 2.5 m・約 2.8 m、梁行が南妻で総長約 5.7 m、柱間は東から 2.9 m・約 2.8 m である。棟の方向は東側柱列で東西の基準線にほぼ一致している。また、東・西側柱列は約 9.3 m 北の SB2845 建物跡の東・西側柱列と各々柱筋が揃い、西側柱列は約 5.7 m 南の SB2850 建物跡の東側柱列とも柱筋が揃う。

規模・方向

柱穴は側柱穴が長辺 0.7 ~ 1.2 m、短辺 0.7 ~ 1.0 m の隅丸長方形で、深さは南妻中央で約 0.9 m である。東柱穴は長辺 0.3 ~ 1.0 m、短辺 0.3 ~ 0.7 m の隅丸長方形で、深さは南妻中央で約 0.4 m である。埋土はともにブロック状の地山土を多く含むにぶい黄褐色や明黄褐色 (10YR4/3・6/6) の砂質シルトである。柱痕跡は炭と焼土を含む暗赤褐色や灰褐色 (5YR3/2、7.5YR4/2) のシルト、にぶい黄褐色 (10YR5/3) の砂質シルトで、側柱が直径 25cm 前後、床束が直径約 25cm の円形を呈す。なお、炭と焼土は抜・切り穴の埋土にも多量に含まれている。

柱 穴

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠC・ⅡB類、土師器坏、須恵器坏・蓋・甕、柱の抜・切取り穴から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB類がそれぞれ少量出土している。掘方出土の丸瓦Ⅱ類には「伊」の刻印があるもの、須恵器坏には底部がヘラ切り無調整のものがある。

**【SB2849 建物跡】**（図版 67・79・80）

**検出状況** 中央の概ね E28・S220 を中心に位置する桁行 6 間、梁行 2 間の南北棟で、地山上面で検出した。SB2848 建物跡より新しく、SB2468 建物跡、SK2865 土壌より古い。また、SI2838 住居跡とも重複するが、直接的な重なりがないため新旧関係は不明である。

柱穴は 14 個検出した。北妻中央や北東隅から 1 間南の柱穴は宅地の造成や SK2865 によって壊されている。検出した柱穴では、5 カ所で柱痕跡、2 カ所で上部が切り取られた柱痕跡（北東・南東隅）、5 カ所で抜取り穴または切取り穴を確認した。

**規模・方向** 建物の規模は、柱痕跡または抜取り穴や柱穴の中心に柱の位置を想定すると、桁行が西側柱列で総長 14.2 m、柱間は北から 2.6 m・2.2 m・2.3 m・約 2.2 m・約 2.3 m・約 2.6 m、梁行が南妻で総長約 4.8 m、柱間は概ね 2.4 m 等間である。棟の方向は、西側柱列で南北の基準線とほぼ一致している。また、西側柱列は約 6.0 m 南の SB2455 建物跡や約 3.3 m 北の SB2521 建物跡の西側柱列と柱筋が揃う。ほかに、少し離れるが、北妻は約 22 m 東の SB2452 建物跡（中央区）の北廂柱列と柱筋が揃う。

**柱穴** 柱穴は長辺が 0.7～1.0 m、短辺が 0.7 m 前後の隅丸長方形で、深さは北東隅柱穴で約 0.6 m ある。埋土は粒状の炭と地山の礫を少し含む褐色（7.5YR4/4）のシルト質砂である。柱痕跡は直径 20cm 前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から平瓦ⅡB類、須恵器坏・蓋がごく少量出土している。

**【SB2850 建物跡】**（図版 67・81）

**検出状況** 中央南側の概ね E22・S235 を中心に位置する南北 2 間、東西 2 間の南北に長い総柱建物である。地山および SK2834・2835 土壌底面の地山岩盤で確認した。ほぼ同位置で建替えられており（A→B）、SK2834・2835 より古い。

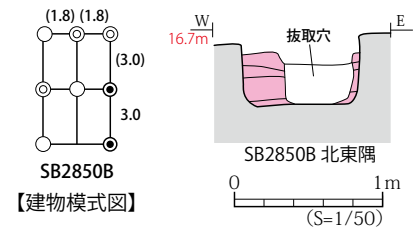
A の柱穴は南半で 6 個検出したが、SK2834・2835 や B の柱穴に大きく壊されている。柱痕跡は東側柱列中央でのみ確認した。B では南側柱列中央以外の 7 個の柱穴を検出したが、西半の柱穴は同様に SK2834・2835 に壊されている。柱痕跡は南東隅とその 1 間北の 2 カ所で確認し、他には 3 カ所で柱の抜取り穴または切取り穴を検出した。なお、A・B ともに遺物は出土していない。

**《SB2850 A 建物跡》**

**規模と柱穴** 柱穴が B とほぼ同位置にあり、建物の規模や方向は概ね同様と推定される。柱穴は長辺 0.6～1.0 m、短辺 0.7 m 前後の隅丸長方形で、深さは南西隅とその 1 間東の柱穴で SK2835 の上面から約 0.3 m である。埋土は A とほぼ同様で、地山のブロックの単位がやや大きい。柱痕跡は直径 20cm 弱の円形を呈す。



検出状況（南から）



柱穴重複状況（東側柱列中央：北から）

図版81 SB2850建物跡

## 《SB2850 B 建物跡》

B 建物の規模は、柱痕跡または抜取り穴や柱穴の中心に柱位置を想定すると、南北が東側柱列で総長約 6.0 m、柱間は概ね 3.0 m 等間、東西が北側柱列で総長約 3.6 m、柱間は概ね 1.8 m 等間である。方向は東側柱列で南北の基準線にほぼ一致している。また、東・西側柱列は約 8.4 m 南の SB2871 建物跡の東・西側柱列と各々柱筋が揃い、東側柱列は約 5.7 m 北の SB2848 建物跡の西側柱列とも柱筋が揃う。

規模・方向

柱穴は長辺が 1.1 m 前後、短辺が 0.7 m 前後の隅丸長方形で、深さは北東隅柱穴で約 0.5 m ある。埋土はブロック状の地山土を多く含む褐色や明褐色（7.5YR4/4・5/6）のシルトで、柱痕跡は直径 20cm 前後の円形を呈す。

柱 穴

## 【SB2860 建物跡】（図版 67・82）

中央北側の E20・S206 付近に位置する南北 3 間、東西 2 間以上の建物跡で、西Ⅳ層および地山の上面で柱穴、西Ⅱ層上面で抜取り穴を検出した。SD2855・2864 溝より古い。柱穴は断面確認を含めて 6 個検出したが、攪乱に壊されているものが多い。柱痕跡は 1 ヲ所で確認したのみである。また、本建物跡では遺物は出土していない。

検 出 状 況

建物の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を想定すると、南北が東側柱列で総長約 5.7 m、柱間は北から約 2.2 m・約 1.8 m・約 1.7 m、東西は北側柱列で総長 4.0 m 以上、柱間は概ね 2.0 m 等間である。方向は東側柱列で南北の基準線に対して北で約 10° 東に振れる。柱穴は長軸約 1.0 m の楕円形で、深さは北東隅から 1 間西の柱穴で西Ⅳ層上面から約 0.6 m である。ブロック状の地山土を多く含む暗褐色や灰黄褐色（7.5YR3/4、10YR4/2）のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径約 20cm の円形を呈す。

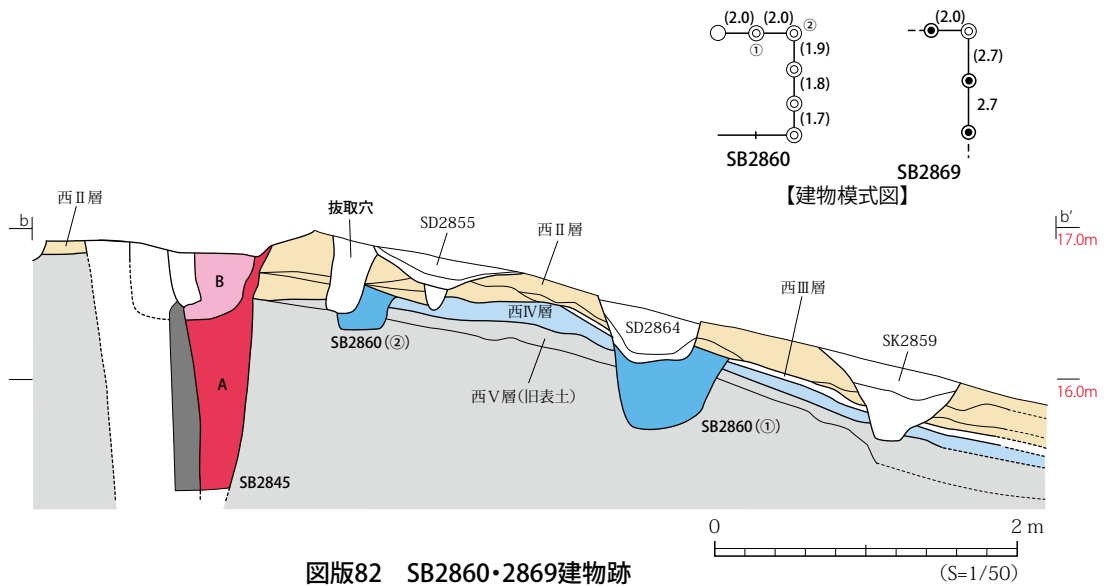
規模・柱 穴

## 【SB2869 建物跡】（図版 67・82）

中央南側の E29・S226 付近に位置する南北 2 間以上、東西 1 間以上の建物跡で、建物北東

検 出 状 況





図版82 SB2860・2869建物跡

部の柱穴を地山の上面で検出した。南西部は宅地の造成時に削平されたとみられる。SB2848・2849 建物跡と重複するが、直接的な重なりはなく、新旧関係は不明である。

柱穴は4個を検出し、北東隅以外の3カ所で柱痕跡を確認した。なお、本建物跡では断割り等による精査はしておらず、遺物も出土していない。

規模と柱穴

建物の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を想定すると、南北が東側柱列で総長約5.4m以上、柱間は概ね2.7m等間、東西が北側柱列で総長2.0m以上である。方向は東側柱列で南北の基準線に対して北で東に約9°振れている。柱穴は一辺0.5～0.6mの隅丸方形で、褐色シルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径20cm前後の円形を呈す。

【SB2871 建物跡】 (図版 68・73・83～87)

検出状況

南部の概ねE23・S249を中心に位置する南北2間、東西2間の南北棟で、南西V層および地山の上面で柱穴を検出した。標高が高い北側と東側を段状に削り出し (SX2889 段跡)、低い南西側に西V層 (SX2841) による盛土整地をした平坦面に建てられている。また、平坦面や建物の西側と南側には排水のための暗渠や溝が布設されている (SD2761・2773・2884～2886・2888)。

SK2891 土壌より新しく、SB2755 建物跡、SD2898 暗渠、SD2764・2883 溝、SK2873 土壌より古い。また、SB2772 建物跡とも重複しており、直接的な重なりはないが、SB2772 の検出面が西III層上面であることから本建物跡が古い。

建物はほぼ同位置で建替えられている (A→B)。その際には排水施設も大きく改修され (SD2886・2888→2773・2761・2784)、平坦面の西辺と南辺に配したSD2886・2888 溝を南西部で⊥状に合流させて西に流す形態から、建物のすぐ西側や南側に設けたSD2761 暗渠やSD2884・2885 溝の流水を建物南西隅柱付近から瓦組のSD2773 暗渠を通して南西に流す形態になっている。

建物の柱穴は、Aでは4個検出したが、Bに壊されているものが多く、柱痕跡は1カ所で確認されたのみである。Bの柱穴は6個検出し、ほかに抜取り穴または切り取り穴を1個確認した。

これらBの柱はすべて南西Ⅲ層上面から抜き取りまたは切り取られている。柱痕跡は切り取り穴の底面近くで2カ所確認し、そのうち南西隅柱穴では柱材が遺存していた。

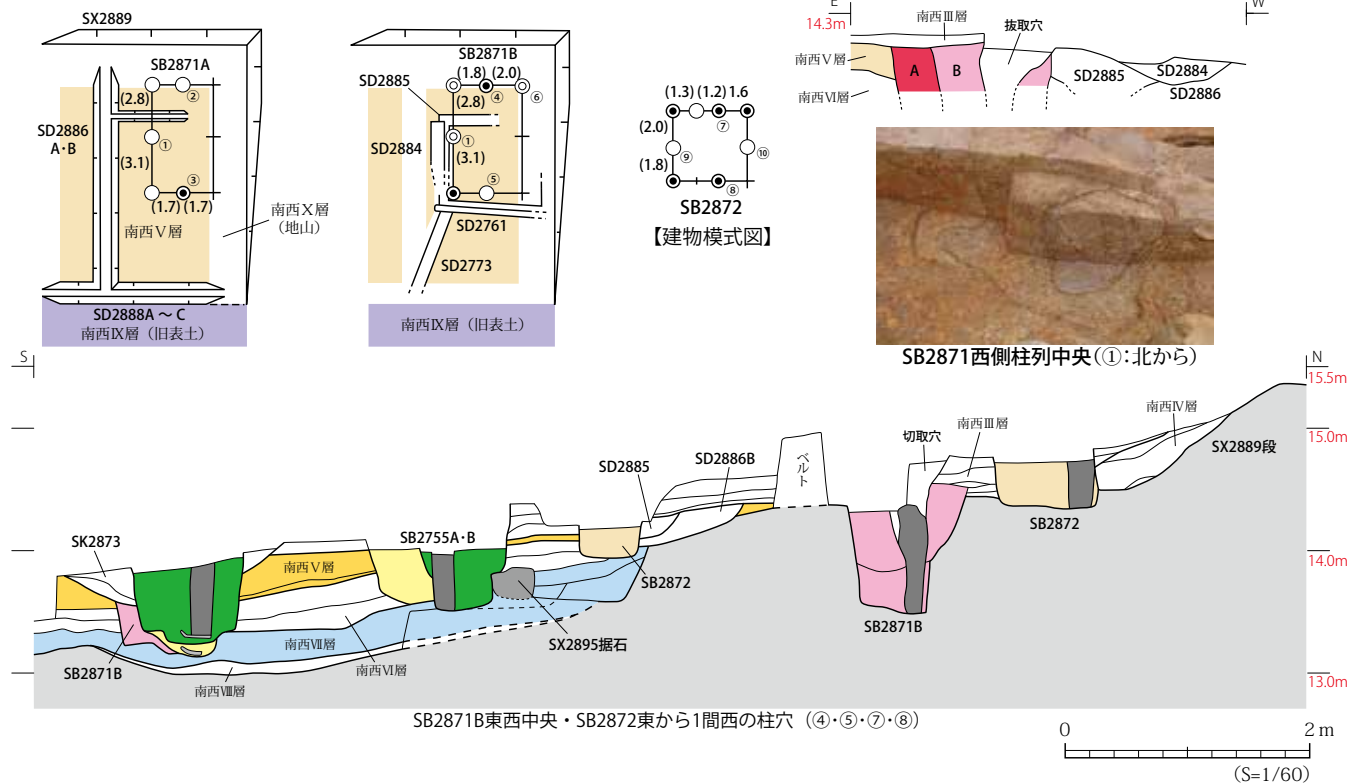
《SB2871 A 建物跡》

Aの構築時には標高の高い北側と東側を段状に地山岩盤まで削り出し（SX2889）、低い南西側に南西Ⅴ層（SX2841）による盛土整地をして平坦面を造成している。平坦面は西側が宅地の造成で多少削られているが、削り出し上端の位置や南西Ⅴ層の範囲からみて（図版68・73・84）、南北が約15m、東西が12m以上の広さで、南西にごく緩やかに傾斜している。北・東側の削り出しの高さは最大で約0.9m残存し、南西Ⅱ～Ⅳ層による堆積で埋没している。

検出した柱穴はBにほぼ同位置で壊されているが、東西方向では柱間がBよりやや狭い。建物の規模については、南北はBとほぼ同様で、東西は南側柱列で総長約3.4m、柱間は1.7m等間と推定される。柱穴の掘方は長辺1.0m前後、短辺0.5～0.8mの隅丸長方形で、深さは南側柱列中央の柱穴で約1.0mある。ブロック状の地山礫片を含むにぶい黄褐色（10YR4/3）のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は灰黄褐色（10YR4/2）の粘土で、直径約20cmの円形を呈す。

構築時の造成

規模と柱穴



SB2871西側柱列中央(①):北から

SB2871B東西中央・SB2872東から1間西の柱穴(④・⑤・⑦・⑧)



SB2871A南側柱列中央(③):西から



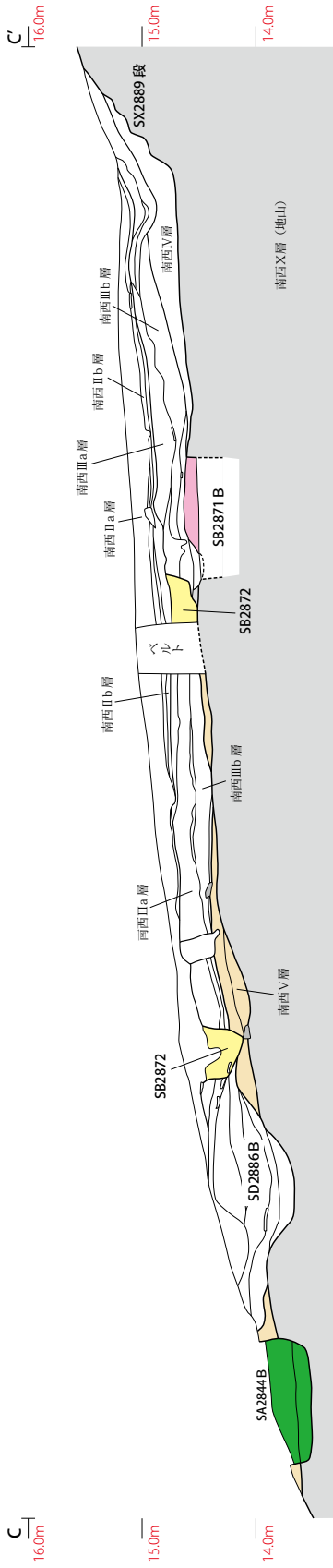
SB2871B北側柱列中央(④):東から



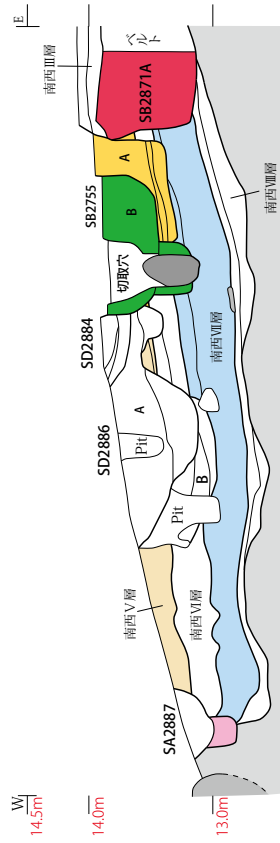
SB2872北東隅から1間西(⑦):東から

図版83 SB2871・2872建物跡の柱穴(1)

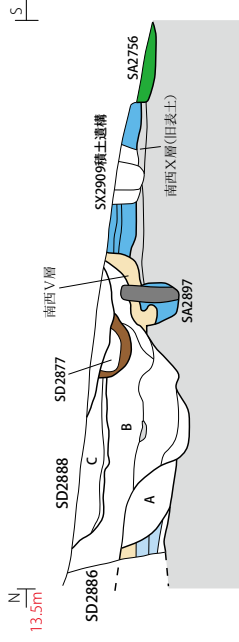
- 排水施設** 排水施設は平坦面の西・南辺に設けた溝を平坦面南西部で⊥状に合流させて西に流す形態をとる。これらの溝は建替え前にもほぼ同位置で西側のSD2886が一度(A→B)、南側のSD2888が二度掘り直されている(A→B→C)。ともに、最も古いAは部分的な確認に止まり、後続のBに壊されてもいるため詳細は不明だが、Bとほぼ同位置にあり、深さも同等であることから規模や方向はBと概ね同様と思われる。
- SD2886B** Bのうち、西側のSD2886Bは建物の約2.5m西に位置する。また、この溝は建物部分から西に伸びる溝を⊥状に合流させて南に伸びている。検出した南北部分の長さは約12.0mで、上幅は1.5m前後である。深さは南側ほど深く、最大では約0.7mあり、断面形は逆台形状を呈す。方向は南北の発掘基準線に対して北で東に約3°振れている。東西部分は長さ約3.5m分を検出した。幅は後続のSD2885溝に壊されているため不詳だが、深さは0.2～0.4mで、西側ほど深い。断面形は皿状とみられる。これらSD2886Bの堆積土は南北・東西部分とも酸化鉄と粒状の地山土を含むにぶい黄褐色(10YR4/3・5/3)の砂質シルトで、自然堆積土である。
- SD2888B・C** 南側のSD2888Bについては長さ13.8m分を検出した。上幅は1.6～1.9mで、深さは最大で約0.8mあり、西側ほど深い。横断面形は逆台形状を呈す。方向は東西の発掘基準線に対して東で南に7°振れている。堆積土は粒状の地山土を含む灰黄褐色(10YR4/2)のシルトや褐色(7.5YR4/3)の砂で、自然堆積土である。Cは長さ10.6m分を確認した。上幅は2.1～2.5m、深さは最大でも約0.4mで、Bに比べて幅が広くて浅い。横断面形は皿状を呈す。方向は東西の発掘基準線に対して東で約11°南に振れている。堆積土は粒状の地山土を含む褐色(7.5YR4/3)の砂質シルトや灰黄褐色(10YR4/2)の粘土で、自然堆積土である。
- 出土遺物** SB2871A関係の遺物は建物跡では出土していないが、SD2886BとSD2888B・Cの堆積土から出土しており、SD2886Bに丸瓦I A類、平瓦I・II B a類、SD2888Bに丸瓦I A類、須恵器坏・甕がある。また、SD2888Cには丸瓦I A・II類、平瓦I A・I C b・II B a類、土師器甕、須恵器甕があり、平瓦II B a類の凹面には「物」Aの刻印があるものがある。
- 《SB2871B建物跡》
- 規模・方向** B建物の規模は、柱痕跡または抜取り穴の中心に柱位置を想定すると、南北が西側柱列で総長5.9m、柱間は北から約2.8m・約3.1m、東西が北側柱列で総長約3.8m、柱間は西から約1.8m・約2.0mである。方向は、西側柱列で南北の基準線とほぼ一致している。また、東・西側柱列は約8.4m北のSB2850建物跡の東・西側柱列とそれぞれ柱筋が揃う。
- 柱 穴** 柱穴は長辺1.0～1.3m、短辺0.9m前後の隅丸長方形で、深さは北西隅柱穴で約0.9mある。埋土は汚れた砂状の地山土主体の灰オリーブ(7.5YR4/4)の砂やブロック状の地山土を多く含むにぶい黄褐色(10YR4/3)の砂質シルトである。柱痕跡は灰黄褐色(10YR4/2)のシルト質粘土で、直径約20cmの円形を呈す。
- 排水施設** Bへの建替えでは排水施設も改修し、平坦面の西・南辺に溝を配す形態から、建物の間近に寄せた暗渠や溝の水を南西隅柱付近からSD2773暗渠を通して南西に流す形態にしておき、建物間近の施設にはSD2884・2885溝とSD2761暗渠がある。SD2884・2885はA建物に伴うSD2886Bの東西部分から南北に伸びる形態を踏襲しつつ建物の近くに寄せた溝である。Bの柱穴も含めてSB2871B→SD2885→SD2884の新旧関係があり、SD2884の残りは良くな



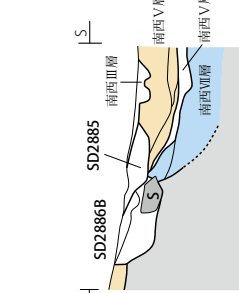
SB2871B 北東隅とSB2872 棟柱 (⑥・⑨・⑩): 反転



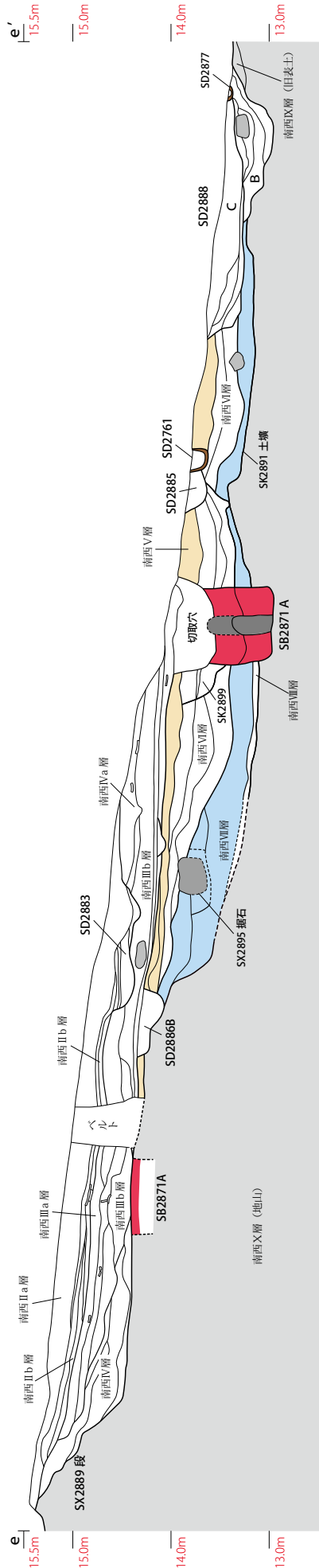
SB2871A 西側柱列中央 (①)



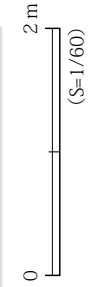
SD2886・2887接合部



SD2885・2886B北側



SB2871A 東西中央南北断面 (②・③)



図版84 SB2871・2872建物跡の柱穴(2)とSD2761・2884~2886・2888



(南から)



(南西から)



SD2886接合部(北東から)

SD2886 検出状況 (右から南西VI層・SD2886・南西V層・南西VI層)



SD2888西端(南西から)



SD2886・2888接合部断面(西から)



SD2888東半部検出状況(南西から)

図版85 SB2871A建物跡に伴う排水溝



SD2773暗渠(北東から)



SD2761・2885 南西部検出状況 (西から)

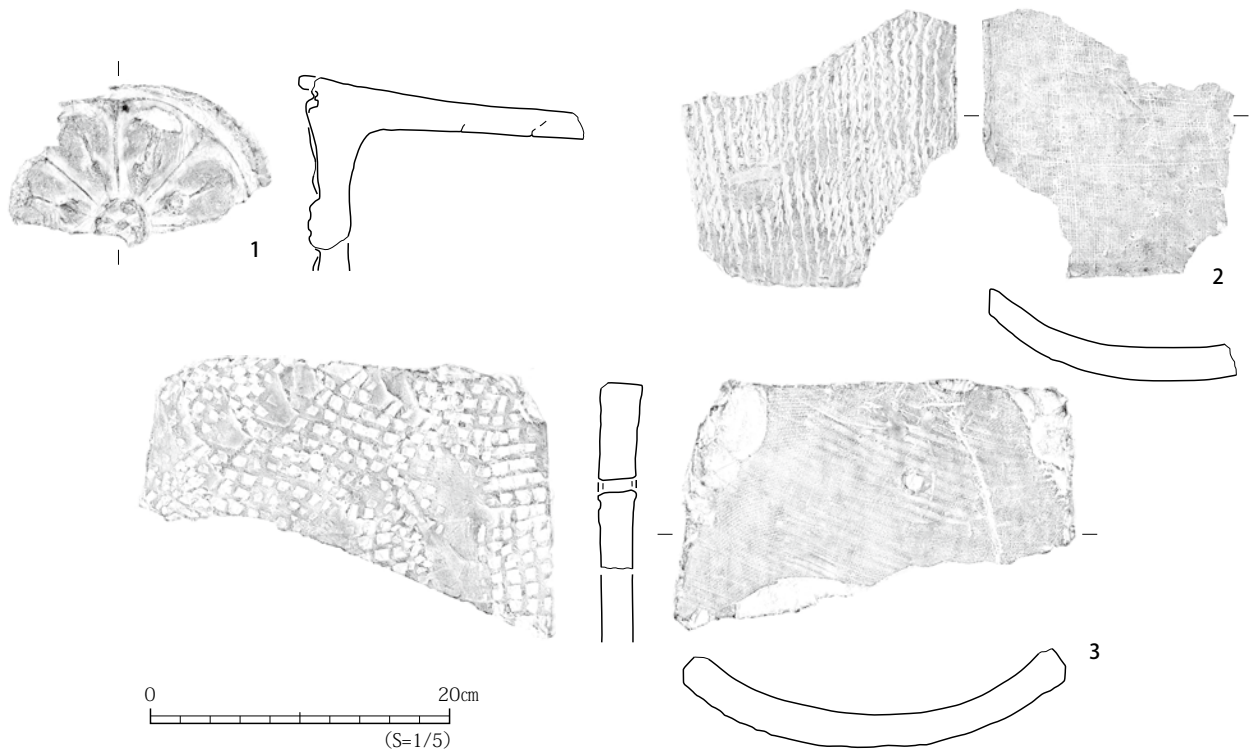


SD2761掘り下げ状況(東から)



SD2761・2885断面(東から)

図版86 SB2771Bに伴う暗渠



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SD2884	79	軒丸瓦	1/4	重弁蓮花文222	直径(20.2) 瓦当厚2.8		R55	B14664
2	SD2885	79	平瓦	1/5	II Ba類	厚2.2。凸面広端部中央に方形圧痕		R36	B14664
3	SD2884	79	平瓦	1/3	I Ca類	狭端幅24.2 厚2.4。狭端部中央に円形の釘穴(直径1.2)		R44	B14664

図版87 SB2871Bに伴う排水溝(SD2884・2885)出土瓦

いが、SD2885 は建物の西側以外に南側から東側にかけての伸びも確認された。また、その南側部分とほぼ同位置で重複するのがSD2761で、SD2885より新しく、本建物跡より新しいSB2755建物跡よりも古い。従って、これらの排水施設には西側でSD2885→SD2884、南側でSD2885→SD2761の重複があり、B建物の時にも排水施設が改修されている。

SD2884・2885は素掘りの溝で、検出した長さはSD2884が延べ4.0m、SD2885が延べ15.5m、幅はSD2884が約0.7m、SD2885が約1.0mである。ともに深さは0.2～0.5mで、断面形は皿状を呈し、SD2884ではブロック状の地山土を少し含む褐色(7.5YR4/3)の砂や褐灰色(10YR4/1)の粘土、SD2885では灰黄褐色粘土や炭粒を含む灰黄褐色(10YR4/2)の砂質シルトが自然堆積している。方向は、西側の南北部分で南北の基準線に対して北で東に約3°振れており、SD2885南側の東西部分は東西の基準線に対して東で約8°南に振れている。

SD2761は長さ約6.5m分を検出した。幅0.2～0.4m、深さ約0.3mの横断面形がU字形の溝を掘り、部分的に瓦片を敷いたうえで木樋を置いて埋め戻した暗渠である。木樋は腐朽して暗褐色や灰黄褐色(7.5YR3/3、10YR4/2)に粘土化しているが、U字状に厚さ2cm前後の痕跡が残る。木樋の幅は20cm程で、ブロック状の地山土を含む褐色(7.5YR4/4)の砂で埋め戻されており、内部には炭粒を含む酸化した褐色(7.5YR4/3)の砂が堆積している。なお、方向は重複するSD2885の東西部分と同様である。

以上のような建物周りの施設の水を集めて、建物の南西隅から南西方向に排水するのが瓦組のSD2773暗渠である。その北端はSB2755建物跡の柱穴で壊されているが、SD2885南西の屈曲部およびSD2761西端と重複する場所に位置する<sup>(註5)</sup>。検出した長さは約3.0mで<sup>(註6)</sup>、保存の

SD2884・  
2885溝

SD2761暗渠

SD2773暗渠

ため精査はしていないが、幅 0.5 m 前後の溝を掘り、その内部の両側に長軸方向に割った瓦の凸面を上にして溝の方向に長軸を揃えて置き、さらに両側の瓦を渡すように凸面を上にしたやや大きな瓦片を重ねた構造を持つ。使用した瓦には丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡB類などがあり、褐色土で埋め戻されている。方向は南北の発掘基準線に対して北で東に約 32°振れている。

**出土遺物** 遺物は、B建物では柱穴掘方から平瓦ⅠA類、須恵器甕、柱抜き穴から平瓦ⅠA・ⅡBa類、須恵器環・蓋がごく少量出土している。

排水施設では、SD2884 から軒丸瓦、丸瓦ⅠA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅡBa類、SD2885 から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠCb・ⅡBa類、土師器甕がそれぞれ少量、SD2761 の掘方から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅡBa・ⅡBb類、木樋内の堆積土から須恵器環・甕が少量出土している。これら排水溝の出土瓦は平瓦ⅡB類が主体だが、SD2884 には重弁蓮花文 125 軒丸瓦 (図版 87-1) や釘穴がある平瓦ⅠCa類 (3)、SD2885 の平瓦ⅡBa類には凸面に方形の圧痕を持つものがある (2)。

**【SB2872 建物跡】** (図版 68・73・84)

**検出状況** 南部の概ね E22・S246 を中心に位置する桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟で、南西Ⅲ層上面で検出した。SB2871 建物跡、SD2883 溝より新しい。柱穴は 9 個検出し、5 ヲ所で柱痕跡を確認している。

**規模・方向** 規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を想定すると、桁行が北側柱列で総長 4.1 m、柱間は東から 1.6 m・約 1.2 m・約 1.3 m、梁行が西妻で総長 3.8 m、柱間は北から約 2.0 m・約 1.8 m である。棟の方向は北側柱列で東西の基準線に対して東で南に約 3°振れている。

**柱穴** 柱穴は長辺 0.3～0.8 m、短辺 0.4 m 前後の隅丸長方形で、深さは北東隅から 1 間西や南西隅の柱穴で 0.4～0.5 m ある。炭と少量の焼土・地山土を少し含む暗褐色 (10YR3/3) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は粒状の炭や地山土を含む灰黄褐色 (10YR4/2) のシルトで、直径 20cm 弱の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、土師器環、須恵器蓋がごく少量出土している。

**【SB3266 建物跡】** (図版 66)

**検出状況** 東区の SB2509 建物跡と東西対称に位置する建物跡として推定したもので、北部の E28・S188 付近の地山で南東隅となる柱穴 1 個を検出した。西側の柱穴は宅地の造成で削られている。SB2502 建物跡と重複するが、直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

**規模と柱穴** 建物の詳細な構造・規模は不明だが、SB2509 と同等とみれば桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟で、規模は桁行が総長 8.9 m、梁行が 5.1 m 程と推測される。柱穴の掘方は長辺約 1.5 m、短辺 1.1 m 以上の隅丸長方形で、深さは断割りをしていないため不明である。埋土にはぶい黄褐色 (10YR6/3) の砂質シルトである。遺物は出土していない。

ii. 材木堀・柱列跡

**【SA2456 柱列跡】** (図版 20・68・88)

**検出状況** 南部の E31・S242 付近から東に 2 間または 3 間、そこから南に直角に折れて 5 間または 7

間ほど伸びる柱列跡で、地山の上面で確認した。SB2457 建物跡より古い。

本柱列跡は『年報 2006』では A→B→C の作替えを考えたが、B は A・C に比べて南北 2 間分の柱穴を検出したにすぎず、柱間寸法や柱穴掘方の形状・向きにも違和感があることから、A・C よりも古い別の柱列跡の可能性がある。

#### 《SA2456 A 柱列跡》

東西部分が 3 間、南北部分が 7 間とみられる柱列跡である。柱穴は北東端とその 1 間西の柱穴を除く 9 個を検出し、南北部分南半の 4 ヲ所で柱痕跡を確認した。なお、南北部分南端の柱穴は『外郭 I』で報告した SA2897 柱列跡の東の延長上にほぼ位置する。

規模と柱穴

柱列の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を想定すると、東西部分が総長約 7.4 m、柱間は西から約 2.2 m、約 5.4 m (2 間分)、南北部分が総長約 17.0 m、柱間は北から約 2.7 m・約 2.4 m・約 2.3 m・2.3 m・約 2.6 m・約 2.6 m・2.3 m である。方向は東西・南北部分とも基準線にほぼ一致している。柱穴は一辺 0.6～1.0 m の隅丸方形で、深さは東西部分西端の柱穴で約 0.3 m、南北部分南端から 2 間北の柱穴で約 0.7 m である。地山の礫片やブロック状の地山土を含む黄褐色 (10YR5/6) のシルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径 25cm 前後のやや円形を呈す。

遺物は、柱痕跡から丸・平瓦の破片が少量出土している。

出土遺物

#### 《SA2456B 柱列跡》

南北 2 間分の柱穴 3 個を検出し、1 ヲ所で柱痕跡を確認した。検出部分の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を想定すると、総長約 5.5 m、柱間は北から約 2.1 m、約 3.4 m で、方向は南北基準線にほぼ一致する。柱穴は一辺 0.8 m 前後の隅丸方形で、深さは約 0.2 m あり、ブロック状の地山土を多く含むにぶい褐色やにぶい黄橙色 (7.5YR5/3、10YR6/4) のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は炭粒を僅かに含む褐色 (7.5YR4/6) のシルトで、直径 20cm 弱の円形を呈す。

規模と柱穴

遺物は、土師器甕が 1 点出土している。

出土遺物

#### 《SA2456 C 柱列跡》

東西部分が 2 間、南北部分が 5 間の柱列跡である。柱穴は 8 個検出したが、南北部分の北半は SB2457 に大きく壊されている。柱痕跡は南北部分南半の 2 ヲ所で確認したのみで、ほかには東西部分の 2 ヲ所で柱の抜取り穴または切取り穴を確認している。

規模と柱穴

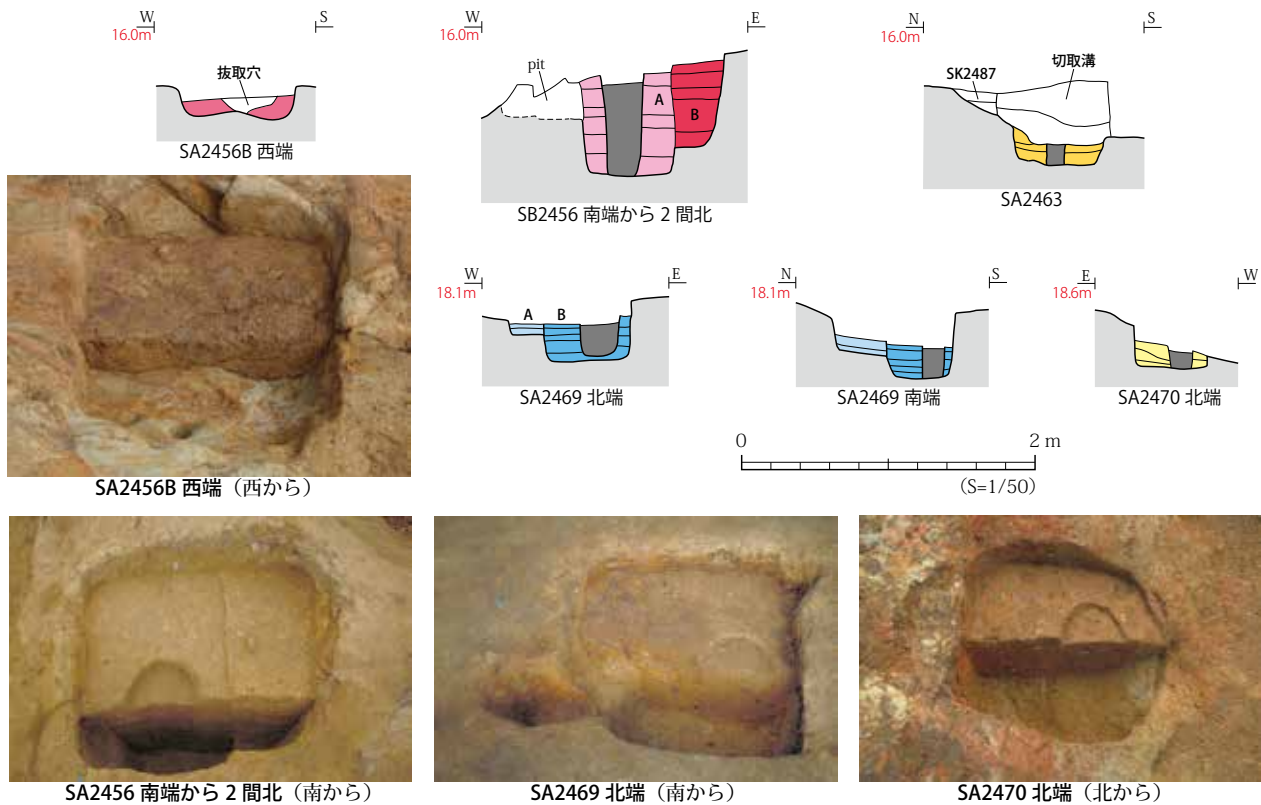
柱列の規模は、柱痕跡または抜取り穴や柱穴の中心に柱の位置を想定すると、東西部分が総長約 5.6 m、柱間は約 2.8 m 等間、南北部分が総長約 12.9 m、柱間は北から約 3.0 m・約 2.4 m・約 3.0 m・約 2.3 m・2.0 m である。方向は東西・南北とも基準線にほぼ一致している。また、東西部分西端の 5.0 m 先からは、SA2851 柱列跡が本柱列跡と柱筋を揃えて西に伸びている。

柱穴は一辺 0.7～1.0 m の隅丸方形で、深さは北東端で約 0.8 m、東西部分西端で約 0.3 m である。地山の礫片やブロック状の地山土主体の黄褐色 (10YR5/6・5/8) のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は褐色 (10YR4/6) のシルトで、直径 30cm 弱の円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅡB類、抜取り穴から平瓦ⅠC a・ⅡB a類がごく少量出土している。掘方出土の平瓦ⅡB類には「丸」Aの刻印があるものがある。

出土遺物





図版88 西区の材木塀・柱列跡 1 (SA2456・2463・2469・2470)

【SA2463 材木塀跡】 (図版 68・88・100)

南部の E37・S254 付近から西に伸びる材木塀跡である。西半は未検出だが、東半は SB2459 建物跡のすぐ南側に沿って位置する。材木は切り取られており、切り取り溝の底面で痕跡を 7 個検出した。SB2459 A 建物跡、SK2486・2487 土壌より新しい。なお、SB2459 B 建物跡とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。

構造・規模

構造は溝状の掘方に材木を立て並べて埋め戻したもので、検出した掘方の長さは約 5.6 m、幅は約 0.6 m である。深さは東端で約 0.4 m、検出した西端で 0.7 m あり、横断面形は底面が平坦で、壁がほぼ垂直に立ち上がる箱形を呈す。埋土はブロック状の地山土を含むにぶい黄褐色 (10YR5/4) のシルトである。材木の痕跡はブロック状の地山土を含むにぶい黄橙色 (10YR6/4) の粘土質シルトで、直径 20cm 前後の円形を呈し、60cm 程の間隔で並ぶ。その方向は東西の発掘基準線に対して東で約 6° 南に振れている。

切り取り溝

抜き取り溝は断面形が U 字形を呈する溝で、深さは掘方の底面から 0.1 ~ 0.2 m 上まで達する。ブロック状の地山土をまばらに含む褐色 (10 YR4/4・4/6) のシルトが堆積している。

出土遺物

遺物は、材木の掘方から丸瓦 II 類、平瓦 I C 類、切り取り溝から丸瓦 II 類、平瓦 I A・I C・II B 類が少量出土している。

【SA2469 柱列跡】 (図版 68・88)

検出状況

中央南側の概ね E39・S223 から南に伸びる南北 2 間の柱列跡で、地山上面で検出した。同位置で一度作り替られており (A→B)、柱穴は A・B ともに 3 個検出した。柱痕跡は B では 3 カ所確認したが、A は B に壊されており、確認されなかった。なお、A・B ともに他の遺構との重

複はなく、遺物も出土していない。

《SA2469A 柱列跡》

検出した柱穴がBとほぼ同位置にあり、柱列の規模や方向は概ね同様と推定される。柱穴の掘方は一辺0.8 m前後の隅丸方形で、深さは南端で約0.3 mある。地山の礫片を多く含む明褐色(7.5YR5/8)のシルトで埋め戻されている。

規模と柱穴

《SA2469B 柱列跡》

B柱列の規模は、柱痕跡から総長が4.8 m、柱間は北から2.5 m・2.3 mである。方向は南北の基準線に対して、北で東に約7°振れている。柱穴の掘方は一辺0.5～0.9 mの隅丸方形で、深さは北端で約0.4 mある。地山の礫片を多く含む褐色(10YR4/6)のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は褐色(10YR4/6)のシルトで、直径20cm前後の円形を呈す。

規模・柱穴

【SA2470 柱列跡】(図版68・88)

中央南側のE38・S236から南に伸びる南北2間の柱列跡で、地山上面で柱穴を3個検出し、北側の2カ所で柱痕跡、南端の柱穴で抜取り穴を確認した。他の遺構とは重複しない。

検出状況

柱列の規模は、柱痕跡と抜取り穴の中心に柱の位置を想定すると、総長が約4.6 m、柱間は北から2.1 m・約2.5 mである。方向は南北の基準線にほぼ一致している。

規模・柱穴

柱穴の掘方は一辺0.6 m前後の隅丸方形で、深さは北端で約0.3 mある。地山の礫片を多く含む明褐色(7.5YR5/8)のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は明褐色(7.5YR5/6)のシルトで、直径20cm前後の円形を呈す。なお、本柱列跡で遺物は出土していない。

【SA2756 柱列跡】(図版68・73・89)

南部のSB2755建物跡の南側柱列に沿って約4.2 m南を伸びる東西5間の柱列跡で、西端の柱穴は北に伸びるSA2844柱列跡南端の柱穴を兼ねる。同位置で作り替えられており(A→B)、SA2772柱列跡、SA2908柱列跡、SX2909積土遺構より新しく<sup>(註7)</sup>、SD2764溝より古い。

検出状況

柱穴は傾斜地による削平で残りが良くないが、Aで3個、Bで6個検出し、柱痕跡はAで1カ所、Bでは6カ所すべてを確認した。

《SA2756 A 柱列跡》

A柱列の規模や方向は、検出した柱穴がすべてBの柱穴に壊されていることからBと概ね同様と推定される。柱穴の掘方は長辺が0.7～1.1 m、短辺が0.6～1.0 m程の隅丸長方形とみられるが、西端の柱穴は長辺が0.5 m程と小さい。深さは東から2間西の柱穴で約0.3 mあり、ブロック状の地山土を含む褐色(7.5YR4/4)の砂質シルトで埋め戻されている。柱痕跡は直径25cm前後の円形を呈す。なお、Aでは遺物は出土していない。

規模と柱穴

《SA2756 B 柱列跡》

B柱列の規模は、柱痕跡から総長12.9 m、柱間は東から2.8 m・2.8 m・2.5 m・2.8 m・2.0 mである。方向は、東西の基準線に対して東で南に約6°南に振れている。

規模と柱穴

柱穴は長辺が0.6～1.2 m、短辺が0.5～1.0 mの隅丸長方形を基調とするが、西端の柱穴は長辺が0.5 m程と小さい。深さは東から2間西の柱穴で約0.3 mあり、ブロック状の地山土を多



図版89 西区の材列堀・柱列跡 2 (SA2756・2763・2772)

く含む褐色（7.5YR4/4）の砂質シルトで埋め戻されている。柱痕跡は炭粒とブロック状の地山土を少し含む褐色（7.5YR4/3）のシルトで、直径 30cm前後の円形を呈す。

**出土遺物** 遺物は、掘方から平瓦Ⅱ B類、土師器甕、柱痕跡から土師器甕が少量出土している。

**【SA2763 材木堀跡】**（図版 68・73・77・89）

**検出状況** 南部の概ね E15・S259 から南に伸びる材木堀跡で、地山の上面で材木の抜き取り溝を検出した。SB2777 建物跡、SI2765 住居跡、SD2779 溝、SK2754 土壇と重複し、SI2765 と SK2754 より古い。SD2779 とは切り合いを確認できず、新旧は不明である。また、SB2777 とは北東隅柱穴の北半で重複し、その掘方より新しく、柱の抜き取り穴よりは古い（図版 77）。このことから本材木堀跡は SB2777 とある程度同時に存在し、その北東隅柱に取り付けていたとみられる。また、本堀跡の北端から約 2.8 m 北からは SA2887 材木堀跡が延長上を伸びている。

**構造・規模** 構造は溝状の掘方に材木を立て並べて埋め戻したもので、材木は抜き取りまたは切り取られているが、一部精査した抜き取り溝の底面付近で材木の痕跡を 2 ヲ所確認している。

掘方は抜き取り溝に壊されているが、規模は抜き取り溝の位置と掘方下半の状況から長さ約 6.0 m、幅 0.3 m 前後と推定される。深さは約 0.5 m あり、横断面形は壁が垂直に近い U 字形で、黄褐色（10YR5/8）のシルトで埋め戻されている。材木の痕跡は直径約 15cm の円形を呈す。方向は抜き取り溝で南北の発掘基準線に対して北で東に約 4° 振れる。なお、遺物は出土していない。

**【SA2772 柱列跡】**（図版 68・73・89）

**検出状況** 南部の概ね E16・S259 から南に伸びる南北 3 間の柱列跡である。地山上面で 4 個の柱穴を検

出し、すべてで柱痕跡を確認した。SA2756 柱列跡、SI2765 住居跡、SD2764 溝、SK2754 土壙より古い。また、南端の柱はSB2777 建物跡北妻の柱筋の約 1.5 m 東延長上に位置する。

柱列の規模は、柱痕跡から総長 5.8 m、柱間は北から 2.0 m・1.9 m・1.9 m で、方向は南北の基準線と概ね一致している。柱穴は、一辺が 0.8 ～ 1.0 m の隅丸方形や隅丸長方形で、深さは北端から 1 間南の柱穴で約 1.1 m あり、ブロック状の地山土を多く含む明黄褐色（10YR6/8）のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は褐色（10YR4/6）のシルトで、直径約 30cm の円形を呈す。

規模と柱穴

遺物は、柱痕跡から須恵器甕がごく少量出土している。

出土遺物

### 【SA2843 柱列跡】（図版 67・68・90）

中央の最西端に位置し、概ね E16 ラインを南北に伸びる柱列跡である。丘陵部西肩における立地と宅地の造成による削平で残りが悪く、間を欠く箇所もあるが、地山の上面で 11 ～ 14 間分の柱穴を検出した。南・北ともさらに伸びる可能性があり、南の延長上には SA2844 柱列跡や SA2772 柱列跡、北の延長上には SA3261 柱列跡がある。

検出状況

本柱列は少なくとも一度作り替えられており（A→B）、柱穴は A・B ともに 11 個検出した<sup>（註 8）</sup>。全体的に B の残りが良く、柱痕跡は A で 3 カ所、B で 5 カ所確認している。なお、他の遺構との重複関係はなく、また、A では遺物が出土していない。

#### 《SA2843A 柱列跡》

A の柱穴は、B や後世の削平で失われた箇所があるが、14 間分を検出した。比較的、北半の柱穴の残りが良く、それらは SB2848 建物跡の西側柱列に沿って約 6.9 m 西に位置し、北から 3 ～ 6 間目の柱穴は SB2848 の北妻から 2 ～ 5 間目の東・西の側柱穴を結んだ延長上にある。一方、南半では南端の柱穴が SA2851 柱列跡との接点にあり、両柱列跡の柱穴を兼ねる。

規模と柱穴

規模は、柱痕跡または柱穴や抜き穴の中心に柱位置を想定すると、検出した総長が約 30.0 m、柱間は北から 7.2 m（3 間分）・2.5 m・2.1 m・約 2.5 m・約 4.5 m（2 間分）・約 2.5 m・約 2.3 m・約 4.7 m（2 間分）・約 2.2 m・約 2.4 m である。方向は南北の基準線とほぼ一致する。

柱穴は長辺 0.8 ～ 1.2 m、短辺 0.7 m 前後の隅丸長方形で、深さは最北の柱穴で約 0.6 m あり。埋土はブロック状の地山土を含む暗褐色や褐色（7.5YR3/3・4/4）の砂質シルトである。柱痕跡は粒状の地山土と炭を含む褐色（7.5YR4/3）のシルトで、直径 25cm 前後の円形を呈す。

#### 《SA2843B 柱列跡》

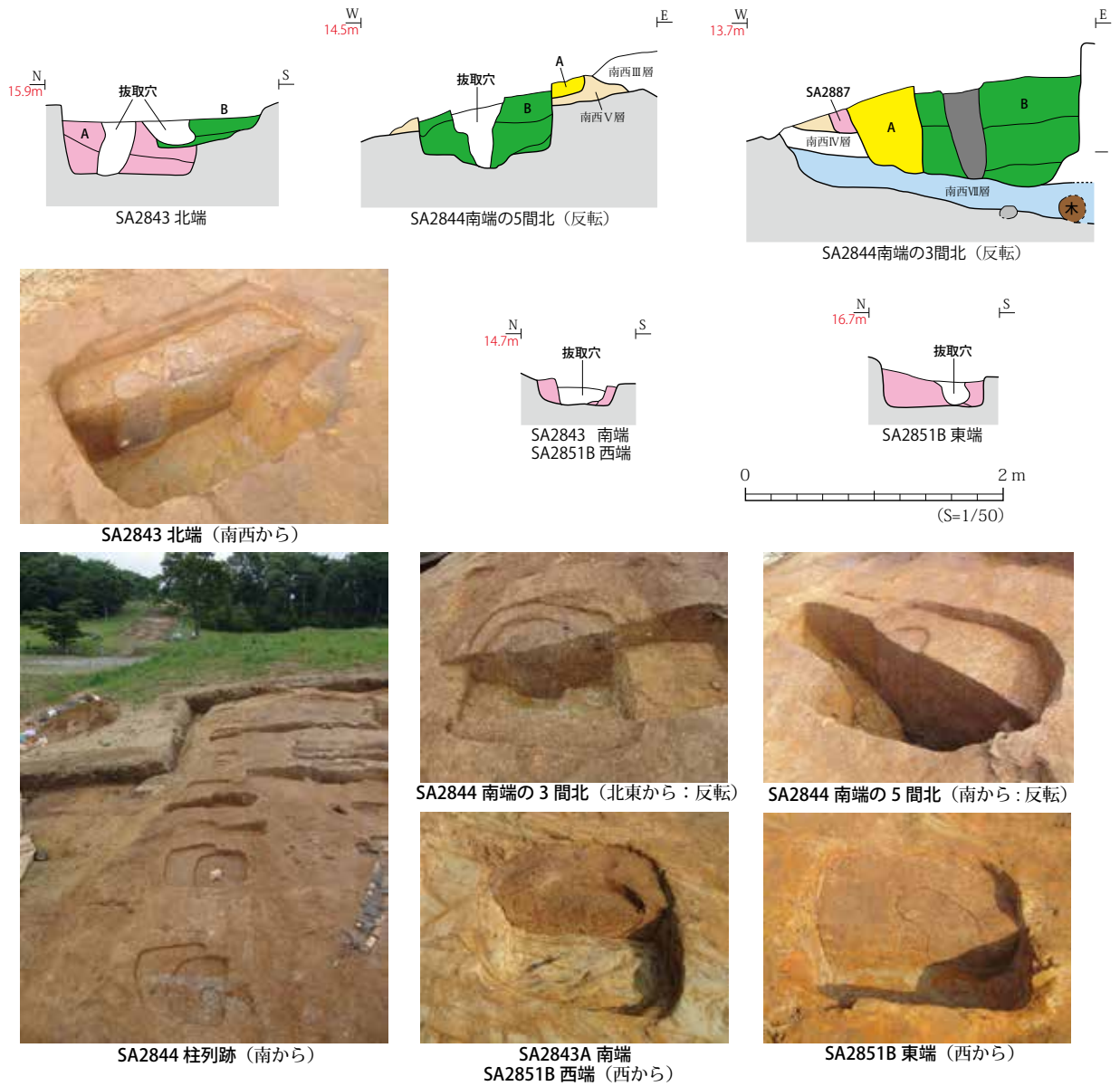
B 柱列は SB2837 建物跡西側柱列に沿って約 2.7 m 西を伸びており、北から 2 間南と 8 間南の柱穴は SB2837 の北・南妻柱列の延長上に位置する。規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を想定すると、検出した総長が約 27.0 m、柱間は北から約 2.6 m・約 2.6 m・2.8 m・2.7 m・8.6 m（4 間分）・約 2.5 m・2.9 m・約 2.3 m である。方向は南北の基準線とほぼ一致する。

規模と柱穴

柱穴は長辺が 0.9 ～ 1.2 m、短辺が 0.7 ～ 1.1 m の隅丸長方形で、深さは最北の柱穴で約 0.4 m あり。埋土はブロック状の多量の地山土と少量の炭粒を含む暗褐色や褐色（7.5YR4/3・4/4）の砂質シルトである。柱痕跡は地山土の小ブロックと少量の炭粒を含む灰黄褐色（10YR4/2）のシルトで、直径 30cm 前後の円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から平瓦 I C・II B 類、土師器甕、須恵器坏が少量出土しており、平瓦 II B

出土遺物



図版90 西区の柱列跡3 (SA2843・2844・2851)

類には「物」Aの刻印があるものがある。

**【SA2844 柱列跡】** (図版 68・73・90)

検出状況

南部の西端に位置し、SB2755 建物跡西側柱列に沿って約 3.0 m西の概ね E15 ラインを南北に伸びる柱列跡である。南西V層および地山の上面で6間分を検出した。北は宅地の造成のため不明だが、さらに伸びる可能性があり、その延長上には前述の SA2843 柱列跡が位置する。一方、南端は SA2756 柱列跡と接続し、その西端の柱穴を兼ねている。ほぼ同位置で一度作り替えられており (A→B)、S A 2887 材木堀跡より新しく、SD2877 暗渠より古い。

柱穴はAで7個、Bで6個検出したが、Aの柱穴はBに壊されており、柱痕跡は南端の1カ所で確認したのみである。Bでは7カ所すべてで柱痕跡を確認し、北から1・2間目の柱は切り取られている。

《SA2844 A 柱列跡》

規模と柱穴

規模や方向は、柱穴がBの柱穴にほぼ同位置で壊されていることから、Bと概ね同様とみら

れる。柱穴は長辺 1.0～1.6 m、短辺が 0.9 m～1.1 m の隅丸長方形を基調とするが、南端の柱穴は長辺が 0.5 m 程と小さい。深さは南端から 3 間北の柱穴で約 1.0 m あり、褐色（7.5YR4/3）のシルトで埋め戻されている。南端の柱痕跡は直径約 20cm の円形を呈す。

遺物は、柱穴掘方から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡBa類、土師器甕、須恵器坏が少量出土しており、丸瓦ⅡB類には「田」Aの刻印があるものがある。出土遺物

#### 《SA2844 B 柱列跡》

B 柱列の規模は、柱痕跡から検出した総長が 15.7 m、柱間は南から 2.5 m・2.5 m・2.8 m・2.5 m・2.5 m・2.9 m である。方向は南北の基準線から少し偏り、北で東に約 2° に振れている。柱穴は長辺 1.1～1.4 m、短辺 0.7～1.1 m の隅丸長方形を基調とするが、南端の柱穴は長辺が 0.5 m 程と小さい。深さは南端から 3 間北の柱穴で約 1.1 m あり、炭粒を含む灰黄褐色やにぶい黄褐色（10YR4/2・5/3）のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は褐色（7.5YR4/3）のシルトで、直径 25cm 前後の円形を呈す。規模と柱穴

遺物は、柱穴掘方から丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠA・ⅡB類、土師器甕、須恵器坏・甕、柱痕跡から平瓦ⅠA類、土師器蓋、須恵器坏が少量出土している。出土遺物

#### 【SA2851 柱列跡】（図版 68・90）

南部の概ね E27・S242 から西に伸びる東西 5 間の柱列跡で、地山上面で検出した。<sup>(註9)</sup> 西端は SA2843 A 柱列跡と接続し、その柱穴を兼ねる。また、東端の 5.0 m 先からは SA2456 柱列跡が東に伸びる。ほぼ同位置で作り替えられており（A→B）、SK2835 土壌より古い。検出状況

柱穴は A で西側の 2 個、B で西端以外の 5 個を検出した。A の柱穴は B に大半が壊されており、柱痕跡は確認されず、西端で抜き取り穴を検出したのみである。一方、B の柱穴は比較的残りが良く、柱はすべて抜き取られているのを確認した。

#### 《SA2851A 柱列跡》

A 柱列の規模や方向は、柱穴の大半が B に壊されていることから B と概ね同様と思われる。検出した西側 2 個の柱間は 1.8 m で、柱穴は一辺 0.7 m 前後の隅丸方形を呈す。深さは西端の柱穴で約 0.3 m あり、にぶい褐色（7.5YR5/4）のシルトで埋め戻されている。規模と柱穴

遺物は、柱穴掘方から平瓦ⅠC類がごく少量出土している。出土遺物

#### 《SA2851 B 柱列跡》

B 柱列の規模は、柱抜き取り穴の中心に柱の位置を想定すると、検出した総長が 9.0 m、柱間は東から約 2.5 m・約 2.1 m・約 2.1 m・約 2.3 m・不明である。方向は東西の基準線に概ね一致している。柱穴は長辺が 0.8～1.4 m、短辺が 0.8 m 前後の隅丸長方形や隅丸方形で、深さは東端で約 0.4 m ある。ブロック状の地山土を含む明褐色（7.5YR5/6）のシルトで埋め戻されている。規模と柱穴  
なお、B では遺物は出土していない。

#### 【SA2862 柱列跡】（図版 67）

中央南側の SB2837 建物跡の南妻に沿って約 1.5 m 南を伸びる東西 3 間の柱列跡である。地山の上面で柱穴 4 個を検出し、東側の 2 カ所で柱痕跡を確認した。他の遺構との重複関係はない。検出状況

なお、本柱列跡では断ち割り等による精査はしておらず、遺物も出土していない。

**規模と柱穴** 柱列の規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を想定すると、総長が7.6 m、柱間は東から2.8 m・約2.5 m・約2.3 mである。方向は東西の基準線とほぼ一致する。柱穴は長辺0.3～0.4 m、短辺0.2～0.3 mの隅丸長方形で、褐色のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は直径約15 cmの円形を呈す。

**【SA2863 柱列跡】** (図版 68)

**検出状況** 中央南側の概ね E32・S229 から西に伸びる東西2間の柱列跡である。地山の上面で柱穴を3個検出し、東端以外の柱穴で柱痕跡を確認した。SB2869 建物跡と重複するが、直接的な重なりはなく、新旧関係は不明である。なお、精査はしておらず、遺物も出土していない。

**規模と柱穴** 規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を想定すると、総長が4.7 m、柱間は東から約2.4 m・2.3 mである。方向は東西の基準線とほぼ一致する。柱穴は長辺0.5 m前後、短辺0.4 m前後の隅丸長方形で、埋土は褐色のシルトである。柱痕跡は直径約15 cmの円形を呈す。

**【SA2868 柱列跡】** (図版 67)

**検出状況** 中央北側の概ね E25・S209 から西に伸びる東西2間以上の柱列跡である。SB2860 建物跡の南側柱列の約0.5 m南に位置し、地山の上面で柱穴3個を検出した。西側は後世の削平などにより不明だが、さらに西に伸びる可能性がある。柱痕跡は東端から1間西の柱穴で確認した。他の遺構との重複関係はない。なお、本柱列跡では精査はしておらず、遺物も出土していない。

**規模と柱穴** 規模は、柱痕跡または柱穴の中心に柱位置を想定すると、総長が4.9 m、柱間は東から約2.4 m・約2.5 mである。方向は東西の基準線に対して東で南に約9°振れている。柱穴は長辺0.2～0.3 m、短辺0.2 m前後の隅丸長方形で、褐色のシルトで埋め戻されている。柱痕跡は直径15 cm弱の円形を呈す。

**【SA2887 材木堀跡】** (図版 68・73・91)

**検出状況** 南部の概ね E15・S256 から南に伸びる材木堀跡で、南西V・VI層の上面で検出した。SD2888 溝より新しく、SA2844 柱列跡、SD2877 暗渠より古い。また、南端から約2.8 mの間を挟んだ南では SA2763 材木堀跡が延長上を伸びている。

**構造・規模** 構造は溝状の掘方に材木を立て並べて埋め戻したもので、材木は抜き取りまたは切取られているが、溝を掘り下げた南端から1 m程の範囲で材木の痕跡を3カ所確認した。

掘方は抜き取り溝に壊されているが、抜き取り溝の位置や掘方下半の状況から規模は長さ約6.1 m、幅0.4 m前後と推定され、深さは約0.6 mである。横断面形は壁が垂直に近いU字形を呈すが、底面が平らな箇所もある。ブロック状の地山土を含む褐色やにぶい黄褐色(7.5 YR4/3・10YR4/3)のシルトで埋め戻されており、材木の痕跡は直径20 cm前後の円形を呈し、30 cm弱の間隔で並ぶ。方向は抜き取り溝で南北の発掘基準線に対し北で約4°東に振れる。なお、遺物は出土していない。

【SA2892 柱列跡】 (図版 68・73・91)

南部のSB2755 建物跡の東側柱列に沿って約 5.7 m 東を伸びる南北 3 間の柱列跡で、南西Ⅲ層と SK2486 土壌の上面で柱穴 4 個を検出した。それらは SB2755 の北側柱列から南側柱列まで東西 4 本の柱筋の延長上にあり、北端の柱穴は SB2755 と北側柱列同士の柱筋が揃う SB2459 建物跡の間に位置する。ほぼ同位置で作り替えられており (A→B)、SK2486 土壌より新しい。

検出状況

検出した柱穴は A・B とも 4 個だが、A の柱穴は B に壊されており、柱痕跡は 1 カ所確認したのみである。B では南端以外の 3 カ所で柱痕跡を確認し、そのうち北端の柱は切り取られている。また、南端の柱穴では抜取り穴または切取り穴を検出している。

《SA2892 A 柱列跡》

柱穴は B に壊されているが、その位置や大きさからみると、A の総長は B よりもやや長く、6.0 m 程と思われる。方向は概ね同様とみられる。柱穴は長辺が 0.7 ~ 1.0 m、短辺が 0.7 m 前後の隅丸長方形で、深さは北端で約 0.5 m ある。汚れて砂状になった地山土と少量の炭粒を含む褐色 (7.5YR4/4) のシルト質砂で埋め戻されており、柱痕跡は直径約 25cm の円形を呈す。

規模と柱穴

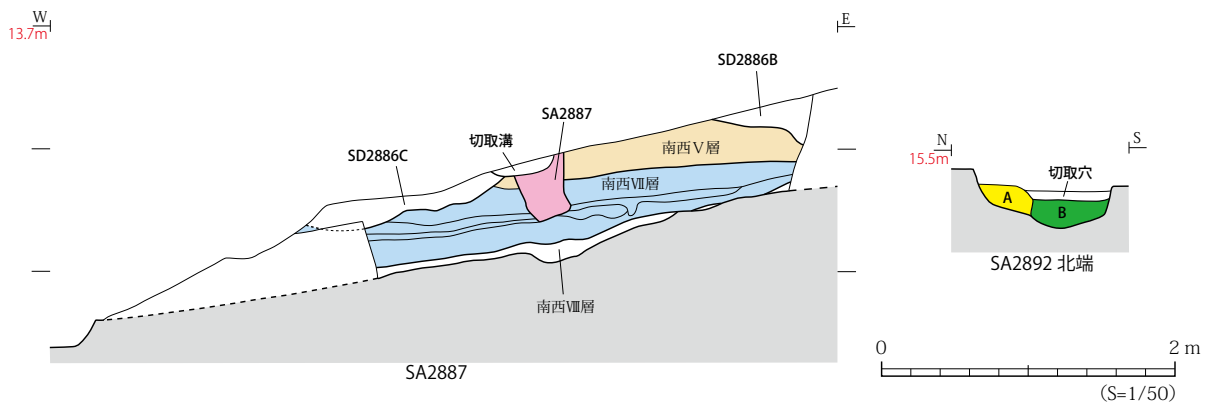
遺物は、柱痕跡から丸瓦Ⅱ類がごく少量出土している。

出土遺物

《SA2892 B 柱列跡》

B 柱列の規模は、柱痕跡または抜取り穴の中心に柱の位置を想定すると、総長が約 5.8 m、柱

規模と柱穴



SA2887 検出 (南から)



SA2887 断面 (南から)



SA2887 周辺の状態 (南から)



SA2763・2887 の位置関係 (北から)

図版91 西区の柱列跡4 (SA2887・2892)



間は北から 1.9 m・2.0 m・約 1.9 m である。方向は南北の基準線に対して北で東に約 3° 振れている。柱穴は方形を意識した長軸 0.4 ~ 0.8 m、短軸 0.4 m 前後の楕円形で、深さは北端で約 0.3 m である。粒状の炭と地山土を含むにぶい黄褐色 (7.5YR4/4) の砂質シルトで埋め戻されており、柱痕跡は直径 15cm 前後の円形を呈す。なお、遺物は出土していない。

**【SA3261 柱列跡】** (図版 66・92・113・114)

**検出状況** 北部の概ね E16 ライン上を南北に伸びる柱列跡で、旧表土および地山の上面で 6 間分を確認した。南北ともさらに伸びるとみられ、南側の延長上には柱筋をほぼ揃えて SA2843 柱列跡が位置する。一方、北側では沢に下る斜面に柱を立てており、柱列に沿って両脇に SX3270 盛土をして柱列を支えている。SD3265 溝、SK3264 土壌より新しい。また、SX3270 は東側が北西 VII 層、西側が北西 VI 層で覆われており、北西 VI 層の上面から柱が切り取られている。

本柱列跡では 6 個の柱穴と調査区北端付近 SX3270 の上面で切り取り穴 1 個を検出し、最も南の柱穴以外のすべてで柱痕跡を確認した。そのうち北から 3 ヶ所と南から 1 間北の柱は切り取られており、北側の 2 ヶ所では柱材を検出している。

**規模と柱穴** 柱列の規模は柱痕跡または柱穴の中心に柱の位置を想定すると、検出した総長が約 13.3 m、柱間は北から 2.1 m・2.2 m・2.4 m・2.3 m・2.1 m・約 2.2 m である。方向は南北の基準線にほぼ一致する。柱穴は長辺が 1.2 m 前後、短辺 1.0 m 前後の隅丸長方形を呈す。深さは北から 1 間南の柱穴で約 1.1 m あり、この柱穴では底面に据えた礫の上に柱材が概ね乗った状態で検出された。柱は表面を削り、底面を平らに加工した直径約 30cm の丸材で、長さ 1.1 m 程が残存していた。樹種はクリで、地山土ブロック主体の明黄褐色 (10YR5/6) の粘土や粒状の地山土を含む黒褐色 (2.5Y3/1) の粘土で埋め戻されている。埋土は他の柱穴も同様であり、柱痕跡は粒状の炭や酸化鉄を含む灰白色 (2.5Y7/1) のシルト質粘土で、直径 30cm 前後の円形を呈す。

**SX3270 盛土** SX3270 盛土は沢に下る北側の柱列の両脇で検出した。柱列の構築に伴う盛土で、柱穴との間に間層を挟まず、柱列とともに調査区北壁の外に伸びる。検出した長さは約 5.5 m で、横断面形は台形を呈し、幅は下幅が約 2.3 m、上幅が約 1.0 m で、高さは最大 50cm 程が残存する。盛土には地山土主体の明黄褐色 (2.5Y7/6) の粘土と、そのブロックを含む灰黄褐色 (10YR4/2・5/2) の砂質シルトを用いており、前者が比較的目立つ。

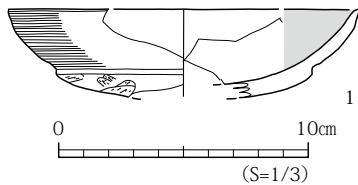
**出土遺物** 遺物は、柱穴の掘方から平瓦 I C a 類、土師器坏・甕がごく少量出土している。土師器坏は非ロクロ整形で、口縁部が内湾して立ち上がる有段丸底の坏である (図版 92-1)。

**iii. 竪穴住居跡**

**【SI2478 竪穴住居跡】** (図版 68・93・132)

**検出状況** 南部の概ね E28・S265 を中心に位置する竪穴住居跡で、地山上面で検出した。平面形は北東部の東辺にやや張り出しを持つ方形または長方形を呈し、南側は SX2787 平場跡によって壊されている。なお、それ以外に重複関係はない。

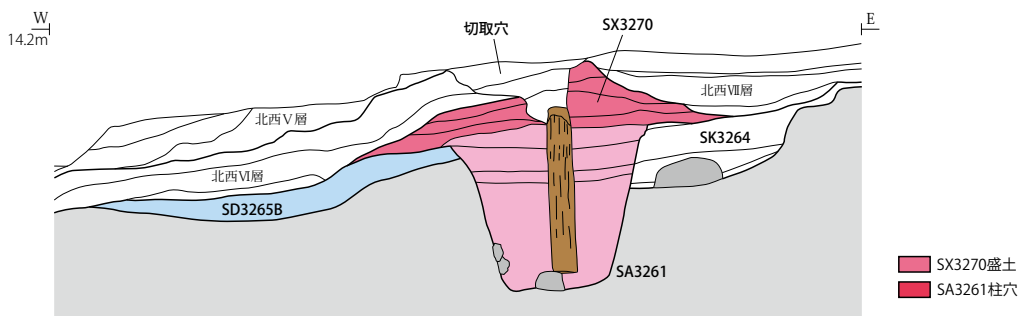
**規模・床** 規模は東西が北辺で約 4.5 m、南北が東辺で 2.9 m 以上であり、東辺の張り出しは北東隅から南に長さ約 1.0 m、幅 0.3 m 程のものである。方向は北辺で東西の発掘基準線に対して東で約



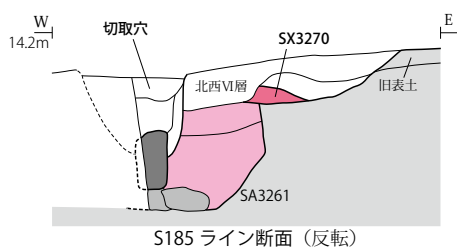
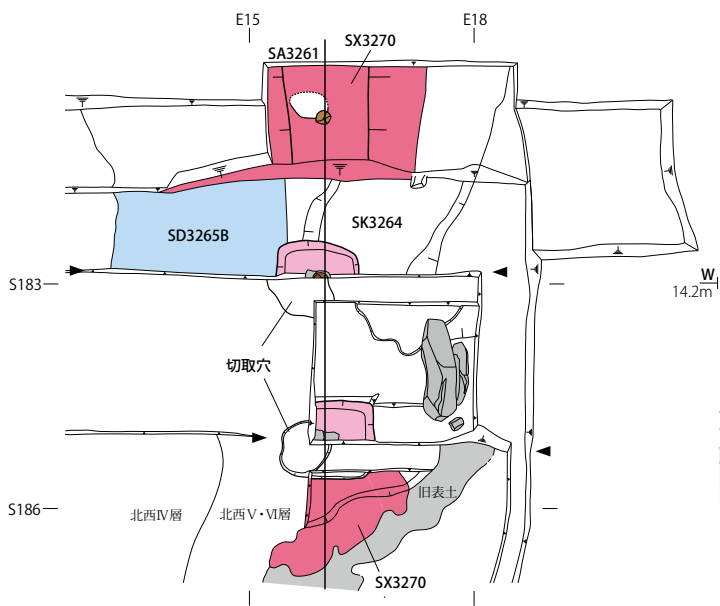
単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次敷	種別	残存	口径	底径	器高	写真図版	
1	SA3261 掘方	89	土師器・坏	1/4	(14.0)	—	—	登録	箱番号
								R12	B15526
非口ク口整形。外：有段丸底									

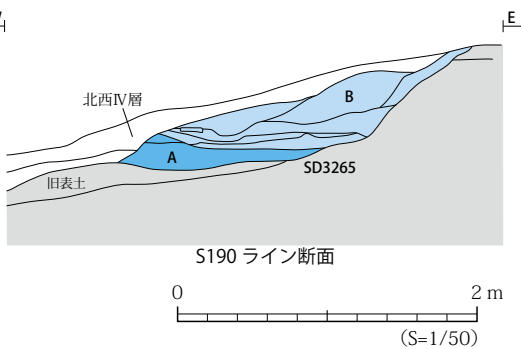
SA3261・SX3270・SK3264 断面 (反転：北から)



S183 ライン断面 (反転)



S185 ライン断面 (反転)



S190 ライン断面



SA3261 北から3間目断面 (南から)



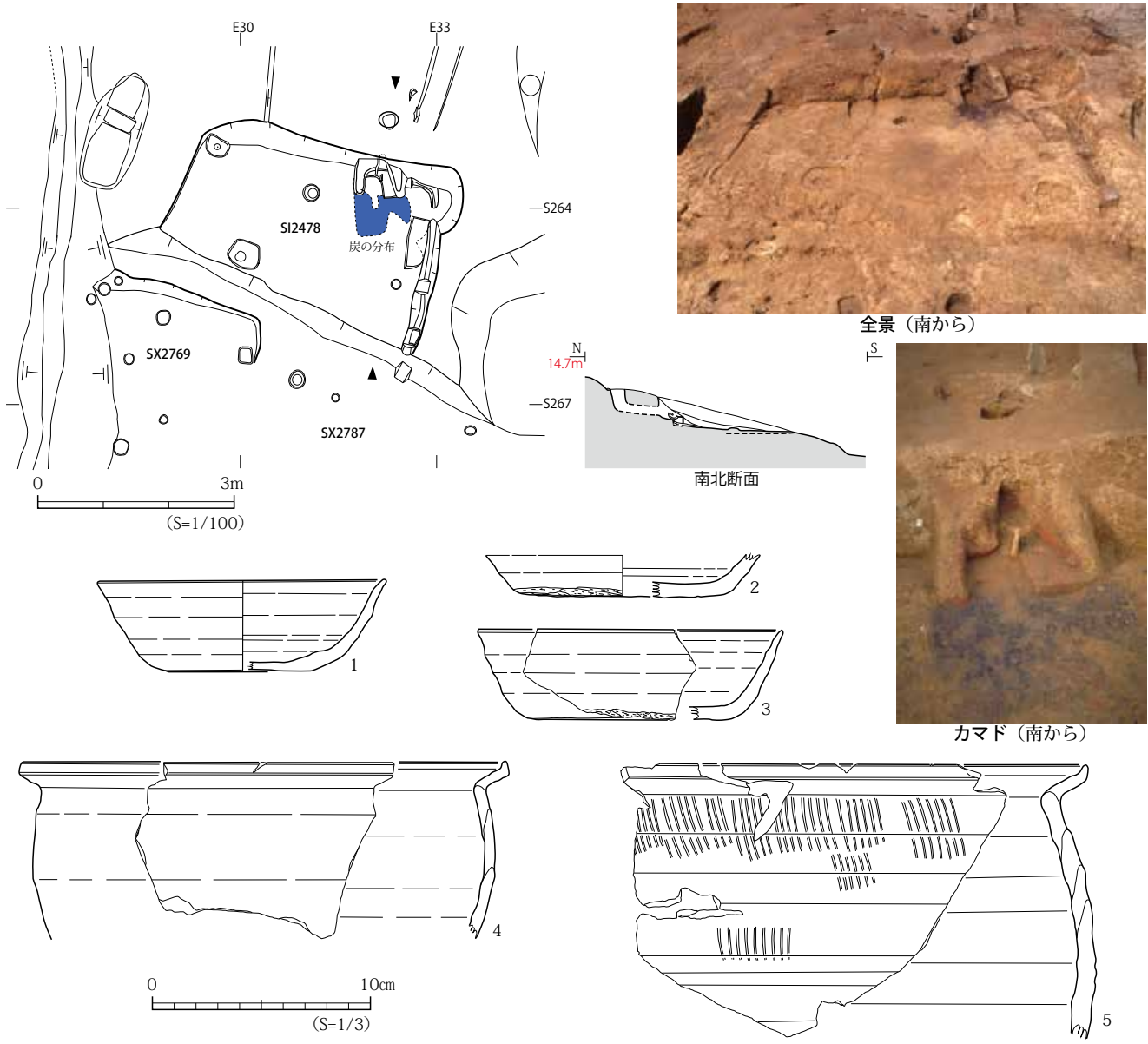
SA3261・SX3270 断面 (北から)

図版92 SA3261柱列跡とSD3265溝

10°南に振れる。床面は平坦で、ほぼ全面がブロック状の地山土を含む褐色のシルトで貼床されており、その厚さは約2cmある。壁は床面からほぼ直立するが、北辺はやや斜めに立ち上がる。高さは残りの良い北辺で約0.3mあり、住居内は地山の礫片を多く含む黄褐色(10YR5/6)のシルトや炭片を多く含むにぶい黄褐色(10YR4/3)のシルトで人為的に埋め戻されている。

**施設** 住居内の施設にはカマドと周溝があるが、支柱穴は検出していない<sup>(註10)</sup>。カマドは北辺の東端近くに布設されており、側壁と燃烧部、煙道、煙出しが比較的良好に残存する。天井部もカマド内に崩落した状況が認められた。

**カマド** カマドの側壁は粘土質の地山土で作られており、最大で高さ30cm程が残存する。燃烧部の規



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SI2478 床	74	須恵器・杯	2/3	(13.6)	6.6	4.1	底：ヘラ切→軽いなデ		SI2478-R1	B13955
2	SI2478 埋土	69	須恵器・杯	底1/4	—	(9.2)	—	底：ヘラ切→手持ケズリ		SI2478-2	B12870
3	SI2478 埋土	69	須恵器・杯	破片	(14.0)	(9.2)	4.1	底：回転糸切→手持ケズリ		SI2478-7	B12870
4	SI2478 カマド堆積土	69	土師器・甕	破片	—	—	—	口：受口状 内外：ロクロナデ		SI2478-3	B12870
5	SI2478 埋土	69	土師器・甕	破片	—	—	—	口：受口状 外：平行タタキ→ロクロナデ 内：ロクロナデ		SI2478-5	B12870

図版93 SI2478住居跡

模は長さ約 35cm、幅約 45cmで、底面は皿状にやや窪み、奥壁から約 15cm手前中央には支脚として平瓦Ⅱ B a2 類の破片が垂直に据えられていた。燃烧部の底面と奥壁、側壁は焼けて硬化し、燃烧部手前の 80cm前後四方には掻き出された炭の堆積が認められた。なお、カマド天井の崩落土には丸・平瓦や土師器甕の大きい破片が含まれており、芯材としての使用が考えられる。

煙道は地山をトンネル状に削り抜いて 75cm程北に伸びており、天井が崩落せずに残る。幅は 20cm程で、煙出しは煙道北端からほぼ垂直に立ち上がり、検出面での平面形は長軸約 30cm、短軸約 25cmの楕円形を呈す。深さは検出面から約 35cmである。

周溝は、一部途切れているが、カマド東側の側壁から北東隅および東辺で検出した。幅約 25cm、深さ約 10cmの溝で、横断面形は皿状を呈す。 周 溝

遺物は、カマドの支脚の平瓦のほか、床面で平瓦Ⅰ・Ⅱ B類、土師器環・甕、須恵器環・高台環・壺・甕、カマド内の堆積土で土師器甕、カマド崩落土で丸瓦Ⅱ B類、平瓦Ⅱ B a類、土師器甕、周溝内の堆積土で須恵器環が出土している。床面出土の須恵器環には底部をヘラ切り後にナゲ調整したものと（図版 93-1）、ヘラ切り後に手持ケズリ調整をした会津大戸窯の製品があり（図版 132-1）、カマド内堆積土の土師器にはロクロ整形の甕がある（図版 93-4）。 出 土 遺 物

また、以上のほかに住居の埋土から丸瓦Ⅱ B類、平瓦Ⅰ A・Ⅱ B類、土師器環・甕、須恵器環・蓋が出土しており、丸瓦Ⅱ B類や平瓦Ⅱ B類には「田」Aや「占」A、「物」A、「丸」A、「伊」の刻印があるものがある。土師器環・甕（5）にはロクロ整形のものがあり、須恵器環はヘラ切りや回転糸切りによる切離し後に手持ケズリ調整をしたものがある（2・3）。

#### 【SI2765 竪穴住居跡】（図版 68・94～96）

南部の概ね E14・S264 を中心とする竪穴住居跡で、SK2754 土壇の下層および地山の上面で検出した。南西部が削られているが、平面形はほぼ方形で、南東隅から南には外延溝が伸びる。SA2763 材木堀跡、SA2772 柱列跡、SB2777 建物跡、SD2778 溝、SK2754 土壇より新しい。 検 出 状 況

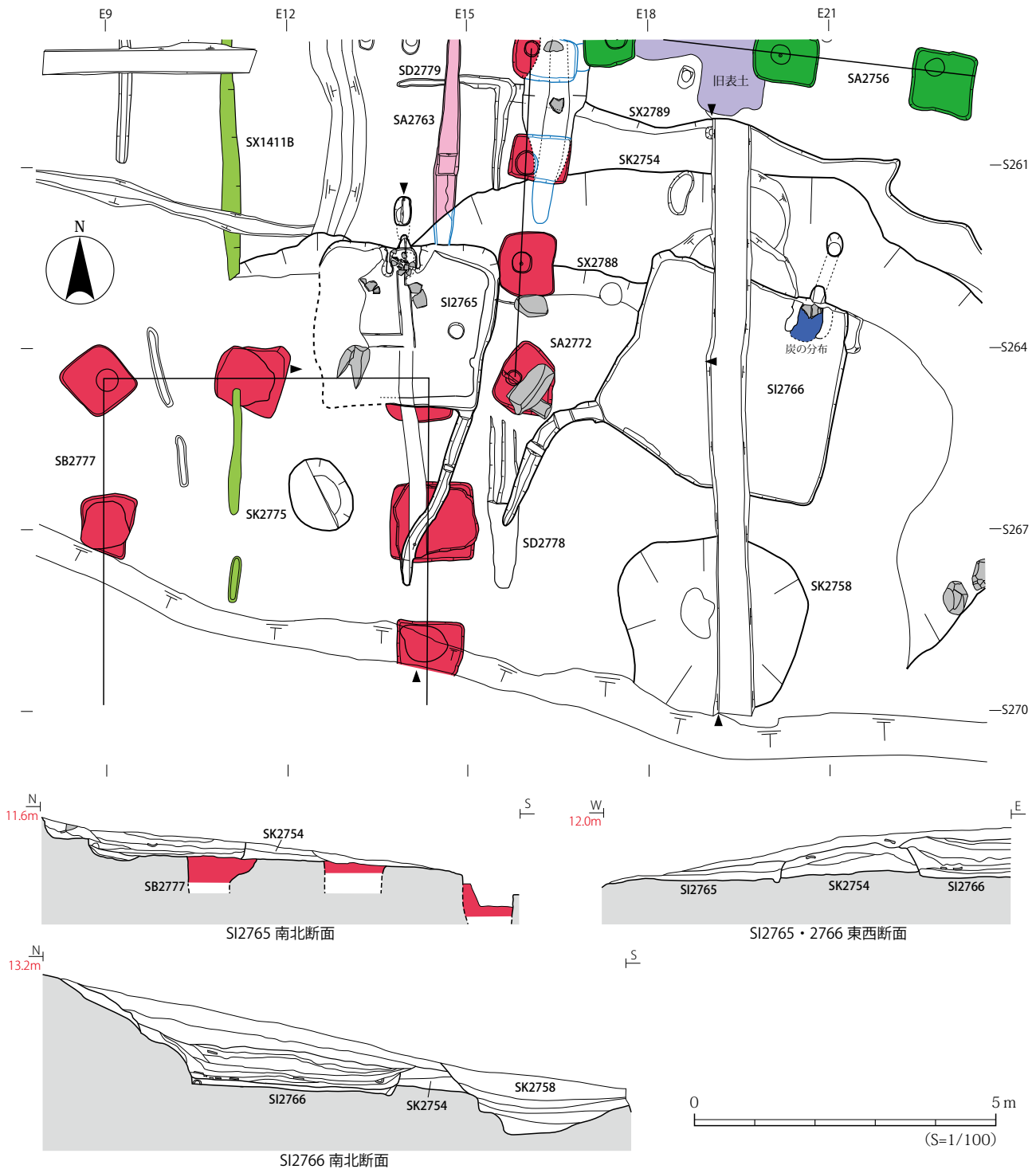
規模は東西が北辺で約 2.4 m、南北が東辺で 2.6 mであり、方向は北辺で東西の発掘基準線に対して東で約 4°南に振れている。床面はほぼ平坦で、ブロック状の地山土を多く含む黄褐色（10YR5/6・5/8）の砂質シルトで貼床されており、その厚さは 10cm前後である。壁はほぼ直立し、高さは残りの良い北辺で約 0.6 mある。堆積土は上層と下層に大別され、地山土を多く含む褐灰色（10YR5/1）の粘土である程度埋め戻されたのち、炭粒を少し含む褐灰色（10YR6/1）の粘土質シルトや灰黄褐色（10YR4/2）のシルトが住居跡の窪みに自然堆積している。 規 模 ・ 床

住居に伴う施設にはカマドと周溝、外延溝があるが、支柱穴は検出されていない。カマドは北辺中央に位置し、周囲を含めて一度皿状に掘り下げてブロック状の地山土を含む黄褐色（10YR5/6）の砂質シルトで埋め戻してから、にぶい黄褐色（10YR5/3）の粘土で構築されている。規模は長さが約 50cm、幅が約 90cmで、側壁は最大で高さ 20cm程が残存する。燃烧部中央には支脚として礫が据えられており、焚き口には須恵器高台環などの破片が敷かれている。 カ マ ド

煙道は、地山をトンネル状に削り抜いて 70cm程北に伸びており、天井も一部残存する。幅は 25cm前後である。煙出しは煙道から概ね直立しており、崩落のため平面形は不明だが、深さは検出面から約 25cmある。

**周溝と外延溝** 周溝は住居内の東半で検出し、カマドの東脇から北東隅、東辺、南辺に廻る。幅 10～25cm、深さ 10cm程の横断面形がU字形や皿状を呈す溝で、褐灰色（10YR5/1）の粘土が堆積している。外延溝は南東隅から住居東辺の延長上を南に伸びる。長さは約 3.1 mで、南半はやや蛇行気味となる。幅は約 0.3 m、深さは約 0.1 mで、横断面形や堆積土は周溝と同様である。

**出土遺物** 遺物は、掘方埋土から土師器甕、床面から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡB類、須恵器坏、カマド底面から須恵器高台坏（図版 95-2）、住居内の堆積土から丸瓦ⅠA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏（1）・瓶・甕（3）が出土している。これらのうち主体を占めるのは瓦で、



図版94 SI2765・2766住居跡

丸瓦ⅡB類には凸面に「伊」、平瓦ⅡB類の凹面には「物」Aや「丸」A・Bなどの刻印があるものがある。また、被熱により酸化・摩滅した瓦や（図版96-1・2）、煤が付着した瓦が比較的目立つ。

### 【SI2766 竪穴住居跡】（図版68・94～96）

南部の概ねE19・S265を中心に位置する竪穴住居跡で、SK2754土壌の下層上面で検出した。検出状況  
平面形が東西に長い長方形を呈し、南西隅から南には外延溝が伸びている。SB2777建物跡の構築に伴うSX2788段跡、SK2754土壌と重複しており、それらより新しい。

規模は東西が南辺で約4.0m、南北が東辺で3.3mであり、方向は北辺で東西の発掘基準線に対して東で南に約18°振れている。床面はほぼ平坦で、ブロック状の地山土を多く含む褐灰色（10YR5/1）のシルトで貼床されており、その厚さは10cm前後である。壁はやや斜めに立ち上がり、高さは残りの良い北辺で約0.5mある。瓦を多量に含む灰黄褐色（10YR5/2）の粘土と、にぶい黄褐色（10YR5/3）の砂が交互に堆積した自然堆積土で埋没している。規模・床

住居に伴う施設にはカマドと外延溝があるが、支柱穴や周溝は検出されていない。また、カマドは北辺の東端近くに位置するが、本体はほとんど残らず、燃烧部と側壁の痕跡が残る程度である。規模は長さが約60cm、幅が約80cmで、燃烧部の奥壁付近には平瓦の破片が2枚敷き込められている。煙道は、地山をトンネル状に削り抜いて1.0m程北に伸びており、天井部が崩落せずに残る。幅は20cm程で、煙出しは煙道北端からやや斜めに立ち上がる。検出面での平面形は長軸約35cm、短軸約25cmの南北に長い楕円形を呈し、深さは検出面から約20cmである。カマド

外延溝は住居南西隅から西側に出たのち、南に湾曲して伸びる。長さ約2.6m、幅約0.3m、深さ約0.1mの横断面形が皿状を呈す溝で、褐灰色（10YR5/1）の粘土が堆積している。外延溝

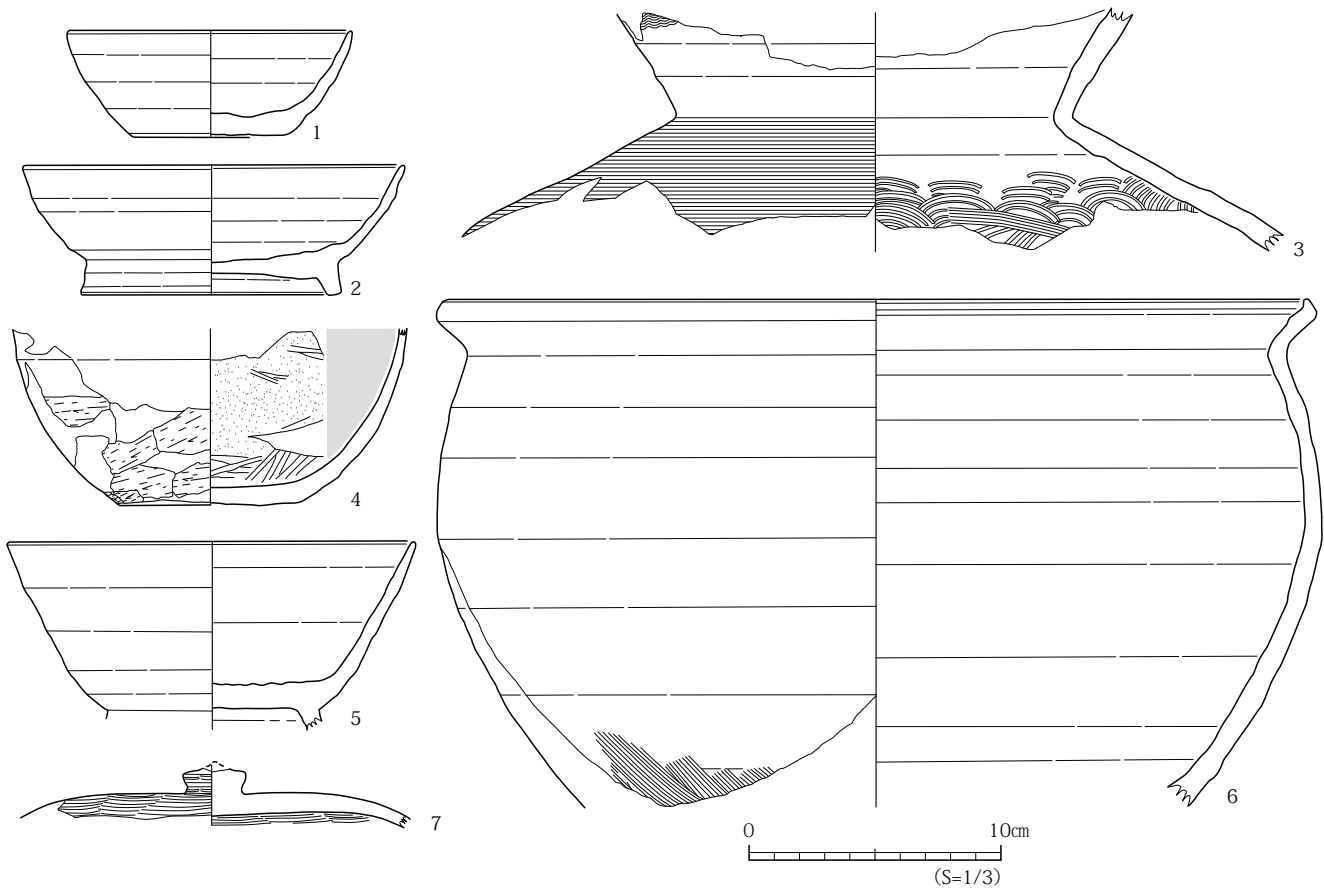
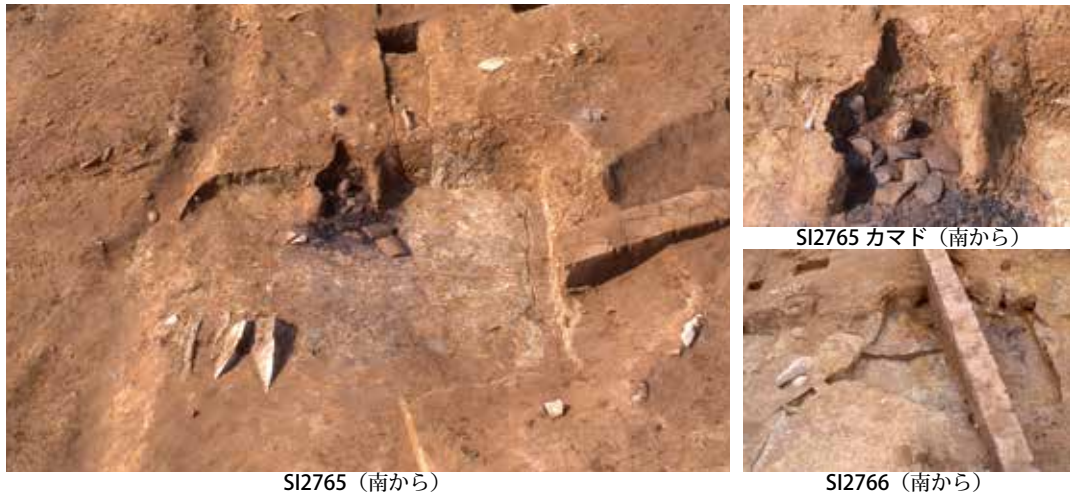
遺物は、床面から須恵器甕、堆積土から丸瓦ⅠA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡB類、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏（図版95-5）・鉢（6）が出土している。出土遺物

ともに瓦の出土量が多く、丸瓦ⅡB類には凸面に「田」Aや「伊」、「占」、平瓦ⅡB類には凹面に「物」Aや「矢」Aなどの刻印があるものがそれぞれ複数みられる。また、被熱で酸化・摩滅した瓦や（図版96-4）、煤が付着した瓦も目立つ。土器は、堆積土出土の土師器にロクロ整形で、底部から体部下半が手持ケズリ調整された坏がある（図版95-4）。須恵器では両面をミガキ調整した蓋がある。

### 【SI2838 竪穴住居跡】（図版67・95）

ほぼ中央のE27・S215付近の地山上面で検出した平面形が長方形または方形の竪穴住居跡である。宅地の造成で大きく削平されており、東辺付近のみが残存する。SB2848・2849建物跡と重複し、SB2848より新しい。SB2849とは直接的な重なりがなく、新旧関係は不明である。検出状況

規模は南北が東辺で約3.0m、東西が南辺で1.0m以上であり、方向は東辺で南北の発掘基準線にほぼ一致している。床面はほとんど残存しないが、ブロック状の地山土を含む褐色（10YR4/4）のシルトによる掘方埋土を床面としている。ごく一部で確認した床面はほぼ平坦で、その上には暗褐色（10YR3/3）のシルトが薄く堆積していた。規模・施設



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SI2765 堆積土	74	須恵器・坏	4/5	11.4	6.3	4.2	底：ヘラ切→手持ケズリ		SI2765-R11	B13956
2	SI2765 カマド底面	74	須恵器・高台坏	4/5	15.0	10.3	5.1	底：回転ケズリ→高台貼付→ロクロナデ		SI2765-R12	B13956
3	SI2765 堆積土	74	須恵器・甕	1/4	—	—	—	外：口縁部波状櫛書。体部回転ハケメ。自然釉付着 内：円文のアテ具痕		SI2765-R13	B13957
4	SI2766 堆積土	74	土師器・坏	2/3	—	7.2	—	底～体下端：切離不明→手持ケズリ。摩滅		SI2766-R18	B13960
5	SI2766 堆積土	74	須恵器・高台坏	2/5	(16.2)	—	—	底：回転ケズリ→高台貼付→ロクロナデ		SI2766-R19	B13960
6	SI2766 堆積土	74	須恵器・鉢	1/4	(34.4)	—	—	外：体下端ヘラナデ		SI2766-R20	B13960
7	SI2838 堆積土	78	須恵器・蓋	破片	—	—	—	内外：ミガキ		I22-1	B14509

図版95 SI2765・2766・2838出土遺物



単位：(cm)									
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	S12765	74	丸瓦	1/1	II B a類	長33.2 広端幅14.6 狭端幅(9.0) 厚1.6。凸面に刻印「伊」。摩滅	96-1	S12765-R1	B13957
2	S12765	74	平瓦	1/1	II B b類	長33.7 広端幅27.0 狭端幅21.8 厚1.6 凹面に刻印「物」A。被熱により酸化・摩滅	96-2	S12765-R4	B13957
3	S12766	74	丸瓦	1/1	II B a類	長33.7 広端幅15.2 狭端幅10.3 厚1.7。凸面に刻印「伊」	96-3	S12766-R13	B13959
4	S12766	74	平瓦	1/1	II B b類	長34.6 広端幅27.7 狭端幅23.6 厚1.6 凹面に刻印「矢」A。被熱により酸化・摩滅	96-4	S12766-R1	B13958

図版96 S12765・2766出土瓦

住居内の施設としては、カマドが東辺の中央南寄りに付設されており、本体は残存しないが、  
 燃烧部には平瓦が埋め込まれている。煙道は70cm程東に伸びているが、未精査のため、詳細は  
 不明である。検出面では手前で幅が約50cmと広く、先端に向かって細くなっている。

遺物は、前述したカマド燃烧部直下の掘方埋土から平瓦II B類、堆積土から両面をミガキ調整  
 した須恵器蓋(図版95-7)が出土している。 出 土 遺 物

#### iv. 溝

##### 【SD2764 溝】(図版68・73)

南部のE16・S257付近から南に伸びる溝で、旧表土および地山の上面で検出した。南  
 はSK2754土壌付近で途切れており、SA2756・2772・2908柱列跡、SX2909積土遺構、  
 SD2773暗渠、SK2754より新しい。検出した長さは約6.0mで、上幅は0.5m前後、深さは約  
 0.1～0.3mである。横断面形は皿状を呈し、方向は南北の発掘基準線に対して北で約6°東に振  
 れている。 検出状況・規模

遺物は、堆積土から丸瓦IA・II類、平瓦IA・IC・II B類、土師器甕が少量出土している。 出 土 遺 物



【SD2778 溝】（図版 68・73）

検出状況・規模

南部の概ね E15・S267 付近の地山上面で検出した南北溝である。北側は SK2754 土壌に壊されているが、約 3.6 m 先には SD2779 溝が位置する。東に若干ずらして掘り直されており（A→B）、SI2765 住居跡、SK2754 より古い。

検出した長さは約 2.9 m で、上幅は B で 0.3 m 前後であり、A も同程度と思われる。横断面形はともに皿状で、方向は南北の発掘基準線に一致する。なお、A・B とも遺物は出土していない。

【SD2779 溝】（図版 68・73）

検出状況・規模

南部の概ね E15・S260 付近の地山上面で検出した東西方向から南北方向に直角に折れる溝である。南は SK2754 土壌に壊されているが、約 3.6 m 先には前述の SD2778 溝が位置する。SA2763 材木堀跡、SX2789 段、SK2754 と重複するが、SX2789 の埋土を除去して検出したため、SX2789 との新旧関係は不明である。SA2763、SK2754 より古い。

検出した長さは東西・南北部分とも約 1.9 m で、上幅は 0.2 m 前後、深さは 0.1～0.2 m である。横断面形は皿状や U 字形で、方向は南北・東西とも発掘基準線にほぼ一致している。

出土遺物

遺物は丸瓦 I A・II 類、平瓦 II B 類、土師器坏、須恵器坏・甕が少量出土している。

【SD2855 溝】（図版 66・67・97）

検出状況

中央北側の E22・S204 付近から SB2845 建物跡の西側柱列に沿ってすぐ西側を北に伸びる溝である。西 II 層上面で検出したが、S197 から北の調査区外は現代の通路や宅地の造成で削平されている。SB2860 建物跡より新しく、SD2864 溝より古い。

規模・堆積土

検出した長さは約 8.3 m で、上幅は 2.5 m 前後である。深さは部分的に断ち割って精査したところ、横断面形は東側に幅 0.4～0.5 m 程の平坦な中段が付き、その西側がさらに深い形状を呈しており、深さは中段までが 0.4～0.5 m、底面までは約 0.8 m である。方向は、西側の上端で測ると、南北の発掘基準線に対して北で東に約 4° 振れている。

堆積土は上・中・下層に大別され、下層は褐色や灰黄褐色、にぶい黄褐色（7.5YR4/3、10YR4/2・4/3）の砂質シルトで、いずれも均質な自然堆積土である。中層は黒色の炭層と暗赤褐色の焼土層で（N2/・5YR3/4）、中段から東では下層との間に焼面が形成されている（図版 97）。上層は炭とブロック状の焼土、瓦を多量に含む暗褐色やにぶい黄褐色（7.5YR3/3、10YR4/3）の粘土質シルトで、人為的に埋め戻されている。

出土遺物

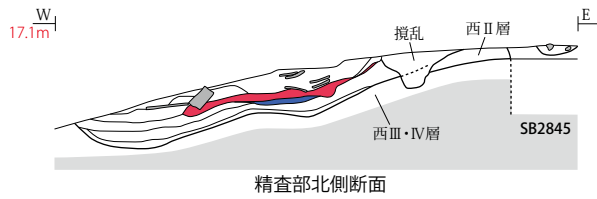
遺物は、上・中層から軒丸瓦、丸瓦 II 類、平瓦 I A・II B・II B a 類、土師器坏・蓋・甕、須恵器坏・蓋・鉢・甕（図版 97-2）、焼壁が出土している。軒丸瓦には重弁蓮花文 221 があり（1）、平瓦では II B a 類が主体を占める。その中には「物」A、「丸」A、「占」A の刻印のある瓦がある。土師器は小片が多く、須恵器坏で底部の特徴がわかるものは、いずれもヘラ切り無調整のものである。焼壁はスサ入りの粘土の塊で、一辺 10cm 前後のものがあり、木舞の痕跡や壁面と推定される平面があるものがある。



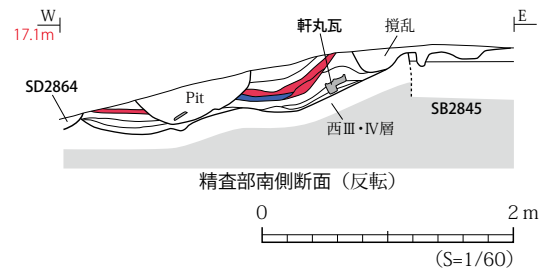
精査部北側断面 (南西から)



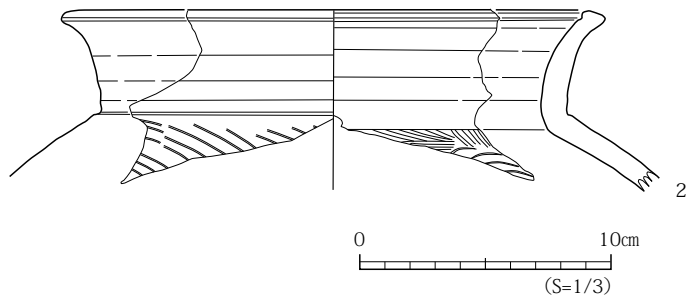
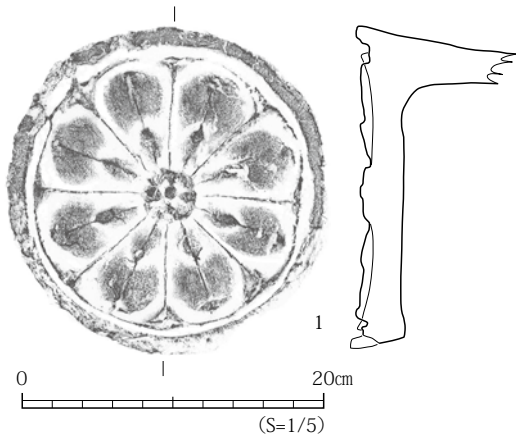
焼面検出状況 (北西から)



精査部北側断面



精査部南側断面 (反転)



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SD2855 堆積土	78	軒丸瓦	瓦当1/1	重弁蓮花文221	直径20.6 瓦当厚2.9 丸瓦厚1.8		D31-2	B14509

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
2	SD2855 堆積土	78	須恵器・甕	口1/4	(20.4)	—	—	外：胴部平行タタキ 内：弧状のアテ具痕		D31-7	B14447

図版97 SD2855溝

【SD2877 暗渠】 (図版 67・73・84・98)

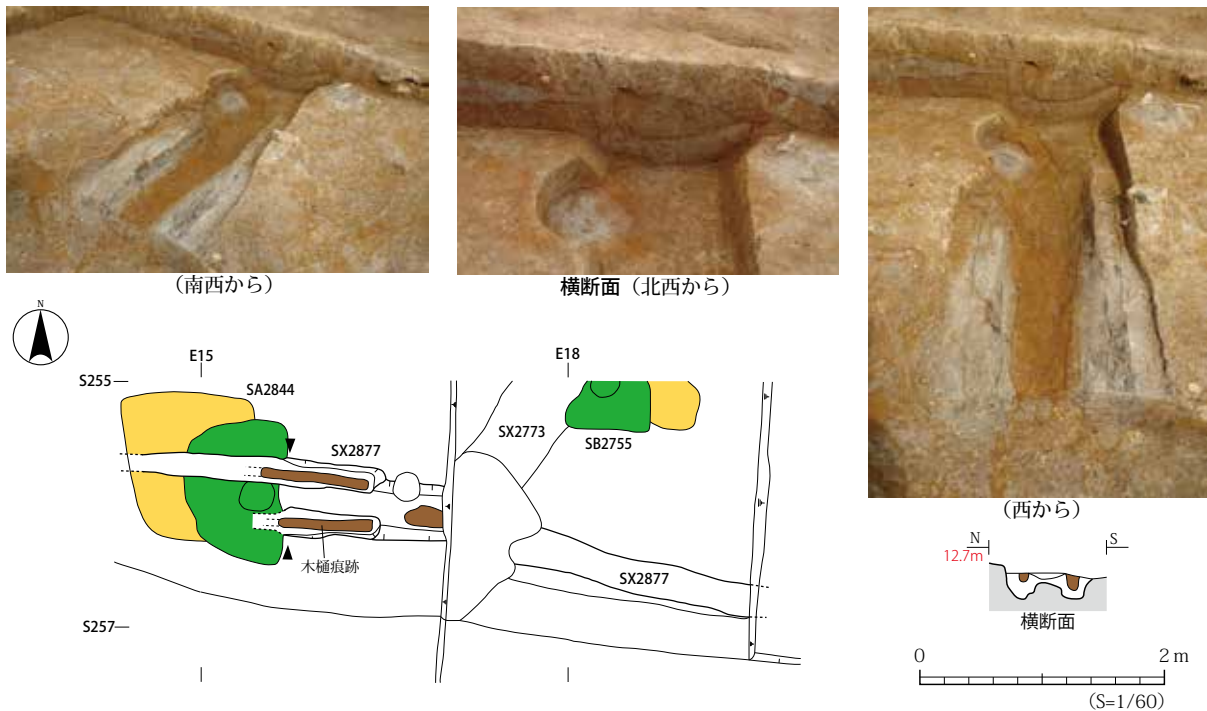
南部の E20・S257 付近から西側の SD2888 溝埋没後の上面で検出した東西に伸びる木樋を据 検 出 状 況  
えた暗渠である。検出した長さは約 6.5 m で、SX2909 積土遺構、SD2888 より新しい。

本暗渠は幅 0.5 m 前後の溝を掘り、木樋を据えたのちに少量の炭粒とブロック状の地山土を多 構 造  
く含む黄褐色や褐色 (2.5Y5/3、7.5YR4/3) のシルトで埋め戻したものである。掘方の横断面  
形はU字形で、深さは残りの良いところで約 0.3 m ある。

木樋は腐朽して灰黄褐色 (10YR4/2) に粘土化しているが、西側では $\cap$ 状、東側ではU状に  
痕跡が残存する。直径約 50cm、長さ 2.0 m 程の丸太材を半割して内側を削り抜いたものを用い  
ており、内部には酸化した褐色 (7.5YR4/4) の細砂の堆積が認められた。暗渠の方向は東西の  
発掘基準線に対して東で南に約 12° 振れている。

遺物は、木樋内から型番不明の軒丸瓦の小片と平瓦ⅡB類がごく少量出土している。

出 土 遺 物



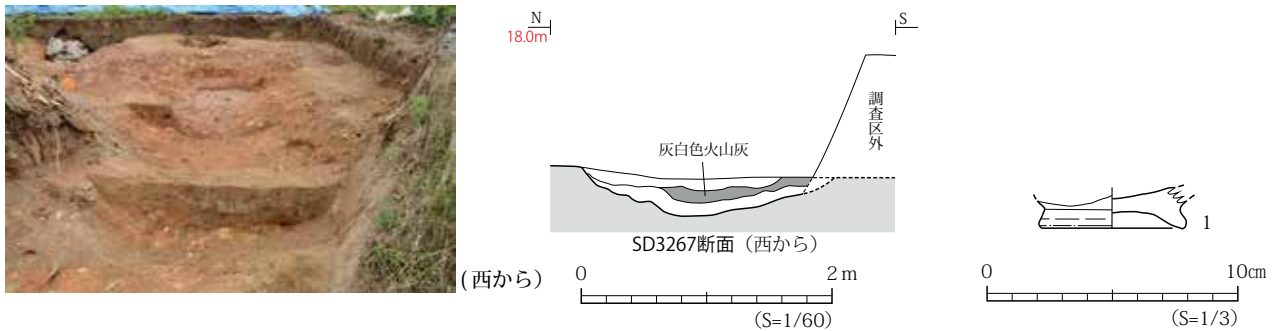
図版98 SD2877暗渠

【SD2898 暗渠】(図版 67・73)

- 検出状況 南部の E24・S250 付近から南で検出した南北に伸びる瓦組の暗渠である。南西Ⅲ層の上面で確認したが、残りが悪く、検出した長さは 2.0 m 程である。SB2755 建物跡より新しい。
- 構造 本暗渠は幅 0.3 m 前後の溝を掘り、凸面を上にした丸瓦を連結させて据えたうえで埋め戻したものである。精査していないため、詳細は不明だが、瓦内にはにぶい黄褐色の砂が充満していた。方向は南北の発掘基準線に対して北で東に約 8° 振れている。
- 出土遺物 遺物は、暗渠に使われた丸瓦がⅡ B 類であることを確認している。

【SD3259 溝】(図版 14・66・67)

- 検出状況 北部の E38・S192 から南の地山上面で検出した南北溝である。北端は SD3268 溝と T 字状に接し、その先には伸びていない。南は E35・S215 付近まで確認し、その先は途切れている。SB2468・2521・2522 建物跡、SD3268 と重複し、SB2521・2522 より新しい。SB2468 とは直接的な重なりがなく、また、SD3268 とは同時に掘り下げたため新旧が不明である。
- なお、本溝は約 7.5 ～ 8.0 m 東にある SD3258 溝と概ね平行して南北に伸びており、その間は遺構がない空閑地となっている。
- 規模・堆積土 検出した長さは約 23.2 m で、上幅は 1.0 ～ 2.0 m 前後であり、北側が広く、南側ほど次第に狭くなる。深さは最大 0.7 m で、横断面形は U 字形を呈す。堆積土は褐色のシルトで自然堆積土である。方向は、南北の基準線に対して北で 5° 前後東に振れている。
- 出土遺物 遺物は、堆積土から丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅱ B・Ⅱ B a 類、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が少量出土した。土師器はロクロ整形のもので、坏には回転糸切り無調整のものがある。



単位：(cm)											
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SD3267 堆積土	89	須恵系土器・高台坪	底2/3	—	(5.6)	—			R30	B15528

図版99 SD3267溝

## 【SD3265 溝】(図版 66・92・113・114)

北部の概ね E14 ラインを南北に伸びる溝で、旧表土および地山の上面で検出した。SA3261 検出状況  
柱列跡のすぐ西側に位置し、柱列跡より古い。一度掘り直されており (A→B)、A は大部分が  
B に壊されており<sup>(註11)</sup>、遺物も出土していない。

## 《SD3265A 溝》

検出した長さは約 3.8 m で、上幅は約 2.1 m、深さは約 0.8 m ある。横断面形や方向は B と概 規模・堆積土  
ね同様とみられ、堆積土は崩落した地山土が混じる明褐色 (10 YR6/8) の砂質シルトやにぶい  
黄褐色 (10 YR6/8) のシルトで、自然堆積土である。

## 《SD3265B 溝》

検出した長さは約 12.4 m で、上幅は 2.0 m 前後である。深さは 0.6 ~ 0.7 m で、横断面形 規模・堆積土  
は皿状を呈す。堆積土は褐色 (10 YR4/4・4/6) の砂質シルトや砂、及びにぶい黄橙色 (10  
YR6/3) の粘土質シルトで、自然堆積土である。方向は南北の発掘基準線にほぼ一致している。

遺物は、南側の断ち割り部分断面の最上層に平瓦が含まれるのを確認している。 出土遺物

## 【SD3267 溝】(図版 66・99)

北部の E32・S193 付近から西側で検出した東西に伸びる溝である。地山上面で確認したが、 検出状況  
E28 付近から西は宅地の造成で削平されている。SB2502 建物跡より新しい。

検出した長さは約 4.0 m で、上幅は 1.7 ~ 2.0 m、深さは 0.3 ~ 0.4 m ある。横断面形は皿状 規模・堆積土  
を呈す。堆積土は上・中・下層に分けられ、下層が暗褐色 (7.5 YR3/3)、中層が灰黄褐色 (10YR4/2)、  
上層が褐色 (7.5 YR4/3) の砂質シルトで、いずれも自然堆積土である。中層はブロック状の灰  
白色火山灰が多く混ざる。方向は、東西の発掘基準線に対し東で南に約 4° 振れる。

遺物は、堆積土から丸瓦 II B 類、平瓦 I C・II B a 類、須恵器坏・甕、須恵系土器高台坪 (図 出土遺物  
版 99-1) が出土している。

## 【SD3268 溝】(図版 14・23・66)

北部の E35・S191 付近を東西に伸びる溝である。地山の上面で検出したが、西側は宅地の造 検出状況  
成で削平されており、東側も E43 付近で途切れている。SB2502・2845 建物跡より新しい。

**規模・堆積土** 検出した長さは約 13.7 m で、上幅は 0.8 ～ 1.9 m、深さは 0.3 ～ 0.4 m である。横断面形は皿状を呈し、堆積土はにぶい黄橙色（10 YR6/4）の砂質シルトで自然堆積土である。方向は東西の発掘基準線に対して東で約 10° 南に振れている。また、後述する SD3269 溝とは溝の心々で約 3.5 m 南を概ね平行に伸びている。なお、遺物は出土していない。

**【SD3269 溝】**（図版 14・23・66）

**検出状況** 北部の E35・S188 付近を東西に伸びる溝である。地山の上面で検出したが、西側は宅地の造成で削平されており、東側も E44 付近で途切れている。SB2502 建物跡より新しい。

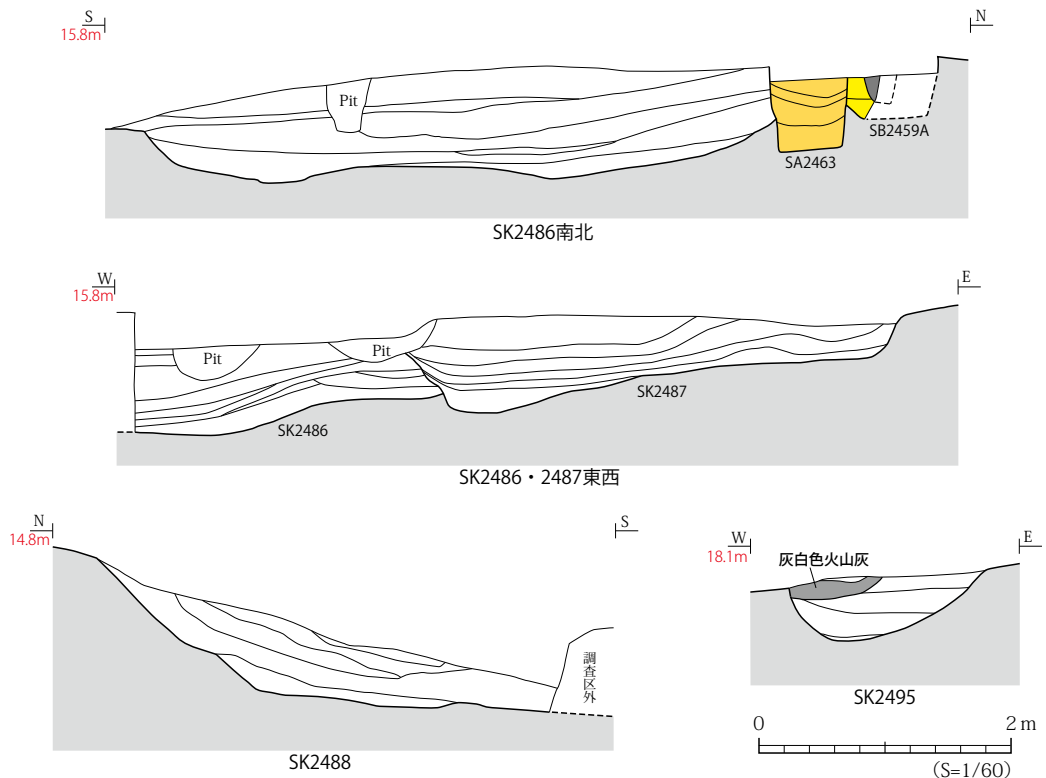
**規模・堆積土** 検出した長さは約 14.4 m で、上幅は 0.8 ～ 2.8 m、深さは 0.3 m 前後である。横断面形は皿状を呈し、堆積土はにぶい黄橙色（10 YR6/4）の砂質シルトで自然堆積土である。方向は東西の発掘基準線に対して東で約 13° 南に振れる。また、前述の SD3268 溝とは溝の心々で約 3.5 m 北をほぼ平行して伸びている。なお、遺物は出土していない。

**v. 土壌**

**【SK2486 土壌】**（図版 68・100～102）

**検出状況** 南部の E30・S256 を概ね中心とする規模の大きい東西に長い楕円形の土壌である。主に東半部を地山の上面で検出したが、西側は宅地の造成で削平されている。また、北西部は南西Ⅲ層に覆われており、プランは検出していない。SA2463 材木堀跡、SA2892 柱列跡、SD2883 溝、SK2487・2760 土壌と重複し、それらより古い。

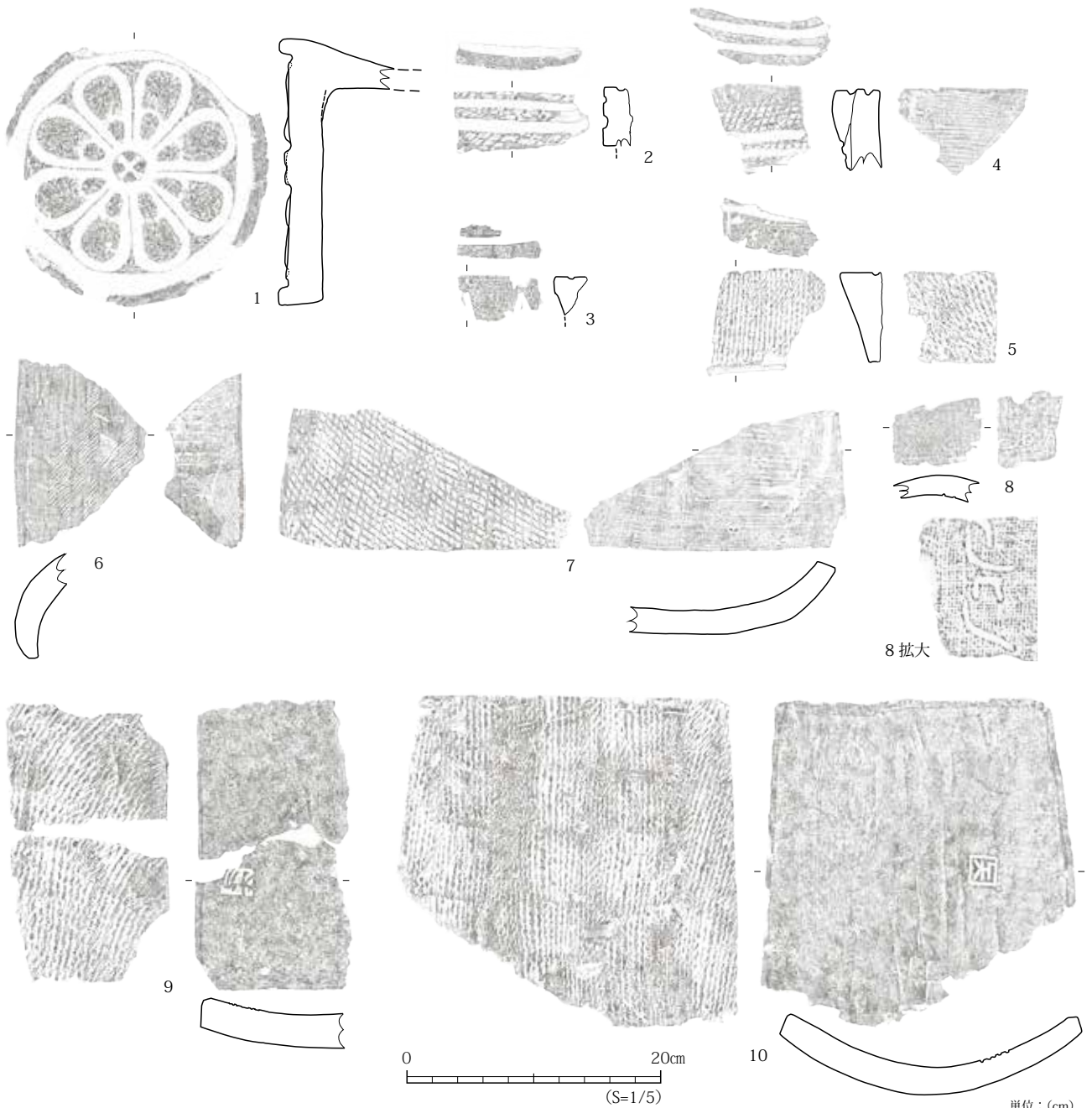
**規模・堆積土** 規模は長軸 8.5 m 以上、短軸約 6.0 m で、深さは約 0.9 m である。断面形は皿状を呈す。堆積土は地山の礫片やブロック状の地山土を多く含むにぶい黄褐色や黄褐色（10YR5/4・5/6）のシ



図版100 SK2486～2488・2495土壌断面図

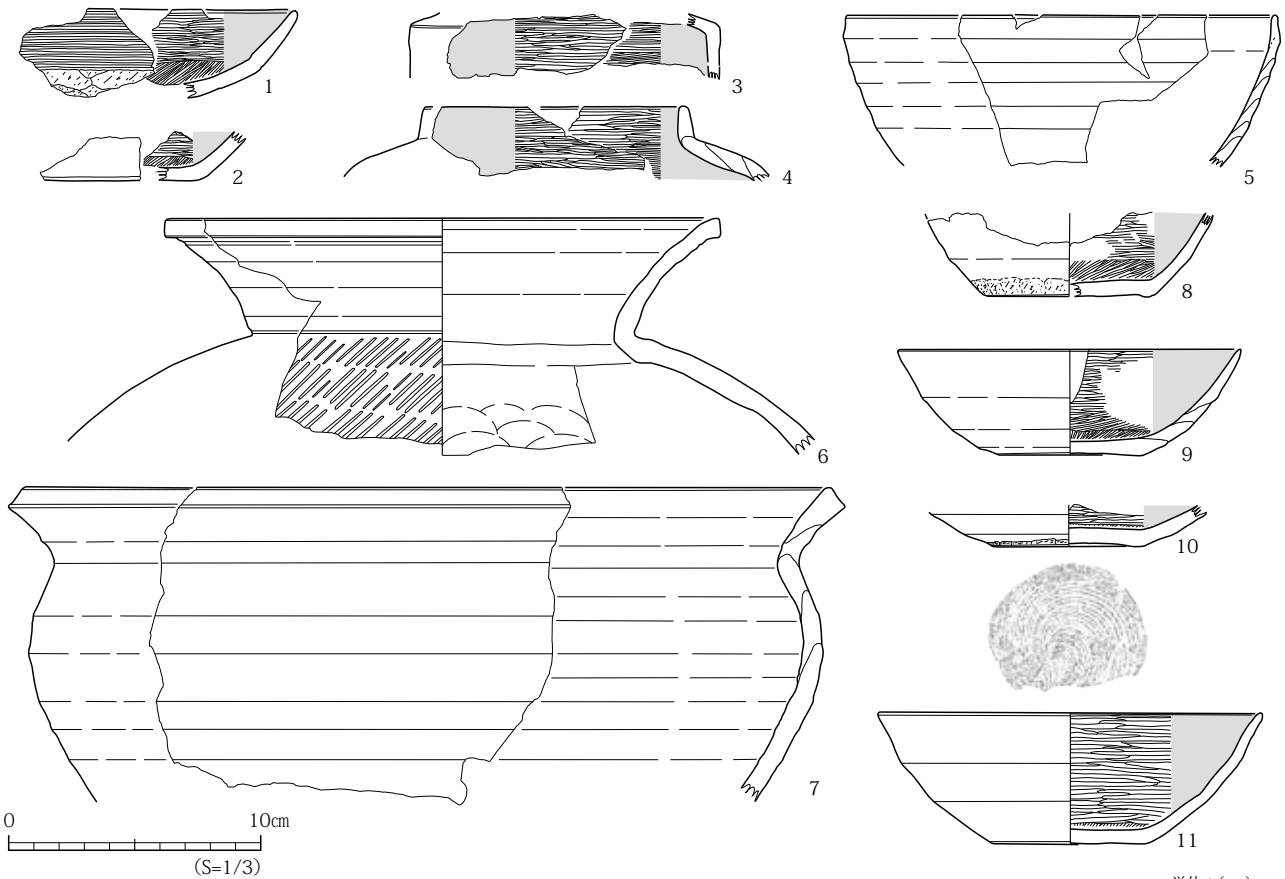
ルト、褐色（10YR4/6）の砂質シルトなどで、人為的に埋め戻されている。

遺物は、堆積土から軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD・ⅡA・ⅡB・ⅡBa類、土師器・高台杯・短頸壺・蓋・甕、須恵器・高台杯・鉢・蓋・壺・甕が出土している。軒瓦はいずれも小片だが、軒平瓦に二重弧文511や同512a（図版101-2・3）がある。また、丸瓦ⅡB類には凹面に「玉造」のへら書き（8）、凸面に「田」の刻印、平瓦ⅡBa



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2487 1層	69	軒丸瓦	瓦当1/1	重弁蓮花文211	直径20.7 瓦当厚2.9 丸瓦厚1.6		SK2487-R29	B12877
2	SK2486 1層	69	軒平瓦	破片	二重弧文512a			SK2486-R21	B12876
3	SK2486 1層	69	軒平瓦	破片	二重弧文511			SK2486-R26	B12876
4	SK2488 4層	69	軒平瓦	破片	二重弧文512a			SK2488-R4	B12878
5	SK2488 1層	69	軒平瓦	破片	単弧文640a1			SK2488-R10	B12878
6	SK2486 2層	69	丸瓦	破片	ⅠAb類	厚2.2		SK2486-R15	B12876
7	SK2486 1層	69	平瓦	広端1/2	ⅠCb類	厚2.0		SK2486-R23	B12876
8	SK2486 1層	69	丸瓦	破片	ⅡB類	厚1.7。凹面にへら書「玉造」		SK2486-R20	B12876
9	SK2486 2層	69	平瓦	1/6	ⅡBa1類	厚2.4。凹面に刻印「物」A		SK2486-R19	B12876
10	SK2487 1層	69	平瓦	1/2	ⅡBa1類	狭端幅21.5 厚2.2。凹面に刻印「矢」A		SK2487-R27	B12877

図版101 SK2486~2488出土瓦



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2486 2層	69	土師器・坏	破片	—	—	—	非ロクロ整形 口：ヨコナデ 外体：ケズリ		SK2486-R3	B12872
2	SK2486 5層	69	土師器・坏	破片	—	—	—	非ロクロ整形 外：摩滅		SK2486-R2	B12872
3	SK2486 2層	69	土師器・蓋	破片	—	—	—	非ロクロ整形 内外：ミガキ		SK2486-R5	B12872
4	SK2486 1層	69	土師器・短頸壺	破片	(10.4)	—	—	非ロクロ整形 内外：ミガキ		SK2486-R4	B12872
5	SK2486 1層	69	須恵器・鉢	破片	(16.8)	—	—			SK2486-R8	B12872
6	SK2486 1層	74	須恵器・甕	口1/4	(22.2)	—	—	外：体部平行タタキ 内：頸部指圧痕、体部無文アテ具痕		SK2486-R21	B13965
7	SK2487 2層	69	須恵器・鉢	破片	(33.0)	—	—	外：体下端へラナデ		SK2487-R2	B12872
8	SK2488 4層	69	土師器・坏	底1/4	—	(6.8)	—	体～底：手持ケズリ。		SK2488-R1	B12872
9	SK2495	69	土師器・坏	1/3	(13.4)	5.7	4.2	底：回転糸切		SK2495-R2	B12872
10	SK2496	69	土師器・坏	1/3	(15.2)	6.2	5.2	底：摩滅		SK2496-R1	B12872
11	SK2496	69	土師器・坏	底4/5	—	6.0	—	底：回転糸切→手持ケズリ		SK2496-R2	B12872

図版102 SK2486～2488・2495・2496出土土器

類の凹面には「物」Aの刻印(9)があるものがある。

土師器はいずれも非ロクロ整形のもので、坏には口縁部と体部との間に形骸化した段があるもの、須恵器坏を模倣した平底のものがある(図版102-1・2)。短頸壺と蓋には内・外面ともミガキ調整後に黒色処理をしたものがある(3・4)。

【SK2487 土壌】(図版68・100～102)

**検出状況** 南部のE35・S257を概ね中心とする南北にやや長い不整な楕円形の土壌で、地山の上面で検出した。SA2463材木列跡、SB2459建物跡、SK2486土壌と重複し、SK2486より新しく、SA2453より古い。SB2459とは調査時には本土壌が新しいとみたが、重複部分が僅かであったため断定できない。

**規模・堆積土** 規模は長軸が約5.5m、短軸が約3.9mで、深さは約0.8mである。断面形は逆台形状だが、底面は西側がやや低い斜面となっている。堆積土は地山の礫片やブロック状の地山土を含む明褐色や黄褐色(7.5YR5/6)のシルト、にぶい黄褐色(10YR5/6)の粘土質シルトなどで、人為的

に埋め戻されている。

遺物は、堆積土から軒丸瓦、丸瓦ⅠA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅡA・ⅡBa類、土師器環・蓋・甕、須恵器環・蓋・鉢・壺が出土している。瓦では、軒丸瓦に重弁蓮花文211があり（図版101-1）、平瓦ⅡBa類には「矢」Aの刻印があるものがある（10）。土師器はすべて非ロクロ整形のものである。出土遺物

#### 【SK2488 土壌】（図版68・100～102）

南部のE35・S266付近に位置する不整な楕円形の土壌である。調査区南壁から北側の部分を地山上面で検出した。調査区内では他の遺構との重複関係はない。検出状況

規模は東西が約7.0m、南北が3.8m以上で、深さは約1.2mである。底面は比較的平坦で、南に低く傾斜している。堆積土は黄褐色や明黄褐色（10YR5/6・6/8）のシルトで、最上層には灰白色火山灰を多く含む。いずれも自然堆積土である。規模・堆積土

遺物は、堆積土から軒平瓦、丸瓦、平瓦ⅠC・ⅡBb・ⅡC類、土師器環が出土している。軒平瓦には二重弧文511、二重弧文512b（図版101-4）、単弧文640a1（5）、土師器環にはロクロ整形で、底部から体部を手持ケズリ調整したものがある（図版102-8）。出土遺物

#### 【SK2495 土壌】（図版14・67・100・102・128・130）

ほぼ中央のE36・S223付近に位置する南北に長い溝状の土壌で、地山の上面で検出した。SK2495土壌より新しい。また、本土壌の長軸（南北）の方向は約6.0m東を南北に伸びるSD3258溝とほぼ平行している。検出状況

調査時は認識しなかったが、横断面にみえる堆積土の状況からみて、ほぼ同じ位置で一度掘り直されている（A→B）。規模はAが長軸約4.9m、短軸約1.5mで、深さが約0.6mである。横断面形はU字形を呈す。Bについては、認識しないままAとともに掘り下げたため詳細は不明だが、短軸は約0.6mで、深さは0.2m程である。横断面形はAと同様とみられる。規模・堆積土

堆積土はAが地山土と少量の炭粒を含む褐色やにぶい黄褐色（10YR4/6・5/4）のシルト、Bが灰黄褐色（10YR5/2）のシルトで、その下層には灰白色火山灰を多く含む。ともに自然堆積土である。

遺物は堆積土から丸瓦片、平瓦ⅡB・ⅡC類、土師器環・高台環・甕、須恵器環・高台環・壺・甕、須恵系土器高台環、灰釉陶器皿・碗が出土している。これらはAの遺物として取り上げたが、Bのものも含むとみられる。土師器環にはロクロ整形で、底部が回転糸切りのものがある（図版102-9）。灰釉陶器皿は尾張・東濃産のものである（図版128-24、図版130-6）。出土遺物

#### 【SK2496 土壌】（図版67・102）

ほぼ中央のE35・S226を概ね中心とする楕円形の土壌である。地山の上面で検出し、北東部はSK2495土壌で壊されている。規模は長軸約1.8m、短軸約1.5mで、深さは約0.3mである。堆積土は褐色のシルトで、自然堆積土である。検出状況・規模

遺物は、堆積土から丸瓦片、土師器環・甕、須恵器環が少量出土している。土師器環にはロクロ整形で、底部が回転糸切りのものがある。出土遺物





SK2754 (東から)



SK2758(西から)

図版103 SK2754・2758土壌

口整形で、回転糸切りによる切離し後に手持ケズリ調整をしたもの（図版 102-10）、須恵器環には回転糸切り後に手持ケズリ調整をしたものと無調整のものがある。

**【SK2754 土壌】**（図版 68・73・94・103）

**検出状況** 南部の概ね E19・S265 を中心とする規模の大きい土壌で、地山上面で検出した。南側が削平されているが、平面形は東西に長い不整な楕円形とみられる。SI2765・2766 住居跡、SD2764 溝、SK2758 土壌より古く、SA2763 材木堀跡、SA2772 柱列跡、SD2778・2779 溝、SX2789 段跡、SB2777 建物跡に伴う SX2788 段跡より新しい。

**規模・堆積土** 規模は長軸約 11.4 m、短軸約 7.0 m 以上で、深さは約 1.6 m あり、底面は比較的平坦である。堆積土は、SI2765・2766 住居跡の検出面を挟んで上・下に大別され、下層は地山の礫片を含む黄褐色（10YR5/8）のシルト、上層はにぶい黄橙色（10YR7/3）のシルトや炭粒を含む褐色・黄褐色（10YR4/4・5/3）の砂質シルトなどで、いずれも自然堆積土である。なお、最上層にはブロック状に灰白色火山灰を含まれている。

**出土遺物** 遺物は、上層から瓦を主体とする多量の遺物が出土しており、軒瓦、丸瓦ⅠA・Ⅱ・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠC b・ⅠD・ⅡA・ⅡB・ⅡB a・ⅡB b・ⅡC類、土師器環・甕、須恵器環・高台環・蓋・鉢・壺・甕、灰釉陶器皿がある。下層では須恵器甕が出土している。

上層出土の軒瓦には、型番は不明だが重弁蓮花文軒丸瓦があり、軒平瓦は二重弧文 511 がある。丸瓦Ⅱ・ⅡB類には玉縁に「毛」のヘラ書き、凸面に「田」A や「占」A、「伊」の刻印、平瓦ⅠC a類には凹面に「下」の押出文字、平瓦ⅡB・ⅡB a類には凹面に「物」A や「丸」A・B、「矢」A・B、「占」Aの刻印をもつものがあり、平瓦ⅡB・ⅡB a類では凸面に方形の突出があるものがある。また、出土瓦のうち平瓦ⅡC類以外の瓦には、被熱で酸化・摩滅したものや炭・煤が付着した瓦が比較的目立つ。土師器と須恵器は小片が多く、土師器はロクロ整形のものを含む。

**【SK2758 土壌】**（図版 68・73・94・103・130）

**検出状況** 南部の概ね E19・S269 を中心とする楕円形の土壌で、SK2754 土壌の堆積土と地山の上面で検出した。南端は現代の通路に削平されている。SK2754 土壌より新しい。

規模は長軸約 3.2 m、短軸約 3.0 m で、深さは約 1.4 m あり、断面形はすり鉢状を呈す。堆積土は上層（1～3層）と下層（4・5層）に大別され、下層はブロック状の地山土を含む灰黄褐色（10YR4/2）のシルトで埋め戻されている。上層は炭や焼土の粒を含む褐色（10YR4/4）のシルトで、自然堆積土である。

規模・堆積土

遺物は、上層から丸瓦ⅠA・Ⅱ類、平瓦ⅡB・ⅡC類、土師器坏・甕、須恵器甕、須恵系土器坏・高台皿、白磁碗が出土している。白磁碗は、玉縁状の口縁部を持つ（図版 130-28）。

出土遺物

### 【SK2834 土壌】（図版 67・104～106・108・128・130・132・134・140・141）

中央南側の概ね E20・S233 を中心とする南北に長い不整形の土壌で、地山上面で検出した。南側は SK2835 土壌に壊されている。SB2850 建物跡、SK2858 土壌より新しく、SK2835 より古い。規模は南北 5.5 m 以上、東西約 5.0 m で、深さは約 0.5 m である。横断面形は大きくみれば皿状だが、底面には凹凸が目立つ。堆積土は炭や褐色（7.5YR4/6）の砂質シルトや黒褐色（10YR3/2）のシルトによる自然堆積土で、上層ほど炭粒や焼土を含む。

検出状況・規模

遺物は堆積土から多く出土し、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅰ・ⅡB類、土師器坏・高台坏・皿・高台皿・埴・鉢・甕、須恵器坏・高台坏・鉢・長頸瓶・甕、須恵系土器鉢、緑釉陶器耳皿、灰釉陶器瓶、円面硯（図版 134-19・21）、鉄製品、漆紙文書があり、土師器を中心に土器が目立つ。

出土遺物

土師器はロクロ整形のものが大半を占める。坏は切離し後に無調整のものは僅かで（図版 105-1）、大部分が調整をするものであり（2～16）、調整は手持ケズリを主体とする。坏以外では高台の付く皿が比較のみられ（17～22）、両面をミガキ調整した埴もある（図版 106-1）。鉢には大型品（5）、甕には小型品がある（3・4）。

須恵器坏は切離し後に調整をするものと無調整のものがあり、前者はヘラ切り後に手持ケズリのもので主体を占める。後者の切離しは回転糸切りが多い（6～8）。須恵器坏には尾張産、長頸瓶には会津大戸窯産（図版 132-7～9）、甕には新治産のものがあり（12・15）大戸窯産の長頸瓶には焼成前に「廿」の文字を底部にヘラ書きしたものがあ。緑釉陶器耳皿は洛北産（図版 128-9）、灰釉陶器瓶は尾張産（図版 130-25・26）で、硯は脚部の小片である（図版 134-19）。鉄製品には完形の鉈（図版 141-9）、漆紙には帳簿様の文書がある（図版 140）。

### 【SK2835 土壌】（図版 67・104・107～109・128）

中央南側の概ね E21・S239 を中心とする南北に長い不整形の土壌で、地山の上面で検出した。SA2851 柱列跡、SB2850 建物跡、SK2858 土壌および SB2871 建物跡の構築に伴う SX2889 段跡より新しい。規模は南北が約 6.8 m、東西が約 4.4 m で、深さは約 0.5 m である。横断面形は皿状だが、底面にはやや凹凸がみられる。堆積土は炭や褐色（7.5YR4/6）の砂質シルトや黒褐色（10YR3/2）のシルトによる自然堆積土で、上層ほど炭粒や焼土を含む。

検出状況・規模

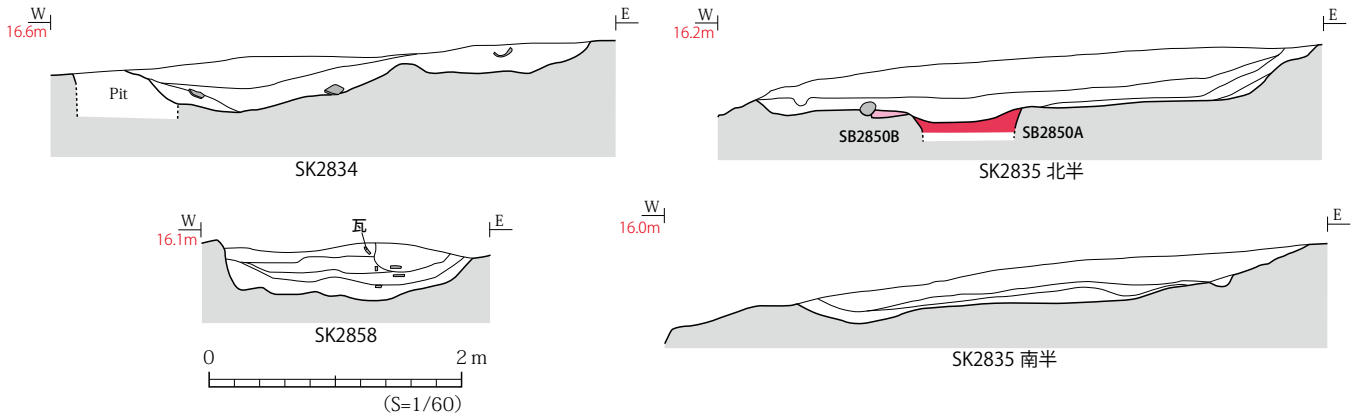
遺物は、堆積土から瓦や土器、漆紙が出土している。また、本土壌は SK2834 と重複しており、その関係を確認する際に出土した遺物も多い。それらもここで記載する。

出土遺物

SK2835 の堆積土出土遺物には軒丸瓦、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅰ・ⅡB・ⅡBa類、土師器坏・埴・甕（図版 107-3）、須恵器坏・蓋・鉢・長頸瓶・甕、漆紙がある。土器の出土が目立つが、瓦では軒丸

瓦に歯車状文 427 (1)、平瓦Ⅱ B類の凸面に方形の突出をもつもの (2)、Ⅱ B a類の凹面に「丸」Aの刻印を持つものがある。また、漆紙では文字は確認していない。

土師器は大部分がロクロ整形で、坏には底部の切離し後に調整をするものと無調整のものがあり、前者が主体を占める。切離しがわかるものはすべて回転糸切りで、調整はいずれも手持ケズ



SK2834・2835 全景 (東から)



SK2834(南東から)



SK2858 (南から)



SK2835 北半 (南東から)



SK2835 南半 (南東から)

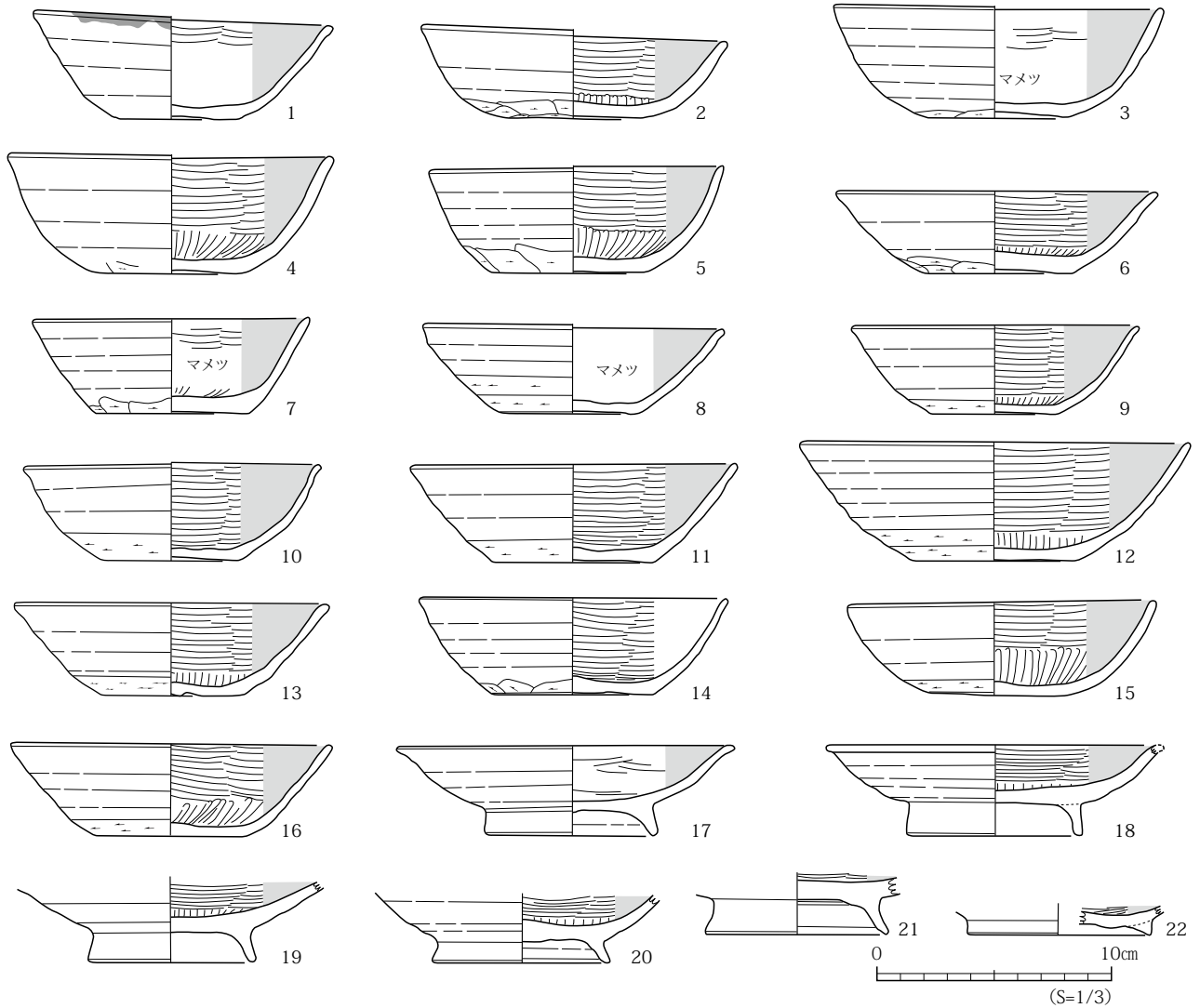


図版104 SK2834・2835土壙

SK2834 出土遺物

りである(3~5)。

須恵器坏は切離し後に調整をするものと無調整のものがある。主体を占めるのは後者で、切離しは回転糸切り(6・7)とヘラ切りが同程度みられる。前者では焼成前に「厨」の文字を底部にヘラ書きしたものがあ。調整前の切離しがわかるものはヘラ切りで、調整は手持ケズリと回

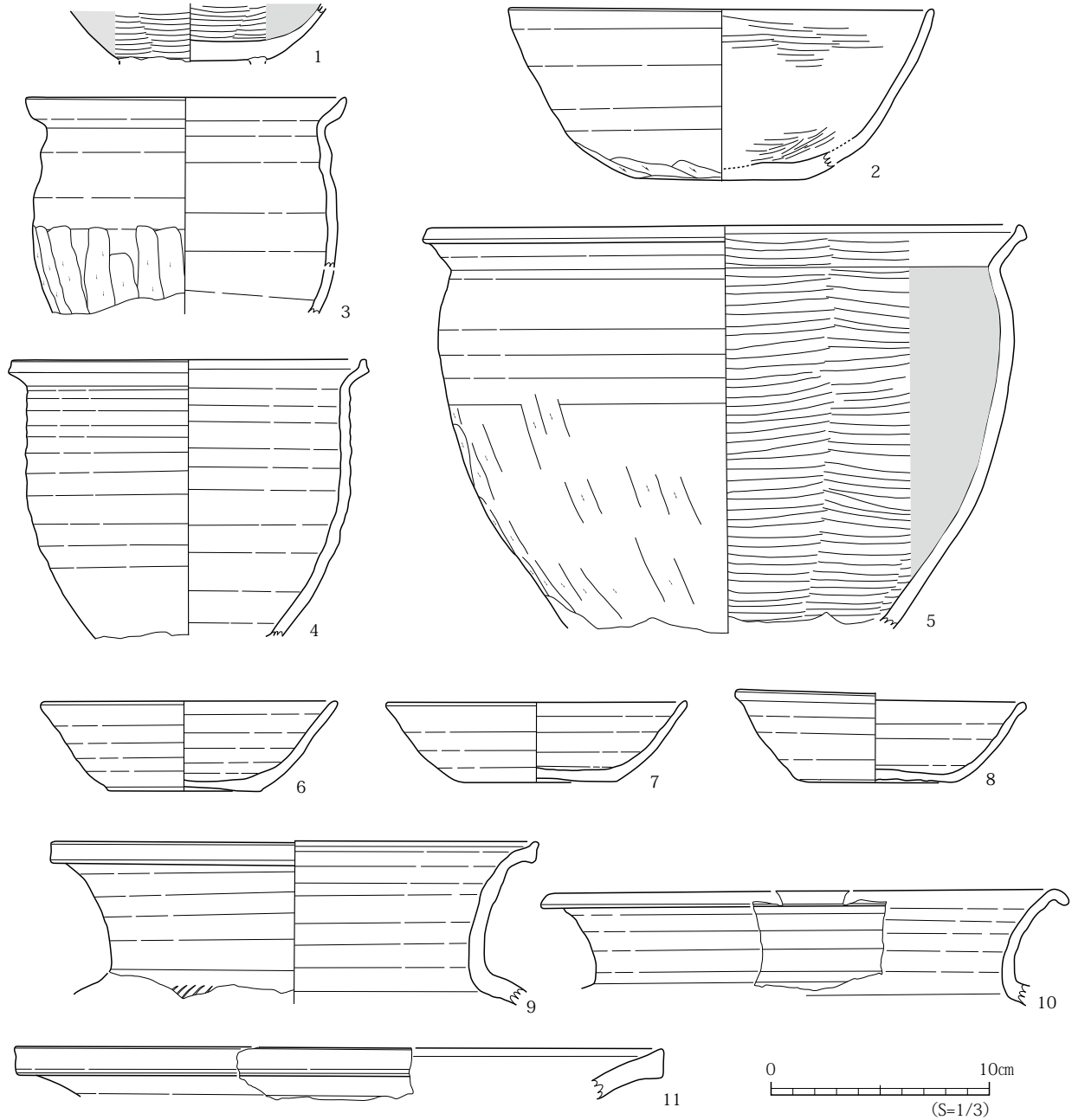


No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	2/3	12.6	5.5	4.7	底：回転糸切 口縁部に灰付着		SX04-R1	B14510
2	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	4/5	13.0	5.7	4.0	底～体下端：回転糸切→手持ケズリ		SX04-R2	B14510
3	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	2/5 (13.8)	(6.0)	4.9	底～体下端：回転糸切→手持ケズリ		SX04-R3	B14510	
4	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/1	13.8	6.4	5.1	底～体下端：切離不明→手持ケズリ		SX04-R4	B14510
5	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/1	12.4	6.6	4.6	底～体下端：切離不明→手持ケズリ		SX04-R5	B14510
6	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/2	13.5	6.4	3.6	底～体下端：(回転糸切)→手持ケズリ		SX04-R6	B14510
7	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	2/3	11.8	6.6	4.2	底～体下端：切離不明→手持ケズリ		SX04-R7	B14510
8	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	2/3	12.7	6.3	3.9	底～体下端：回転糸切→回転ケズリ		SX04-R8	B14510
9	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/3 (12.2)	(5.6)	3.9	底～体下端：回転糸切→回転ケズリ		SX04-R9	B14510	
10	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	2/5 (12.6)	(6.2)	4.1	底～体下端：回転糸切→回転ケズリ		SX04-R10	B14510	
11	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/3 (13.8)	(7.2)	4.3	底～体下端：回転糸切→回転ケズリ		SX04-R11	B14510	
12	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/4 (16.5)	(7.3)	5.1	底～体下端：回転糸切→回転ケズリ		SX04-R12	B14510	
13	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/2	13.2	6.0	4.0	底～体下端：ヘラ切→回転ケズリ		SX04-R13	B14510
14	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/3 (13.1)	(7.0)	4.2	底～体下端：ヘラ切→手持ケズリ		SX04-R14	B14510	
15	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	4/5	13.1	6.2	4.1	底～体下端：切離不明→回転ケズリ		SX04-R15	B14510
16	SK2834 堆積土	78	土師器・坏	1/2	13.6	6.6	4.0	底～体下部：回転ケズリ		SX04-R16	B14510
17	SK2834 堆積土	78	土師器・高台皿	4/5	14.2	7.1	3.9	底：切離不明→高台貼付→ロクロナデ		SX04-R17	B14511
18	SK2834 堆積土	78	土師器・高台皿	1/3 (14.1)	(7.3)	3.9	底：切離不明→高台貼付→ロクロナデ		SX04-R20	B14511	
19	SK2834 堆積土	78	土師器・高台皿	底3/5	—	7.0	—	底：切離不明→高台貼付→ロクロナデ		SX04-R18	B14511
20	SK2834 堆積土	78	土師器・高台皿	底3/5	—	7.4	—	底：(ヘラ切)→高台貼付→ロクロナデ		SX04-R19	B14511
21	SK2834 堆積土	78	土師器・高台皿	底4/5	—	7.7	—	底：切離不明→高台貼付→ロクロナデ		SX04-R21	B14511
22	SK2834 堆積土	78	土師器・高台皿	底1/3	—	(7.7)	—	底：切離不明→高台貼付→ロクロナデ		SX04-R23	B14511

図版105 SK2834出土土器1

転ケズリがあり、後者が主体を占める。また、甕には口縁部下に突帯があるものがある (9)。

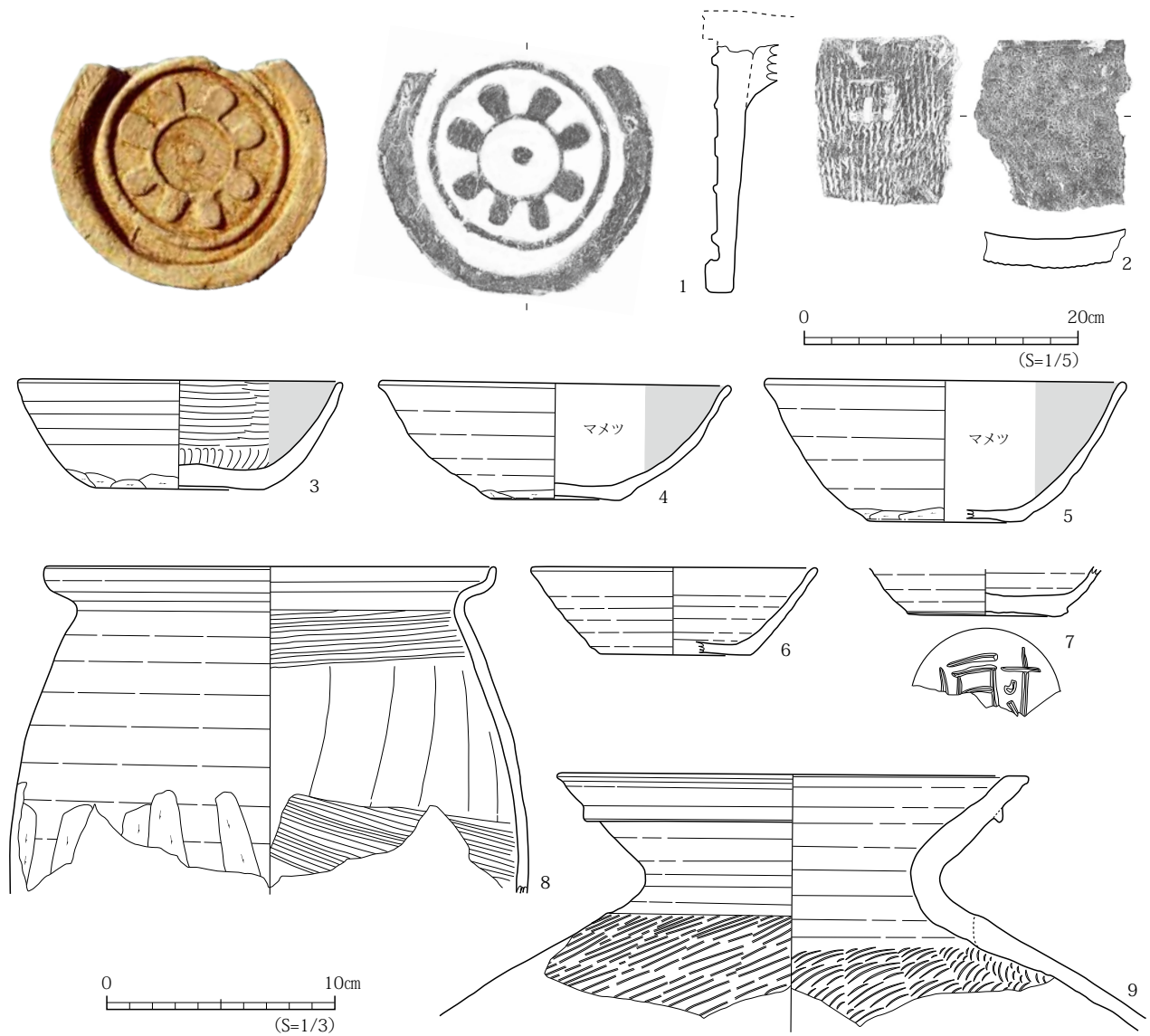
確認時の遺物には丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅰ・ⅡB・ⅡBa類、土師器杯・高台杯・高台皿・鉢・甕、須恵器杯・高台杯・蓋・鉢・長頸瓶・甕、須恵系土器台付鉢、灰釉陶器壺・段皿、塼がある。土器が主体を占めるが、瓦では平瓦ⅡBa類に「物」Aや「丸」Aの刻印を持つものがある。



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2834 堆積土	78	土師器・高台壺	底1/1	—	—	—	口クロ整形。内外：ミガキ→黒色処理		SX04-R22	B14511
2	SK2834 堆積土	78	土師器・鉢	1/4	(19.6)	8.0	8.3	底～体下端：切離不明→手持ケズリ		SX04-R24	B14511
3	SK2834 堆積土	78	土師器・甕	2/5	(14.7)	—	—	口クロ整形。体下部：手持ケズリ		SX04-R25	B14511
4	SK2834 堆積土	78	土師器・甕	1/4	(16.2)	—	—	口クロ整形。		SX04-R26	B14511
5	SK2834 堆積土	78	土師器・鉢	1/3	(27.3)	—	—	口クロ整形。体下部：手持ケズリ 内：黒色処理		SX04-R27	B14511
6	SK2834 堆積土	78	須恵器・杯	1/1	13.5	7.0	4.2	底：回転糸切		SX04-R29	B14512
7	SK2834 堆積土	78	須恵器・杯	1/5	(13.8)	(7.3)	3.7	底：回転糸切		SX04-R30	B14512
8	SK2834 堆積土	78	須恵器・杯	1/3	(13.2)	(7.4)	4.4	底：ヘラ切		SX04-R31	B14512
9	SK2834 堆積土	78	須恵器・甕	口1/1	22.2	(7.4)	4.4			SX04-R38	B14512
10	SK2834 堆積土	78	須恵器・甕	破片	—	—	—	口：端部を下に折曲げ		SX04-R39	B14512
11	SK2834 堆積土	78	須恵系土器・鉢	破片	—	—	—			SX04-R28	B14512

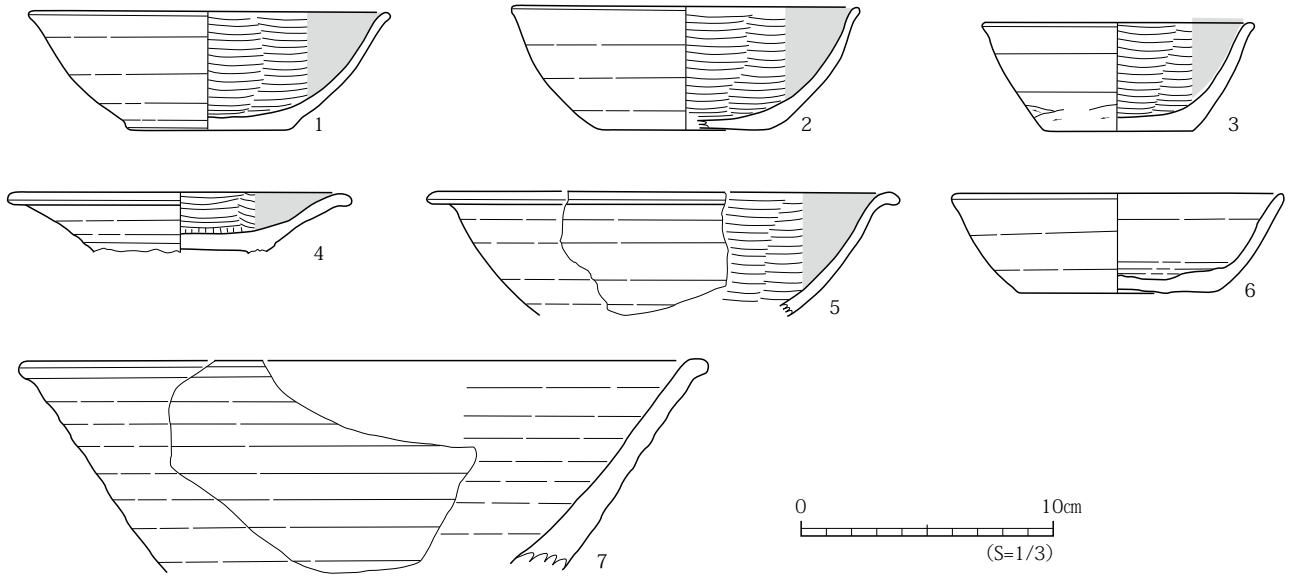
図版106 SK2834出土土器 2



										単位：(cm)		
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法	量	特	徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2835 堆積土	78	軒丸瓦	瓦当1/1	歯車状文427	直径19.8	瓦当厚1.8			107-1	SX05-R8	B14513
2	SK2835 堆積土	78	平瓦	破片	II Ba類	厚2.1.	凸面：凹型台による方形突出				SX05-R9	B14513
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特		写真図版	登録	箱番号
3	SK2835 堆積土	78	土師器・坏	1/3	(14.1)	(7.5)	4.8	底～体下端：切離不明→手持ケズリ			SX05-R3	B14513
4	SK2835 堆積土	78	土師器・坏	2/3	14.4	5.6	5.2	底～体下端：切離不明→手持ケズリ 内外：摩滅			SX05-R1	B14513
5	SK2835 堆積土	78	土師器・坏	1/4	(15.6)	(6.7)	6.3	底～体下端：切離不明→手持ケズリ 内外：摩滅			SX05-R2	B14513
6	SK2835 堆積土	78	須恵器・坏	1/5	(12.6)	(6.8)	3.4	底：回転糸切			SX05-R6	B14513
7	SK2835 堆積土	78	須恵器・坏	底1/3	—	(7.1)	—	底：回転糸切 底部に焼成前のヘラ書き「厨」			SX05-R5	B14513
8	SK2835 堆積土	78	土師器・甕	口2/5	(19.8)	—	—	ロクロ整形。体下部：ケズリ 内：ヘラナデ			SX05-R7	B14513
9	SK2835 堆積土	78	須恵器・甕	口1/3	(20.6)	—	—	口縁：下部に突帯 体：平行タキ 自然袖付着			SX05-R8	B14513

図版107 SK2835出土瓦・土器

土師器の大半はロクロ整形のもので、坏には回転糸切り無調整のものもあるが（図版 108-1・2）、切離し後に手持ケズリ調整をするものが主体を占める（3）。須恵器坏にはヘラ切無調整と回転糸切り無調整のものがあり、前者がやや多い（6）。須恵系土器台付鉢は口縁部の破片資料があり（7）、灰釉陶器碗・段皿は尾張産（図版 128-13・23）のものである。埴は四面が無文の角部の破片で、側面に木製の型枠痕跡がみられる（図版 109）。



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	枚数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2834・2835	78	土師器・坏	2/3	14.2	6.4	4.8	底：回転糸切		SX02-R1	B14514
2	SK2834・2835	78	土師器・坏	1/4	(13.7)	(6.7)	5.0	底：回転糸切		SX02-R2	B14514
3	SK2834・2835	78	土師器・坏	1/3	(10.6)	(6.0)	4.4	底～体下端：切離不明→手持ケズリ		SX02-R3	B14514
4	SK2834・2835	78	土師器・高台皿	1/3	(13.1)	—	—	底：回転糸切→高台貼付→ロクロナデ		SX02-R4	B14514
5	SK2834・2835	78	土師器・高台坏?	破片	—	—	—	ロクロ整形		SX02-R5	B14514
6	SK2834・2835	78	須恵系土器・坏	1/4	(13.0)	(7.9)	4.0	底：へら切		SX02-R6	B14514
7	SK2834・2835	78	須恵系土器・台付鉢	破片	—	—	—	—		SX02-R9	B14514

図版108 SK2834・2835確認面出土土器



図版109 SK2834・2835確認面出土埴とSK2858出土軒平瓦

**【SK2854 土壌】** (図版 67・78)

中央北側の E24・S216 を概ね中心とする南北に長い方形を基調とした土壌である。地山上面で検出し、SB2848 建物跡より新しく、SB2837 建物跡より古い。 検出状況・規模

規模は南北約 3.5 m、東西約 2.3 m で、深さは約 0.3 m である。横断面形は箱状だが、片側がやや皿状を呈す箇所もある。堆積土は炭と焼土、ブロック状の地山土が混ざり合った灰褐色 (7.5YR4/2) のシルトで、人為的に埋め戻されている。

遺物は、丸瓦Ⅱ類、平瓦ⅠC・ⅡA・ⅡB類、土師器高台坏、須恵器坏・蓋・甕、が少量出土しており、土師器高台坏は内・外面をミガキ調整後に黒色処理したものである。須恵器坏にはヘラ切り後に回転ケズリ調整をしたものがある。 出土遺物

**【SK2858 土壌】** (図版 67・104・109～111)

中央南側の E18・S233 を概ね中心とする東西に長い方形の土壌で、地山の上面で検出した。SK2834 土壌より古い。 検出状況・規模

規模は東西約 1.7 m、南北約 1.0 m で、深さは約 0.4 m である。断面形は逆台形で、底面には若干凹凸がみられる。堆積土はブロック状の地山土を含むにぶい黄褐色 (10YR4/3) の砂質シルトで、瓦を多く含み、人為的に埋め戻されている。

遺物は、軒平瓦、丸瓦ⅠA類、平瓦ⅠC・ⅠC b類が出土している。軒平瓦には二重弧文 512a・b (図版 109・110) と二重弧文 511c (図版 111-1) があり、512a の狭端部中央には釘穴、511c の狭端部凹面には「上」の押出文字がある。 出土遺物

**【SK2873 土壌】** (図版 68・73・112・134)

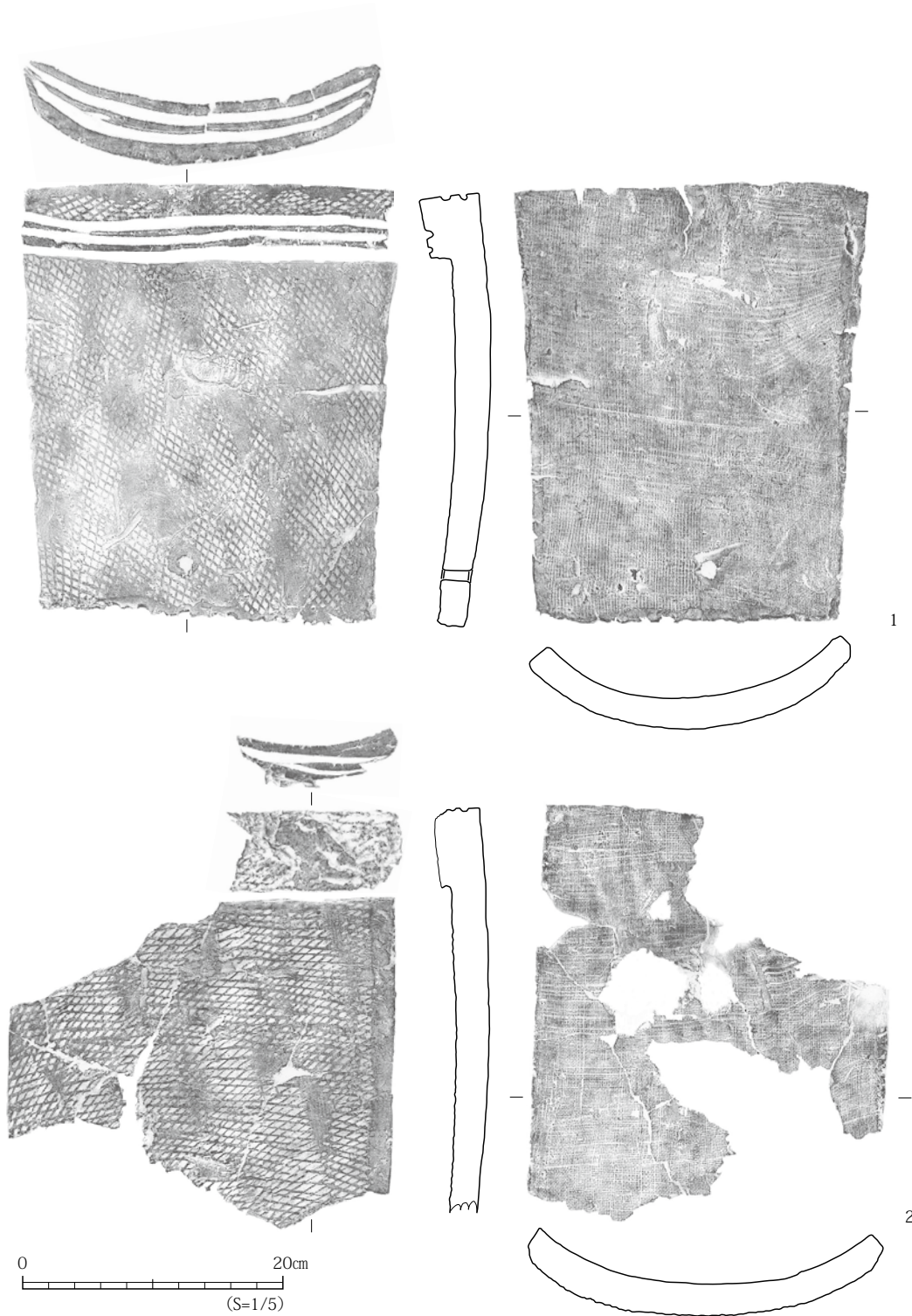
南部の E20・S251 を中心とする東西に長い不整形の土壌で、南西Ⅲb層およびⅤ層の上面で検出した。SB2771 建物跡、SD2884・2885 溝より新しく、SB2755 建物跡より古い。 検出状況・規模

規模は長軸約 3.7 m、短軸約 2.3 m で、深さは約 0.6 m あり、断面形は皿状を呈す。堆積土は上層と下層に分けられ、下層は小さいブロック状の焼土と砂粒を含む黒色 (7.5YR1.7/1) の炭層である。上層は粒状の焼土と多量の炭・地山土ブロックを含む灰褐色 (7.5YR4/2) の粘土で、人為的に埋め戻されている。

遺物は上・下層とも多く出土しており、下層では軒丸瓦、丸瓦ⅡA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡB・ⅡBa類、土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・高台坏、円面硯がある。軒丸瓦には重圏文 243 (図版 112-1)、丸瓦ⅡB類には凸面に「田」Aや「占」Aの刻印があるものがある。土師器はロクロ整形の甕を含み、須恵器坏で底部の特徴が知られるものはヘラ切り後にナデ調整をするものである (4～9)。円面硯は十字の透かしを持つものがある (図版 134-2)。 出土遺物

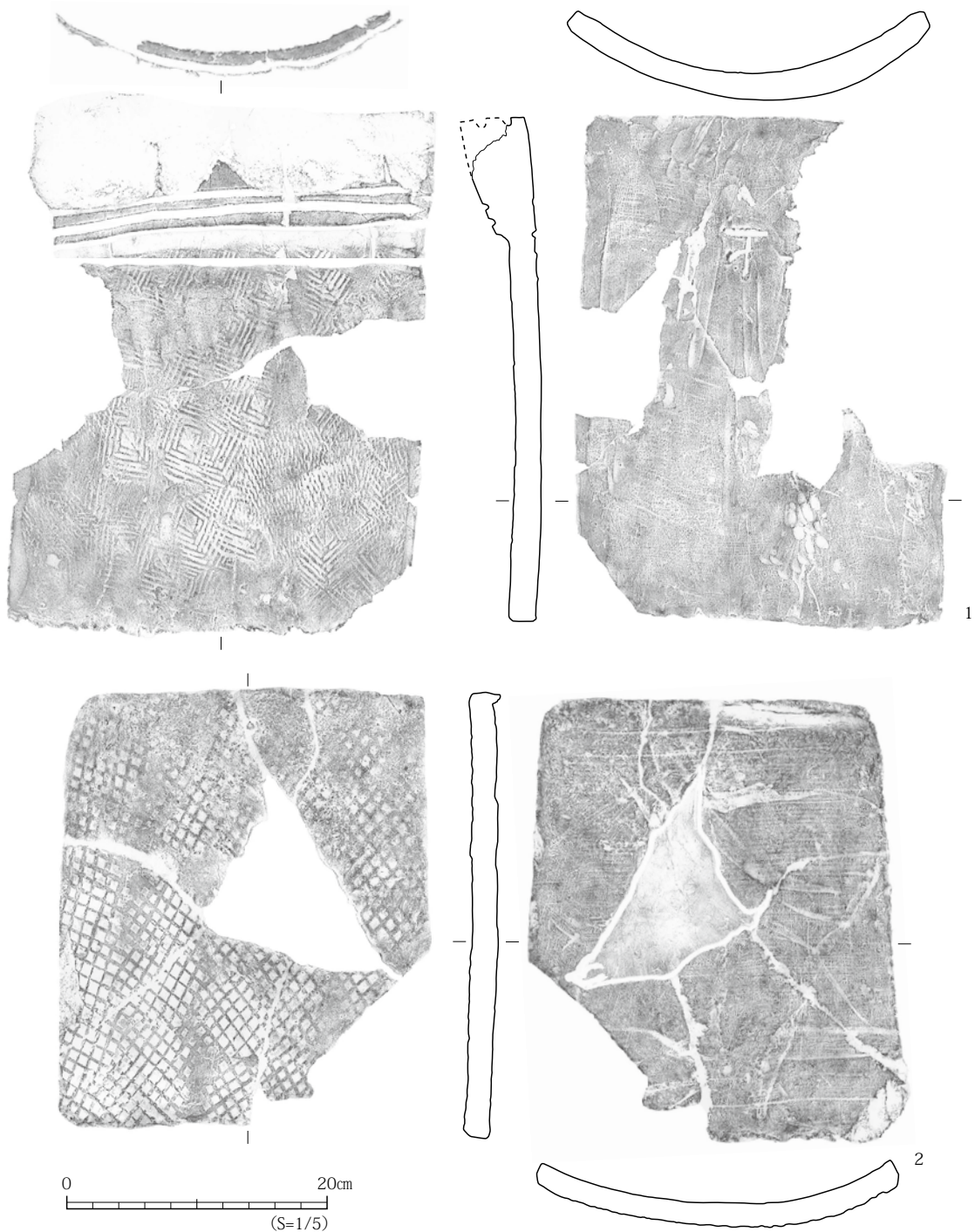
上層では軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡB・ⅡBa類、土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・長頸壺・甕が出土している。軒丸瓦には重弁蓮花文 222 (図版 112-2)、軒平瓦には単弧文 640a (3) と二重弧文 513 があり、丸瓦ⅡB類には凸面に「伊」、平瓦ⅡB類には凹面に「矢」Bの刻印があるものがある。ほかに、凸面中央に方形の突出を持つ平瓦ⅡBa類も出土している。土師器坏・甕にはロクロ整形のものがあり、須恵器坏は下層出土のもの





No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	単位：(cm)		
							写真図版	登録	箱番号
1	SK2858 埋土	78	軒平瓦	1/1	二重弧文512a	長33.3 広端幅26.8 狭端幅24.4 瓦当幅4.3 平瓦厚2.1 狭端中央に凹形の釘穴(直径1.2)	109	pit1-R1	B14515
2	SK2858 埋土	78	軒平瓦	2/5	二重弧文512b	瓦当幅3.0 平瓦厚2.4		pit1-R2	B14515

図版110 SK2858出土瓦 1



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2858 埋土	78	軒平瓦	3/4	二重弧文511c	長38.7 広端幅(27.2) 平瓦厚1.9。凹面にヘラ書「上」		pit1-R3	B14516
2	SK2858 埋土	78	平瓦	3/4	I Ca類	長34.2 狭端幅25.3 平瓦厚1.8		pit1-R4	B14516

図版111 SK2858出土瓦 2



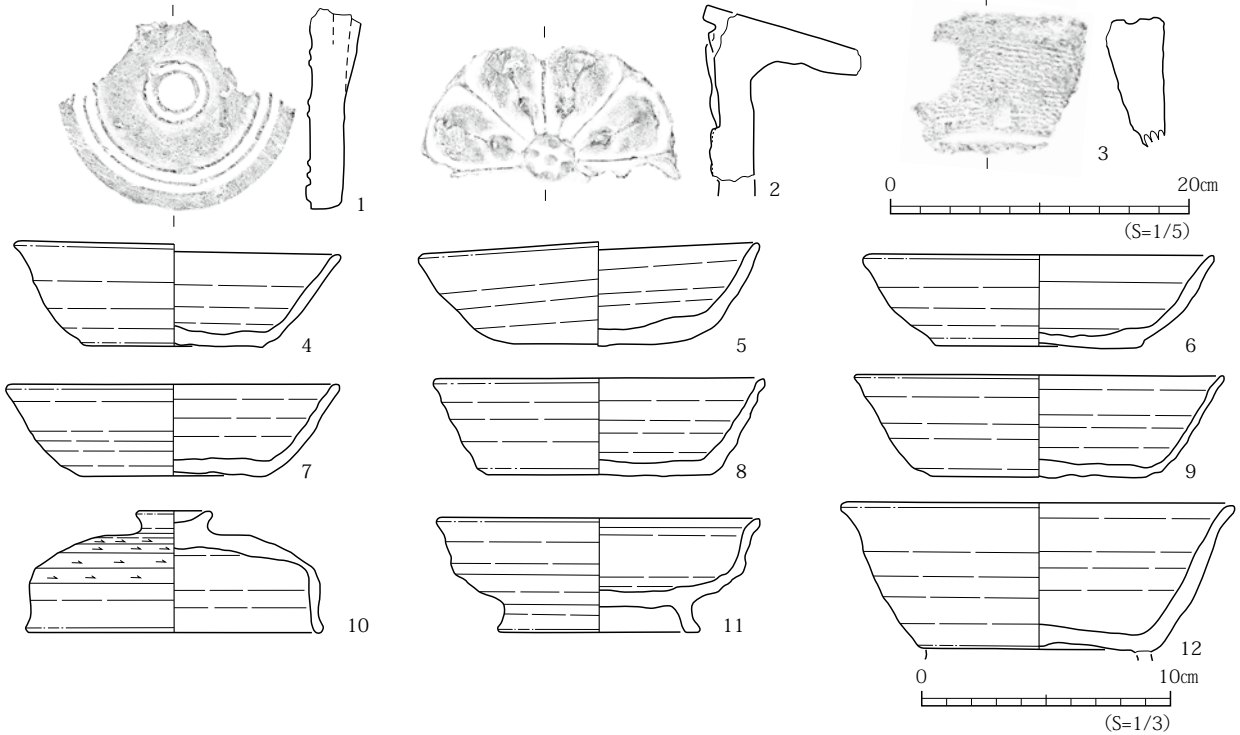
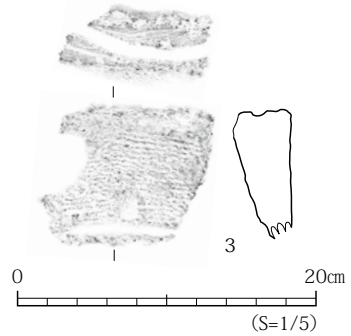
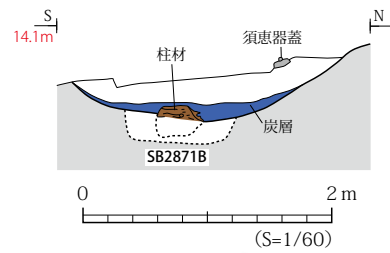
(南東から)



横断面とSB2871柱材の検出



炭化物層の検出とSB2755との重複(南西から)



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK2873 埋土下層	79	軒丸瓦	瓦当1/2	重圏文243	直径(17.0) 瓦当厚2.5		R71	B14666
2	SK2873 埋土上層	79	軒丸瓦	瓦当1/2	重弁蓮花文222	直径19.0 瓦当厚3.0		R75	B14667
3	SK2873 埋土上層	79	軒平瓦	破片	単弧文640a			R77	B14667

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
4	SK2873 埋土下層	79	須恵器・坏	1/1	13.2	7.2	4.2	底：ヘラ切→ナデ		R62	B14665
5	SK2873 埋土下層	79	須恵器・坏	1/1	13.8	8.3	4.1	底：ヘラ切→ナデ		R64	B14665
6	SK2873 埋土下層	79	須恵器・坏	1/3	(14.2)	(8.4)	3.7	底：ヘラ切→ナデ		R65	B14665
7	SK2873 埋土下層	79	須恵器・坏	1/3	(13.5)	(7.5)	3.7	底：ヘラ切→ナデ		R68	B14666
8	SK2873 埋土下層	79	須恵器・坏	2/3	(13.4)	(9.0)	3.9	底：ヘラ切→ナデ		R63	B14665
9	SK2873 埋土下層	79	須恵器・坏	1/4	(15.0)	(8.6)	4.1	底：ヘラ切→ナデ		R67	B14665
10	SK2873 埋土上層	79	須恵器・蓋	1/3	(12.1)	—	4.9	外：回転ケズリ→摘み貼付→ロクロナデ。摘み：擬宝珠。直径3.1		R74	B14667
11	SK2873 埋土下層	79	須恵器・高台坏	3/4	13.1	8.1	4.6	底：切離不明→回転ケズリ→高台貼付→ロクロナデ		R66	B14666
12	SK2873 埋土下層	79	須恵器・高台坏	3/4	15.9	—	—	底：ヘラ切→ロクロナデ→高台貼付→ロクロナデ		R70	B14665

図版112 SK2873土壇



SX3270とSK3264 (南から)



SX3270とSK3264 (南西から)



SK3264断面 (南から)

図版113 SK3264土壌

と同様の特徴を持つ。また、蓋には潰れた宝珠形の摘みがつく壺蓋がある。

#### 【SK3264 土壌】 (図版 66・92・113・114・137・138)

北部の E17・S182 にある南北に長い不整な溝状の土壌で、地山の上面で検出した。SA3261 柱列跡の東側に隣接し、SA3261、SX3271 盛土より古く、SX3271 と北西Ⅶ層に覆われている。北側は調査区外に伸びており、南端は上層の SA3261 と SX3271 の保存のため検出していない。

検出状況

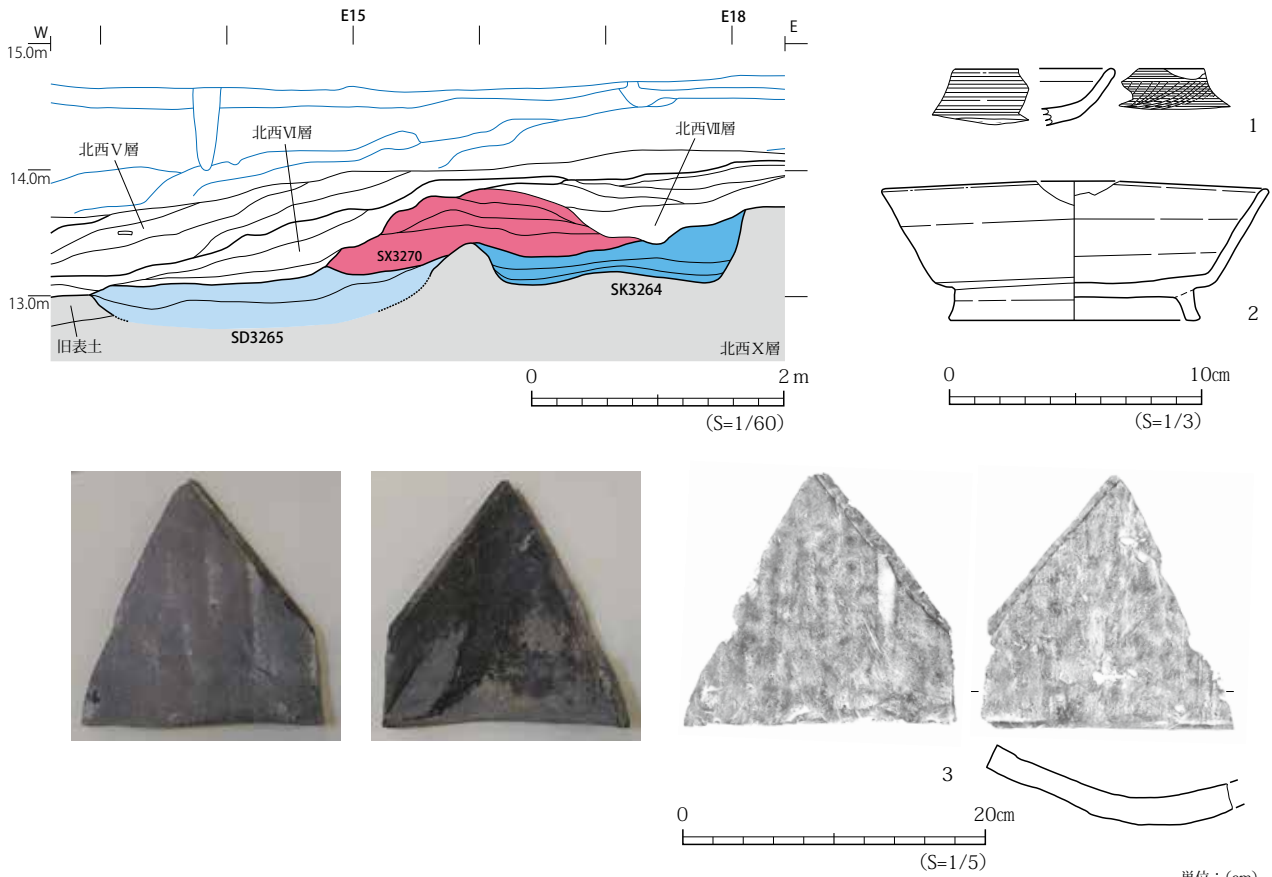
規模は長さ 3.1 m 以上、幅約 1.8 m で、深さは 0.5 ～ 0.6 m である。断面形は逆台形や椀状で、底面には緩やかな凹凸がみられる。方向は南北の基準線に対して北で約 19° 東に振れている。堆積土は上・中・下層に分けられ、下層は多量のはつり材を主体とする層で、隙間には中層の粘土が流入する。中層は砂粒を少し含む均質な黒褐色 (2.5Y3/1) の粘土、上層は砂と互層をなす黒褐色 (2.5Y3/1) の粘土で、ともに自然堆積土である。

規模・堆積土

遺物は上・中層から丸瓦ⅡB類、平瓦ⅠA類、隅切瓦、土師器杯・皿・蓋・甕、須恵器高台杯、木簡、下層の底面から横槌がそれぞれ少量出土している。

出土遺物

上・中層の隅切瓦は、平瓦ⅠA類を素材とするものである (図版 114-3)。土師器皿には内面に放射状暗文がみられる畿内系のもの (1)、甕にはロクロ整形のものがある。木簡は 8 点出土



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	SK3264 1・2層	89	土師器・坏	破片	—	—	—	外：口縁ヨコナデ 体下部手持ケズリ 内：ヨコナデ→放射状暗文		R6	B15526
2	SK3264 1・2層	89	須恵器・高台坏	2/3	(15.2)	(9.8)	3.9	底：切離不明→回転ケズリ→高台貼付→ロクロナデ		R4	B15526

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量 ・ 特 徴	写真図版	登録	箱番号
3	SK3264 1層	89	隅切瓦	破片		素材：平瓦 I A類、厚：1.8	114-3	R5	B15526

図版114 SK3264土壌断面図と出土瓦・土器

しており、「府」の符を納めた箱書きを持つほぼ完形の文書函の蓋、宮城郡の記載を持つ習書木簡、石背郡や牡鹿郡の付札などがある（図版 137・138）。

vi. その他

【SX2769 段跡】（図版 68・73）

検出状況・規模

南部で検出した削り出しによる段跡で、E24・S264 付近から東に直線的に伸びている。E27 付近では耕作時の削平で途切れるが、E30 付近まで確認した。SK2754 土壌、SX2787 平場跡より古く、西側はSK2754 に壊されている。

検出した長さは約 6.3 m で、高さは最も高い所で約 0.2 m である。方向は東西の基準線に対して東で南に約 15° 振れる。段の下（南側）には地山に類似した粘質の褐色シルトが自然堆積しているが、遺物は出土していない。

【SX2789 段跡】（図版 68・73）

検出状況・規模

南部の E15・S260 付近から北側に弧を描くように南東に伸びる段跡で、E24 付近まで検出した。南側はSK2754 土壌、西側は耕作等により削平されている。SA2772 柱列跡、SD2764・2779 溝、

SK2754、SX2787 平場跡と重複し、SD2764、SK2754、SX2787 より古い。SA2772、SD2779 とは、調査時に本段跡を SK2754 の一部として掘り下げたため、新旧関係が不明である。

検出した長さは約 6.3 m で、高さは最も高い所で約 0.2 m である。段から南側はブロック状の地山土を多く含むシルトで埋め戻されていた。なお、遺物は出土していない。

### 【SX2787 平場跡】 (図版 68・73)

南部の E27 から東、S264 から南に広がる平場跡である。地山の斜面を南側に削り出して造成しているが、西側は耕作、南側は現代の通路で削平されている。SI2478 住居跡、SK2488 土壙、SX2769 段跡と重複し、SI2478 と SX2769 より古く、SK2488 との新旧は不明である。

検出状況・規模

地山を削り出した際に北側に形成された段は最も残りの良い場所で高さが約 0.3 m あり、平坦面は東西 7.0 m 以上、南北 5.0 m 以上の広さを持つ。平坦面では小ピットが検出され、掘立柱建物の存在が推定されるが、調査区内では設定していない。

## vii. 堆積層ほかの出土遺物

西区では、これまで記載したほかにも堆積層やその他の遺構から遺物が出土しており、中には注目されるものもある。ここでは表土以外の北西部・西区中央・南西部の堆積層出土の遺物のうち注目されるものを中心に述べる。なお、表土出土の遺物は前述したように中央区・西区のものも含めて本節(4)で一括して記載する。

### ① 北西部堆積層の出土遺物

北西Ⅱ～Ⅷ層はいずれも自然堆積層で、Ⅵ層以上で遺物が多く出土している。その大部分は瓦であり、被熱によって酸化・摩滅したいわゆる焼瓦や、炭・煤が付着した瓦も含まれる。その他の遺物は少なく、土器も小片が多い。なお、北西Ⅶ層では平瓦ⅠC a 類が1点出土したのみで、北西Ⅷ層で遺物は出土していない。

#### 《北西Ⅱ層出土遺物》 (図版 115)

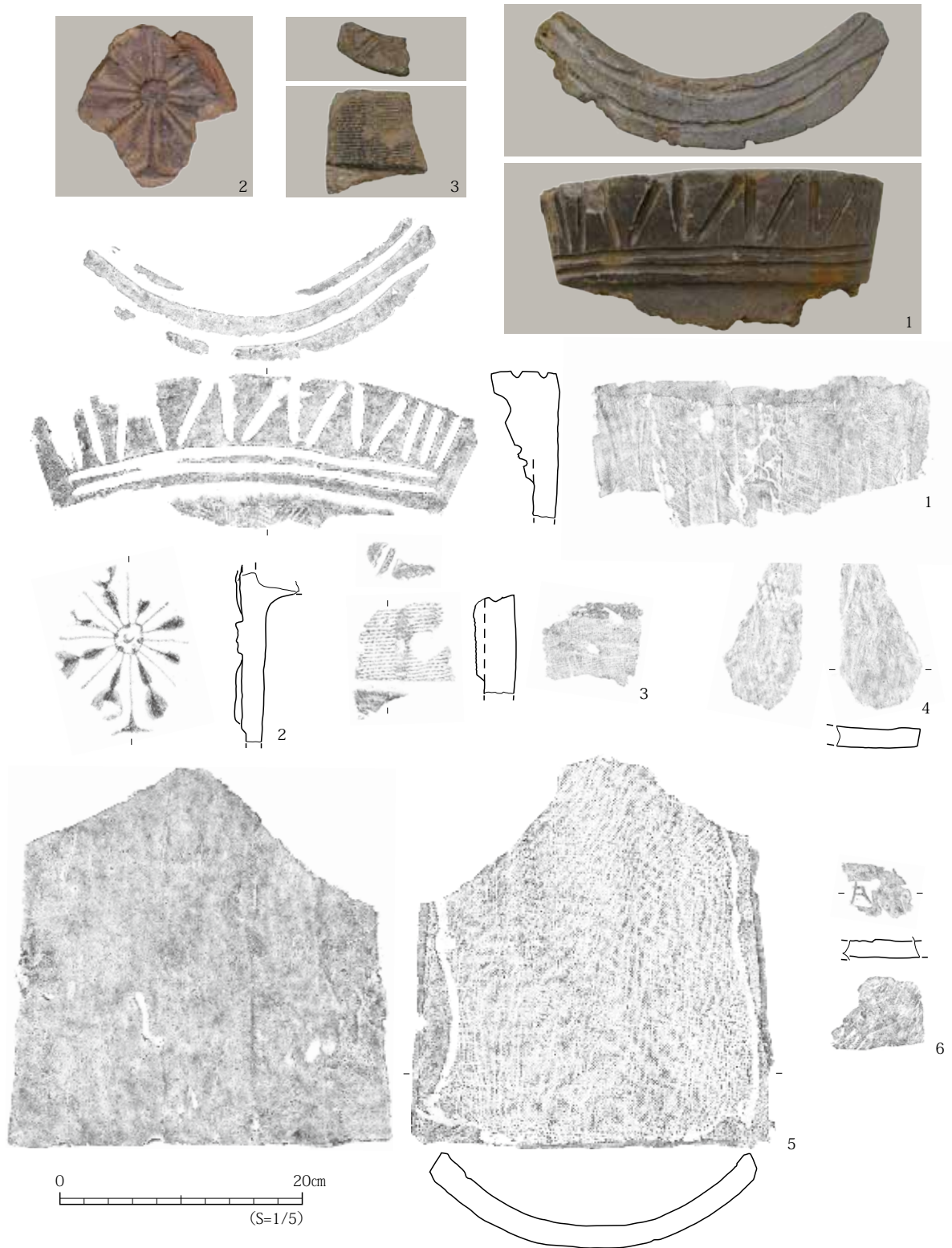
北西Ⅱ層

軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦ⅠA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠC a・ⅡB・ⅡB a類、熨斗瓦 (図版 115-4)、土師器坏、須恵器坏・壺・甕、須恵系土器坏、灰釉陶器皿・壺、白磁皿が出土した。軒丸瓦には新出のものとして重弁蓮花文 432 があり (2)、軒平瓦には二重弧文 511 と二重波文 650 (3) がある。丸・平瓦では、丸瓦ⅡB類の凸面に「丸」A・Bや「田」A、「占」、平瓦ⅡB類の凹面に「丸」A・Bの刻印のあるものがある。また、平瓦ⅡB・ⅡB a類には焼瓦や炭・煤が付着した瓦がみられる。灰釉陶器皿・壺、白磁皿はいずれも小片で、詳細は不明である。

#### 《北西Ⅲ層出土遺物》

北西Ⅲ層

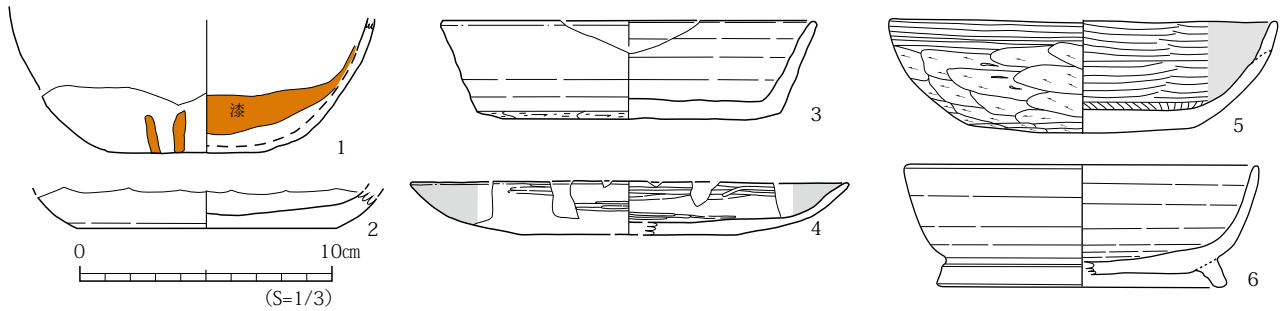
丸瓦ⅠA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠC a・ⅠD・ⅡB・ⅡB a類、土師器坏・甕、須恵器坏・鉢・壺・甕、須恵系土器坏が出土している。丸瓦ⅡB類の凸面には「伊」、平瓦ⅡB・ⅡB a類の凹面には「物」Aや「田」A、「矢」A、「占」などの刻印があるものがある。また、丸瓦ⅡB



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	北西Ⅰ層	89	軒平瓦	瓦当1/1	二重弧文511a	幅29.7 瓦当幅5.4 平瓦厚2.0	115-1	R71	B15631
2	北西Ⅱ層	89	軒丸瓦	瓦当2/3	重弁蓮花文432	瓦当厚1.9	115-2	R61	B15630
3	北西Ⅱ層	89	軒平瓦	破片	二重波文650	瓦当幅3.3 平瓦厚2.4	115-3	R62	B15630
4	北西Ⅱ層	89	熨斗瓦	破片	I類	厚1.6		R59	B15630
5	北西Ⅳ層	89	平瓦	3/4	ⅡA類	広端幅27.3 厚1.9		R42	B15629
6	北西Ⅴ層	89	平瓦	破片	ⅡB類	厚1.8。凹面に刻印「丸」B		R20	B15626

図版115 北西Ⅰ～Ⅴ層出土瓦



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
1	北西IV層	89	土師器・杯	2/3	—	6.1	—	外：摩滅 内：漆紙付着(墨痕未認)		R60	B15530
2	北西V層	89	須恵器・杯	底1/2	—	(10.3)	—	底：回転ケズリ		R17	B15528
3	北西VI層	89	須恵器・杯	2/3	(14.6)	(10.0)	3.9	底～体下端：ヘラ切→手持ケズリ		R11	B15526
4	北西VI層	89	土師器・皿	1/3	(17.2)	(8.4)	2.1	非ロクロ整形 内外：ミガキ→黒色処理		R12	B15526
5	西IV層	78	土師器・杯	2/5	(15.4)	(9.2)	4.6	非ロクロ整形。丸底風平底。外：ヨコナデ→手持ケズリ		SX32-1	B14504
6	西IV層	78	須恵器・高台杯	底1/2	(14.0)	(11.2)	4.9	底：(不明)→高台貼付→ロクロナデ。白色精良な胎土		SX32-2	B14504

図版116 北西IV～VI層と西IV層の出土土器

類や平瓦ⅡB・ⅡBa類には焼瓦や炭・煤が付着した瓦がみられる。

## 《北西IV層出土遺物》(図版116)

北西IV層

軒平瓦、丸瓦ⅠA・Ⅱ・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠCa・ⅡA・ⅡB・ⅡBa類、隅切瓦、土師器杯・甕、須恵器杯・蓋・甕が出土している。軒平瓦には二重弧文511があり、丸瓦ⅡB類の凸面には「田」Aや「占」A、平瓦ⅡB・ⅡBa類の凹面には「物」Aや「丸」A、「田」A・B、「矢」B、「占」の刻印があるものがある。また、丸瓦Ⅱ・ⅡB類73点中に17点、平瓦ⅡB・ⅡBa類125点中に55点に焼瓦や炭・煤が付着した瓦が含まれる。隅切瓦は平瓦ⅠAを素材としたもの、土師器杯にはロクロ整形で内面に漆が付着したものがある(図版116-1)。

## 《北西V層出土遺物》(図版115・116)

北西V層

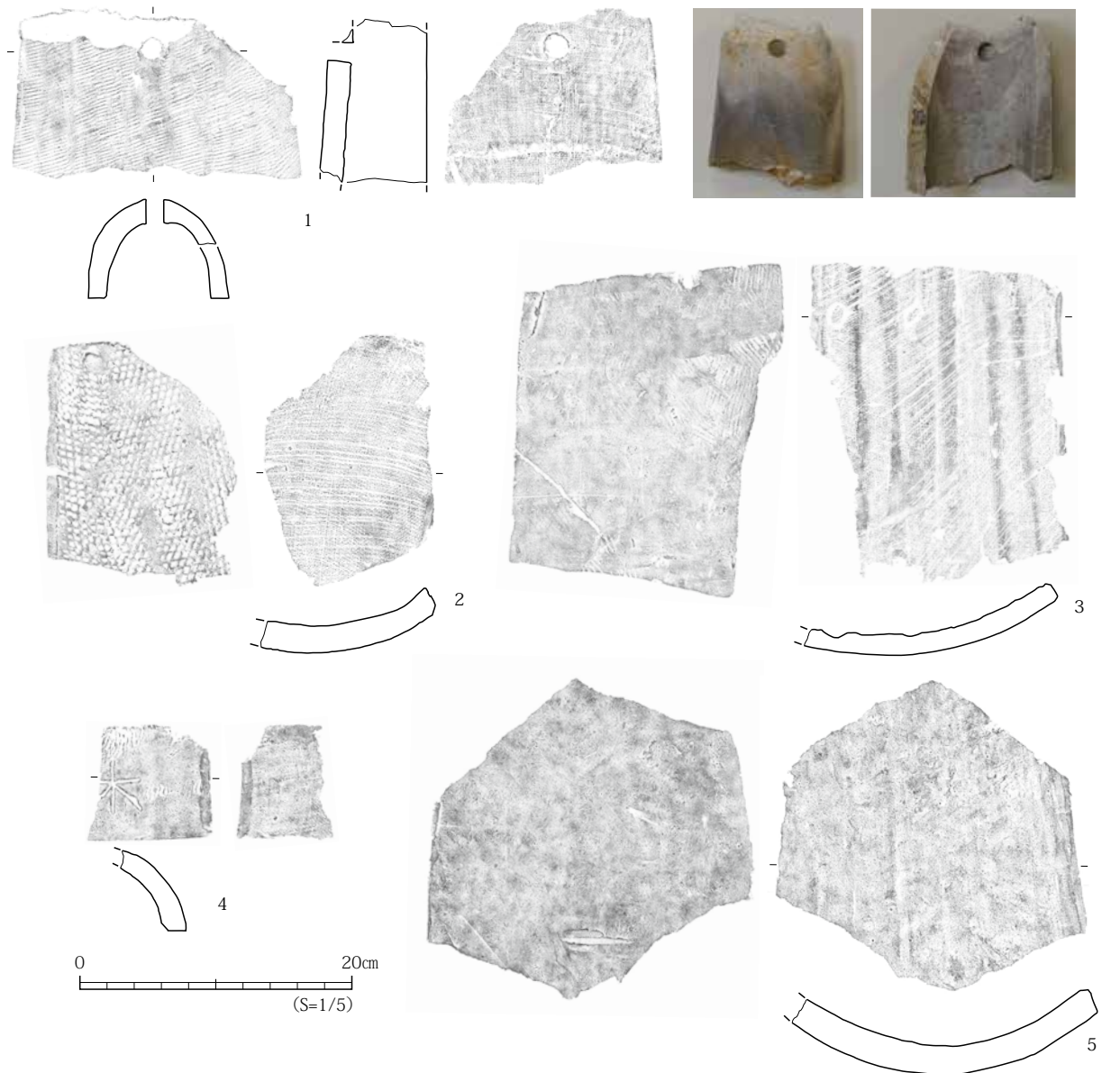
丸瓦ⅠA・Ⅱ・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠCa・ⅠCb・ⅡB・ⅡBa類、土師器杯・甕、須恵器杯・蓋・甕が出土しており、平瓦ⅡB・ⅡBa類の凹面には「物」Aや「丸」B(図版115-6)の刻印のあるものがある。また、丸瓦Ⅱ・ⅡB類20点中に8点、平瓦ⅡB・ⅡBa類43点中に6点の焼瓦や炭・煤が付着した瓦がある。土師器杯には両面を黒色処理したもの、甕には非ロクロ整形で底部に木葉痕のあるものがあり、須恵器杯では底部の切離し後に回転ケズリ調整をしたものがある(図版116-2)。

## 《北西VI層出土遺物》(図版116・117)

北西VI層

軒平瓦、丸瓦ⅠA・Ⅱ・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠB・ⅠCa・ⅠCb・ⅠD・ⅡB・ⅡBa類、土師器杯・皿、須恵器杯・甕が出土しており、軒平瓦には二重弧文511がある。丸瓦ではⅠA類に狭端部の中央に釘穴、ⅡB類の玉縁中央に「木」の文字がヘラ書きされたものがある(図版117-1・2)。平瓦ではⅡB類の凹面に「物」Cの刻印があるものがあり、また、ⅡB・ⅡBa類26点中に2点の焼瓦がある。土師器皿は非ロクロ整形で、両面をミガキ調整後に黒色処理したものである(図版116-4)。須恵器杯には口径に比して底径が大きく、底部をヘラ切り後に体部下端まで回転ケズリ調整をしたものがある(3)。





単位：(cm)									
No.	出土遺構・層位	次敷	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	北西VI層	89	丸瓦	1/4	I A類	狭端幅(10.3) 厚1.8。狭端部中央に円形の釘穴(直径1.3)	117-1	R13	B15526
2	北西VI層	89	平瓦	1/4	I Cb類	厚2.0		R16	B15526
3	北西VI層	89	平瓦	1/3	I B類	厚1.6		R15	B15526
4	北西VI層	89	丸瓦	破片	II B類	厚1.8。玉縁中央にヘラ書「木」		R8	B15526
5	北西IV層	89	平瓦	1/3	I A類	厚：2.1		R14	B15526

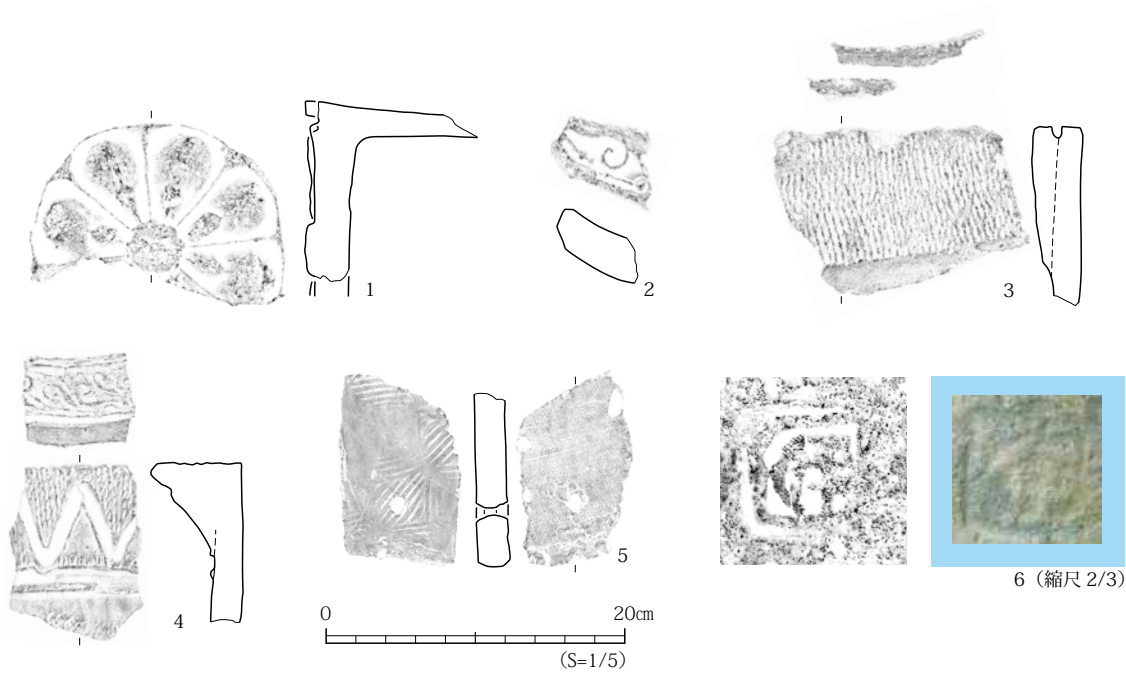
図版117 北西VI層出土瓦

② 西区中央堆積層の出土遺物

西区中央の大部分は宅地化の際に地山まで削平されているが、北西側に西II層(SX2856 整地上層)が広がり、その下には自然堆積層の西III層を挟んで西IV層(SX2856 整地下層)が認められる。そのうち、遺物は西IV層で出土している。

西 IV 層 《北西IV層出土遺物》(図版 116)

丸瓦 I A類、平瓦 I C類、土師器環、須恵器環・高台環・甕があり、土師器環は非ロクロ整形で、丸底風のものである(図版 116-5)。須恵器環にはヘラ切り無調整のものがあ、高台環は



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法 量・特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	南西Ⅱ層	79	軒丸瓦	瓦当1/2	重弁蓮花文222	直径20.0 瓦当厚3.0		SX6-R65	B14674
2	南西Ⅱ層	79	軒平瓦	破片	偏行唐草文620a			SX6-R70	B14674
3	南西Ⅱ層	79	軒平瓦	破片	単弧文640a	瓦当幅3.3 平瓦厚2.0		SX6-R71	B14674
4	南西Ⅱ層	79	軒平瓦	破片	均整唐草文721A	瓦当幅5.7 平瓦厚2.0		SX6-R73	B14674
5	南西Ⅱ層	79	平瓦	破片	I C a類	厚2.0。円形の釘穴(直径1.2)		SX6-R86	B14676
6	南西Ⅱ層	79	丸瓦	破片	II B類	凸面：刻印「伊」(国分寺タイプ)	116-1	R2	B14675

図版118 南西Ⅰ・Ⅱ層出土瓦

口径に比して底径が大きいものである(6)。

### ③南西部堆積層の出土遺物

南西部では、最初に掘削された大規模なSK2891土壇部分を中心に自然堆積層(南西Ⅷ・Ⅵ・Ⅳ～Ⅱ層)と人為的な整地が重なっている(南西Ⅶ・Ⅴ層)。遺物はⅤ層以下では少ないが、各層から瓦と土器を中心に出土しており、特に南西Ⅱ・Ⅲ層では土器の出土が目立つ。

#### 《南西Ⅱ層出土遺物》(図版118～121・132)

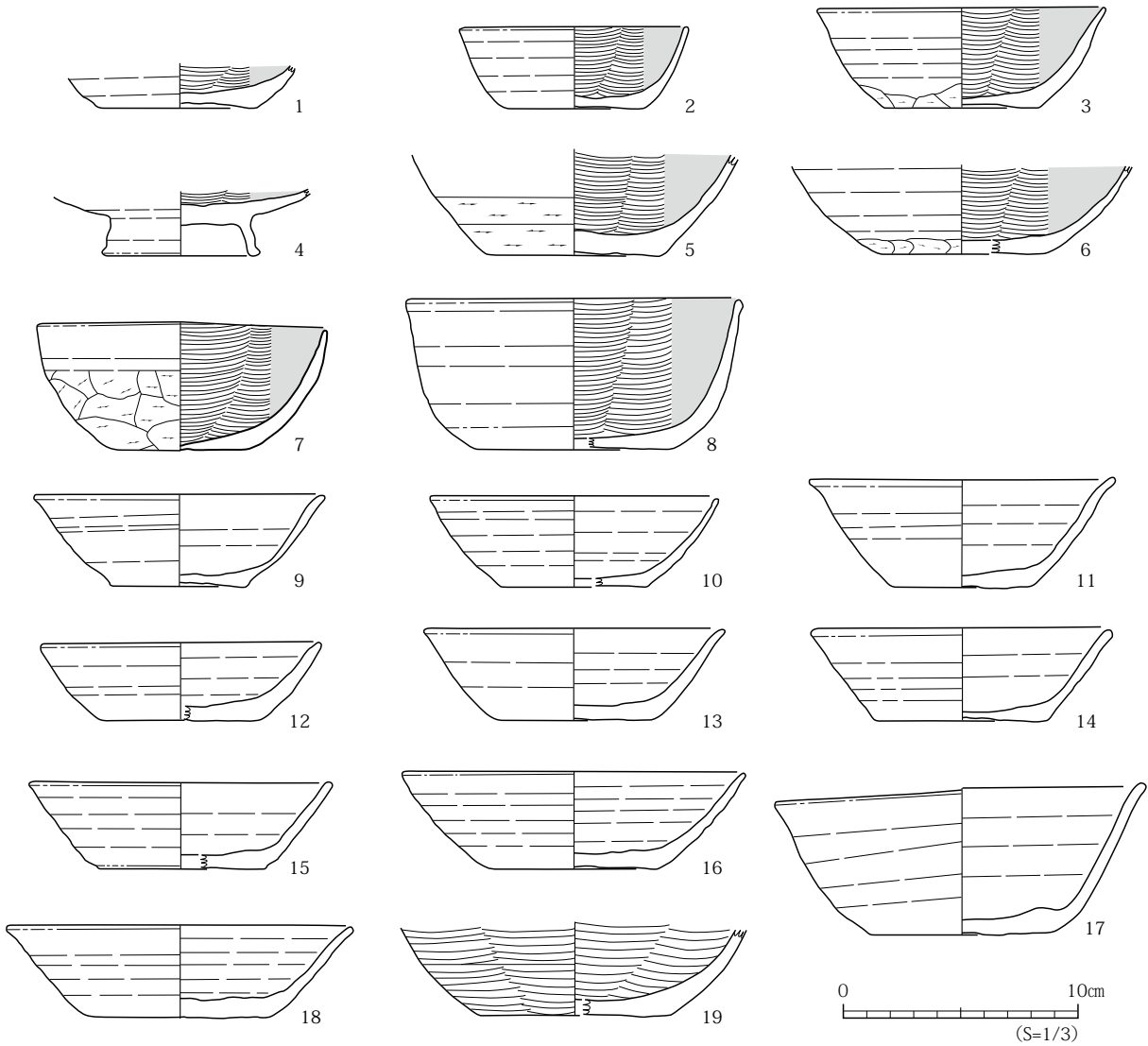
この場所で最も多くの遺物が出土しており、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、土師器、須恵器、灰釉陶器がある。軒丸瓦には重弁蓮花文222(図版118-1)、軒平瓦は偏行唐草文620a、単弧文640a、均整唐草文721Aのほか(2～4)、二重弧文511a、無文641がある。丸瓦はⅠA・Ⅱ・ⅡB類があり、Ⅱ・ⅡB類の凸面には「下」のへら書きや「田」A、「伊」、「占」Aの刻印があるものがある。そのうち「伊」では陸奥国分寺・尼寺跡のみでみられた文字を四角で囲むタイプも初めて出土している(6)。平瓦はⅠA・ⅠC・ⅠCa・ⅡB・ⅡBa・ⅡBb・ⅡC類の各種があり、ⅠCa類には釘穴を持つもの(5)、ⅡB・ⅡBa類には凹面に「物」A・B、「丸」A・B、「矢」Aの刻印があるものがある。なお、ⅡC類の出土は少なく、1点のみである。

土師器は坏・高台坏・甕があり、大半がロクロ整形のものである。坏は切離し後に調整をするものが多く、切離しは回転糸切り、調整は手持ケズリが主体を占める(図版119-1～3・5～8)。

須恵器は土師器よりも出土量があり、器種も坏・高台坏・双耳坏・高坏・埴・蓋・平瓶・長頸

南西Ⅱ層

瓶、壺・甕がある。坏には体部が底部からやや内湾して立ち上がるもの（9～19）と直線的に立ち上がるもの（図版120）があり、底部はヘラ切り後にナデ調整をするものが多いが、手持・



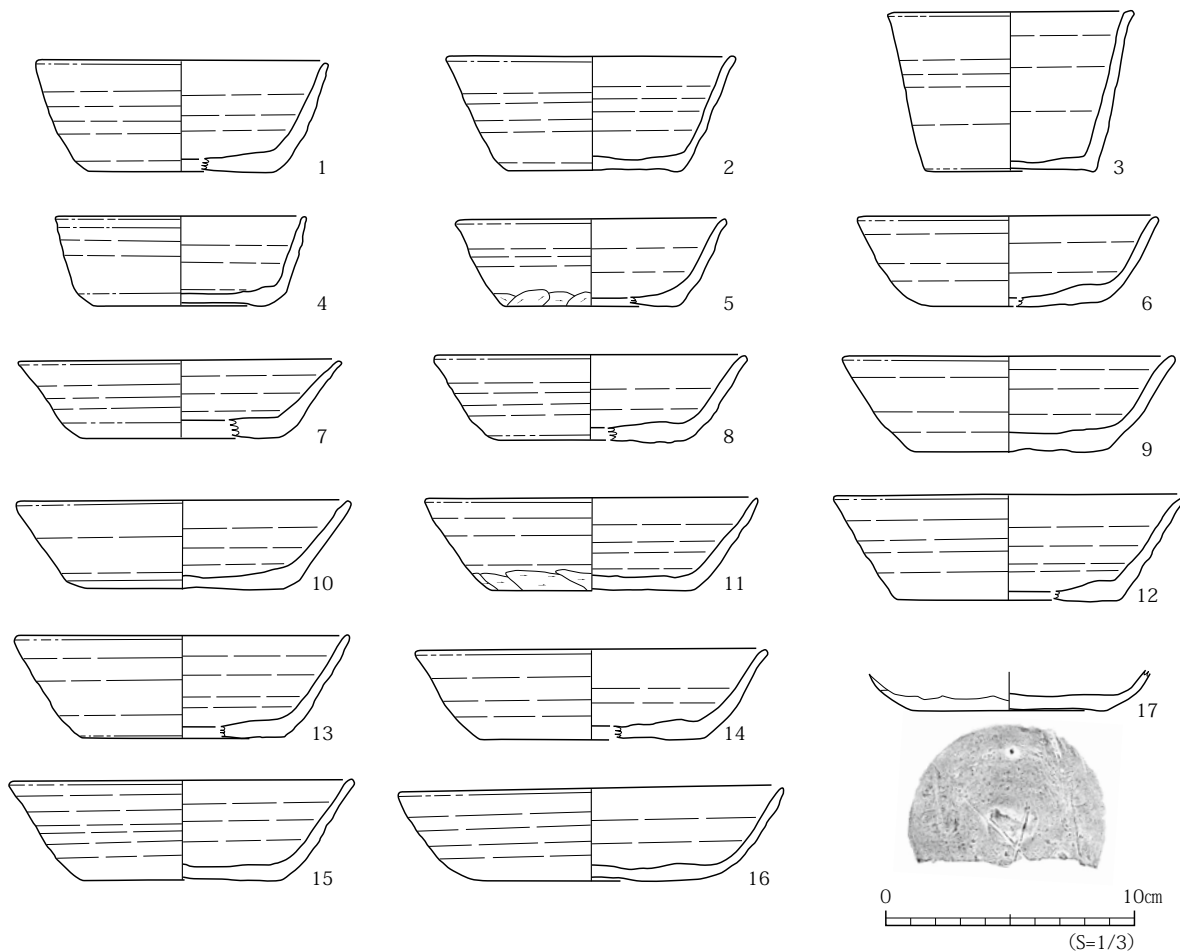
単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特徴	写真図版	登録	箱番号
1	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	1/4	—	6.8	—	底：回転糸切		SX6-R31	B14670
2	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	1/3	(9.9)	(5.9)	3.5	底：ヘラ切→手持ケズリ		SX6-R33	B14670
3	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	1/4	(12.5)	(6.7)	4.3	底～体下端：回転糸切→手持ケズリ		SX6-R32	B14670
4	南西Ⅱ層	79	土師器・高台坏	1/4	—	(6.9)	—	底：回転糸切→クロコナデ→高台貼付→クロコナデ		SX6-R36	B14670
5	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	1/3	—	(7.5)	—	底：ヘラ切→回転ケズリ		SX6-R37	B14670
6	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	1/4	—	(7.1)	—	底～体下端：回転糸切→手持ケズリ		SX6-R35	B14670
7	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	3/4	(12.6)	(5.8)	5.6	底～体下端：回転糸切→手持ケズリ		SX6-R38	B14670
8	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	1/4	(14.6)	(8.3)	6.5	底～体下端：回転糸切→手持ケズリ		SX6-R34	B14670
9	南西Ⅱ層	79	土師器・坏	1/3	(12.4)	(5.8)	3.9	底：回転糸切		SX6-R8	B14669
10	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(12.3)	(6.2)	3.9	底：回転糸切		SX6-R19	B14669
11	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(13.1)	(6.0)	4.6	底：ヘラ切→ナデ		SX6-R3	B14669
12	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(12.0)	(6.7)	3.3	底：ヘラ切→ナデ		SX6-R17	B14669
13	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(13.9)	(6.6)	3.9	底：ヘラ切→ナデ		SX6-R5	B14669
14	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/3	(12.9)	(7.3)	4.0	底：ヘラ切→ナデ		SX6-R7	B14669
15	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(13.0)	(7.1)	3.7	底：ヘラ切→ナデ		SX6-R18	B14669
16	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(14.7)	(7.1)	4.2	底：ヘラ切→ナデ		SX6-R10	B14669
17	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	2/3	15.9	7.8	6.3	底：ヘラ切→ナデ		SX6-R1	B14669
18	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/3	(12.8)	(7.7)	3.9	底：ヘラ切→手持ケズリ		SX6-R22	B14669
19	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	—	(8.2)	—	内外：ミガキ		SX6-R41	B14671

図版119 南西Ⅱ層出土土器1

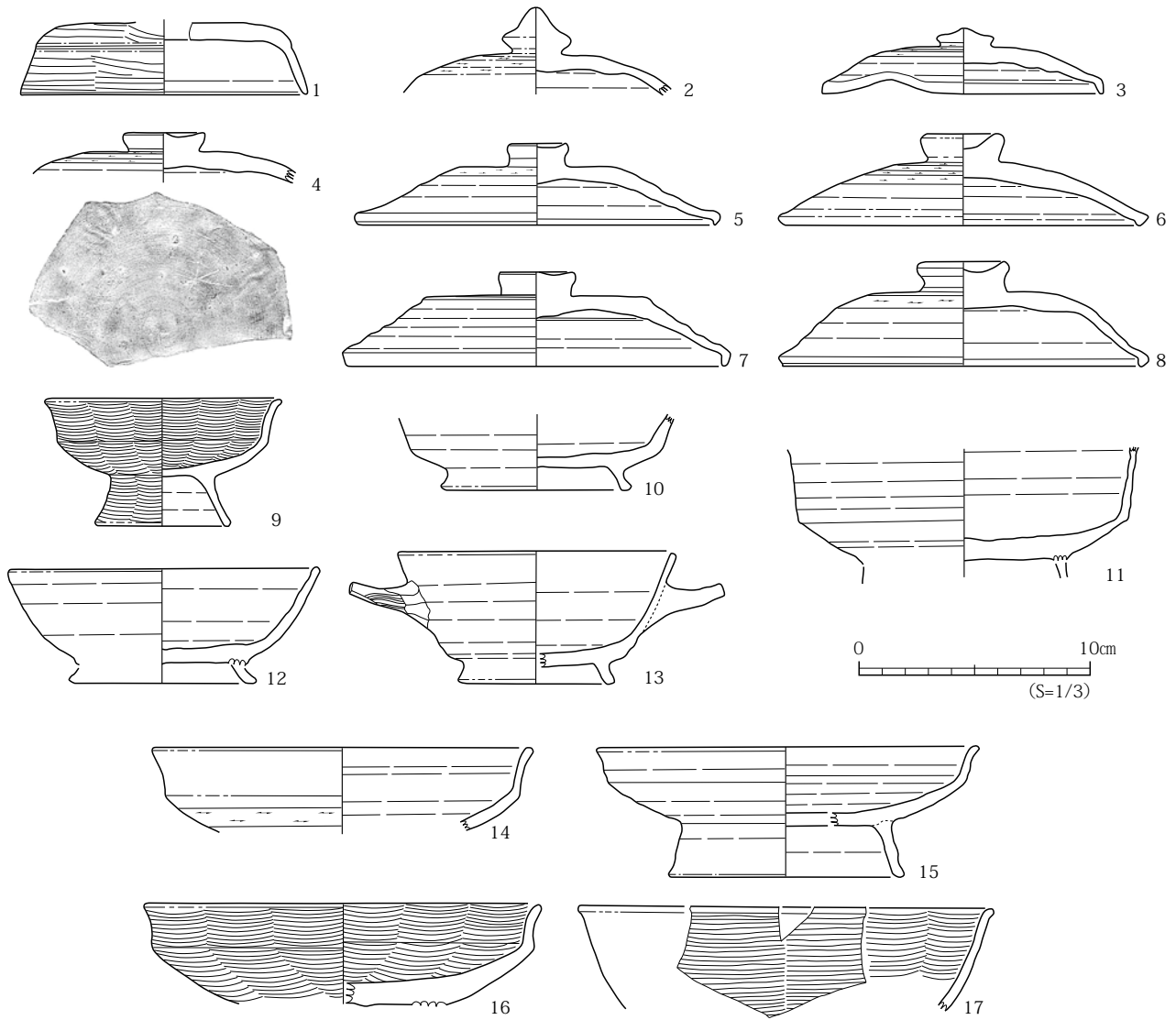
回転ケズリ調整をするものも含まれる。回転糸切りや無調整のものは少ない。

高台坏には体部に稜がつくものとつかないものがあり（図版 121-10～12）、高台坏は坏部の中位に稜がつき、その上が外反気味に立ち上がるものである。坏部の口径が小さく底が深いもの（9）、口径が大きく底が浅いもの（14～16）がみられ、ともに内・外面をミガキ調整したものがあ。両面をミガキ調整するものは碗にもある。蓋は器高がやや高いものが主体で、摘みは宝珠形や擬宝珠形のものがあ（2～8）、焼成前に文字が内面にヘラ書きされたものも出土して



単位：(cm)												
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴		写真図版	登録	箱番号
1	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(11.8)	(7.6)	4.5	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R15	B14669
2	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	2/3	(11.7)	(7.1)	4.6	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R6	B14669
3	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/3	(9.9)	(6.9)	6.4	底：切離不明→回転ケズリ			SX6-R42	B14671
4	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/2	(10.1)	(7.0)	3.6	底：ヘラ切→回転ケズリ			SX6-R9	B14669
5	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(10.9)	(7.0)	3.5	底：ヘラ切→手持ケズリ			SX6-R23	B14669
6	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(12.2)	(7.0)	3.6	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R13	B14669
7	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(13.0)	(8.0)	3.1	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R20	B14669
8	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(12.6)	(7.8)	3.5	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R16	B14669
9	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(13.4)	(7.8)	3.8	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R2	B14669
10	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/3	(13.5)	(8.1)	3.6	底：ヘラ切→手持ケズリ			SX6-R42	B14669
11	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/3	(13.4)	(8.2)	3.2	底：ヘラ切→手持ケズリ			SX6-R11	B14669
12	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(14.1)	(8.9)	4.3	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R12	B14669
13	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(13.5)	(8.1)	4.2	底：ヘラ切			SX6-R14	B14669
14	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(14.2)	(8.9)	3.6	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R21	B14669
15	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	—	(7.7)	—	底：ヘラ切→ナデ 焼成前にヘラ書き「×」			SX6-R30	B14669
16	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	1/4	(13.9)	(8.0)	4.0	底：ヘラ切→手持ケズリ？			SX6-R24	B14669
17	南西Ⅱ層	79	須恵器・坏	2/3	(15.6)	(9.0)	3.7	底：ヘラ切→ナデ			SX6-R25	B14669

図版120 南西Ⅱ層出土器2



単位：(cm)

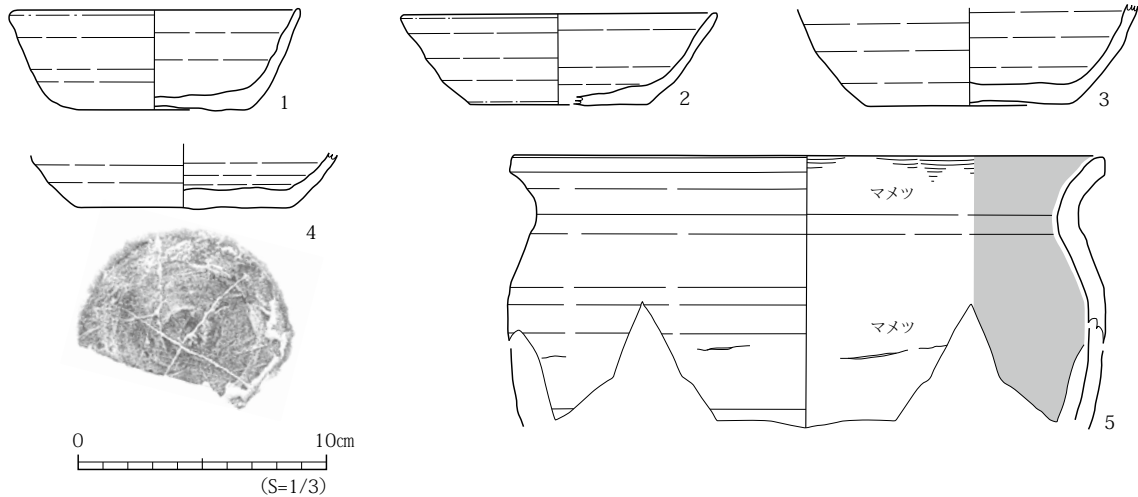
No.	出土遺構・層位	次敷	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	1/4	(12.4)	—	—	内外：ミガキ		SX6-R62	B14673
2	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	1/4	—	—	—	外：回転ケズリ→摘み貼付→ロクロナデ。摘み：宝珠(直径3.0)		SX6-R64	B14673
3	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	1/1	12.2	—	2.8	外：回転ケズリ→摘み貼付→ロクロナデ。摘み：宝珠(直径2.5)		SX6-R58	B14673
4	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	1/3	—	—	—	外：回転ケズリ→摘み貼付→ロクロナデ。摘み：擬宝珠(直径3.5) 焼成前にヘラ書き「口」		SX6-R60	B14673
5	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	2/3	17.6	—	3.5	外：回転ケズリ→摘み貼付→ロクロナデ。摘み：擬宝珠(直径2.6)		SX6-R61	B14673
6	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	1/2	(15.4)	—	4.0	外：回転ケズリ→摘み貼付→ロクロナデ。摘み直径3.6		SX6-R63	B14673
7	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	1/4	(16.4)	—	4.1	外：回転ケズリ→摘み貼付→ナデ		SX6-R57	B14673
8	南西Ⅱ層	79	須恵器・蓋	2/3	(15.8)	—	4.5	外：回転ケズリ→摘み貼付→ロクロナデ。摘み直径3.6		SX6-R59	B14673
9	南西Ⅱ層	79	須恵器・高杯	2/3	(10.3)	(5.8)	5.6	外：ミガキ 杯内：ミガキ		SX6-R43	B14671
10	南西Ⅱ層	79	須恵器・高台杯	1/3	—	(8.0)	—	底：ヘラ切→(不明)→高台貼付→ロクロナデ		SX6-R39	B14671
11	南西Ⅱ層	79	須恵器・高台杯	1/3	—	—	—	底：不明→(回転ケズリ)→高台貼付→ロクロナデ		SX6-R40	B14671
12	南西Ⅱ層	79	須恵器・高台杯	1/3	(13.5)	(8.1)	5.0	底：ヘラ切→(不明)→高台貼付→ロクロナデ		SX6-R45	B14671
13	南西Ⅱ層	79	須恵器・双耳杯	1/4	(12.1)	(6.7)	5.8	底：ヘラ切→(不明)→高台貼付→ロクロナデ 耳：手持ケズリ		SX6-R44	B14671
14	南西Ⅱ層	79	須恵器・高台杯	1/4	(16.5)	—	—	体下部：回転ケズリ		SX6-R9	B14671
15	南西Ⅱ層	79	須恵器・高台杯	2/3	(16.6)	(10.1)	5.7	底：不明→(回転ケズリ)→高台貼付→ロクロナデ		SX6-R50	B14671
16	南西Ⅱ層	79	須恵器・高台杯	1/4	(17.2)	—	—	底：ヘラ切→ロクロナデ→高台貼付→ロクロナデ 杯内外：ミガキ		SX6-R51	B14671
17	南西Ⅱ層	79	須恵器・碗?	1/4	(18.0)	—	—	内外：ミガキ		SX6-R46	B14671

図版121 南西Ⅱ層出土土器3

いる(4)。ほかに平瓶や長頸瓶、および灰釉陶器はほとんどが破片資料だが、平瓶や長頸瓶には尾張産とみられるものがある(図版132-13・14)。

南西Ⅲ層 《南西Ⅲ層出土遺物》(図版122)

軒丸瓦、丸瓦ⅠA・ⅡA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡB・ⅡBa・ⅡBb類、土師器杯・蓋・甕、



単位：(cm)												
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴		写真図版	登録	箱番号
1	南西Ⅲ層	79	須恵器・坏	3/4	11.8	7.3	4.0	底：ヘラ切→ナデ			R9	B14658
2	南西Ⅲ層	79	須恵器・坏	1/4	(12.1)	(7.2)	3.7	底：ヘラ切→ナデ			R11	B14658
3	南西Ⅲ層	79	須恵器・坏	1/3	—	(8.2)	—	底：ヘラ切→ナデ			R12	B14658
4	南西Ⅲ層	79	須恵器・坏	1/3	—	8.5	—	底：ヘラ切→ナデ。焼成前にヘラ書き「×」			R10	B14658
5	南西Ⅲ層	79	土師器・甕	口1/3	(24.0)	—	—	外：ロクロナデ 内：ミガキ→黒色処理			R8	B14658

図版122 南西Ⅲ層出土土器

須恵器坏・高台坏・蓋・壺・甕が出土した。軒丸瓦には重弁蓮花文があるが、小片で型番は不明である。丸瓦ⅡB類の凸面には「田」A、平瓦ⅡB a類の凹面には「物」Aの刻印があるものがある。土師器坏・甕はロクロ整形のものが含まれ（図版122-5）、須恵器坏はヘラ切り後にナデ調整をしたものが目立ち（1～3）、焼成前に「×」の記号をヘラ書きしたものもある（4）。

## 《南西Ⅳ層出土遺物》

南西Ⅳ層

丸瓦ⅠA・ⅡA・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠC a、ⅡB・ⅡB a類、土師器坏・蓋・甕、須恵器坏・甕が出土しており、丸瓦ⅡB類の凸面に「田」A、平瓦ⅡB・ⅡB a類の凹面に「物」Aや「矢」Bの刻印があるものがある。

## 《南西Ⅴ層出土遺物》（図版123）

南西Ⅴ層

本層はSB2871A建物跡の構築時に行われた整地であり、軒平瓦、丸瓦ⅠA・Ⅱ・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅠC a、ⅡB・ⅡB a類、土師器甕、須恵器坏・高台坏が少量出土している。土器より瓦が多く、軒平瓦には二重弧文512bがある（図版123-2）。丸瓦はⅡ類、平瓦はⅡB類（4）が主体で、ほかに丸瓦ⅠA類や平瓦ⅠC a類（3）がある。

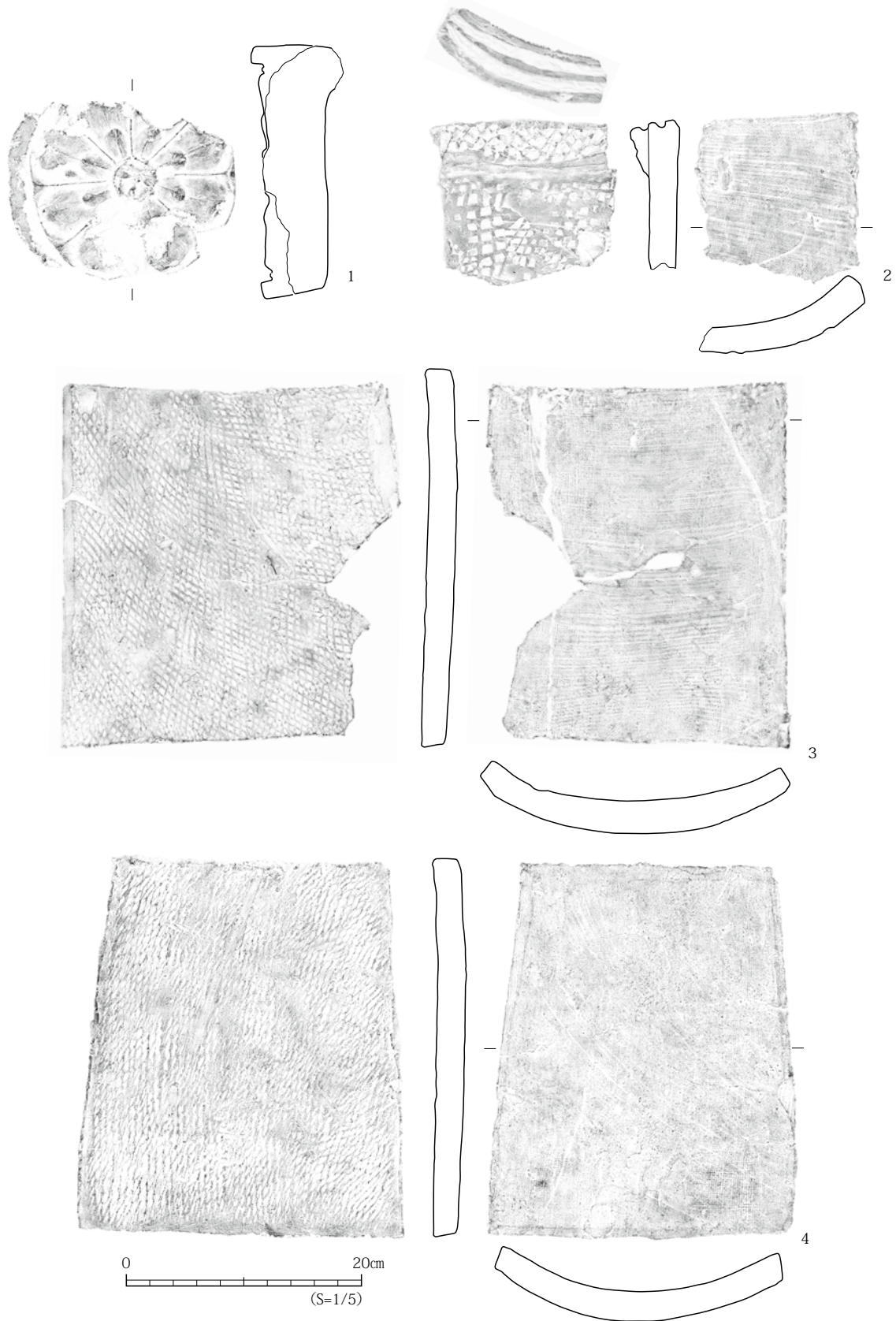
## 《南西Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ層出土遺物》（図版123）

南西Ⅵ・Ⅶ・

南西Ⅵ層では軒丸瓦、丸瓦ⅠA・Ⅱ・ⅡB類、平瓦ⅠA・ⅡB・ⅡB a類が少量出土している。軒丸瓦は重弁蓮花文120である（図版123-2）。

Ⅷ層

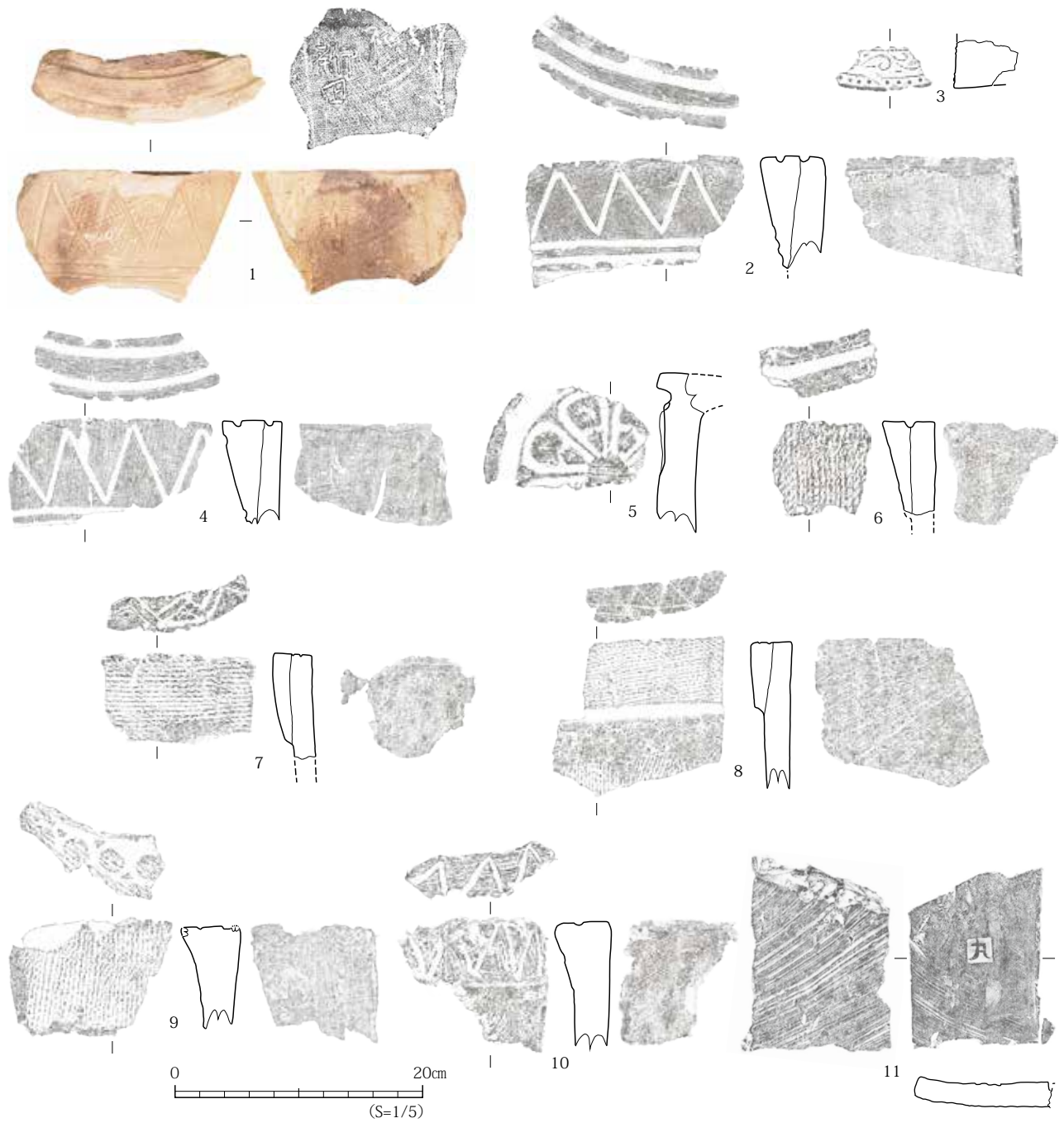
南西Ⅶ層はSK2891土壌を埋め戻した整地だが、遺物は須恵器の小片がごく少量出土したのみである。南西Ⅷ層では非ロクロ整形の土師器坏と甕がごく少量出土している。



単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	南西VI層	79	軒丸瓦	瓦当2/3	重弁蓮花文120	直径21.6 瓦当厚5.3		R29	B14661
2	南西V層 (SX2841)	79	軒平瓦	1/6	二重弧文512b	瓦当幅3.8 平瓦厚2.3		R24	B14660
3	南西V層 (SX2841)	79	平瓦	ほぼ1/1	I Ca類	長30.4 幅25.8 厚2.8		R25	B14660
4	南西V層 (SX2841)	79	平瓦	ほぼ1/1	II Ba類	長32.2 狭端幅22.2 広端幅27.1 厚2.5		R26	B14660

図版123 南西V・VI層出土瓦

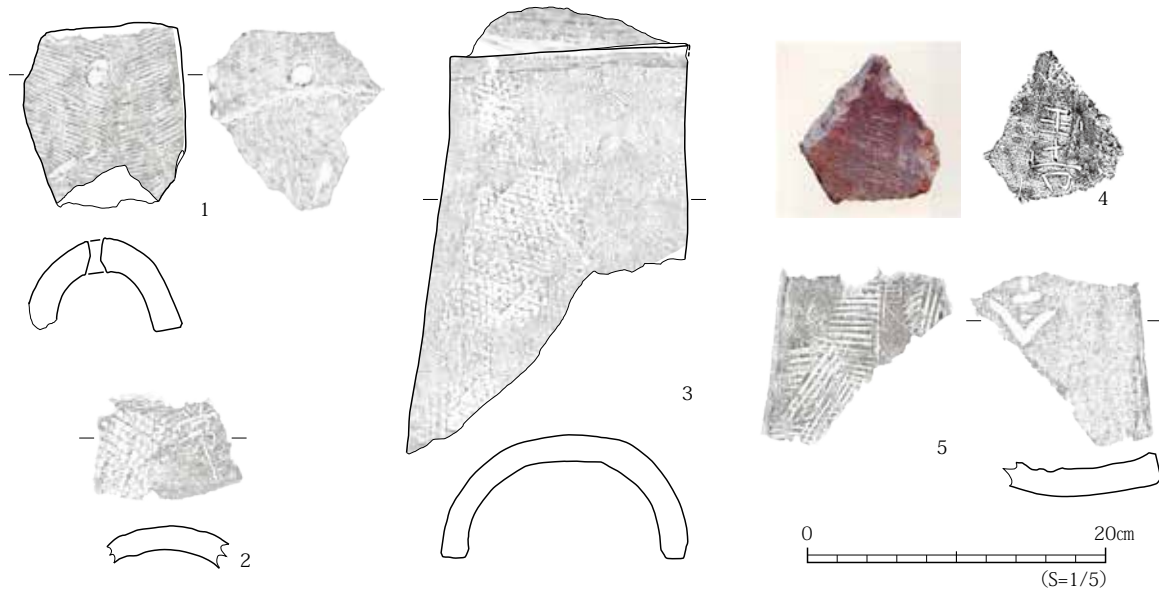


単位：(cm)

No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	I層	74	軒平瓦	瓦当1/3	二重弧文511c	瓦当幅5.9 平瓦厚1.9。凹面：ヘラ書「新田」。被熱により酸化・煤付着	116-1	表土-R6	B13961
2	I層	69	軒平瓦	瓦当1/2	二重弧文511c	瓦当幅4.8		表土-R82	B12880
3	I層	70	軒平瓦	破片	均整唐草文660			表土-R90	B13035
4	I層	69	軒平瓦	瓦当1/3	二重弧文511a	瓦当幅4.9		表土-R53	B12880
5	I層	69	軒丸瓦	瓦当1/4	重弁蓮花文225	直径21.6 瓦当厚5.3		表土-R190	B12880
6	I層	71	軒平瓦	破片	単弧文640a1	瓦当幅3.4		表土-R34	B13167
7	I層	71	軒平瓦	瓦当1/4	二重波文650b	瓦当幅3.0		表土-R35	B13167
8	I層	69	軒平瓦	瓦当1/4	鯨歯文632	瓦当幅3.3		表土-R120	B12880
9	I層	69	軒平瓦	瓦当1/4	連珠文831b	瓦当幅4.8		表土-R131	B12880
10	I層	69	軒平瓦	瓦当1/4	単波文921a	瓦当幅4.2		表土-R85	B12880
11	I層	78	熨斗瓦	1/3	—	幅10.4 厚1.9 分割線有り		表土-R15	B14518

図版124 表土出土の軒瓦・熨斗瓦





単位：(cm)									
No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	型番・分類	法量・特徴	写真図版	登録	箱番号
1	I層	69	丸瓦	破片	I A類	厚1.9。狭端部中央に釘穴(直径1.3前後)		表土-R55	B12882
2	I層	69	丸瓦	破片	II Bb類	厚1.8。玉縁にヘラ書「常」		表土-R163	B12881
3	I層	69	丸瓦	1/3	II Bb類	厚1.9		表土-R125	B12883
4	I層	74	平瓦	破片	I A類	厚2.6。凹面にヘラ書「玉造」	125-1	表土-R39	B13961
5	I層	69	平瓦	破片	I Ca類	厚1.8前後。凹面に押出文字「今」		表土-R183	B12881

図版125 表土出土の丸・平瓦

#### (4) 表土出土の遺物

前節までにあげた各地区の遺構と堆積層以外にも、表土から瓦や土器、陶磁器、硯、金属製品、土製品、石製品、文字資料などが出土している。本節では、そのうち出土量と種類が多い瓦と土器について、残り良いものや注目されるものなどをあげる。なお、その他の遺物については、次章で遺物ごとに全体的な出土の様相や内容を整理しつつ述べる際に触れることにする。

##### 軒瓦・道具瓦

表土出土の瓦には軒丸・軒平瓦、丸瓦、平瓦、道具瓦がある。主体を占めるのは圧倒的に丸・平瓦で、軒瓦がそれにつぐ。道具瓦は少なく、「丸」Aの刻印を持つ熨斗瓦が1点あるのみである(図版124-11)。軒丸瓦では重弁蓮花文が多いが、破片資料のために詳細が不明なものほとんどで、型番が判明するものには重弁蓮花文120・225がある(5)。重弁蓮花文以外では重圏文240、細弁蓮花文310A・B、同311・313、宝相花文420、歯車状文427の小片がある。

軒平瓦では二重弧文511が多く、なかでも511cが目立つ(1・2)。凹面に「新田」の文字がヘラ書きされたものもあり、被熱により煤が付着している。他には511aがややみられ(4)、また、二重弧文512も複数出土している。二重弧文以外では単弧文640a(6)や均整唐草文721A・B、連珠文831b(9)が各々5点前後あり、ほかには三重弧文514、均整唐草文660(2)、偏行唐草文620、二重波文650b(7)、無文641、均整唐草文720、鋸歯文632(8)、単波文921(10)もあるが、いずれも僅かな出土であり、また、破片資料である。

##### 丸瓦・平瓦

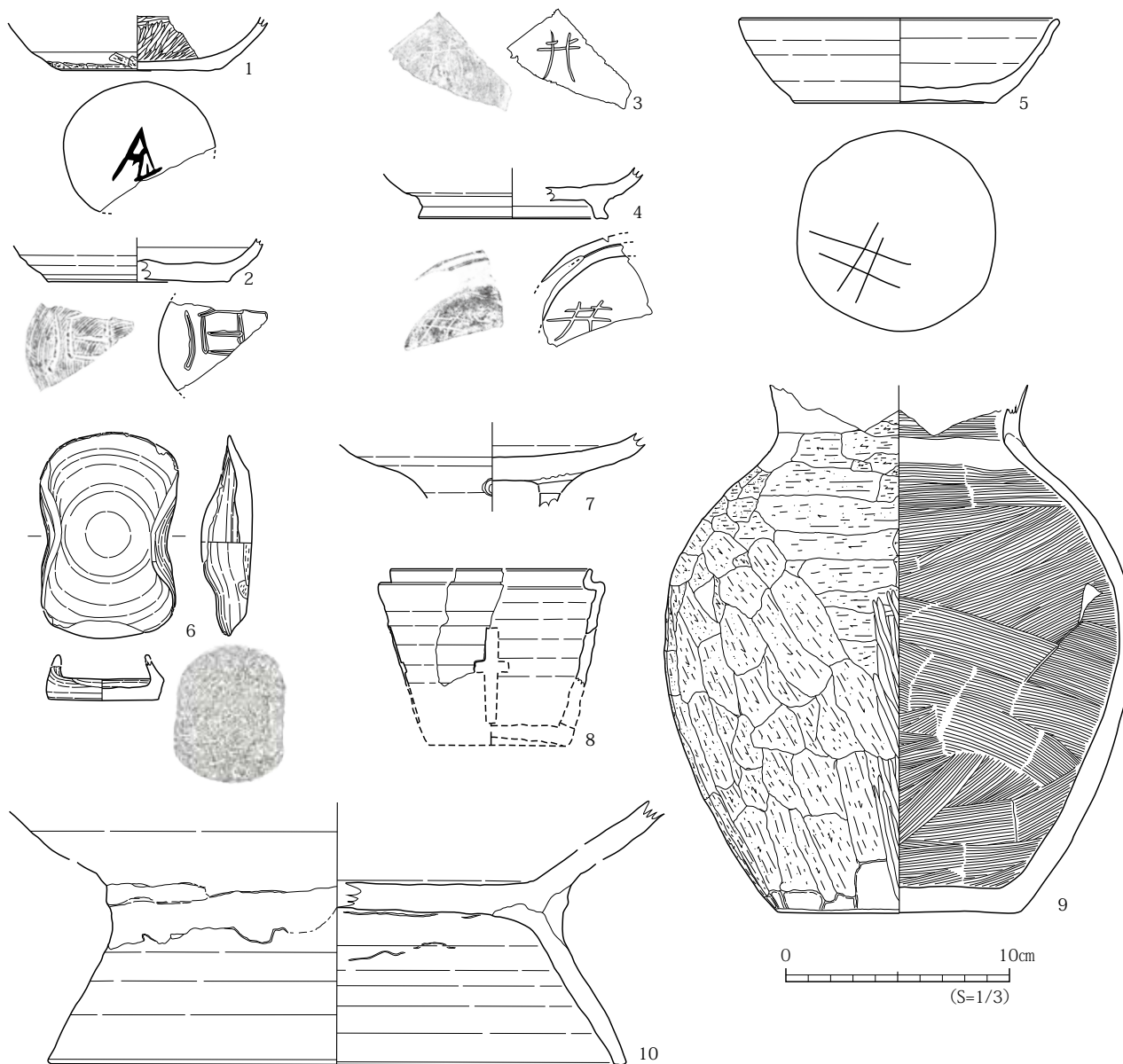
丸瓦はI・II類の各種があるが、主体を占めるのはII B a類で、凸面に「丸」Aや「田」Aなどの刻印があるものも多い、ほかにはI A類やII B b類がある程度あり、I A類では狭端部に釘穴があるもの(図版125-1)、II B b類では玉縁に「常」のヘラ書があるもの(2)がある。

平瓦もI・II類の各種があるが、主体を占めるのはII B a類で、I A類とI C類がそれにつぐ。一方、それらに比べると他の平瓦の出土は少ない。II B a類では凹面に「物」Aや「田」Aなど

の各種の刻印のほか、凸面に方形の突出があるものがある。また、I C a類の凹面には「玉造」のへら書き(4)や「今」の押出文字(5)があるものがある。

瓦より出土量は少ないが、土器には土師器、須恵器、須恵系土器がある。主体を占めるのは須恵器で、土師器ではロクロ整形のものが多い。器種はともに坏・高台坏・蓋・甕などがあり、前述の各地区の遺構や堆積層で出土したものと違いはない。また、須恵系土器は土師器、須恵器に比べると少なく、良好に残存する資料も僅かである。

これらの土器で比較的注目されるものには、土師器と須恵器の坏に文字が記されたものがあり



No.	出土遺構・層位	次数	種別	残存	口径	底径	器高	特 徴	写真図版	登録	箱番号
1	I層	70	土師器・坏	底3/4	—	(6.6)	—	底～体下端：回転糸切り→手持ケズリ 底部に墨書「□」		表土-R17	B13025
2	I層	70	須恵器・坏	破片	—	(8.0)	—	底：回転糸切り。焼成前にへら書き「厨」		表土-R52	B13025
3	I層	70	須恵器・坏	破片	—	—	—	底：焼成前にへら書き「□」		表土-R47	B13025
4	I層	70	須恵器・高台坏	破片	—	—	—	底：回転糸切り。焼成前にへら書き「□」		表土-R2	B13025
5	I層	70	須恵器・坏	破片	14.2	8.4	3.8	底：へら切→軽いナデ。焼成後にへら書き「●」		表土-R49	B13025
6	I層	69	須恵系土器・坏	1/1	9.2	6.5	2.2	燻し焼成。底：手持ケズリ		表土-R2	B12873
7	I層	69	須恵器・高坏	破片	—	—	—	脚部上端：貫通孔		表土-R9	B12873
8	I層	70	須恵器・短頸壺	破片	—	—	—	最大径約10.0 体部に十字の透かし		表土-R56	B13025
9	I層	69	土師器・甕	底3/4	—	(10.8)	—	非ロクロ整形。外：手持ケズリ 内：ナデ		表土-R3	B12873
10	I層	70	須恵系土器・高台鉢	底3/4	—	(25.8)	—	指頭連続圧痕→高台接合		表土-R43	B13025

図版126 表土出土の土器

(図版 126-1～5)、判読できるものには焼成前に須恵器坏の底部にヘラ書きで大きく記された「厨」がある。また、残存の良い資料として、口縁部は欠くものの非ロクロ整形の土師器甕(9)、燻し焼成された須恵器耳皿(6)などがある。ほかには、破片資料だが坏部に近い脚部上部に穿孔のある高坏(7)や十字の透かしを持つ短頸壺(8)といった特徴をもつ須恵器がある。

【註】

- 註1 丘陵斜面に造られた城前官衙の建物には標高の高い側を削り出し、低い側には整地をして造成した平坦面に構築された建物があり、具体的には本建物跡をはじめとして東区のSB2509～2511・2594、西区南部のSB2777・2871がある。これらの認定にあたっては、建物からみて標高の高い側に比較的近い距離(3.5m以内)で側柱列とほぼ平行する削り出しによる段があることや低い側に整地層がみられること、周りの遺構も含めて建物・段・整地を一体的にみるうえで重複関係や位置に矛盾がないことなどがあげられる。ただし、傾斜地という地形や後世の削平によって建物・段・整地の一部が失われている場合があり、本建物跡では整地が検出されていない。
- 註2 『年報2000』ではSB2594に伴うSD2614の改修を2回とみたが(A～C)、写真検討の結果、CはSB2594を覆う東V層より新しいことが明らかたため、名称をSD2475溝に改めた。
- 註3 『外郭I』では整地層には層Noを付さず、本書とは異なる層Noで表記したが、層序の理解に大きな違いがあるわけではない。本書における異同は以下の通りである。  
『外郭I』では西側に離れた政庁南大路上の堆積土を第Ⅲ層としたが、本書では省き、『外郭I』の第Ⅳ・Ⅴ層を南西Ⅲ・Ⅳ層としてNoを繰り上げ、SX2841整地層を南西第Ⅴ層とした。次に、第Ⅵ層のNoは変わらないが、その下のSX2893整地を南西Ⅶ層とし、その下位に認められる自然堆積層を南西Ⅷ層とした。これにより『外郭I』の第Ⅶ・Ⅷ層(旧表土・地山岩盤)は本書では南西Ⅸ・Ⅹ層となり、表土と旧表土、地山については東区の層序(東Ⅰ・Ⅸ・Ⅹ層)や北西部の層序(北西Ⅰ・Ⅸ・Ⅹ層)とも層Noが通用する。
- 註4 調査時(『年報2003』:第74次調査)にはSI2765を境として東側をSX2788段、西側をSX2790段として別に扱い、SB2777建物跡との関係もみなかったが、註1で述べたような傾斜地における建物の特徴から、両者はSB2777の構築に伴う段とみられ、本書ではSX2790をSX2788に統一した。
- 註5 『年報2007』(第79次調査)ではSD2885溝を越えてSK2873土壌まで伸びるとみたが、写真検討の結果、その部分はSK2873の掘り残し、またはそれ以前の土壌を誤認したもので、北には伸びていない。また『年報2003』(第74次調査)では、本暗渠を位置関係からSB2755建物に伴うと想定したが、その後の調査で周辺の遺構の状況や位置・重複関係がより明確化し、本暗渠がSB2755の柱穴より古いことも確実になったことから、SB2771Bに伴うとみられる。
- 註6 『年報2003』(第74次調査)では6.5m近く示しているが、再調査の結果、南半の形状は不整形を呈しており、傾斜地による削平で遺構が失われた後に暗渠内から流出した土であることが判明している。
- 註7 このうち、SA2908とSX2909は築地塀の可能性を持つ第Ⅰ期の外郭区画施設を構成する遺構としてSA2897柱列跡とともに『外郭I』で報告している。
- 註8 『年報2006』(第78次調査)では8個としたが、南延長上にあるSA2851柱列跡の南北部分の柱穴3個を加えた(後掲註9)参照。
- 註9 『年報2006』(第78次調査)では南北方向から東西方向にL字に折れる柱列跡としたが、その後の官衙北西部の調査におけるSA3261柱列跡の検出(『年報2015』:第89次調査)を踏まえた城前官衙西辺の検討の結果、SA2851の南北部分は柱穴の位置、柱筋の通りから北側のSA2843Aと一連とみるのが妥当という見解に至り、本書ではSA2851を東西5間の柱列跡とした。
- 註10 北東部を調査した第69次調査では2個の支柱穴を確認しているが(『年報1998』)、その後北西部を調査した結果、位置関係からみて、それらは支柱穴とは見做しがたいことが判明した(『年報2003』:第74次調査)。
- 註11 第89次調査で検出したSK3262土壌は『年報2015』では本溝とは別遺構としたが、ほぼ同位置にあり、溝状の形状や断面形も類似することから、本書ではSD3265の掘り直しを示す遺構(SD3265A)として捉え直した。

第9表 遺構属性表(1) 掘立柱建物跡

遺構番号	位置	図版	規模(冊)	構造	桁行 柱間		梁行 柱間		備考
					総長	幅	総長	幅	
SR2450	中央区中央	16	3×(2)	南北棟	9.8	3.3・3.3・3.2	5.4	5.4 or (2.7・2.7)	SR2450-SR2452 (S12477)→SR2450→SR2452
SR2451	中央区中央	16	3×2	南北棟	9.8	(3.5)・(2.3)・(3.0)	5.3	(2.6)・(2.7)	SR2450・2451・2508(-S12477)→SR2452→SK2547
SR2452R	中央区中央	16	5×4	南北南付東西棟	11.6	2.3・2.3・2.3・2.3・2.4	11.0	3.0・2.7・2.6・2.7	SR2450-SR2451・2508(-S12477)→SR2452→SK2547
SR2453B	中央区中央	16	5×4	南北南付東西棟	14.1	2.7・3.2・2.4・3.0・2.8	11.7	3.0・2.7・(3.0)・3.0	SR2453-SR2454・SR2462
SR2454B	中央区中央	16	4×4	南東南付東西棟	12.1	3.2・3.0・3.4・(2.5)	9.2	3.1・(3.1)・(3.0)	SR2453→SR2454
SR2455B	西区中央	67	4×3	南南付東西棟	9.5	(2.6)・(2.2)・(2.3)・(2.4)	8.0	(2.8)・(2.8)・(2.6)	
SR2457	中央区南部	16	3×2	南北棟	7.7	2.8・2.5・(2.4)	3.8	(1.8)・(2.0)	SR2456→SR2457
SR2459A	中央区南部	68	2×2	東西棟	3.1	1.6・(1.5)	2.5	(1.1)・1.4	SR2486→SR2459A
SR2459B	中央区南部	68	2×2	東西棟	4.6	2.3・(1.3)	2.7	1.3・1.4	SR2486→SR2459A
SR2460	中央区南部	16	(3)×2	東西棟(味持)	(9.1)	2.9・3.1・3.1	6.1	3.1・3.0	SR2497→SR2460
SR2468B	西区中央	67	3×2	南北棟	5.2	1.8・1.7・1.7	4.7	2.4・2.3	SR2486→SR2468
SR2502B	中央区南部	66	(3)×3	南南付東西棟	(6.8)	2.4・2.2・(2.2)	8.0	2.8・2.9・2.3	SR2502→SR2502
SR2503	中央区中央	23	3×2	東西棟	6.7	2.2・(2.4)・(2.1)	5.3	(2.6)・(2.7)	SR2528→SR2503→SR2504→2507・SK2545
SR2504	中央区中央	23	3×3	南南付東西棟	10.2	(3.2)・(4.2)・(3.5)	10.2	3.2・(3.7)・(3.5)	SR2528・2529・SR2503→SR2504→SR2506→2507
SR2505	中央区中央	23	3×2	南南付東西棟	9.8	3.2・(3.2)・(3.4)	7.2	(3.7)・3.5	SR2528・2529・SR2503→SR2504→SR2506→2507
SR2506	中央区中央	23	3×2	東西棟	8.2	(3.0)・(2.3)・(2.9)	5.8	(2.7)・(3.1)	SR2528・SR2503→2505→SR2506→SR2507・SK2545
SR2507	中央区中央	23	3×2	総柱東西棟	8.3	2.7・2.6・(3.0)	5.8	(2.9)・(2.9)	SR2528・SR2505・2506→SR2507
SR2508	中央区中央	23	5×2	総柱東西棟	12.3	2.3・(2.9)・(2.5)・2.3・2.3	5.7	2.5・3.2	SR2508-SR2531
SR2509	東区北部	37	3×2	南北棟	8.9	2.9・3.0・3.0	5.1	(2.7)・(2.4)	SR2509→SR2514・2515・2535・S12608・SK2548・2553
SR2510	東区中央	37	5×2	南北棟	11.8	2.4・2.3・2.3・2.6・2.3	6.2	2.9・3.3	SR2510→SR2514・2515・2535・S12608・SK2548・2553
SR2511B	東区中央	37	5×2	南北棟	11.9	2.4・2.4・2.3・2.4・2.4	6.0	(3.0)・3.0	SR2511-SR2537・2606・SR2516→2518・SR2612階を伴う
SR2512	東区北部	37	5×2	南北棟	9.9	(2.0)・(1.9)・(2.1)・(2.1)・1.8	4.2	2.3・1.9	SR2509→SR2512→SR2513・2593・SK2618
SR2513	東区北部	37	3×2	南北棟	8.9	(2.4)・(3.6)・2.9	5.0	2.9・2.1	SR2512→SR2513→SR2602
SR2514B	東区北部	37	3×2	南北棟	6.6	2.2・2.2・2.2	5.2	2.4・2.5	SR2510・2535→SR2513→SR2534
SR2515B	東区中央	37	5×2	南北棟	9.0	1.9・1.7・1.8・1.7・(1.9)	4.9	2.6・2.2	SR2510→SR2515
SR2516B	東区中央	37	5×2	南北棟	10.7	2.1・2.1・(2.2)・(2.1)・2.2	5.1	2.5・2.6	SR2508・SR2511・SR2641・SK2558→SR2516
SR2517	東区中央	37	3×2	南北棟	8.2	2.6・3.0・2.6	4.9	(2.3)・2.6	SR2511・2516・SR2641・SK2558
SR2518	東区中央	37	3×2	南北棟	6.2	2.0・2.1・2.1	4.9	2.6・(2.6)	SR2511・SR2609・SK2559→SR2518→SR2537・2606
SR2521A	西区北部	66	4×3	南南付東西棟(味持)	10.5	(2.8)・(2.8)・(2.3)・(2.6)	8.2	(2.5)・(2.5)・(3.2)	SR2545→SR2521→SR2522・SR2529
SR2521B	西区北部	66	4×3	南南付東西棟(味持)	9.7	(2.1)・(2.1)・(2.1)	7.5	(2.5)・(2.5)・(2.5)	SR2545→SR2521→SR2522・SR2529
SR2522	西区北部	66	3×2	東西棟	9.7	3.5・6.2(間分)	6.2	3.1・3.1	SR2521→SR2522→SR2529
SR2523	中央区北部	23	5×2	東西棟	14.7	(3.0)・(2.7)・(3.0)・(3.1)・(2.9)	5.9	2.95・2.95	SR2523-SR2524・SR2621・SR2617・2627
SR2524B	中央区北部	23	5×4	南東南付東西棟	13.6	2.6・3.0・2.7・2.8・2.5	8.0	3.1・2.8・(2.1)	SR2523→SR2524
SR2535	東区中～北部	37	4×2	南北棟	11.9	3.0・3.0・2.9・3.0	6.1	1.9・2.4・1.8	SR2626・SK2559→SR2535→SR2533・2534・SR2514・SK2538
SR2592	東区北部	37	3×2	南北棟	4.3	1.4・(1.5)・(1.4)	3.9	(1.8)・(2.1)	SR2640→SR2592
SR2593	東区北部	37	(2)×2	南北棟	(6.5)	3.2・(3.3)・以下不明	5.3	2.6・2.7	SR2509・2512・2592・SR2655
SR2594B	東区南部	37	2×2	南北棟	6.0	2.8・3.2	3.6	1.8・1.8	SR2594→SR2537・2539・SR2595・SR2563・SK2485
SR2595B	東区南部	37	3×(2)	南北棟?	5.7	(2.1)・(1.6)・(2.0)	(2.1)	2.1	SR2594→SR2595
SR2755A	西区南部	68	3×3	総柱建物	6.3	(2.1)・(2.1)	5.9	(2.0)・(1.9)・(2.0)	SR2871・SR2761・2773・SR2884→2886・2888・SK2873
SR2755B	西区南部	68	3×3	総柱建物	7.0	2.2・2.4・2.4	5.9	2.0・1.9・2.0	SR2755→SR2872・SR2898
SR2777	西区南部	68	3×2	南北棟	(4.4)	(2.3)・(2.1)・不明(3.3以下)	5.2	2.6・2.6	SR2777→SR2777・SR2777
SR2837	西区中央	67	6×2	南北棟	14.2	2.4・(2.3)・(2.3)・2.5・2.3・2.4	5.0	2.5・2.5	SR2848・SK2854・2863→SR2837
SR2845B	西区北部	66・67	5×2	南北棟	13.2	(7.9)・(3.0)・2.5・2.8	5.4	2.9・(2.5)	SR2845→SR2502・2521・SK2608
SR2848B	西区中央	67	5×2	南北棟(味持)	13.2	(2.7)・(2.6)・2.6・(2.5)・(2.8)	5.7	2.9・(2.8)	SR2848→SR2837・2849・S12838・SK2854・2866
SR2849	西区中央	67	6×2	南北棟	14.2	2.6・2.2・2.3・(2.2)・(2.3)・(2.6)	4.8	(2.4)・(2.4)	SR2848→SR2849
SR2850B	西区中央	67	2×2	総柱建物	6.0	(3.0)・(3.0)	3.6	(1.8)・(1.8)	SR2848→SR2849
SR2860	西区中央	67	3×(1)	不明	5.4	(1.9)・(1.8)・(1.7)	2.0~	(2.0)	SR2860-SR2865・2864
SR2869	西区中央	67	(2)×(1)	不明	(5.4)	(2.7)・2.7	2.0~	(2.0)	
SR2871A	西区南部	68	2×2	南北棟	5.9	(2.8)・(3.1)	3.4	(1.7)・(1.7)	SR2871→SR2755・2872・SR2883・2898・SK2873
SR2871B	西区南部	68	2×2	南北棟	5.9	(2.8)・(3.1)	3.8	(1.8)・(2.0)	SR2871→SR2755・2872・SR2883・2885・2898・SK2873
SR2872	西区南部	68	3×2	東西棟	4.1	1.6・(1.2)・(1.3)	3.8	(2.0)・(1.8)	SR2871・SR2883→SR2872
SR3266	西区北部	66	(3×2)	(南北棟)	(8.9)		(5.1)		SR2509と東西対称の建物

遺構番号	位置	図版	規模(間)	方向・構造	総長 (m)	布張り幅 (材木跡)	柱間 (m)	重複関係	備考
SA2456A	西区南部	68	3×7	東西・南北柱列	東西7.4・南北17.0	—	東西：(2.2)・(5.4)・2(間分) 南北：(2.7)・(2.4)・(2.3)・2.3・(2.6)・(2.6)・2.3 (2.1)・(3.4)	SA2476→SR2457 SA2476→SR2457 SA2476→SR2457	
SA2456B	西区南部	68	(2)	南北柱列	(5.5)	—	—		
SA2456C	西区南部	68	2×5	東西・南北柱列	東西5.6・南北12.0	—	—		
SA2458	西区南部	68	2	南北柱列	3.8	—	—		
SA2461	中央区中央	16	—	南北材木跡	11.7	1.5~1.8	—	SR2450→SA2461→SR2479・SR2480 SR2453→SA2462	灰神輿器出土 緑神輿器出土
SA2462	中央区中央	16	—	南北材木跡	11.1	1.5~1.8	—		
SA2463	西区南部	68	—	東西材木跡	5.6	0.6	—		
SA2466B	中央区中央	16	6	東西柱列	14.6	—	2.5・2.2・2.4・2.6・2.5・2.4 (2.7)・(4.1)・3.0	SR2459A・SK2486・2487→SA2463 (SI2477)→SA2465 (SI2477)→SA2466	
SA2467B	中央区南部	16	(3)	東西柱列	(7.3)	—	1.9・(3.1)・2.3	SR2460・SK2497→SA2467	
SA2469B	西区中央	68	2	南北柱列	4.5	—	2.1・(2.5)		も規模等は同様
SA2470	西区中央	68	2	南北柱列	4.6	—	—		
SA2472	中央区南部	16	2	南北柱列	6.3	—	3.1・(3.2)		
SA2473B	中央区中央	37	4	南北柱列	11.8	—	(2.5)・(2.8)・(3.1)・(3.4)	SA2474→SK2482	
SA2474	東区中央	37	10	南北柱列	15.0	—	1.3・1.5・1.5・1.6・1.4・1.5・1.6・1.5・1.5・1.6 (4.0)・(3.2)	SA2476→SA2505	も規模等は同様
SA2476	中央区北部	23	2	東西柱列	8.7	—	(2.4)・2.5・(2.4)・(2.1)・(2.4)・(3.5)(2間分)	SA2476・2506→SA2525	緑神輿器出土
SA2525	中央区北部	23	(7)	東西柱列	15.2	—	2.8・2.1	SA2525・2506→SA2526	
SA2526B	中央区北部	23	2	南北柱列	5.1	—	—	SI2470→SA2527	『年報』のSA2870を改称
SA2527	中央区中央	23	(3×2)	逆L字柱列	南北(4.4)・東西(1.9)	—	(2.1)・(2.3)・(-)×1.9・(-)	SR2503→2507→SA2467	
SA2528	中央区中央	23	3×2	L字柱列	南北(6.1)・東西(4.0)	—	(2.1)・2.0・2.0×2.1・(2.0)	SR2504→SA2529	
SA2529	中央区中央	23	3	東西柱列	9.3	—	(2.7)・(3.8)・(2.8)	SR2508→SA2531→SK2546・2547	
SA2531B	中央区中央	23	2	東西柱列	7.0	—	2.9・4.1		
SA2532	東区中央 ～北部	37	10	南北柱列	26.9	—	(2.4)・(2.8)・5.4(2間分)・ 2.7・2.7・2.6・2.8・(2.9)・(2.6)	SI2607→SA2532→SA2600	
SA2533	東区北部	37	3	南北柱列	6.4	—	(2.2)・(2.2)・(2.0)	SR2510・2535・SK2626→SA2534	
SA2534	東区北部	37	3	南北柱列	9.5	—	(3.6)・(3.1)・(2.8)	SR2533・SR2510・2514・2535・SK2626→SA2534	
SA2536	東区中央	37	6	南北柱列	13.5	—	1.9・1.8・(9.8)(2間分)	SA2536→SR2516・SK2549・2551	
SA2537	東区中央	37	6	南北柱列	19.3	—	(2.8)・(3.4)・2.8・3.2・7.1(2間分)	SR2511・2516・2594・2595・SI2609・ SK2557・SK2485・2558・2559→SA2537	も規模等は同様
SA2596	中央区北部	23	3	東西柱列	14.8	—	(5.1)・(4.9)・(4.8)		
SA2597	中央区北部	23	2	南北柱列	4.5	—	2.3・2.2		
SA2598B	中央区北部	23	(1)	南北柱列	(1.5)	—	1.5		
SA2599	中央区北部	23	(7)	東西柱列	15	—	(2.8)・(7.2)(2間分)・(2.5)・(2.5)	SD2651→SA2599	
SA2600	東区北部	37	3	南北柱列	7.7	—	(2.3)・(2.7)・(2.7)	SA2592・SI2607・SD2651→SA2600→SK2619・2633	
SA2601B	東区北部	37	3	南北柱列	8.8	—	(2.7)・(3.0)・(3.1)	SR2593→SA2601→SK2602・SK2634・2635	も規模等は同様。灰神輿器出土
SA2602	東区北部	37	3	南北柱列	7.0	—	(2.6)・2.5・1.9	SA2601・SR2513・2592・2593→SA2602→SK2634	
SA2603	東区中央 ～北部	37	9	南北柱列	23.2	—	(2.6)・(2.3)・2.3・2.7・ 2.8・2.3・2.4・(3.6)・(2.2)		
SA2604	東区中央	37	3	南北柱列	8.3	—	(2.8)・(2.6)・(2.9)	SA2604→SR2516・2517・SD2641	
SA2605	東区中央	37	2	南北柱列	4.1	—	2.2・2.1	SA2605→SR2511B	
SA2606	東区中央	37	3	南北柱列	6.4	—	(2.2)・(2.1)・(2.1)	SR2511・2518→SA2606	刀子出土
SA2645	中央区北部	23	2	南北柱列	3.5	—	(1.8)・(1.7)		
SA2756B	西区南部	68	5	東西柱列	12.9	—	2.8・2.8・2.5・2.8・2.0	SA2772・SA2908・SK2909→SA2756・2844→SD2764	も規模等は同様
SA2763	西区南部	68	—	南北材木跡	(6.0)	0.3	—	SA2763・SB2777→SI2765・SK2764	
SA2772	西区南部	68	3	南北柱列	5.8	—	2.0・1.9・1.9	SA2772→SA2756・SI2756・SD2764・SK2754	
SA2843A	西区中央	67	14	南北柱列	(33.0)	—	(7.2;3間分)・2.5・2.1・(2.5)・(4.5;2間分) (2.5)・(2.3)・(4.7;2間分)・(2.2)・(2.4)		
SA2843B	西区中央	67	11	南北柱列	(27.0)	—	(2.6)・(2.6)・2.8・2.7 (8.6;2間分)・(2.5)・2.9・(2.3)		
SA2844B	西区南部	68	6	南北柱列	15.7	—	2.5・2.5・2.8・2.5・2.5・2.9	SA2887→SA2756・2844→SD2877	も規模等は同様
SA2845	中央区北部	23	2	南北柱列	3.5	—	1.8・1.7		錠前出土
SA2851B	西区南部	68	5	東西柱列	(9.0)	—	(2.5)・(2.1)・(2.1)・(2.3)	SA2851→SK2835	
SA2861	西区中央	67	2	南北柱列	2.9	—	(1.4)・1.5		
SA2862	西区中央	67	3	東西柱列	7.6	—	2.8・(2.5)・(2.3)		
SA2863	西区中央	67	2	東西柱列	4.7	—	(2.4)・2.3		
SA2868	西区中央	67	(2)	東西柱列	4.9	—	(2.4)・(2.5)		
SA2887	西区南部	68	—	南北材木跡	(6.1)	0.4	—	SD2888→SA2887→SA2844・SD2877	も規模等は同様
SA2892B	西区南部	68	3	南北柱列	5.8	—	1.9・2.0・(1.9)	SK2486→SA2892	Aの総長は6.0m程か。
SA3261	西区北部	66	(6)	南北柱列	(13.3)	—	2.1・2.2・2.4・2.3・2.1・(2.2)	SK2265・SK2264→SA3261	SK3270出土を伴う。

第10表 遺構属性表(2) 柱列・材木跡

竪穴住居跡

遺構番号	位置	図版	平面形	規模 (長辺×短辺：m)	主柱穴	カマド	周溝	その他	重複関係	備考
SI2478	西区南部	68	長方形	4.5 × (2.9)	—	北辺東端	カマド東脇～東辺		SI2477→SX2787	
SI2477	中央区中央	13	長方形	5.4 × 4.7	4	東辺南寄り	ほぼ全周(カマド以外)		SI2477 (→SA2466・SR2450・2432)	
SI2570	中央区中央	23	長方形	6.3 × 4.2	—	東辺南寄り	ほぼ全周(カマド以外)	柱穴2	SA2527・SR2508→SI2570→SK2544・2546	
SI2607	東区北部	37	長方形	3.2 × 2.5	—	—	—		SA2532・2600・SK2618→SI2607	
SI2608	東区北部	37	長方形	3.2 × 2.9	—	東辺南端	南辺、西辺～北西部		SR2510・2535→SI2608→SR2514	
SI2609	東区中央	37	長方形	4.0 × 3.1	—	西辺南端	西辺、東辺南半～南辺		SR2510・SK2537→SI2609→SR2537・SR2518・SK2559	
SI2765	西区南部	68	長方形	2.6 × 2.4	—	北辺中央	東半部	外延溝を伴う	SA2763・2772・SR2777・SD2778・SK2456→SI2765	
SI2766	西区南部	68	長方形	4.0 × 3.3	—	北辺中央	—	外延溝を伴う	SA2788(SR2777)・SK2456→SI2766	
SI2838	西区中央	68	長方形	3.0 × (1.0)	—	東辺南寄り	—		SR2848→SI2838	

井戸

遺構番号	位置	図版	井戸側		掘方	重複関係	備考
			形状	規模(m)			
SI2479	中央区中央	16	筒状	直径1.0以下	規模(東西×南北×深さ) 4.7×5.4×(0.7～1.6)	SA2461・(SR2450)→SE2479	

鍛冶遺構・焼面

遺構番号	分	布	図版	検出面	形状など	規模(m)		重複関係	備考
						東西	南北		
SX2563	東区中央	(E75・S231)	37	東Va層	円形	0.35	0.35	SB2594→SX2563	壁面硬化。小鍛冶遺構
SX2566	東区北部	(E72・S195)	37	東III層	楕円形	0.9	0.7	SI2608→SI2566	
SX2557	東区中央	(E73～76・S219～222)	37	東VI層	不整形	2.0	2.9	SX2557→SA2537・SI2609・SK2559	
SX2561	東区中央	(E73～77・S226～230)	37	東IV層	不整形	2.4	2.8	SA2537・SK2559→SI2561	
SX2564	東区中央	(E74～75・S236～238)	37	東VI層	長方形	1.0	1.2	SX2564→SR2595・SK2485	
SX2625	東区北部	(E76～77・S180～182)	37	東VI層	長方形	0.9	1.5	SX2625→SR2512・2513	
SX2626	東区中央	(E74～75・S194～203)	37	東VI層・坩堝	不整形。4ヶ所に点在	最大1.8	最大2.8	SX2626→SA2533・2534・SR2514・2535	

その他

遺構番号	種別	位置	図版	方向	規模	堆積土	重複関係	備考
SX2769	段	西区南部	68	東西	長さ(6.3) 高さ0.2	褐色土(自然)	SX2769→SK2754・SX2787	
SX2787	平場	西区南部	68	東西	東西(7.0) 南北(5.0)		SI2478・SX2769→SI2787	北側削り出し：高さ0.3m
SX2789	段	西区南部	68	東西	長さ(8.8) 高さ0.2	(人為)	SX2789→SD2769・SK2754・SX2787	

第11表 遺構属性表(3) 竪穴住居跡・井戸ほか

溝

遺構番号	位置	図版	方向	構造	検出長	上幅	深さ	横断面形	堆積土	重複関係	備考
SD2475	東区中央	37	南北	素掘り	2.9	0.5~0.6	0.1	皿状	にぶい黄褐色土(自然)		
SD2541	東区中~北部	37	南北・東西	瓦組暗渠	南北15.3・東西2.0	0.5~0.6	0.1	逆台形	黒褐色粘土(自然)	SD2541→SD2642・SK2638	SE2535に伴う瓦組暗渠
SD2611	東区北部	37	南北・東西	素掘り	南北7.0・東西1.4	0.4~0.6	0.1~0.3	U字形	にぶい黄褐色土(自然)	SD2611→SD2512・2513・SK2623・2634	SE2509西・北側の排水溝
SD2612	東区中~北部	37	南北・東西	素掘り	南北2.4・東西3.3	0.3~0.5	0.1~0.2	U字形	にぶい黄褐色土(自然)	SD2612→SA2533・2534・SE2514	SE2510西・北側の排水溝
SD2613	東区中央	37	南北・東西	素掘り	南北11.2・東西2.4	0.8	0.1	U字形	暗褐色土(自然)	SD2613→SK2482・2554	SE2511西・北側の排水溝、鉄線出土
SD2614	東区中央	37	南北・東西	素掘り	南北6.0・東西4.5	0.4	0.4	U字形	にぶい黄褐色土(自然)	SD2614→SA2537・SE2595	SE2594西・南・北側の排水溝、一部瓦組
SD2621	中央区北部	23	南北	素掘り	4.1	0.6	0.4	V字形	灰黄褐色土	SD2523→SD2621	
SD2640	東区北部	37	東西	素掘り	2.2	0.7~0.8	0.1	皿状	褐色土(自然)	SD2640→SA2599	
SD2641	東区中央	37	南北	素掘り	7.4	0.7~0.9	0.1	皿状		SD2641→SD2516・2517	
SD2642	東区中央	37	東西	素掘り	2.2	1.0前後	0.2~0.3	U字形		SD2541・SK2548→SD2642→SK2551	
SD2643	東区北部	37	東西	素掘り	1.9	0.3	0.1	皿状		SD2612→SD2643	
SD2649	東区中央	37	南北	素掘り	4.6	1.0~1.5	0.2	皿状		SD2649→SA2536・SE2515	
SD2651	中央区北部	23	南北	素掘り	2.0	0.7	0.2	皿状		SD2651→SA2599	
SD2655	東区北部	37	南北	素掘り	11.0	0.4~1.2	0.1	皿状	暗赤褐色土	SD2655→SE2593	
SD2761	西区南部	68	東西	素掘り	3.0	0.7~1.0	0.2	皿状	褐色土	SD2761→SD2773・SK2754→SD2885	SB2871Bに伴う暗渠
SD2764	西区南部	68	南北	素掘り	6.0	0.2~0.4	0.3	U字形	粗：褐色砂 堆：褐色土(自然)	SD2766・2772・SD2773・SK2754→SD2885	
SD2773	西区南部	68	南北	瓦組暗渠	3.0	0.5	—	—	粗：褐色土	SD2888→SD2773→SD2785・SD2764	
SD2778	西区南部	68	南北	素掘り	2.9	0.3	—	皿状		SD2778→SD2765・SK2754	Aも粗礫等は同様
SD2779	西区南部	68	東西・南北	素掘り	東西1.9・南北1.9	0.2	0.1~0.2	U字・皿状		SD2779→SA2763・SK2754	
SD2839	西区中央	67	東西	素掘り	4.0	0.2~0.3	0.1	皿状			
SD2855	西区中~北部	67	南北	素掘り	8.3	2.5	0.8	U字形	上：暗褐色土(人為) 中：灰・焼土層 下：灰黄褐色粘土(自然)	SD2860→SD2855→SD2864	下層上面に焼面
SD2864	西区中央	67	南北	素掘り	4.1	0.6	0.5	U字形	東側に段	SD2860・SD2855→SD2864	
SD2877	西区南部	68	東西	木組暗渠	6.5	0.5	0.3	U字形	褐色細砂	SD2909・SD2888→SD2877	
SD2883	西区南部	68	東西・南北	素掘り	東西10.2・南北9.2	0.3~1.5	0.2~0.3	皿状	灰黄褐色土(自然)	SD2871・SK2486→SD2883→SE2872	SE2755北・東側の排水溝、漆紙文書出土
SD2884	西区南部	68	南北	素掘り	4.0	0.7	0.2~0.4	皿状	灰黄褐色土・褐色土(自然)	SD2885・2886→SD2884→SD2765・2872・SD2883	SE2871Bに伴う排水溝
SD2885	西区南部	68	南北・東西	素掘り	延~15.5	1.0	0.2~0.4	皿状	灰黄褐色土(自然)	SD2871・SD2886→SD2885	SE2871Bに伴う排水溝
SD2886B	西区南部	68	南北	素掘り	12.0	1.5	0.7	逆台形・皿状	にぶい黄褐色土(自然)	SD2886→SA2844・2887・SD2773・SD2883~2885	SE2871Aに伴う。粗礫等はAも同様
SD2888B	西区南部	68	東西	素掘り	13.8	1.6~1.9	0.8	逆台形状	灰黄褐色土・褐色土(自然)	SA2897→SD2888	SE2871Aに伴う。粗礫等はAも同様
SD2889C	西区南部	68	東西	素掘り	10.6	2.1~2.5	0.4	皿状	灰黄褐色土・褐色土(自然)	→SA2844・2877・SE2765・SD2773・2877	
SD2898	西区南部	68	南北	瓦組暗渠	2.0	0.3	—	—		SD2755→SD2898	
SD3258	中央区中央	16・23	南北	素掘り	40.3	2.0~2.5	0.7	U字形	褐色土(自然)	SD2457→SD3258	
SD3259	西区北~中	66・67	南北	素掘り	23.2	1.0~2.0	0.7	U字形	褐色土(自然)	SK2521・2522→SD3259	
SD3265	西区北部	67	南北	素掘り	12.4	2.0	0.6~0.7	皿状	褐色土・砂(自然)	SK2264→SD3265→SA3261	
SD3267	西区北部	67	東西	素掘り	4.0	1.7~2.0	0.3~0.4	皿状	褐・暗褐・灰黄褐色土(自然)	SD2502→SD3267	堆積土に灰白色火山灰
SD3268	西区北部	23・67	東西	素掘り	13.7	0.8~1.9	0.3~0.4	皿状	にぶい黄褐色土(自然)	SD2502・SD2845→SD3268	
SD3269	西区北部	23・67	東西	素掘り	14.4	0.8~2.8	0.3	皿状	にぶい黄褐色土(自然)	SD2502→SD3269	

土塋

遺構番号	位置	図版	形状	長軸	短軸	深さ	横断面形	堆積土	重複関係	備考
SK2480	中央区中央	13	楕円形	1.4	1.0	0.4	碗状	褐灰・灰黄褐色土(自然)	SA2461・(SB2450)→SK2480	灰釉陶器・漆紙(文字なし)出土
SK2481	東区中央	37	溝状(東西)	10.7	1.0~2.5	0.6	皿状	暗褐色土(自然)	SD2516・2517・SK2482・2549・2550→SK2481	灰釉陶器・鉄線出土
SK2482	東区中央	23	楕円形	(8.9)	(6.5)	0.7	皿状	褐色・明黄褐・黄褐色粘土(自然)	SD2510・2516・2517・SD2594・2558・2639→SK2482→SK2481	灰釉陶器・刀子出土 一部に灰白色火山灰の薄層を挟む
SK2485	東区中央	37	楕円形(南北)	4.5	2.5	0.3	皿状	東Va層(人為)	SD2594・SD2564→SK2485→SA2537・SD2594	
SK2486	西区南部	68	楕円形(東西)	(8.5)	6.0	0.9	皿状	黄褐色・褐色土(人為)	SK2486→SK2487→SD2463	
SK2487	西区南部	68	不整形	5.5	3.9	0.8	逆台形状	明褐色・黄褐色土(人為)		
SK2488	西区南部	68	不整形	7.0	(3.8)	1.2	逆台形?	黄褐色・明黄褐色土(人為)		
SK2492A	西区中央	67	溝状	4.9	1.5	0.6	U字形	褐・にぶい黄褐色土(自然)	SK2496→SK2495	最上層：灰白色火山灰を多く含む B：灰白色火山灰を多く含む。灰釉陶器出土
SK2496	西区中央	67	楕円形	1.8	1.6	0.3	褐色土(自然)	SK2496→SK2495		
SK2489	中央区南部	13	楕円形(南北)	3.0	2.7	0.7	皿状	褐・明黄褐色土(自然)	SK2489→SK2490	
SK2490	中央区南部	13	楕円形(東西)	3.0	2.6	0.5	褐色土(自然)	SK2489→SK2490		
SK2497	中央区南部	13	楕円形(南北)	3.4	2.3	0.2	褐色土(人為)	SK2497→SK2467・SD2460		

第12表 遺構属性表(4) 溝・土塋1

遺構番号	位置	図版	形状	長軸	短軸	梁さ	横断面形	堆積土	重複関係	備考
SK2542	中央区中央	23	楕円形	1.0	(0.4)	1.2	U字形	褐色砂(人為)	SK2542→SK2545	
SK2543	中央区中央	23	楕円形(南北)	2.6	1.4	0.6	楕円状	褐色砂	SK2545→SK2543	
SK2544	中央区中央	23	不明	(2.1)	2.0	0.5	楕円状	褐色砂(人為)	SK2544→SK2545・2546	
SK2545	中央区中央	23	楕円形(南北)	6.0	2.5~4.3	0.8	楕円状	褐・黒褐色土(人為)	SK2542・2544→SK2545・2546	緑釉陶器出土
SK2546	中央区中央	23	溝状	8.0	3.0	1.1	楕円状	上：にぶい黄褐色土(自然) 下：褐・明褐色砂(人為)	SA2527・S12540→SK2545→SK2546	最上層：灰白色火山灰ブロック。緑釉陶器出土
SK2547	中央区中央	23	溝状	8.0	2.0~2.6	0.8		黄褐色土	SA2531・SR2452・2508→SK2547	
SK2548	東区中央	37	楕円形(南北)	7.0	3.7	0.4	逆台形状	黒褐・にぶい黄褐色土(人為)	SR2510・2535・SV2626→SK2548→SD2642	緑釉陶器出土
SK2549	東区中央	37	楕円形(南北)	(5.3)	2.5	0.3	皿状	灰黄褐・褐色土(人為)	SA2536・SK2551→SK2549→SK2481	
SK2550	東区中央	37	楕円形(南北)?	(3.6)	(1.2)	0.2	一	灰黄褐・褐色土	SK2550→SK2481・2549・2551	
SK2551	東区中央	37	楕円形(東西)	6.8	4.8	0.4	皿状	褐・褐色土	SA2536・SR2516・2517・SD2642・SK2550	緑釉・灰釉陶器出土
SK2553	東区中央	37	楕円形(南北)	4.2	1.8~2.1	0.4	皿状		SR2510→SK2553	
SK2554	東区中央	37	楕円形(東西)	4.3	2.5	0.4	皿状	褐色土・黒褐色粘土	SR2510・2516・2517→SK2554→SK2482	
SK2558	東区中央	37	長方形(南北)	4.1	3.1	0.3	皿状	東Va層(人為)	SR2551・SV2557→SK2558	
SK2559	東区中央	37	長方形(東西)	(5.0)	2.5~4.8	0.6	皿状	東Va層(人為)	→SR2516・2517・SK2482・2554	
SK2565	中央区北部	23	楕円形(東西)	1.2	1.0	0.4	U字形		SR2511・S12609→SK2569	
SK2616	東区北部	37	楕円形(南北)	4.3	(4.2)	2.3	逆台形状	上：橙・明褐・褐色土(人為) 下：溝・砂・灰褐色砂(自然)	→SA2537・SR2518・SV2561	南端に溝から溝が取付く。
SK2617	中央区北部	23	溝状	6.5	2.0	0.3		褐色砂質土(自然)		上層：灰白色火山灰ブロック含む
SK2618	東区北部	37	長方形(南北)	6.8	3.2	0.2	皿状	黒褐・褐色土(自然)	SR2523・SK2627→SK2617	
SK2619	東区北部	37	長方形(南北)	3.4	2.8	0.3	皿状	褐・灰黄褐色砂(自然)	SR2509・2512・2513・2592・S12607・SK2636	
SK2620	中央区北部	23	楕円形(南北)	2.7	2.2	0.6	皿状	暗褐・明褐色砂質土(自然)	→SK2618→SK2619・2623・2624・2637	灰釉陶器・鉄釘出土
SK2623	東区北部	37	楕円形(東西)	1.5	1.0	0.5	楕円状		SA1600・SR2592・SK2618・2633→SK2619	
SK2624	東区北部	37	楕円形(南北)	2.3	1.5	0.2	皿状	褐色土	SR2510・2535・SV2626→SK2648→SD2642	
SK2627	中央区北部	23	溝状	7.8	1.8	1.1	U字形	黄褐色砂質土(人為)	SD2611・SK2618・2624→SK2623	
SK2633	東区北部	37	長方形(南北)	2.8	2.0	0.2	皿状	暗赤褐色土	SR2523→SK2627→SK2617	灰・黄土多量
SK2634	東区北部	37	楕円形	2.3	1.8	0.1	皿状		SA2600→SK2633→SK2619	
SK2635	東区北部	37	楕円形(東西)	3.4	2.2	0.1	皿状	褐色土	SA2601・2602	
SK2636	東区北部	37	長方形(南北)	1.6	1.0	0.1	皿状	灰黄褐色土	SR2512・2513・2593・SD2611→SK2634	
SK2637	東区北部	37	楕円形	1.0	0.7	0.1	皿状	灰黄褐色土	SA2601・2602・SR2593→SK2635	
SK2638	東区中央	37	楕円形	1.2	0.9	0.1	皿状		SK2636→SK2618	
SK2639	東区中央	37	楕円形	1.7	1.6	0.4	楕円状		SK2618→SK2637	
SK2644	中央区北部	23	楕円形(東西)	0.9	0.7	—	—		SD2541→SK2638	
SK2754	西区南部	68	楕円形(東西)	11.4	7.0	1.6	—	褐色土	SK2639→SK2481・2482	
SK2758	西区南部	68	楕円形	3.2	3.0	1.4	十字鉢状	上：褐・黄褐色土(自然) 下：黄褐色土(自然)	SA2763・2772・SD2778・2779・SK2788・2789	最上層：灰白色火山灰を含む。灰釉陶器出土
SK2759	西区南部	68	楕円形(南北)	1.2	0.5	—	—	上：褐色土(自然) 下：灰黄褐色土(自然)	→SK2754→S12765・2766・SD2764・SK2758	白磁出土
SK2760	西区南部	68	楕円形(南北)	1.6	1.1	0.4	—		SK2784→SK2768	
SK2760	西区南部	68	楕円形(南北)	1.3	1.0	0.5	楕円状	褐色土・灰黄褐色粘土(自然)	SK2786→SK2760	
SK2775	西区南部	68	楕円形(南北)	(5.5)	5.0	0.5	皿状	褐・黒褐色土(自然)	SR2500・SK2858→SK2934→SK2935	緑釉・灰釉陶器、鏡、漆器文書出土
SK2834	西区中央	67	不整形	6.8	4.4	0.4	皿状	褐・黒褐色土(自然)	SK2851・SR2850→SK2834・SK2836→SK2835	
SK2835	西区中央	67	不整形	3.5	2.3	0.3	箱状	灰褐色土(人為)	SR2848→SK2854→SK2837	
SK2858	西区中央	67	長方形	1.7	1.0	0.4	逆台形状	にぶい黄褐色土(人為)	SK2858→SK2834	
SK2859	西区中央	67	溝状	(0.6)	0.7	0.6	V字形	暗灰黄・褐色土(自然)		
SK2866	西区中央	67	楕円形	1.4	1.2	—	—			
SK2867	西区中央	67	楕円形	2.7	1.5	0.5	U字形	褐色砂(自然)	SR2848→SK2866	
SK2873	西区南部	68	楕円形	3.8	2.5	0.2	皿状	上：灰褐色粘土(人為) 下：灰層	SK2867→SK2837	
SK3264	西区北部	68	溝状	(3.1)	1.8	0.5	逆台形状 ・楕円状	上：中・黒褐色粘土(自然) 下：はつり材層	SR2771・SD2884・2885→SK2873→SR2755	木簡出土

第13表 遺構属性表(5) 土壇2



